

飯 塚 病 院 年 報

Annual Report of Iizuka Hospital
2 0 1 9

第32号 (令和元年)

WE DELIVER THE BEST

～まごころ医療、まごころサービス

それが私たちの目標です～



飯塚病院



教育研修棟



第 1 回セル看護推進研究会



飯塚病院 初期研修 30 周年記念 HOME COMING DAY ~絆 KIZUNA~

序

飯塚病院院長 増本陽秀



飯塚病院の2019年の活動を記録した飯塚病院年報第32号をお届けします。

2019年は元号が令和と改まり、平成の時代が幕を閉じることへの感慨と、新たな時代への期待に満ちた年となりました。

この年、日本は様々な舞台で世界の注目を集めました。旭化成所属の吉野彰博士は、リチウムイオン電池開発の功績でノーベル化学賞を受賞されました。前年、本庶佑博士がノーベル医学生理学賞を受賞されたのに続き、2年連続の嬉しいニュースでした。スポーツ界では、ゴルフの全英女子オープンで渋野日向子選手が優勝しました。前年プロテストに合格したばかり、初出場20歳の渋野選手は、終始笑顔絶やさないプレーで世界中の人々を魅了しました。またラグビーワールドカップ日本大会で、日本は強豪のアイランド、スコットランドを次々に破って初のベスト8進出を果たし、「ワンチーム」での選手の活躍が私達に大きな感動を与えました。

飯塚病院では、研修医教育30年の歴史を記念し、2019年1月「飯塚病院初期研修30周年記念 HOME COMING DAY ～絆 KIZUNA～」を開催しました（前頁下段の写真）。研修医として苦楽を共に切磋琢磨した同僚と、先輩、後輩、当時の指導医が旧交を暖め、海外や全国各地での各々の活躍に話の花が咲き、またの再会を誓い合いました。

筑豊地域初の「感染症科」を4月に開設しました。感染症診療に関する院内各科への助言や、抗菌薬適性使用支援に当たる他、ワクチン・トラベル外来による海外渡航者の対応、感染症の予防や啓発活動などを通じて地域に貢献します。

7月には「教育研修棟」が竣工しました（前頁中段左の写真）。この棟は“Professional Staff Building”と英語表記し、professional staff 育成の場、professional staff を目指す学びの場、および professional staff が集う場を提供します。飯塚病院開院100周年を記念すると共に、これから100年への拠点となることを期待して、最上階には「百年ホール」が設置されました。

第1回セル看護推進研究会をこの百年ホールで9月に開催し、全国から多数の方にご参加いただきました（前頁中段右の写真）。「セル看護」は、「看護師がなるべく患者のそばにいる」というコンセプトから生まれた看護のイノベーションです。飯塚病院が開発した新しい看護提供方式で、看護師の働き方改革の切り札としても全国から注目されています。

過去65年間の歴史を刻んだ「旧本館」が解体され、飯塚病院はまた新たな時代を迎えます。開設の精神を受け継ぎ、“Patient First”の原点に立って、理念に謳う「まごころ医療」の実現のため職員一同力を合わせて参ります。引き続きご支援の程お願いいたします。

最後に、本誌の編纂にあたって多大な労力を惜しまず、「日本一のまごころ病院」を目指す飯塚病院職員の、この1年間の歩みを形にいただいた広報課の皆さんに、深甚なる謝意を表します。

目 次

〔Ⅰ〕 院内の動き

2019年 この1年の歩み	1
教育研修棟とその次にあるもの	2
飯塚病院初期研修30周年を迎えて	3
セル看護推進研究会開催について	4
集中治療科部長就任にあたって	5
画像診療科部長就任にあたって	6
呼吸器腫瘍外科部長就任にあたって	7
リハビリテーション科部長就任にあたって	8
腎臓内科部長就任にあたって	9
病理科部長就任にあたって	10
形成外科部長就任にあたって	11
感染症科部長就任にあたって	12

〔Ⅱ〕 各部門業績

1. 肝臓内科	13
2. 呼吸器病センター呼吸器内科	14
3. 呼吸器病センター呼吸器外科	16
4. 心療内科	18
5. 内分泌・糖尿病内科	19
6. 消化器内科	20
7. 血液内科	22
8. 総合診療科	23
9. 膠原病・リウマチ内科	24
10. 連携医療・緩和ケア科	25
11. 画像診療科	27
12. 放射線治療科	28
13. リエゾン精神科	29
14. 小児科	31
15. 腎臓内科	32
16. 循環器内科	34
17. 心不全ケア科	36
18. 外科	37
19. 臨床腫瘍科	40
20. 消化管・内視鏡外科	41
21. 肝胆膵外科	43
22. 小児外科	45
23. 整形外科	46
24. 皮膚科	47
25. 泌尿器科	48
26. 産婦人科	49
27. 眼科	51
28. 耳鼻咽喉科	52

29. 脳神経外科	53
30. 歯科口腔外科	54
31. 心臓血管外科	55
32. 脳神経内科	56
33. 漢方診療科	57
34. 救急科	58
35. 集中治療科	59
36. 形成外科	60
37. リハビリテーション科	61
38. 麻酔科	62
39. ペインクリニック科	64
40. 病理科	65
41. 感染症科	67
42. 予防医学センター	68
43. 看護部門	69
44. 医療技術部門	71
45. 経営管理部門	73

〔Ⅲ〕 診療統計

1. 退院患者統計	75
2. 科別統計表	76
3. 最近5年間の患者数推移	77
4. 最近5年間の救命救急センター利用状況の推移	77
5. 最近5年間の年間手術件数の推移	77
6. 科別・年齢別・性別 退院患者数	78
7. 地域別・年齢別・性別 退院患者数	80
8. 市町村別診療科別紹介件数	82
9. 病理解剖件数内訳	83
10. 手術に関する施設基準および手術件数	84

〔Ⅳ〕 学術業績

1. 発表論文・著書	85
2. 学会発表	94
3. 講演	120

〔Ⅴ〕 院内研修会・勉強会

1. 院内臨床病理検討会（CPC）記録	135
2. 看護部	136
3. 医療安全研修	138
4. 改善勉強会	139
5. 学会を除く学術研修会・勉強会	140

〔VI〕委員会活動報告	37. 臨床検査適正化委員会	183
業務安全ブロック	38. がん診療連携委員会	184
1. 医療ガス安全管理委員会	39. がん集学治療委員会	185
2. 放射線安全委員会・特定放射性同位元素防護委員会	40. 緩和ケア委員会	186
3. 感染管理委員会		
4. 労働安全衛生委員会	〔VII〕院内報告	
5. 医師の負担軽減・処遇改善委員会	1. 飯塚病院住民医療協議会活動報告	187
物品購入ブロック	2. 飯塚病院地域医療支援病院運営委員会活動報告	188
6. 薬事委員会	3. VHJ (Voluntary Hospitals of Japan) 活動報告	189
7. 資材委員会	4. 改善活動報告	190
医療の質のモニターブロック	5. ISO9001 品質マネジメントシステム (QMS)・	
8. ISO 委員会	ISO14001 環境マネジメントシステム (EMS) 活動報告	192
9. TQM 活動推進委員会	6. イノベーション活動報告	193
10. クリニカルパス委員会	7. 当院における分離菌と薬剤感受性	195
11. QI 委員会	8. 研修スケジュール	199
12. CS・ES 委員会	9. 研修医募集の記録	200
医療の安全管理ブロック	〔VIII〕医師部門および主要職員名簿	
13. 急変対応委員会	1. 医師名簿	203
14. MRM 委員会	2. 医師異動	214
15. 透析機器安全管理委員会	3. 看護師長・主任名簿	219
16. 病院食サービス委員会	4. 医療技術部門役職者名簿	220
情報管理ブロック	5. 経営管理部門等役職者名簿	220
17. 情報システム委員会	6. 主要委員会	221
18. 診療情報管理委員会	①常設委員会	221
教育・研修ブロック	②看護部常設委員会	222
19. 研修管理委員会	③医局会 (医局会役員)	222
20. 図書委員会		
21. クレデンシャル委員会	〔IX〕飯塚病院概況 他	
22. 手術室業務改善委員会	1. 飯塚病院組織図	223
23. 内視鏡センター業務改善委員会	2. 概要	228
24. 地域医療支援病院研修委員会	3. 各学会の認定状況一覧	231
倫理ブロック	4. 私たちの理念・方針	232
25. 倫理委員会		
26. 臨床研究管理委員会	編集後記	
27. 治験審査委員会		
28. 脳死判定委員会		
29. 小児虐待防止委員会	※2019年年報に掲載中の組織・役職名等については、	
30. 患者行動制限最小化委員会	2019年12月31日時点のものです。	
31. 個人情報保護委員会		
診療の適正化ブロック		
32. 呼吸管理委員会		
33. 褥瘡管理委員会		
34. 栄養管理委員会		
35. 輸血療法委員会		
36. 診療報酬適正管理委員会		

〔 I 〕 院 内 の 動 き

2019年 この1年の歩み

- 1月4日 株式会社麻生仕事始行事
- 1月4日 飯塚病院仕事始め式
- 1月11日 院内成人式
- 1月18日 『飯塚病院100年史』刊行
- 1月26日 飯塚病院 初期研修 30周年記念 HOME COMING DAY ～ 絆KIZUNA ～
- 2月27日 2018年度職務姿勢に関する医師評価における表彰式並びにベスト指導医表彰式
- 2月28日 TAVI (Transcatheter Aortic Valve Implantation) 1例目実施
- 3月15日 2018年度後期研修医修了式
- 3月20日 2018年度初期研修医修了式 (第29期生)
- 3月25日 第8回高校生医療体験コース
- 4月1日 入社式
- 4月1日 診療科の名称変更 (「緩和ケア科」を「連携医療・緩和ケア科」、「神経内科」を「脳神経内科」、「救急部」を「救急科」、「集中治療部」を「集中治療科」、「医療連携本部ふれあいセンター」を「医療連携本部地域連携センター」)
- 4月1日 新診療科「感染症科」開設
- 4月1日 部長就任：的野多加志 (感染症科)
- 4月1日 部長就任：三浦亘智 (画像診療科)
- 4月1日 部長就任：大石善丈 (病理科)
- 4月1日 部長就任：藤崎毅一郎 (腎臓内科)
- 4月1日 部長就任：安田 学 (呼吸器腫瘍外科)
- 4月1日 部長就任：橋口晋一郎 (形成外科)
- 4月1日 部長就任：山下智弘 (リハビリテーション科)
- 4月1日 本部長就任：岩佐紀輝 (医療連携本部)
- 5月14日 Nurse of the Year 2018表彰式・一日看護部長／女優 芳野友美氏
- 5月26日 第23回飯塚病院ふれあい市民講座
- 5月29日 飯塚病院研究助成金認可通知書授与式
- 6月1日 麻生グループ社員表彰・永年勤続者表彰式
- 6月13日 第29回飯塚病院住民医療協議会
- 7月1日 部長就任：吉野俊平 (集中治療科)
- 7月1日 部長就任：安達普至 (検査急変対応科)
- 7月1日 ICUリニューアルオープン
- 7月3日 新棟「教育研修棟」竣工式
- 7月6日 第20回九州高気圧環境医学会 (大会長 増本院長)
- 7月10日 第3回5ブロック地域包括システム推進協議会全体報告会
- 8月22日 第10回夏休み飯塚病院キッズツアー (～23日、筑豊地域の小学生および職員のお子さん対象)
- 9月19日 一日院長／山笠「新流」の山頭 花村憲次氏
- 9月21日 第1回セル看護推進研究会
- 9月28日 大規模災害訓練 2nd
- 10月4日 第16回地域医療支援病院運営報告会
- 10月7日 E7HCU運用開始
- 10月19日 第28回飯塚病院TQM活動発表大会
- 10月22日 カンガルーサロン開設5周年NICU同窓会
- 10月23日 医工連携フォーラム・ビジネスマッチング会 in 飯塚
- 10月26日 大規模災害訓練 1st
- 11月1日 第7回 Conference for HealthCare (～2日)
- 11月5日 中央棟の一部 (旧本館) の解体工事開始 (2020年2月29日終了予定)
- 11月9日 第28回飯塚病院慰霊祭
- 11月26日 東5階病棟一般病床 (旧：E5HCU 8床) 運用開始
- 12月2日 第30回飯塚病院住民医療協議会
- 12月18日 第6回筑豊地域医療サポーター プラチナサポーター活動報告会 & 交流会
- 12月22日 第1CT検査室の改修工事開始 (2020年2月22日終了予定)

教育研修棟とその次にあるもの

副院長・経営戦略会議 リノベーション部会 部会長 名 取 良 弘

教育研修棟の計画は、2012年8月から開始した本院の将来的な建物配置の計画（マスタープラン）作成に端を発しています。病院敷地内の空地が少なくなってきた段階では、マスタープランに沿った建て替えが必要と専門家から指摘され作成を開始しました。北棟竣工が同年12月ですので、それよりも4ヶ月早い開始でした。北棟竣工で生じた空きスペースの再開発（リニューアル）は、マスタープランに従い行われました。この当時のマスタープランは、旧本館、ふれあい棟、南B棟を解体して「ふれあい+南B」のエリアに新しい中央診療棟（中央放射線部や中央手術室など）を建設する計画でした。解体する3つの建物の機能を別の建物に移す必要があり、南A棟・生活棟・エネルギー棟で囲まれた敷地（旧テニスコート跡地）に新しい建物を建てる構想を2013年末には固めていました。ところが、2013年11月25日に公共性のある建物の耐震化を目的とした「建築物の耐震改修の促進に関する法律」が改正施行され、当院もその対象となり、既存の建物に対する耐震診断、補強設計、立て替えを含む耐震改修の実施と2020年3月末の完了が半ば義務づけられることとなりました。2014年度に実施した耐震診断で、旧本館に次いで古い南棟が大変強固な建物でほとんど補強を要さない一方、中央棟には大規模な補強が必要であることと、旧本館は耐震補強が出来ない（＝解体対象）建物であることが判明しました。また、2015年当時、病院設備では、東棟地下1階の厨房設備の老朽化と、西棟2、3階からの避難経路の確保が重要課題と認識していた点と、旧本館の解体の3点をマスタープランで描いていた次の新しい建物の構想に織り込むこととなりました。この頃、南B棟よりも先に西棟を建て替える方が、避難経路の問題も解決し、まとまった敷地が確保出来る案が立ち上がったため、新しい建物は、“新西棟”と認識し、“新西”＝“New West”＝“NW”＝“North West 航空”＝デルタ航空に吸収で“Delta”の“D”と派生し、この建物のコードネームをD棟と命名しました。

新しい建物にどれだけの病床を入れていくのかなど今後の適性病床数が不透明の中で、検討が必要な事項がある一方で、期限のある耐震補強を同時に進めることは困難であったため、耐震に関係し患者サービスに直結しない機能の建物（D1）と、病床を含めた将来構想に関連する建物（D2）の2つに分け、D1を先行させることになりました。幸い、この頃、旧ボイラー室が完全に解体され更地になっていたため、D1の建設予定地を旧ボイラー室跡地とし、2016年12月に基本設計を開始しました。旧本館施設の移転、敷地外にある施設の院内移転、院内各地に散らばった男女職員更衣室の一元配置などを掲げて、必要な延べ床面積の算定を行う一方で、医局会からの意見を集約して、ふれあい棟の医局化を行い、当直室を除くふれあい棟機能のD1移転も実施されることとなりました。これらの調整は総務課長や千々岩さんのご尽力によるものです。

このように院内の皆さんの協力により「教育研修棟」が完成しました。少々離れているなど、不便な点をご容赦ください。渡り廊下は中途半端で申し訳ありません。あくまでも今回の建設は、D2につながっております。新たな建物を建てる際には、その次の建物のことを考えて、計画を立てる必要性があることが今回の経過の中で得られたことと思います。D2の基本設計開始に当たっては、D3計画コンセプトをまとめる必要性があるため、2019年暮れより数名の管理部長の先生方に集まっていただきD3計画の基本骨子をまとめていただきました。それを元にD2の基本設計を2020年4月から開始する予定です。

飯塚病院初期研修 30 周年を迎えて

教育推進本部 本部長 井 村 洋

- 1987 (S62) Brigham and Women’s Hospital (BWH) /飯塚病院卒後研修教育講座設置
BWHと飯塚病院との提携および「BWH・飯塚病院卒後研修教育講座」の開設に同意
- 1989 (H1) 厚生省（現・厚生労働省）から臨床研修病院に指定
「卒後臨床研修」開始、1期生8人が臨床研修開始
前九州がんセンター臨床研究部長を臨床研修顧問に招聘
- 1993 (H5) Washington, D.C. Georgetown 大学と研修医派遣契約が成立
「臨床研修医留学制度」開始
- 1998 (H10) 前九州がんセンター副院長を臨床研修顧問に招聘
- 2004 (H16) 新医師臨床研修制度開始
初期研修制度改革の第一歩として施行されたマッチングによる研修医選考導入
- 2005 (H17) 「指導医招聘プログラム」開始
- 2007 (H19) 指導医研修のため UPMC へ指導医派遣
- 2008 (H20) 飯塚病院卒後研修教育講座開設20周年記念行事実施 初期研修修了者91名参加
当院開設90周年記念事業として、「初期研修医 OB 会設立総会」「飯塚病院卒後研修教育講座開設20周年記念行事」を開催
- 2009 (H21) UPMC との「研修医教育契約」を締結
医師の研修プログラムや体制拡充を目指した連携で合意、米国ペンシルバニア州ピッツバーグ市にて調印式
飯塚病院卒後研修教育講座同窓会のホームページ開設
- 2010 (H22) ACGME（米国演習教育評価機構）が提唱する6つのコンピテンシーに基づいたカリキュラムを研修管理委員会にて作成
このカリキュラムに沿った評価表を基に研修医・指導医が相互に評価内容を確認できるシステムを導入
- 2012 (H24) 飯塚病院初期研修医 OB 会研修医ホームカミングデイ実施 初期研修修了者36名参加
- 2013 (H25) 飯塚病院初期研修医 OB 会25周年記念行事実施 初期研修修了者36名参加
飯塚病院北棟での新棟見学会も実施
- 2019 (H31) 30周年記念式典 HOME COMING DAY ～絆 KIZUNA ～実施 初期研修修了者122名参加

1989（平成元）年に臨床研修病院の認定を受け、卒後臨床研修教育を開始して30年の歳月を重ね、2019年4月に31期生を迎えるに至り、この間346名の修了者を輩出致しました。

30周年記念式典では、海外や全国で活躍中の当院初期研修修了者の方々にも参加いただきました。修了者同士の情報交換や近況報告、また当時の指導医との再会を懐かしむ光景の中、30年という歴史を感じたイベントでした。

30周年を節目として、今後も医師の育成のため、初期研修教育に尽力して参ります。

セル看護推進研究会開催について

セル看護推進研究会委員（看護管理師長） 倉智 恵美子

2019年4月、飯塚病院内に「セル看護推進研究会」が発足いたしました。この研究会の目的は、飯塚病院のセル看護提供方式[®]（以下、セル看護）の継続的な定着と、セミナーの開催などを通じてセル看護を全国へ広報・普及することです。

活動内容は、定期的に運営委員会を開催し、飯塚病院のセル看護の監査を行います。また、セル看護の研究活動及び研究発表会を開催し、全国の研究会参加病院を継続支援します。

その活動の一つとして、2019年9月21日（土）に「第1回セル看護推進研究会総会」を当院で開催しました。定員140名のところ50施設215名の応募があり、参加数は42施設138名でした。

第1部では、須藤久美子会長より「セル看護がめざすもの」、森山由香副会長より「飯塚病院セル看護の現状と課題」というテーマで基調講演がありました。当院の他に穎田病院の木川真由美看護部長より「セル看護がもたらした穎田病院の変化（96床ケア・ミックス病院の挑戦）」、中国・武漢アジア心臓病病院の張俊さんより「『TOUCH CARE』の導入と実践」という内容で通訳を入れながらの発表がありました。

第2部では、病棟見学を希望する参加者120名が14グループに分かれて、1グループ2病棟を見学しました。見学の案内役はセルリンクナース（各部署より1名のスタッフ）が行い、部署での説明は病棟師長や主任が対応し活躍してくれました。

質問内容で多かったのは、看護師の配置や患者さんの受け持ち方について、また申し送りやカンファレンスの方法、補完の方法、パソコンカートの活用方法などでした。1部署10分という限られた時間内で、自部署のエピソードを交えてのプレゼンを行いました。聞き逃さずしっかりとメモを取られる参加者の姿に、師長やリンクナースたちは強く圧倒されたようです。そして、何か誇らしい、嬉しい気持ちになったと感想を述べていました。このことは、嬉しさは勿論ですが、頼もしさも感じた一面となりました。

総会を終えて、参加者アンケートからは「セル看護をすでに導入している」と回答された方が38名、「将来、導入予定である」と回答された方が35名いらっしゃいました。現在も全国からの見学者が後を絶たない状況です。興味を持たれている方々に、「見学に来て良かった」と思っていただけるように関わりを持っていきたいと思ひますし、その方々も含めてこれらの活動がセル看護導入の一助になればと思ひています。

また、2017年に初めて患者アンケート調査を行いました。1ヶ月間に537名の患者さんから回答を得ることができ、そのうち87%の患者さんが「看護師が常にそばに居ることで安心出来た」と回答していただきました。「一人ひとりが大切にしてもらったと感じていただけるケア」を提供するために、常に患者さんのそばで看護を実践し、先取りのケアに繋げていきたいと思ひます。そのためのツールが「セル看護」です。

今後も改善を繰り返しながら、患者さんやスタッフ、病院にとっての価値の最大化を目指して、まごころケアを提供していきたいと思ひています。

集中治療科部長就任にあたって

集中治療科部長 吉野俊平

2019年7月1日付で、集中治療科部長を拝命致しました。飯塚病院には、卒後より勤務し、総合診療、救急医療に従事して参りました。現在、集中治療科と総合診療科、救急科が協働して集中治療室の運営を行っております。全ての診療科における重症患者の管理を各科医師、そして看護部、薬剤部、リハビリテーション部、栄養部、臨床工学部など多職種・多領域の医療スタッフで力を合わせて取り組んでおります。

集中治療室は診療フィールドとして救急外来と救命救急病床とともに救命救急フィールド内に置かれ、病院中央診療部門として機能しています。救急外来からの3次救急患者や大手術後患者、病棟入院中に急変した患者の呼吸・循環・代謝管理を集中的に行います。一般的に集中治療室は、県の認定を受けた特定集中治療管理加算病床を有することが条件となります。福岡県には35施設があり、筑豊地域では当院が唯一の施設です。1998年に初めて認定を受けてからこの地域の命を救う要として稼動して参りました。その責務を引き継ぐに当たり以下の目標を立てております。

1. 多様なバックグラウンドを持つ集中治療医が集まり、科・職種の垣根を越えたチーム医療を提供する集中治療室を作ります。

集中治療室では診療科を問わず様々な重症患者の回復、および社会復帰に貢献することが求められます。そのためには多様な背景を持つ医師同士の相互教育、連携が必須となります。自らの強みと弱みを知り、教えるを請うこと、教えることの労を厭わない文化を大切にします。失敗も成功も共有して患者利益という目的に協力出来る体制を目指します。

2. 九州トップレベルの教育により、集中治療医・ホスピタリストを志す若手医師が集まる集中治療室を作ります。

現在、全国の集中治療専門医数は2,000名弱です。全国の集中治療室が700施設弱であることを踏まえると非常に少ないと言えます。当院においても筑豊地域唯一の救命救急センターであること、年間救急車搬送台数約7,000台、年間手術件数約6,500件という状況を踏まえると、より多くの集中治療に携わる医師が必要と考えます。44もの診療科と約300名の医師数を誇る当院には、教育の文化・環境が整っています。全国から約100名の研修医が集まる現状はその表れといえます。多くの方々に協力を仰ぎながら、更により良い教育の体制を目指します。

上記目標を目指しつつ、九州トップレベルの集中治療体制により、地域の救命救急医療および院内の急変対応を磐石にするというミッションに取り組んで参ります。今まで以上のご指導、ご鞭撻の程よろしくお願い申し上げます。

画像診療科部長就任にあたって

画像診療科部長 三浦 亘 智

常日頃より画像診療科の業務にご協力いただきありがとうございます。2019年4月1日より画像診療科部長を引き継ぎました三浦です。

現在画像診療科ではマルチスライスCT（64列2台、256列1台）、MRI（1.5T2台、3T1台）、RIおよびPET-CTの読影とIVR（胸腹部血管造影）を主に業務を行っています。

単純写真やマンモグラフィー等の読影も行いたいところではありますが、画像診断管理加算2をクリア（撮影翌日までの読影率80%以上）するため、CT、MRI、RIの読影に人的資源を集中しています。撮影件数だけでなく、技術の向上、機器の最新化に伴い1件あたりの撮影枚数も増え、読影には時間がかかっていますが、スタッフは一般施設平均以下の6名で、なかなか読影が追いつかず諸先生方にはご迷惑をかけております。

赴任して依頼、業務の効率化に努めており、収益率改善のために入院検査依頼に制限をかけさせていただいております。不便と思われるかもしれませんが、ご協力のほどお願いいたします。

また「診療用放射線に係る安全管理体制に関するガイドライン」等の改訂により、2020年4月1日より放射線被曝を伴う検査や治療には、検査・治療に伴う放射線被曝の影響、有用性、有害事象の説明とカルテ記載が義務づけられます。各診療施設における被曝線量の管理や講習も義務づけられます。今までのように主治医が必要と思ったら撮影できる環境ではなくなることが予想されます。必要性の低い検査を減らすことはもちろん、撮影法の改善やMRIなどの代替検査への振り替えも必要になって来ると考えられます。

臨床症状や理学的所見、病歴などから目的とする検査を厳選することは、不必要な検査による患者さんへのリスクを減らせるだけでなく、看護師や技師など医療スタッフの仕事量を軽減することにもなります。また病院の経営上でも大きく貢献します（DPCのため入院患者さんは画像診断の費用は請求できません）。

新しい時代の放射線科医として、読影だけではなく、適切な検査が行えるよう環境整備、教育にも力を入れていきたいと考えていますので、皆様のご協力をよろしくお願いいたします。

呼吸器腫瘍外科部長就任にあたって

呼吸器腫瘍外科部長 安田 学

2019年度より呼吸器腫瘍外科部長に就任致しました安田 学と申します。私は1995年に産業医科大学を卒業し、第2外科（現呼吸器・胸部外科）に入局、研鑽を積んでまいりました。

私が呼吸器外科医として働き始めた1990年代当時の肺がん手術は、開胸手術・拡大手術全盛の時代でした。手術操作のため創部をなるべく大きく広げ、可能な限りがんを切除するのが基本でした。そのため術後合併症も多く、高齢者が元気で退院することは稀でした。現在では、胸腔鏡手術が主流となり高齢者でも術翌日から離床し1週間程度で退院できる時代となりました（2019年は90歳代2名の胸腔鏡手術を行い、いずれも元気に自宅退院されました）。日本全国の肺がん手術死亡率（術後30日以内）は1994年の1.4%から2010年の0.4%と改善、さらに肺がん全切除例の5年生存率も1994年の52%から2010年の75%と向上しています。

肺がんの薬物療法は、1990年代当時は有効な抗がん剤はシスプラチンしかなく、有害事象も強い治療に苦しむ患者さんを見るのが日常でした。現在ではさまざまな遺伝子検査結果により薬物の選択・治療効果予測が可能となり、ゲノム医療の最先端を担う進歩を遂げています。また私が大学在籍当時から携わってきた免疫療法も劇的な進歩を遂げ、今や免疫チェックポイント阻害剤は肺がん薬物療法第1選択薬の一つとなりました。

しかしこのような肺がん治療の進歩にも関わらず、相変わらず日本人のがん死原因1位を占め、肺がん死亡数は年間7万人以上存在しているのが現実です。当科では肺がんの手術を中心とした臨床研究や臨床試験にも積極的に取り組んでいくことで、肺がんに対する新規治療の機会が筑豊地域に増えるよう尽力していきたいと考えます。

これからも皆様方のご指導ご鞭撻を賜りますよう宜しくお願い申し上げます。

リハビリテーション科部長就任にあたって

リハビリテーション科部長 山下 智 弘

この度リハビリテーション科部長の職を拝命いたしました。1994年に産業医科大学を卒業後、同大学第二外科（呼吸器・胸部外科）に入局しました。入局後は大学病院、国立病院機構九州医療センター、労働者健康安全機構釧路労災病院、国家公務員共済組合連合会新小倉病院等の基幹病院外科、呼吸器外科で研鑽しました。飯塚病院は1999年、2008年と計5年間外科医として勤務させていただき、2015年9月より黒木先生の後任としてリハビリテーション科医として勤務させていただいています。

急性期病院である当院のリハビリテーションは、新患約10,000件／年の依頼に対し、各診療科主治医を中心として、リハビリテーション科医師、リハビリテーション部スタッフ約120名のチームで患者さんの合併症予防、高いレベルの機能回復を目指し従事しています。

現在、外来では呼吸器、肝臓癌、リンパ浮腫（乳癌術後、婦人科がん術後）、嚥下障害、人工喉頭発声指導（耳鼻咽喉科と）、脳卒中後の痙縮治療に対しエコーガイド下ボツリヌス療法を行っています。

高齢化が進むなか、昨今言われているサルコペニア・フレイルは要介護のリスク因子であり健康寿命を阻害します。健康寿命の延伸を図る上でリハビリテーション医療は重要です。栄養管理がリハビリテーションの質の向上に寄与することから、栄養部とともに患者さんへの介入を行っています（肝臓内科、外科、栄養部と肝臓癌患者に対しチームで介入しています）。

当科はスタッフとともに生活の質を見据えたりハビリテーションのアプローチを行っております。当科診療は、スタッフのみならず、他診療科、コメディカルの皆様のご協力なしには成り立ちません。

今後ともご指導、ご鞭撻のほど宜しくお願い致します。

腎臓内科部長就任にあたって

腎臓内科部長 藤 崎 毅一郎

2019年4月に飯塚病院 腎臓内科部長として赴任致しました藤崎毅一郎(ふじさき きいちろう)と申します。私は1999(平成11)年に鳥取大学を卒業後、飯塚病院初期研修医(11期生)として採用され、その後3年間(初期研修2年間+腎臓内科専修医1年間)飯塚病院で研鑽を積みました。その後、九州大学病態機能内科学(旧第二内科)腎臓研究室に入局し、2002年からは九州大学病院、2003~04年は福岡赤十字病院腎臓内科に勤務致しました。その後は再度九州大学病院に戻り、臨床業務および研究活動を継続しました。福岡少年鑑別所医務官、九州大学病院救命救急センター、広島赤十字病院腎臓内科の勤務で専門領域以外の分野も経験後、2014年より九州大学病院の腎臓内科助教として5年間勤務致しました。そして18年ぶりに飯塚病院腎臓内科に戻ってきた次第です。

当院の腎臓内科および透析関連の変遷は、1975(昭和50)年に人工腎臓センター開設、1986年に腹膜透析センター開設、1988年に腎臓内科が新設され、初代部長に西村 学先生(現 飯塚腎クリニック院長)が就任されました。その後、2001年に武田一人先生(現 飯塚記念病院 腎・生活習慣病センター長)、2017年に平川 亮先生(現 長尾病院 腎臓内科部長)が腎臓内科部長に就任されました。これまで諸先生方が筑豊地域で築いてこられた地域医療を丁寧に引き継がせていただく所存です。

私が腎臓内科の道を歩み始めてからの約20年間で日本の医療の状況は、国民の高齢化と共に大きく変化致しました。我々の領域では、透析患者は高齢化し生命予後も延びたことにより高齢透析患者が増加の一途を辿っております。それに伴い透析患者の入院数が増加傾向となり、まだしばらくはその傾向は続くと考えております。これに対しては地域のご要望に応えるべく、医療者の配置や入院・外来透析ベッド数の再編等も含めて迅速に対応する必要があると考えております。2019年より、飯塚地区でも行政と医療機関が一体となった糖尿病性腎症重症化予防プログラムへの取り組みが始まりました。当科も、腎臓専門医、専門看護師、栄養士によるチーム医療により、糖尿病性腎症のみならず慢性腎臓病の予後改善のために貢献していきたいと考えております。今後は筑豊地域の患者および医療関係者の皆様に貢献できますように精進致します。今後とも何卒宜しくお願い申し上げます。

病理科部長就任にあたって

病理科部長 大石善丈

この度、2019年4月1日付で前任の大屋正文部長と交代し、病理科部長として赴任致しました、大石善丈と申します。1997年に九州大学を卒業後、産婦人科医、九大病理大学院生として卵巣腫瘍の診断と研究に従事しました。大学院卒業後に病理医となる決意をし、最初に赴任したのが飯塚病院でした。15年前のことになります。2004～05年の2年間で豊富な症例を経験させていただき、翌2006年に病理専門医を取得することができました。その後、2018年度まで九州大学にて婦人科、膵臓、消化管に関する診断、研究指導を行ってきましたが、飯塚病院で学んだことがとても助けになりました。

今回の異動では、飯塚病院に“赴任する”というよりも“帰ってきた”というホームな感覚が自分の中にあります。朝、早良区藤崎の自宅を愛車で出発し、愛宕から都市高速に乗り、朝陽が波間にきらめく博多湾を左手に横目で見下ろしながらいつのまにか山景色になり、穂波、筑穂、嘉穂、飯塚、という実り豊かな地名を目にしながら病院に到着する日々に幸福を感じております。

飯塚病院という病床数1,000を越える九大に匹敵する大病院の病理診断を担う責任の重さを痛感しているところでもありますが、病理科全員でその責務を果たし地域に貢献していきたいと思っております。どうぞ宜しくお願い致します。

形成外科部長就任にあたって

形成外科部長 橋 口 晋一郎

2019年4月より飯塚病院に赴任、および形成外科部長に就任致しました、橋口晋一郎と申します。広島大学を卒業した後、初期臨床研修を経て久留米大学形成外科・顎顔面外科に入局しました。多くの指導医に恵まれ、これまで再建外科から小児先天異常まで、数多くの患者さんの治療に携わせていただきました。近年は、特に眼瞼下垂・顔面神経麻痺・顔面骨切り術などを扱う頭蓋顎顔面外科や、顔面・体幹の先天異常の治療に力を入れて診療を行って参りました。

現在形成外科は、4月から私、乳房再建を専門にしている新任の小山麻衣先生、週1回の手術応援医師、および以前から非常勤医師として月1回の診療・手術を行っている清川兼輔教授（久留米大学形成外科・顎顔面外科学講座）の、常勤2名・非常勤2名体制で診療を行っております。地域の先生方や他診療科の皆様のご協力のおかげで、多くのご相談・ご紹介を頂けるようになってまいりましたので、今後は更に扱う疾患の幅を増やし、筑豊地域の基幹病院に所属する一員として、より一層充実した医療を地域の皆様にご提供できればと考えております。今後とも宜しくお願い致します。

感染症科部長就任にあたって

感染症科部長 的野多加志

2019年4月に筑豊エリア初となる感染症科が新設され、部長の職を拝命致しました的野多加志と申します。私は2007年に長崎大学を卒業し、亀田総合病院で内科のトレーニングを積み、国立国際医療研究センターで感染症専門医を取得致しました。2017年から当院の総合診療科に所属し、現在現職を務めております。

感染症は、病原微生物の侵入によって生じる疾病です。そのため、感染症を予防するためには、①病原微生物の侵入防止（標準予防策、感染経路別予防策）、②免疫の獲得（予防接種）など微生物ごとにさまざまな対策があります。さらに、診療では①患者背景因子、②感染臓器、③病原微生物を意識した臓器横断的なアプローチが重要です。

感染症は学問的には、微生物学、臨床感染症学、疫学に分かれています。日本では、臨床感染症学を体系的に学べる大学は希少であり、感染症専門医数も不足しています。一方で、欧米ではメジャーな診療科であり、例えば欧州では感染症に従事する医師の理想的な数は100ベッドあたり1.21名とされています。

飯塚病院感染症科では、年齢や臓器に関わらず、あらゆる感染症を診るとともに、専門的な予防策の提案を行います。世界基準の医療を提供し、患者さんの病状が少しでも快方に向かうよう尽力致します。感染症診療でお困りの際は、お気軽にご相談ください。

〔Ⅱ〕各 部 門 業 績

1. 肝臓内科

肝臓内科部長 本村健太

この1年間でのトピックとしては、肝臓内科のホームページを開設したことが挙げられます。充実した内容とまでは言えませんが、随時掲載情報を更新していくようにしており、当科の診療内容や考え方などをご覧いただけたらと思っています。実際の診療で、手術と並んで肝細胞癌の根治的治療として重要な経皮的ラジオ波焼灼療法の、当科での治療数は全国31位（週刊朝日MOOK『手術数でわかるいい病院2019』）だったそうです。数はともかく、従来からこの治療の精度を高めることに注力しており、治療内容・成績等についても学会・研究会で継続して発表しています。最新のラジオ波焼灼の機器「ARFA」も導入予定で、製造会社のご協力により、すでに当科の全員が使用を経験しています。

1) 疾患別内訳

病名	件数	男	女	平均年齢
肝細胞癌	340	246	94	74.2
肝硬変（肝癌含む）	448	264	184	70.9
C型慢性肝炎（肝癌含む）	35	30	5	71.8
B型慢性肝炎（肝癌含む）	5	2	3	74.4
アルコール性肝障害	15	15	0	66.9
胆管癌	24	10	14	75.2
胆嚢癌	6	0	6	75.5
膵臓癌	3	2	1	80.0
胆管細胞癌（肝内胆管癌）	30	6	24	59.8
胆石症および胆道系感染症	164	77	87	73.7
肝膿瘍	17	12	5	71.6

2) 処置件数

処置	患者数
経皮的ラジオ波焼灼療法	95
肝動脈塞栓術	104
抗癌剤・リピオドール動注療法	8
肝動注化学療法	5
経中心静脈的化学療法	6
経皮経肝的ドレナージ術（PTCD、PTGBD）	27
腹水濃縮再静注	195
インターフェロンフリー治療新規導入	142
分子標的薬新規導入	32

総退院患者数	744人
男	427人
女	317人
急患入院数	255人
（内救急車数）	62人
予約入院数	489人
平均在科日数	12.4日
平均年齢	71.2歳

3) 死亡例内訳

死因	患者数
原発性肝癌	23
（肝細胞癌 20）	
（肝内胆管癌 1）	
（混合型肝癌 2）	
肝硬変（肝不全）	10
胆管癌	2
胆嚢癌	1
十二指腸乳頭部癌	1
消化管出血	3
肝膿瘍	1
その他	1
計	42

2. 呼吸器病センター 呼吸器内科

呼吸器内科部長 飛野和則

2019年は、11名のスタッフと後期研修医2名で診療にあたりました。

入院を要した疾患の大半は肺癌と肺炎で、それらに次いで間質性肺炎が年々増加してきております。特に肺癌については毎年新薬が上市され、めまぐるしく治療法が変化しているため、常に知識のアップデートと新しい技術の導入を心掛けています。外来診療では気管支喘息、COPD、間質性肺炎が中心であり、それぞれ専門外来を運営し、詳細な評価と新規治療の積極的な導入を行っています。また、学会発表も変わらず活発に行っており、原著論文や症例報告も英文で積極的に行いました。

これからの地域の人口構成の変化に対応し、多くの診療所・病院の先生方との連携をさらに深めていくべく、「筑豊呼吸器RENKEIの会」や様々な講演会・研究会を主催させていただきました。今後もFace to Faceでお話しさせていただく機会を増やしていければと考えております。

今後もこれらの活動を通じ、診療の質の向上、地域医療の発展と飯塚発のエビデンス構築につなげてまいります。

1) 入院患者疾患別内訳 (2019年)

疾患	延べ症例数	疾患	延べ症例数
総数	1,489	間質性肺疾患	183
腫瘍性疾患	651	(内訳) 特発性	109
(内訳) 肺癌	627	膠原病・血管炎関連	25
胸腺癌	11	薬剤性	19
大腸癌	3	サルコイドーシス	15
胸膜中皮腫	3	過敏性肺炎	8
腎癌	2	慢性好酸球性肺炎	3
乳癌	2	塵肺	3
原発不明癌	1	放射線肺炎	1
縦隔腫瘍	1	気道疾患	131
悪性リンパ腫	1	(内訳) 喘息	58
感染症	375	COPD	49
(内訳) 肺炎/肺化膿症	300	喘息合併 COPD	16
胸膜炎/膿胸	25	気管支拡張症	4
気管支炎	15	びまん性汎細気管支炎	2
非結核性抗酸菌感染症	13	咳喘息	1
インフルエンザ	7	副鼻腔気管支症候群	1
発熱性好中球減少症	5	気胸	33
結核性胸膜炎	4	睡眠時無呼吸	24
ニューモシスチス肺炎	2	喀血・血痰	20
アスペルギルス症	2	胸水	11
結核性腹膜炎	1	異常陰影精査	4
肺結核	1	その他	57

内視鏡検査（気管支鏡、胸腔鏡）実績表			
	2017年	2018年	2019年
総件数	500	438	454
観察、痰吸引、気管洗浄	489	427	434
直視下生検	40	26	27
吸引針生検	1	0	0
末梢擦過及び生検	366	310	317
BAL	94	80	70
胸腔鏡	2	9	9
EBUS-TBNA	22	28	23
EBUS-GS	57	71	38
EWS 充鎮	1	4	2
マイクロ波凝固術	5	1	0
サーモプラスティ	0	3	1
クライオバイオプシー		10	24
バルーン拡張術		2	0
悪性腫瘍に対する気管支鏡での診断率	79%(179/228)	86%(170/197)	84.6%(187/221)

3. 呼吸器病センター 呼吸器外科

呼吸器外科部長 大崎敏弘

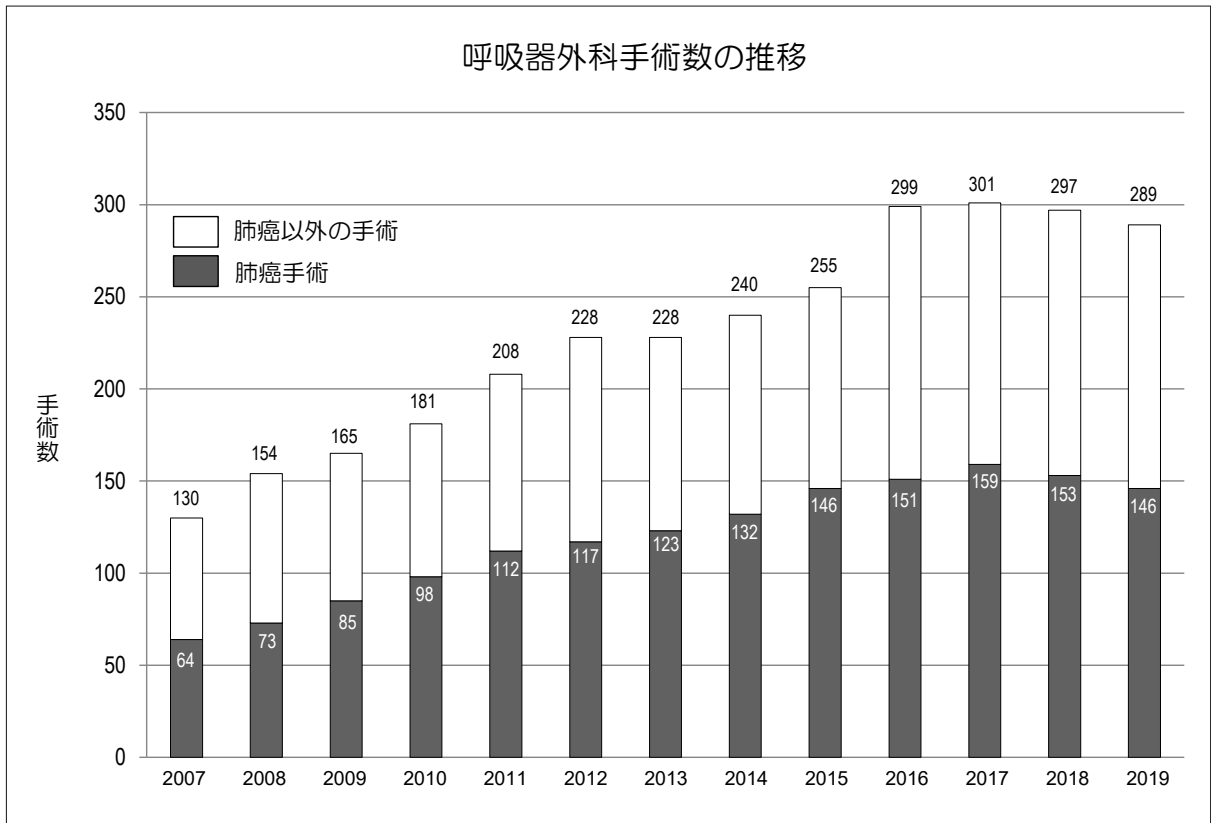
2019年は大崎敏弘、安田 学、岩田輝男、福市有希子および呼吸器腫瘍外科の宗 知子の5名のスタッフで診療を開始しました。3月に2015年から約4年間当科で勤務された宗 知子先生がご結婚のため寿退職されています。4月に呼吸器腫瘍外科部長の後任に安田 学が昇進、呼吸器外科スタッフとして西澤夏將が赴任（新小倉病院から）、9月には岩田輝男先生が退職（鹿毛病院へ）しています。さらに九州大学外科専門研修プログラムから松枝花奈（1～2月）、利田賢哉（4～5月）、産業医科大学外科専門研修プログラムから草薙佳澄（10～12月）が加わり診療を行いました。

2019年の総入院患者数は379例、手術件数は289例（胸腔鏡219例76%）、うち肺癌手術は146例（胸腔鏡123例84%）でした。この4年間（2016～2019年）の年間手術数は300例前後、肺癌手術数も年間150例前後を維持しています。研究業績は論文発表7題（うち英文4題）、学会発表34題でした。

1) 手術件数

疾患名		術式（カッコ内は胸腔鏡手術件数）	
原発性肺癌 (AAH1 例を含む)	146	肺部分切除術	41 (36)
		肺区域切除術	13 (13)
		肺葉切除術（二葉切除も含む）	90 (74)
		肺全摘術	2
転移性肺腫瘍	26	肺部分切除術	20 (20)
		肺区域切除術	3 (2)
		肺葉切除術	3 (1)
肺過誤腫	2	肺葉切除術	2 (1)
肺硬化性血管腫	2	肺部分切除術	2 (2)
肺類上皮性血管内皮腫	1	肺部分切除術	1 (1)
肺線毛性粘液結節性乳頭状腫瘍	1	肺部分切除術	1 (1)
縦隔腫瘍	10	腫瘍摘出術	7 (5)
胸腺腫	4	拡大胸腺摘出術	1
胸腺腫＋重症筋無力症	1	腫瘍生検	2 (2)
胸腺のう胞	2		
MALT リンパ腫	1		
縦隔内甲状腺腫	1		
良性嚢胞（後縦隔）	1		
縦隔リンパ節転移癌（HCC）	1	リンパ節摘出術	1 (1)
限局型悪性胸膜中皮腫	1	肺部分切除術（生検）	1 (1)
胸膜リウマチ結節	1	腫瘍切除術	1 (1)
胸壁悪性リンパ腫	2	腫瘍生検	2
胸壁脂肪腫	1	腫瘍摘出術	1 (1)
胸壁転移癌（SCLC）	1	腫瘍摘出術	1 (1)
リンパ節転移癌	2	リンパ節生検	2
自然気胸	34	肺嚢胞切除術	31 (31)
		ドレナージ術	3
巨大肺嚢胞症	2	肺嚢胞切除術	2 (2)
肺分画症	1	肺区域切除術	1 (1)
間質性肺炎	6	肺生検（肺部分切除術）	6 (6)
炎症性肉芽腫	3	肺部分切除術	3 (3)
肺内リンパ節	3	肺部分切除術	3 (3)
珪肺結節	1	肺部分切除術	1
胸鎖関節周囲膿瘍	2	切開・ドレナージ術	2
胸骨骨髓炎	1	胸骨生検	1
鎖骨骨髓炎	1	鎖骨生検	1

膿胸	17	搔爬・洗浄・ドレナージ術 ドレナージ術	5 (5) 12
胸膜炎	2	胸膜生検 ドレナージ術	1 (1) 1
血胸＋肺損傷（外傷性）	1	肺部分切除術＋止血術	1
気胸（外傷性）	1	ドレナージ術	1
膿胸（外傷性）	1	搔爬・洗浄・ドレナージ術	1 (1)
胸郭動揺＋多発肋骨骨折（外傷性）	2	胸壁固定術	2
胸腔内出血（医原性）	1	肺部分切除術＋止血術	1
肺癰（医原性）	1	肺癰閉鎖術	1
肺癰（術後）	6	肺癰閉鎖術 筋弁充填術 ドレナージ術	4 (3) 1 1
皮下腫瘍	1	腫瘍摘出術	1
その他	5	CV ポート挿入術 気管切開術 肋軟骨採取（移植用）	2 2 1
総数	289		289 (219)



4. 心療内科

心療内科部長 木附 康

2019年も常勤医は1名体制のままでしたが、橋口医師には非常勤医師として引き続き週2回の外来をご担当いただき、大学医局から須藤教授と吉原医師にも引き続き月1回ずつ来ていただきました。新患数は2018年が190名、2019年も181名とほぼ同数で推移していました。疾患（第一病名のみ）の内訳は、狭義の心身症の割合が14%とここ数年は減少傾向です。心身症に対して有効な薬も発売され、専門科でも各々心身症を診る傾向があるためと思われます。うつ病・うつ状態の割合が28%とここ数年は増加傾向です。不安に伴う疾患の割合は18%と2018年とほぼ同率でした。男女の比率については約2：3で、2018年の1：2に比べると男性の比率が増えています。今後も引き続きチーム医療・最適医療を推進し、診療の質の向上に努めたいと思います。

1) 外来新患内訳 (2019年1月～2019年12月)

病 名	計	男性	女性
心身症	26	9	17
循環器心身症	1	0	1
呼吸器心身症	5	2	3
消化器心身症	5	3	2
内分泌系心身症	0	0	0
その他心身症	15	4	11
自律神経失調症	7	1	6
摂食障害	4	1	3
頭痛	1	0	1
その他	3	2	1
うつ病・うつ状態	50	20	30
不安に伴う疾患	32	13	19
パニック障害	5	3	2
不安障害	25	9	16
社交不安障害	2	1	1
強迫性障害	0	0	0
不眠症	10	6	4
その他	63	24	39
更年期症候群	0	0	0
適応障害	14	4	10
身体表現性障害	9	4	5
疼痛性障害	8	3	5
その他の精神疾患	17	6	11
その他の身体疾患	15	7	8
総計	181	72	109

5. 内分泌・糖尿病内科

内分泌・糖尿病内科部長 井手 誠

2019年は常勤医師5名、非常勤医師1名の計6名の医師で糖尿病及び内分泌疾患の診療を行っております。内分泌を専門とする医師も引き続き常勤しており、当院で完結できる内分泌疾患の症例も増えてきております。

糖尿病の分野では、治療薬や検査機器の進歩に対応すべく積極的に新薬・新検査機器の導入を図っております。様々な大規模臨床試験により有用性と多面的効果が証明されているSGLT2阻害薬の使用症例は年々増加傾向にあります。2019年はイプラグリフロジン（スーグラ）とダパグリフロジン（フォシーガ）が1型糖尿病に対する適応を取得し、当院でも適応のある症例を厳選して約30名の1型糖尿病患者に対してSGLT2阻害薬を投与しております。正常血糖ケトアシドーシスなどのリスクもありますが、適応症例を吟味しシックデイ時などの指導をきちんと行えば、低血糖を増加させることなく血糖コントロールを改善できることがわかってきました。

内分泌の分野では、8年ぶりのパセドウ病治療のガイドライン改訂など最新の情報もスタッフ間で共有し、質の高い内分泌診療を継続できるように努めております。

今後も医師、看護師、管理栄養士、薬剤師によるチーム医療を充実させ、総合病院の特性を活かした他科との連携を継続し、筑豊の地域医療に貢献してまいりたいと思います。

1) 入院患者疾患別内訳（2019年）

病名	総計	急患	性別		年齢 (平均値)	在科日数 (平均値)
			男	女		
糖尿病	287	42	159	128	64.1	10.7
2型糖尿病	231	28	130	101	65.4	10.5
1型糖尿病	46	10	19	27	57.6	12.1
低血糖	2	2	2	0	69.5	18.0
膵性糖尿病	2	0	2	0	52.5	14.5
その他	6	2	6	0	65.5	5.3
内分泌疾患	44	1	15	29	59.3	5.9
副腎腫瘍	16	0	8	8	62.3	5.8
原発性アルドステロン症	13	0	3	10	54.8	5.0
下垂体機能低下症	5	0	2	3	56.6	7.2
甲状腺機能亢進症	3	0	0	3	73.7	3.7
クッシング症候群	3	0	1	2	61.0	10.0
その他	4	1	1	3	53.0	6.0
その他	10	6	4	6	60.7	8.5
その他	10	6	4	6	60.7	8.5
総計	341	49	178	163	63.3	10.1

6. 消化器内科

消化器内科部長 赤星和也

2019年も当科赤星が考案した新しいデバイスである把持型鉸鉗子（Clutch Cutter）を用いた全消化管を対象とした安全で確実なESD、超音波内視鏡ガイド下穿刺吸引法（採取組織量の多いAcquire針を2019年度より導入）、膵胆道系内視鏡的治療（高画質である新型SpyGlass™DSを2019年度より導入）、術前のEUS,US,CTによる血行動態評価後X線透視化に静脈瘤を造影しつつ硬化剤を注入する内視鏡的静脈瘤硬化療法（EVIS）、や小腸内視鏡検査（カプセル内視鏡、ダブルバルーン内視鏡）といった当科で長年ノウハウを蓄積してきた高度な内視鏡医療のさらなるレベルアップに取り組んできました。これらの診療成績は良好で、その結果を国内外の学会や論文に発表し、高い評価を得てきました。2020年も内視鏡センター機材の更新や、2015年より取り組んでいる内視鏡診療におけるチーム医療のレベルをさらに向上させ、当院の理念である“まごころ医療”の一環である“患者さんに優しい、安全で快適な、質の高い内視鏡検査や治療”を提供していきたいと考えています。

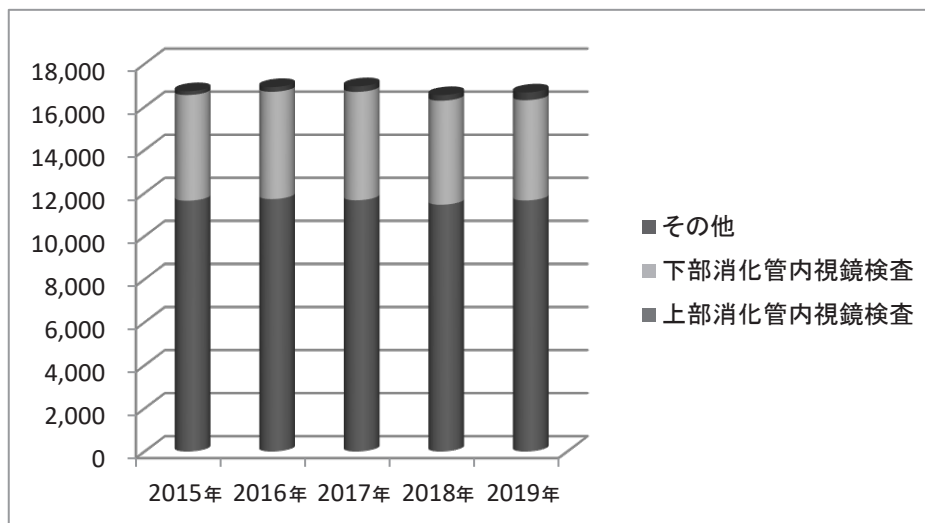
1) 入院患者疾患別内訳（2019年）

病名	計	病名	計
悪性腫瘍	496	良悪不詳の腫瘍	68
肝・胆・膵悪性腫瘍	188	胃腫瘍	38
胃悪性腫瘍	129	肝・胆・膵腫瘍	16
大腸悪性腫瘍	125	小腸腫瘍	8
食道悪性腫瘍	36	大腸腫瘍	5
悪性リンパ種	10	食道	1
その他の部位	8	良性腫瘍・ポリープ	706
静脈瘤	125	大腸良性腫瘍	591
食道静脈瘤	113	大腸ポリープ	70
胃静脈瘤	9	胃良性腫瘍	22
その他	3	胃・十二指腸ポリープ	9
腸炎	125	その他の部位	7
虚血性腸炎	67	小腸良性腫瘍	7
潰瘍性大腸炎	25	その他	672
感染性腸炎	14	胆嚢・胆管結石	210
その他の非感染性腸炎	10	腸の憩室性疾患	145
クローン病	9	その他	61
潰瘍	117	腸閉塞・狭窄	54
胃潰瘍	63	膵炎	46
十二指腸潰瘍	33	胆嚢・胆管炎	45
食道潰瘍	9	毛細血管拡張	20
腸潰瘍	7	逆流性食道炎	19
その他	5	肝・胆・膵のその他の疾患	13
		腸のその他の疾患	12
		食道裂孔ヘルニア	11
		消化管出血	9
		マロリー・ワイス症候群	8
		貧血	6
		胃・十二指腸のその他の疾患	5
		痔核	5
		胆管閉塞	3
		総計	2,309

2) 最近5年間の消化器内視鏡検査件数

	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年
上部消化管内視鏡検査	11,647	11,722	11,667	11,458	11,658
下部消化管内視鏡検査	4,907	4,981	5,031	4,831	4,656
その他	176	219	260	262	358
総件数	16,791	16,972	17,040	16,658	16,767

3) 最近5年間の内視鏡検査件数の推移



2019年消化器内視鏡検査数 (内訳)

診療内容	件数
総数	16,767
上部内視鏡検査 (総数)	12,016
下部内視鏡検査 (総数)	4,656
EUS (上部)	1,405
EUS (下部)	327
EUS-FNA	161
EMR (上部)	6
EMR (下部)	408
ESD (上部)	108
ESD (下部)	84
ポリペクトミー (上部)	0
ポリペクトミー (下部)	2
緊急内視鏡検査	419
内視鏡的食道静脈瘤治療	238
内視鏡的止血術	196
内視鏡的異物摘出術	31
内視鏡的消化管狭窄拡張術	141
経皮内視鏡的胃瘻造設術	8
経皮内視鏡的胃瘻交換 (抜去)	33
ERCP・EST	732
小腸内視鏡	48
カプセル内視鏡	44
経鼻内視鏡検査	1,380
その他の内視鏡	358

7. 血液内科

血液内科部長 油布祐二

2019年はスタッフ数が1名減少し、4名体制になりました。2018年は初めて5名体制となり、それに伴い入院・外来患者数および化学療法数が大幅に自然増加しましたが、それを1名減の体制でまかなうため診療体制の改変を試みました。すなわち4名の医師を外来に専念する2名とほぼ入院患者のみに対応する2名に分け、より効率的に業務を行える体制としました。その結果、それぞれが受け持つ患者数は増加したものの、病棟あるいは外来からの予定外の業務要請がなくなり、身体的・精神的ストレスがより少ない状態で診療に当たっています。ただこの体制がベストかどうかはまだ様子を見る必要がありますし、負担増の根本的な原因である人員不足の改善が急務です。当科はこれまで大学人事のみで人員を確保してきましたが、これからはSNSを含む様々なツールや機会を通じて専攻医やスタッフをリクルートする活動がより一層必要となります。

総退院患者数：603 件

外来新患数：605 件

診 断 名	新患 入院数	退院 患者数	平均 在院 日数	平均 年齢	男	女
急性骨髄性白血病	18	77	32.5	65.6	57	20
急性リンパ性白血病	3	14	38.4	57.1	10	4
骨髄異形成症候群（経過中に化学療法あり）	5	60	15.8	72.8	37	23
骨髄異形成症候群（経過中に化学療法なし）	6	11	50.4	82.5	7	4
慢性骨髄性白血病	5	9	14.7	70.2	2	7
その他の骨髄増殖性疾患	3	4	12.8	78.5	2	2
非ホジキンリンパ腫	63	278	26.3	71.7	130	148
ホジキンリンパ腫	3	13	37.2	61.5	9	4
多発性骨髄腫	15	63	38.5	73.9	35	28
成人T細胞性白血病・リンパ腫	3	14	19.9	74.3	14	0
その他のリンパ増殖性疾患（CLL など）	2	3	27.3	61.0	3	0
再生不良性貧血	7	12	32.3	70.8	8	4
溶血性貧血	-	-	-	-	-	-
特発性血小板減少性紫斑病	16	22	24.5	73.2	4	18
その他	14	23	14.2	59.3	14	9
合 計	163	603	27.5	70.5	332	271

骨髄穿刺件数（2019年）：443 件

8. 総合診療科

総合診療科部長 井村 洋

1. 入院患者数は、平均で130名／日であった。
2. 病院総合医コースに4名、家庭医コースに2名の新規専攻医が加わった。
3. 家庭医グループの在宅診療数は、2018年同様に当地域で有数のものであった。
4. 総合内科専門医を2名、家庭医専門医を3名が取得した。
5. 関連各学会には、複数以上の発表を行えた。国際学会でも発表した。
6. 2018年に続けて、夜間の病棟コール制度を実施できた。夜間の病棟診療の安全、および、過度の超過勤務抑制に効果的である。休祝日の勤務状況の改善にも取り組んだ。
7. 家庭医グループでは、月に1回のレジデントデーで、ポートフォリオ指導会とコアレクチャーを定期的開催し続けた。
8. ピッツバーグに、指導医・研修医の医学教育研修のための派遣を継続し、学習をした者が中心となり医学教育WSを実施した。
9. HCUに加え、ICUの診療も開始した。
10. 週3回の救急外来で、指導医を派遣して内科教育を担当している。

外来初診における頻度の高い主訴

順位	コード	件数
1	A03 発熱	769
2	B29 血液と免疫機能の症状 / 愁訴	581
3	N01 頭痛	431
4	N17 めまい / めまい感	345
5	A04 全身脱力 / 倦怠感	344
6	R05 咳	273
7	D06 その他の局所性腹痛	242
8	R21 咽喉の症状 / 愁訴	228
9	D09 嘔気	220
10	N29 その他の神経の症状 / 愁訴	216
11	T03 食欲不振	210
12	L14 下腿 / 大腿部の症状 / 愁訴	203
13	D01 腹部全体疼痛 / 激痛	197
14	N06 その他の知覚障害	197
15	D29 消化器のその他の症状 / 愁訴	184
16	D10 嘔吐	181
17	D11 下痢	177
18	A29 全身症状 / 愁訴、その他	144
19	D02 心窩部痛	141
19	R02 息切れ / 呼吸困難	141

外来初診患者数 延べ人数 4,680 人

入院・最終診断名

順位	疾患名	合計
1	尿路感染症・部位不明	232
2	誤嚥性肺炎	197
3	インスリン非依存性糖尿病 (合併症を伴わない)	184
4	本態性高血圧症	158
5	慢性腎不全 (非透析状態)	134
6	腎障害・詳細不明	128
7	慢性心不全・詳細不明	124
8	敗血症性ショック	108
9	低ナトリウム血症	86
10	心房細動	84
11	低カリウム血症	77
12	肺炎・病原体不明・詳細不明	73
13	詳細不明の認知症	72
14	脳梗塞後遺症・陳旧性脳梗塞	69
15	発熱	68
16	索状物・癒着性イレウス・腸閉塞	66
17	急性腎盂腎炎	65
18	甲状腺機能低下症・詳細不明	59
18	食思不振・食欲不振	59
19	急性呼吸不全	55

入院患者 延べ患者数 2,566 人

9. 膠原病・リウマチ内科

膠原病・リウマチ内科部長 永野修司

引き続き3人の診療体制を維持しておりますが、日浦惇貴医師が3月末で退任し、4月より佐川文彬医師が着任致しました。リウマチ以外のリウマチ性疾患についても、有効な薬剤の登場により全般的な治療成績の向上が得られていますが、これに伴い入院診療から外来診療へのシフトが進みつつあります。また治療に要する入院期間も短縮する傾向にありますが、地域の高齢化を反映して当科領域疾患の患者年齢高齢化も進行しつつあり、治療期間の短縮が入院期間の短縮につながらない面もあります。高齢化時代のリウマチ性疾患診療の望ましい姿について、チーム医療や地域連携の再構築を進めて、高齢者診療では特に問題となる合併症の精緻な管理の一貫として各種モニタリングなどの治療安全を高める取組を定期的に継続しました。地域中核病院として、また膠原病診療の砦として、地域の高い期待に応えられるよう診療水準の更なる向上に努めていきたいと考えております。

入院患者疾患別内訳（2019年）

病名	総数	急患	男	女	年齢 (中央値)	在科日数 (中央値)
関節リウマチ	96	10	40	56	75.5	3
全身性エリテマトーデス	19	6	4	15	44	18
全身性硬化症	15	1	8	7	62	3
肺炎 / 気管支炎	15	15	11	4	70	13
成人発症スチル病	13	0	12	1	58	3
ANCA関連血管炎	11	3	7	4	72	19
間質性肺炎	9	5	2	7	44	21
皮膚 / 皮下組織疾患	9	1	5	4	57	12
多発性筋炎 / 皮膚筋炎	8	0	1	7	48	13.5
強直性脊椎炎	7	0	2	5	57	3
リウマチ性多発筋痛症	6	0	0	6	74.5	14
結節性多発性動脈炎	5	1	4	1	75	8
好酸球性肉芽腫症	4	0	0	4	51	3
クローン病	3	0	0	3	34	3
家族性地中海熱	3	2	0	3	60	15
蜂窩織炎	3	3	0	3	71	16
シェーグレン症候群	2	1	0	2	75	56.5
関節炎	2	0	1	1	50.5	12.5
血清反応陰性関節リウマチ（多部位）	2	1	0	2	79.5	6
ベーチェット病	1	0	0	1	87	18
胸水	1	1	1	0	93	7
尿路感染症	1	1	0	1	67	16
その他	40	18	9	31	67.5	17.5
総計	275	69	107	168	68	7

10. 連携医療・緩和ケア科

連携医療・緩和ケア科部長 柏木秀行

2019年度は診療科名を「緩和ケア科」から「連携医療・緩和ケア科」に変更し、大きな変革に取り組んだ1年となりました。我が国の緩和ケアは悪性疾患を対象として発展してきた歴史的経緯がありますが、高齢多死社会を迎え非がん疾患に対する緩和ケアの重要性が高まっています。非がんの慢性疾患を地域との連携に基づく医療で支えるというコンセプトのもと、「連携医療」という言葉を新たに加え、取り組んでまいりました。2020年度も引続き、「病気になっても過ごしたい過ごし方のできる、地域づくりに貢献する」という我々の理念を実現すべく、一步一步取り組んでまいります。

< 2019年1月～12月 依頼状況 >

診療科	疾患	症例数	診療科	疾患	症例数	診療科	疾患	症例数
外科	胃癌	13	総合診療科	膵癌	10	呼吸器外科	肺癌	8
	直腸癌	8		乳癌	7		心臓血管肉腫	1
	食道癌	8		胃癌	7	合計	9	
	胆管癌	7		肝癌	5	呼吸器内科	肺癌	47
	乳癌	5		肺癌	5		食道癌	1
	S状結腸癌	5		原発不明癌	3	合計	48	
	大腸癌	2		腎癌	2	連携医療・ 緩和ケア科	乳癌	29
	上行結腸癌	2		胆管癌	2		胃癌	27
	肺癌	1		前立腺癌	2		膵癌	25
	GIST	1		膀胱癌	2		肺癌	25
	横行結腸癌	1		卵巣癌	2		胆管癌	22
	下行結腸癌	1		直腸癌	2		食道癌	19
	腹膜癌	1		S状結腸癌	2		腎癌	17
	膵癌	1		大腸癌	1		直腸癌	14
	腎癌	1		中咽頭癌	1		肝癌	13
	合計	57		甲状腺癌	1		前立腺癌	13
	消化器内科	膵癌		28	盲腸癌		1	S状結腸癌
胃癌		9	悪性末梢神経鞘腫瘍	1	上行結腸癌		8	
胆管癌		9	縦隔腫瘍	1	尿管癌		7	
食道癌		5	子宮頸癌	1	膀胱癌		6	
下行結腸癌		2	膠芽腫	1	心不全		6	
S状結腸癌		2	虫垂癌	1	卵巣癌		5	
直腸癌		2	食道癌	1	大腸癌		5	
上行結腸癌		1	胸腺癌	1	子宮癌肉腫	4		
横行結腸癌		1	急性骨髄性白血病	1	子宮頸癌	2		
大腸癌		1	合計	63	胆嚢癌	2		
肺癌		1	肝臓内科	胆管癌	6	原発不明癌	2	
合計		61		肝癌	6	脂肪肉腫	2	
婦人科		子宮頸癌		22	S状結腸癌	1	平滑筋肉腫	2
		卵巣癌		16	膵癌	1	副鼻腔軟骨肉腫	2
	子宮肉腫	6		胆嚢癌	1	甲状腺癌	2	
	腹膜癌	6		大腸癌	1	咽頭癌	2	
	子宮体癌	4	原発不明癌	1	多発性骨髄腫	2		
	盲腸癌	1	合計	17	顆粒膜細胞腫	2		
	子宮頸癌	1	循環器内科	肺癌	2	外陰癌	2	
	腹膜原発癌肉腫	1		S状結腸癌	2	子宮体癌	1	
合計	57	心不全		2	横行結腸癌	1		
泌尿器科	膀胱癌	30		肝癌	1	成人T細胞性白血病	1	
	腎癌	9	GIST	1	有棘細胞癌	1		
	尿管癌	8	腎癌	1	舌癌	1		
	前立腺癌	4	悪性軟部組織腫瘍	1	転移性骨腫瘍	1		
	直腸癌	1	合計	10	悪性髄膜腫	1		
合計	52	整形外科	膵癌	1	縦隔腫瘍	1		
歯科口腔外科	舌癌		1	腎癌	1	多発性脳腫瘍	1	
	合計	1	合計	2	悪性リンパ腫	1		
脳神経内科	肺癌	2	内分泌・糖尿病内科	胆管癌	1	特発性肺線維症	1	
	合計	2		肝癌	1	卵巣境界悪性腫瘍	1	
脳神経外科	膠芽腫	2	合計	2	GIST	1		
	乳癌	1	血液内科	悪性リンパ腫	1	腹膜癌	1	
	肝癌	1		急性骨髄性白血病	1	肛門管癌	1	
合計	4	多発性骨髄腫		1	顎下腺癌	1		
腎臓内科	膵癌	1	合計	3	腹膜原発癌肉腫	1		
	合計	1			乳房外バジレット病	1		
						合計	293	

★病棟

入棟患者数 227人 (新規: 201人)

<平均在院日数>

死亡	全体
17.6	18.2

<転帰>

死亡	在宅	転院	継続
162	43	10	12

<在宅後転帰>

死亡	再入院	療養中
17	24	2

★チーム

介入患者数 662人 (新規: 529人)

<平均在院日数>

死亡	全体
20.5	18.4

<転帰>

死亡	自宅退院	継続	転院	緩和ケア病棟	施設入所	介入終了
118	293	24	82	120	23	2

<在宅診療導入数>

71

11. 画像診療科

画像診療科部長 三浦亘智

人事面では10月に読影室が新しくなりスタッフが1名増員されましたが、検査件数の増加により仕事量は右肩上がりです。働き方改革に逆行する時間外労働の削減が最大の問題ですが、画像診断管理加算2獲得のために画像診療科スタッフには無理をお願いしており、平均年齢の上昇とともに健康面での不安が増すばかりです。旧本館の解体に伴ってMRI装置の新規導入が決定し、2020年3月より稼働の予定となりました。これ以上仕事量を増やせない状態で、病院にとって必要な検査をどうやってこなすかが最大の課題です。スタッフが増員できなければ、別の方法を考えなければいけない時期にきているのかなと深く思っています。

2019年診療実績

1) 診療実績（画像診療科で検査、報告書作成、及び治療を施行した件数・症例数）

	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年
CT	39,774	39,614	41,946	45,038	43,932
MR	8,514	9,154	10,565	11,105	10,907
マンモグラフィ総検査件数	3,107	3,421	3,560	3,658	3,811
マンモグラフィ検査件数（ドック以外）	1,266	1,311	1,330	1,343	1,443
当科医師によるマンモグラフィ読影件数 ^{※1}	1,244	1,304	395	62	37
尿路造影検査	62	41	31	44	172
PET-CT	1,230	1,024	1,025	1,037	1,054
核医学検査（PET-CT以外）	1,305	1,384	1,510	1,351	1,387
IVR・血管造影	399	459	559	499	487

※1 外科依頼における報告書作成は2017年4月まで

2) IVR・血管造影の内訳

	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年
肝細胞癌の肝動脈化学塞栓療法	190	220	177	127	106
出血性病変の止血術	40	46	69	65	45
リザーバー留置	11	9	16	6	4
検査のみの血管造影	23	18	16	0	1
VATS マーカー留置 ^{※1}	20	10	15	2	0
SVC ポート・ポート抜去	-	-	14	3	2
経皮経肝的門脈塞栓術（PTPE）	4	1	6	5	3
CT ガイド下生検・ドレナージ	3	5	5	10	6
BRTO	-	-	1	0	0
動注化学療法 ^{※2}	0	1	0	13	14
頭部血管造影 ^{※3}	11	14	112	153	155
肝ラジオ波焼灼術（RFA） ^{※4}	45	91	110	109	97
その他（主治医施行）	52	44	18	6	54
合計	399	459	559	499	487
緊急血管造影 ^{※5}	48(12.0%)	52(11.3%)	61(10.9%)	49(9.8%)	39(8.0%)

※1 2018年9月のハイブリット手術室導入より VATS マーカー留置は不要となった

※2 保険の関係上、2015～2017年の肝癌ケモリピオドリゼーションを塞栓とした

※3 2016年以前は脳神経外科及び当科施行、2017年は脳神経外科施行

※4 肝臓内科施行

※5 2017年以降は脳神経外科施行分を含まない

12. 放射線治療科

放射線治療科部長 久賀元兆

2010年以降、当科の放射線治療の年間症例数は300例を超えています。その後も増加が続き、ここ数年では年間400例弱となっています。筑豊地域の人口を考えると、今後も放射線治療の症例数は増加するものと予想されます。

当科では増加する症例数に対応するとともに治療の質を向上させるため、2017年に新治療機を増設しました。これにより放射線治療機は一旦2台体制となりましたが、2018年に旧機が寿命を迎えたため（部品供給の停止による）、結局のところ治療機は実質1台体制のままとなっています。

新機においては、2018年に始めた「搭載X-ray Volume Imaging装置（XVI）を用いた画像誘導下放射線治療（Image Guided Radiotherapy:IGRT）」、「外付け機器（アプチェス）を用いた呼吸性対策移動」に続き、一部症例に対しては高精度治療である「Intensity-modulated radiotherapy（IMRT）、Volumetric modulated arc therapy（VMAT）」を開始しました。

2018年より旧機の更新計画を進めて来ましたが、未だ実現の目途が立っていません。本来、治療機1台で対応できる症例数は年間約200例（最大約300例）とされています。現在、当科では実質1台体制で年間400例弱の症例を受け入れているため、就業時間の延長や患者さんの治療開始遅延がしばしば発生しています。このままでは職場環境の悪化となるばかりか、患者さんの不利益につながるおそれがあります。このため治療機が更新されるまでは、受け入れ症例に制限を設けることとしました。2020年度より制限を開始する予定です。

1) 診療実績

	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年
放射線治療件数（照射件数）	8,067	8,047	9,147	9,526	9,537	8,329	8,501	9,085	8,801
放射線治療									
新規患者数（新患実人数）	306	291	328	315	339	302	340	343	328
患者実人数（新患 + 再患）	347	332	365	358	380	335	374	392	361
原発巣別新規患者数（新患実人数）									
脳・脊髄	5	2	5	4	1	7	1	9	3
頭頸部（甲状腺を含む）	33	28	25	14	7	6	15	15	21
食道	18	19	14	7	20	16	17	15	15
肺・気管・縦隔（うち肺）	64	47	73	54	95	75	92	84	72
乳腺	44	56	73	86	83	81	72	71	57
肝・胆・膵	25	22	28	32	24	25	33	26	32
胃・小腸・結腸・大腸	22	24	20	22	18	21	16	16	31
婦人科	28	24	27	33	26	21	18	31	33
泌尿器系（うち前立腺）	43	44	47	44	43	32	43	53	42
造血器リンパ系	17	18	15	16	15	9	24	14	12
皮膚・骨・軟骨	6	4	0	0	2	5	1	4	1
その他（悪性）	1	2	1	2	5	4	6	3	3
良性	0	1	0	1	0	0	2	2	6
（15歳以下の小児例）	0	0	0	0	0	0	0	0	0

※ 2016年分より国際疾病分類腫瘍学 ICD-O（International Classification of Diseases for Oncology）第3版の分類に合わせております。

2018年の新規患者数に1名もれがございましたので、修正しております。

13. リエゾン精神科

リエゾン精神科部長 光安博志

精神科リエゾンチーム活動では、せん妄、認知症（BPSD）、うつ、不眠、精神病症状など精神症状を合併している患者さんや、身体疾患の治療目的で入院された精神科疾患をもつ患者さん、また、自殺未遂で救命された患者さんに対して精神的な支援、介入をしています。また、毎週金曜日午後にはリエゾンチーム回診とチーム・カンファレンスを実施しています。

外来診療は、院内他科からの紹介（予約制〔火・木〕）で診療しています。精神科閉鎖病棟（西1階）への入院は、外来の患者さんのみならず、リエゾンで対応している患者さんも受け入れを増やしています。

デイケア・センター「エスポワール」では活動を継続していますが、新たな活動としては、「マインドフルネス・プログラム」を開始しております。

引き続き、2020年度も身体疾患と精神疾患を合併する患者さんの診療に取り組んでいきたいと存じます。

（1）2019年1月～12月のリエゾン紹介新患者数

1) 精神医学的診断別

ICD Fコード	件数
F0 器質性	389
F1 精神作用物質	20
F2 統合失調症	48
F3 気分障害	54
F4 神経症性障害	71
F5 生理的障害	25
F6 パーソナリティ障害	4
F7 知的障害	12
F8 心理的発達障害	2
F9 注意欠陥多動障害	10
G2 アカシジア、レストレスレッグス症候群	2
G4 睡眠障害	5
R4 意識障害、精神運動興奮、昏迷状態	9
なし	8
総計	659

2) 依頼診療科別

診療科	件数
総合診療科	242
整形外科	83
外科	47
呼吸器内科	45
循環器内科	43
腎臓内科	24
連携医療・緩和ケア科	28
脳神経内科	21
呼吸器外科	18
脳神経外科	16
消化器内科	14
血液内科	12
心臓血管外科	10
皮膚科	9
内分泌・糖尿病内科	8
産科	8
肝臓内科	5
膠原病・リウマチ内科	5
婦人科	3
集中治療科	3
泌尿器科	3
小児科	3
眼科	2
漢方診療科	2
歯科口腔外科	2
耳鼻咽喉科	2
形成外科	1
総計	659

(2) 2019年1月～12月の外来新患数

ICD Fコード	件数
F0 器質性	9
F1 精神作用物質	0
F2 統合失調症	7
F3 気分障害	15
F4 神経症性障害	28
F5 生理的障害	6
F6 パーソナリティ障害	1
F7 知的障害	6
F8 心理的発達障害	3
F9 注意欠陥多動障害	1
G4 睡眠障害	1
F99 他に特定できないもの	2
合計	79

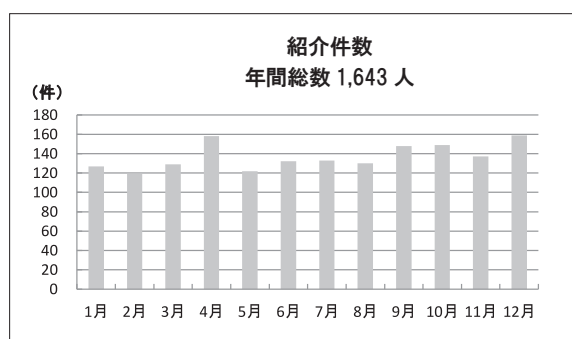
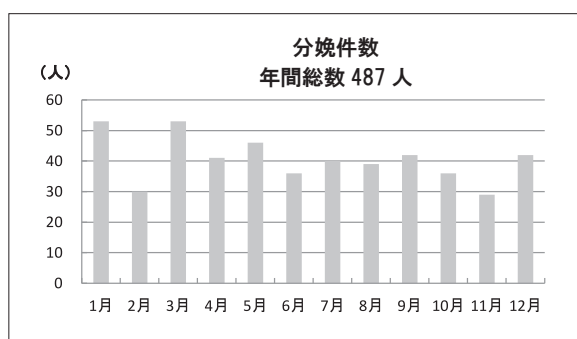
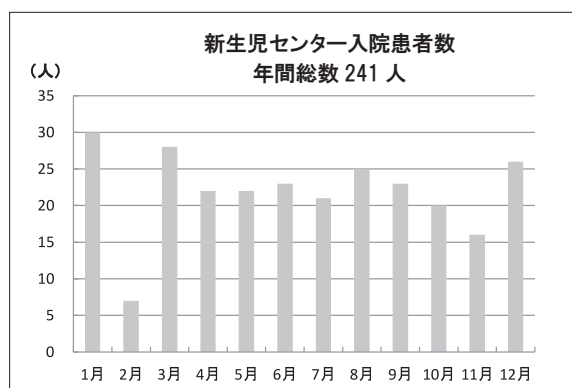
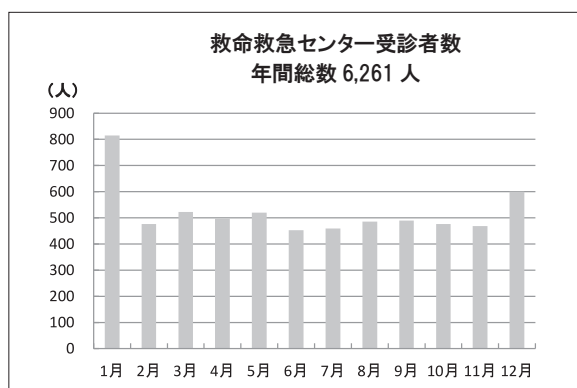
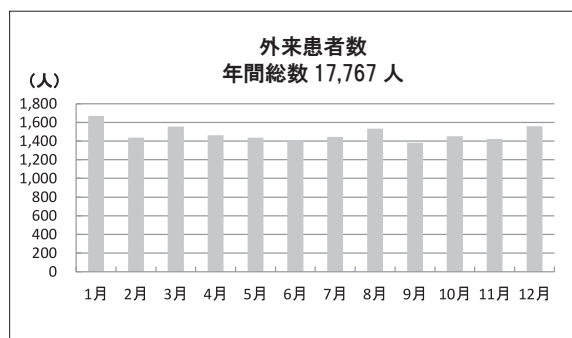
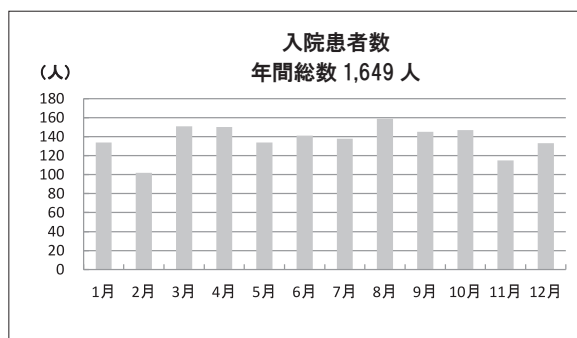
(3) 西1階病棟入院患者疾患別内訳

病名	統計	急患	性別		在科日数 (平均)	年齢 (平均)
			男	女		
F0 症状性を含む器質性精神障害	4	1	2	2	63.8	46.5
てんかん性精神病	2	1	2	0	46.0	31.0
アルツハイマー病の認知症	1	0	0	1	86.0	68.0
詳細不明の認知症	1	0	0	1	77.0	56.0
F1 精神作用物質	1	1	1	0	49.0	26.0
覚醒剤中毒後遺症	1	1	1	0	49.0	26.0
F2 統合失調症、統合失調型障害および妄想性障害	17	10	7	10	52.6	237.5
統合失調症	10	6	4	6	47.4	346.5
妄想性障害	3	2	1	2	73.0	88.0
急性一過性精神病性障害	2	1	1	1	57.0	28.5
統合失調感情障害	2	1	1	1	43.5	126.0
F3 気分障害	16	3	7	9	55.4	189.5
うつ病エピソード	9	2	4	5	59.1	192.2
双極性感情障害・躁うつ病	6	1	2	4	56.3	209.5
抑うつ状態	1	0	1	0	16.0	45.0
F4 神経症性障害、ストレス関連障害および身体表現性障害	5	4	5	0	40.2	24.0
適応障害	4	3	4	0	45.0	27.3
強迫性障害	1	1	1	0	21.0	11.0
F7 知的障害	2	2	1	1	28.5	29.0
精神遅滞	2	2	1	1	28.5	29.0
F8 心理的発達障害	1	0	1	0	37.0	221.0
自閉症	1	0	1	0	37.0	221.0
総計	46	21	24	22	51.7	167.0

14. 小児科

小児科部長 岡松由記

小児混合病床と母子総合医療センターの新生児部門を、北5階病棟ワンフロアに併設しています。病棟には保育士を配置し入院生活のサポート向上を図っております。小児科・小児外科外来を統合した小児センターでは、一般診療とともに、神経、内分泌、アレルギー、循環器、腎臓、新生児の専門外来を設置しております。出生時から成人するまで、切れ目のない医療を提供いたします。小児医療の課題である在宅医療、虐待防止に、拠点病院として多職種・多機関と連携して取り組んでおります。これからも筑豊地域のすべての子どもたちと、かかりつけ医療機関のご要望に応じていきます。



15. 腎臓内科

腎臓内科部長 藤崎毅一郎

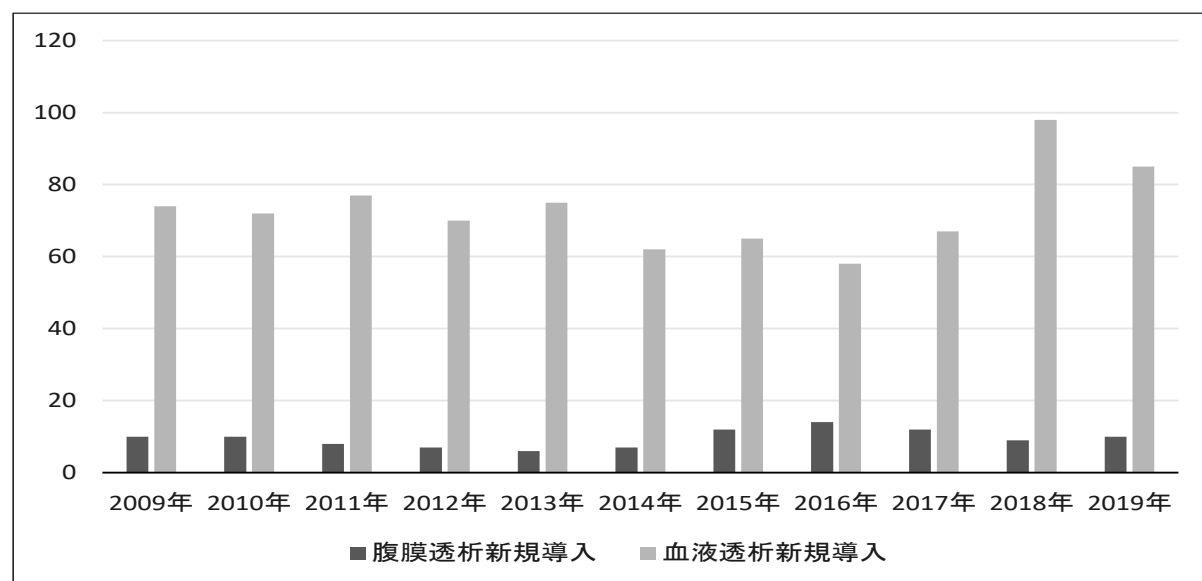
2019年3月に平川 亮部長が退職し、同年4月から藤崎が部長を拝命しました。また、岡村医師、濱小路医師が退職し、古閑医師が加わりました。近年、新患紹介患者数が漸増しており、これに伴って透析導入数も漸増傾向となっています。今後も近隣施設との連携をより一層深める診療を進める方針です。緊急入院や手術適応のある血液透析患者の増加を考慮し、本年度より入院患者の血液透析ベッドを4床増床しました。これにより血液透析患者の入院受け入れ患者数は増加しました。また、今年度の当院の集中治療科変革に伴い、ICUにおける急性血液浄化療法および血液透析は当科が全面的にバックアップすることとなりました。これにより重症患者のICUから病棟透析室への連携は円滑になりました。

◆腎臓内科 診療実績データ (2019年1～12月)

項 目	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年
1 外来実患者数	18,620	18,016	17,500	17,412	17,671	12,842	12,580	13,058
2 入院患者数	1,020	1,092	880	893	847	889	942	933
3 新患紹介数	201	231	206	185	231	200	249	262
4 院内新患紹介数 (紹介状があるもの)	214	284	303	659	587	255	263	273
5 内シャント術、PDカテーテル留置術	101	128	98	93	111	123	175	142
6 PTA (血管内形成術)	50	93	62	123	106	109	159	191
7 年間死亡患者数	16	19	10	18	18	6	15	8
8 腎生検	40	43	45	34	34	50	43	39

◆新規透析導入患者数推移

	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年
腹膜透析新規導入	10	10	8	7	6	7	12	14	12	9	10
血液透析新規導入	74	72	77	70	75	62	65	58	67	98	85



◆ 2019年 地域別新規透析導入者数



◆ 専門医、認定の修得件数

1	日本内科学会認定内科医	7
2	日本内科学会総合内科専門医	4
3	日本透析医学会専門医	5
4	日本透析医学会指導医	1
5	日本腎臓学会腎臓専門医	5
6	日本腎臓学会指導医	1

16. 循環器内科

循環器内科部長 井上修二郎

2019年は冠動脈形成術（PCI）499件、不整脈アブレーション 276件、末梢血管血管内治療（EVT）142件のカテーテル治療を行いました。また心臓血管外科・麻酔科および多職種からなるチームを形成、経カテーテル的大動脈弁置換術（TAVI）を開始し、計18件を安全に施行することが出来ました。2020年も治療件数のみでなく治療の質を重視し、高い成功率で合併症低減に努めていきます。

外来では、かかりつけの先生との地域連携を推進し、筑豊地域の最後の砦として高度急性期治療を高いレベルで、かつ最適なタイミングで安全に施行出来るよう、病院内外の仕組み作りを進めていく所存です。

1) 2019 年入院主病名（循環器主要疾患）：例数

総入院患者数：1,714 人 平均年齢：73.8 歳 急患数：919 人（54%）
死亡：33 人（1.9%） 平均在院日数：12.5 日

急性心筋梗塞：195	心不全・肺水腫：443
亜急性心筋梗塞：6	肥大型心筋症：7
陳旧性心筋梗塞・虚血性心筋症：20	心筋症・拡張型心筋症：5
不安定狭心症：33	たこつぼ心筋症：9
労作性狭心症：104	心臓弁膜症：52
狭心症：191	先天性心臓病：0
冠攣縮性狭心症：14	川崎病：0
無症候性心筋虚血：118	急性大動脈・動脈解離：23
その他の虚血性心疾患：5	動脈瘤・大動脈瘤：0
失神発作：6	閉塞性動脈硬化症：65
心房細動：213	急性動脈閉塞：1
心房粗動・心房頻拍：17	高血圧症・高血圧性心臓病：1
洞不全症候群：34	肺動脈性肺高血圧：11
房室ブロック：56	肺動脈血栓塞栓症：9
WPW 症候群：2	深部静脈血栓症：1
発作性上室頻拍：23	心タンポナーデ・心のう液貯留：11
心室性期外収縮：4	心筋炎：5
心室頻拍・心室細動：15	心膜炎・心外膜炎：6
ブルガダ症候群：0	収縮性心膜炎：1
睡眠時無呼吸症候群：10	感染性心内膜炎：3
心アミロイドーシス：1	悪性腫瘍：4
心サルコイドーシス：8	肺炎・気管支炎：4
電解質異常：3	心臓手術後コントロール：9
腎不全：6	来院時心肺停止：4
消化管出血：4	
脳血管障害：5	

2) 心カテ総数：1,688 (緊急心カテ 300：17.8%)
EP study (カテーテル・アブレーションを含む)：279
カテーテル・アブレーション：276
冠動脈インターベンション (PCI)：499 (緊急 PCI：202 (40.5%))
成功率：98.8%
POBA のみ：24 (内 drug-coated balloon：12)
ステント：452 症例
DCA：4
ロータブレード使用：22
* プレッシャーワイヤー：69 *IVUS：447
PTA：142
下大静脈フィルター：4
PTSMA：2
PTMC：1
PTAV：4

3) 心筋梗塞データ

心筋梗塞症例数 190 例
平均年齢：70.0 歳
男女比：男／女 = 126 / 64、男性 66.3%
予後：死亡 = 7 (4.0%)
平均在院日数：14.5 日

4) カテーテルアブレーションデータ

カテーテルアブレーション症例数：276
心房細動：220
発作性上室頻拍：27
心房粗動：9
心房頻拍：5
心室頻拍：7
心室細動：1
心室期外収縮：7

17. 心不全ケア科

心不全ケア科部長 今村義浩

2019年は、緩和ケアの充実に注力しました。4月に、慢性心不全看護 認定看護師が誕生し、HST（ハートサポートチーム）の一員として加わりました。

当科の主な活動は、医療スタッフへの助言、病棟症例カンファレンスへ参加、HST症例への毎週の回診となっています。死亡例のデスカンファレンスによる振り返り、看護スタッフへのフォローも毎回行っています。2019年前期は、心不全カンファレンスで月8.2症例の治療方針検討を行い、月平均5.3症例のHST介入、うち3.7症例には患者さんへ直接介入を行いました。

2020年は、地域へ活動を広げるために、多職種での地域連携ワーキンググループを立ち上げました。増え続ける心不全に、緩和を含めた地域連携を行うことを重点目標の1つとしています。

18. 外科

外科統括部長 梶山 潔

2019年4月に、食道外科専門医、内視鏡外科技術認定医（消化器外科）として大活躍してくれた木村和恵（やすえ）先生（H10年大分卒）が、母教室である九州大学消化器・総合外科（第二外科）の食道グループチーフとして帰学されました。また、消化器外科全般を全てこなせる山本一治先生（H3年九大卒）は、故郷である山口県の宇部西リハビリテーション病院へ異動されました。一方、藤中良彦先生（H17年九大卒）が九州医療センターから、当院初期研修から播磨朋哉先生（H29年熊大卒）が当科へ着任されました。更に、萱島寛人先生（H14年九大卒）が、日本肝胆膵外科学会高度技能専門医に合格されました。

2019年は、長年にわたり外科医局のあった旧本館が取り壊しになりました。外科の新医局は旧ふれあい棟に移り、かなり狭くなりました。外来や病棟、手術室への動線も悪くなり、決して働きやすい環境とは言えませんが、これにめげず、2020年も筑豊の外科医療のためがんばっていききたいと思います。

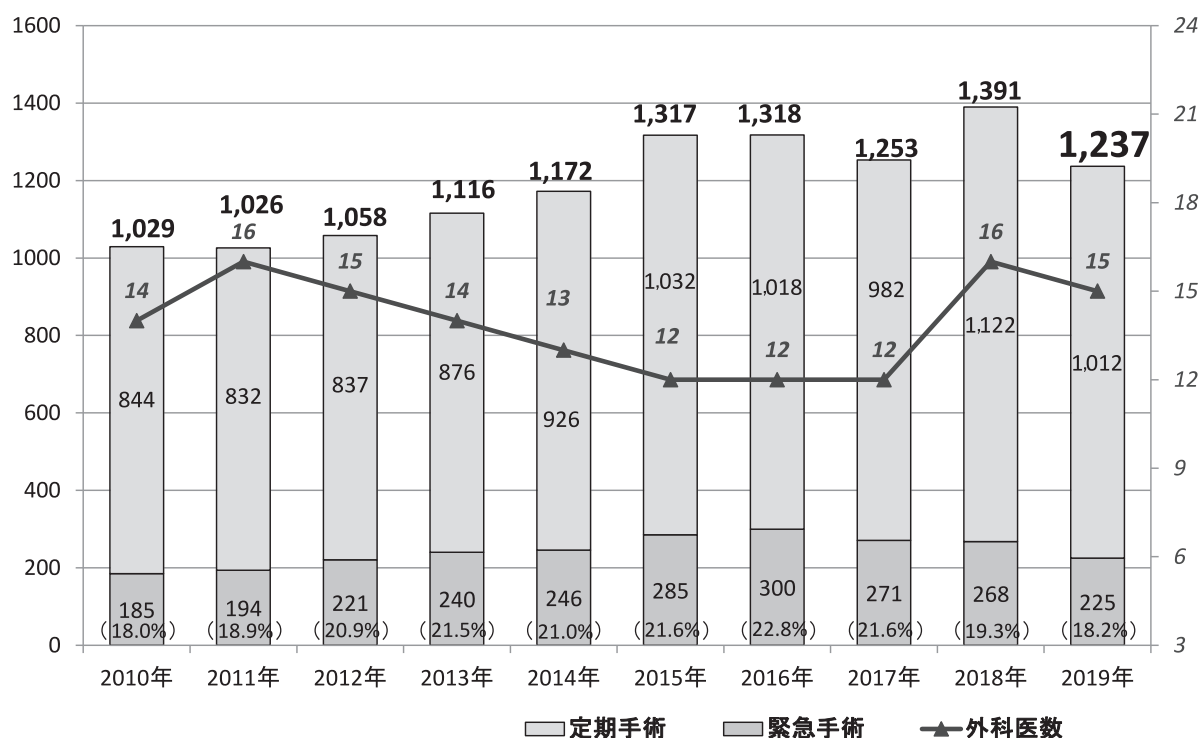
1. 外科(消化管・内視鏡外科、肝胆膵外科、臨床腫瘍科を含む)全体の手術症例数

過去最高であった2018年の1,391例に比べ、外科全体としては約150例減少し、1,237例となりました。

図1

外科(消化器・乳腺・一般外科) 手術総数 推移

(心臓血管外科、呼吸器外科、小児外科を含まない)



2. 手術内容

表1のとおり、例年どおり「がんの外科」が中心になります。「救急外科」「一般外科」手術もしっかり行っており、若手外科医の教育にはバランスが良いものと考えます。

表1 **2019年 消化器・乳腺・一般外科 手術内容 (抜粋)**

(呼吸器外科、小児外科、心臓血管外科症例は含まない)

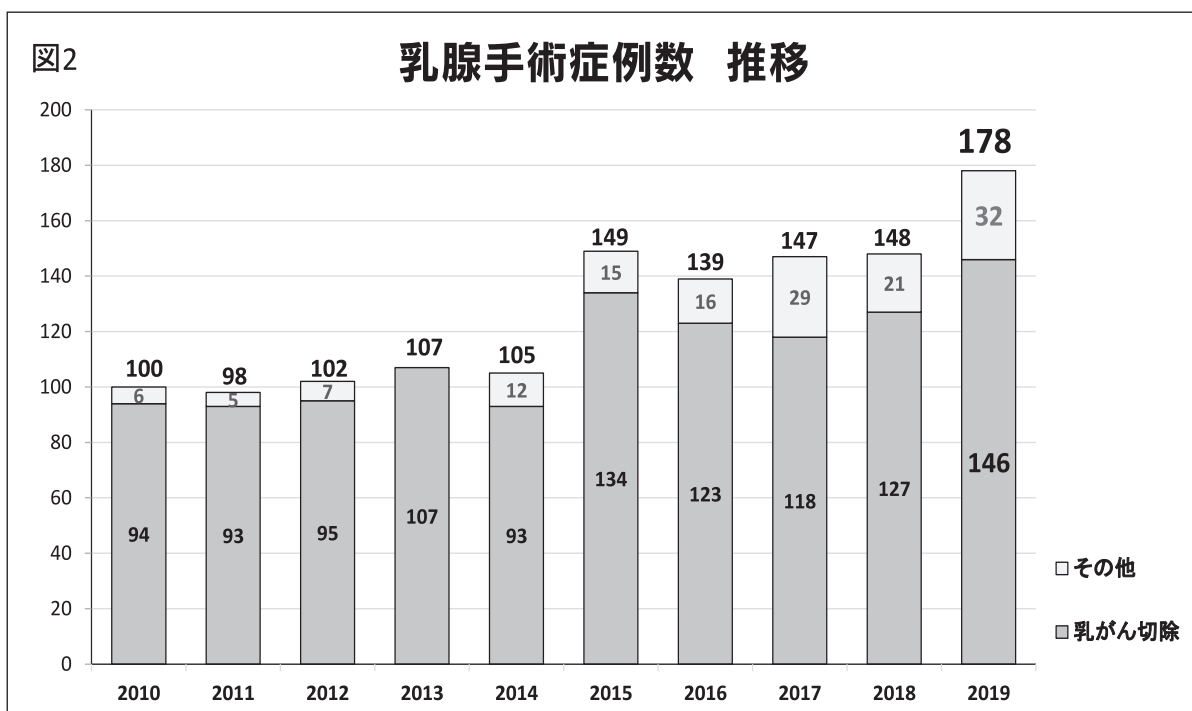
総手術数(手術室内施行) 1237例↓ うち急患手術 225例↓ (18.2%)

手術術式	症例数	疾患	症例数	術式	症例数 [鏡視下]
乳腺手術	178↑	乳がん	146↑	乳房切除	141↑
食道手術	16↓	食道がん	12↓	食道切除	12↓ [12↓]
胃十二指腸手術	144↓	胃がん	118↑	胃全摘	25↓ [14↑]
				胃部分切除	93↑ [67↑]
				その他	26↓
小腸・大腸・直腸手術	375↓	結腸がん	165↓	結腸切除術	155↓ [115↓]
		直腸がん	35↓	直腸切除術	30↓ [27↓]
				腹会陰式切断術	6↓ [5↓]
				虫垂切除術	62↓ [61↓]
肝臓手術	89↓	原発性肝がん	55→	肝切除術	89↑ [30↑]
		転移性肝がん	24↑	拡大胆嚢摘出術	2↓
胆道手術	158↓	胆道腫瘍	22↓	膵切除	47↓ [5↑]
		胆嚢結石症	144↓	PD	33↓
膵切除	47↓	膵がん	32↓	体尾部切除	12↓ [5↑]
				胆嚢摘出術	138↓ [133↓]
脾	2↓			脾臓摘出術	2↓ [2↓]
ヘルニア手術	134↓	鼠径ヘルニア	99↓	鼠径ヘルニア根治術	99↓ [6↓]

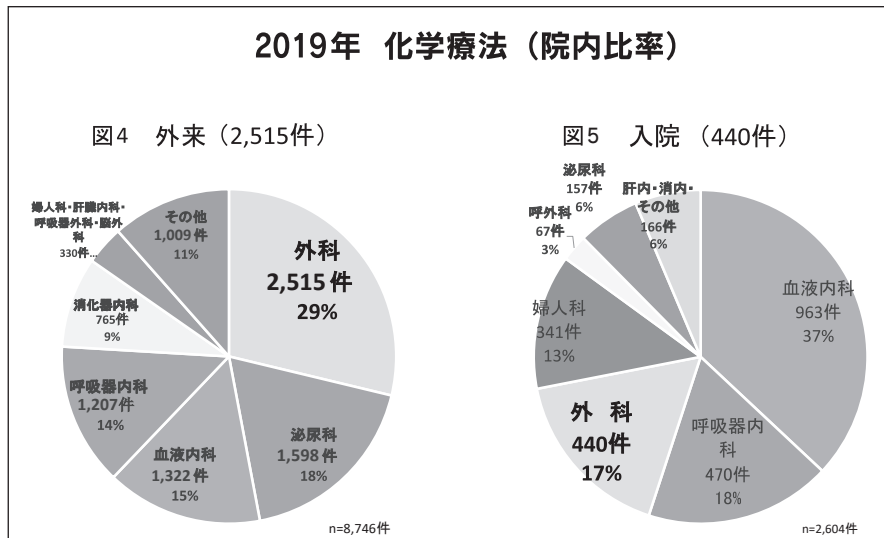
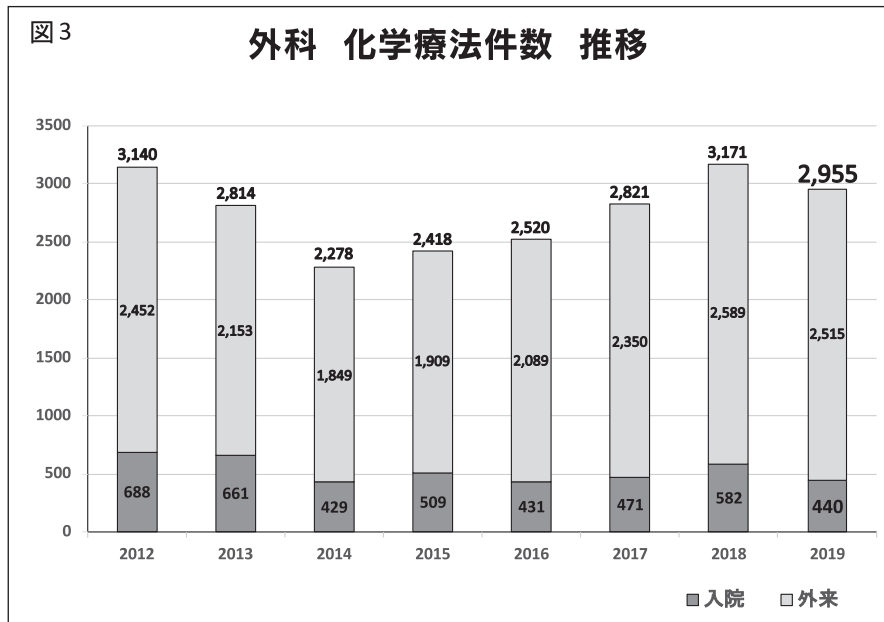
(疾患数、手術術式数に重複あり)

3. 乳腺外科

2019年は、乳がん切除149例を含む乳腺手術178件と過去最高の実績でした。本当に忙しかっただらうと思いますが、武谷憲二先生(日本乳癌学会乳腺専門医)と松枝花奈先生の大変ながんばりに深謝します。

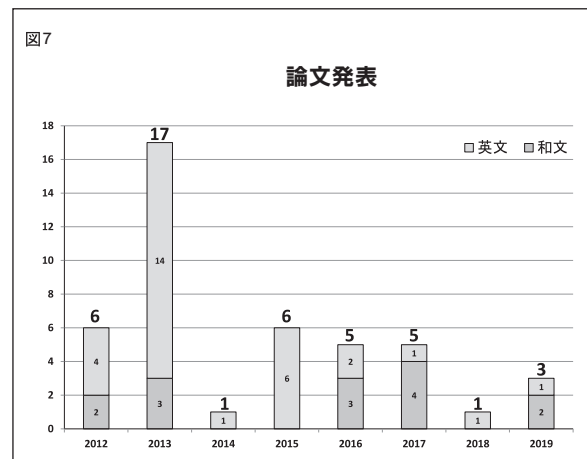
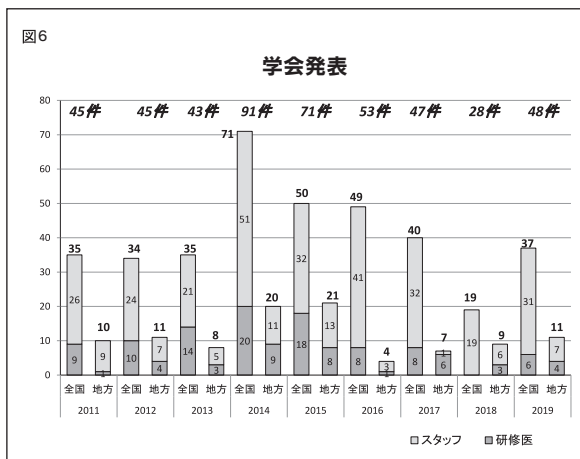


4. 化学療法



5. 学術活動

学会発表、論文発表ともに、2018年よりやや回復しました。2020年もがんばりたいと思います。



19. 臨床腫瘍科

臨床腫瘍科部長 甲斐正徳

臨床腫瘍科では当初より当院のがん診療の質の向上に取り組んでいます。

2019年のがん診療に関する取り組みとしては、ここ数年と同様、がん地域連携の強化と考えています。

地域がん診療連携拠点病院である当院は、5大癌の術後地域連携に取り組んでいますが、胃がん、大腸がんで進行癌症例にも地域連携を開始したのは、2017年でした。2019年時点で進行癌での連携症例はあまり増加してはいませんが（2019年は大腸癌の1例のみ）、引き続き連携を進めていきたいと考えています。

消化管cancer boardの内容の充実に関しても、2017年から同様に続けていますが、引き続き、病理医、緩和ケア医の参加に加えて、Medical staffの参加も進めていきたいと考えています。

Medical staffのがん診療レベル向上のためのがんチーム医療推進勉強会も、継続的に開催し、外部講師を招聘するなど、充実を図っています。

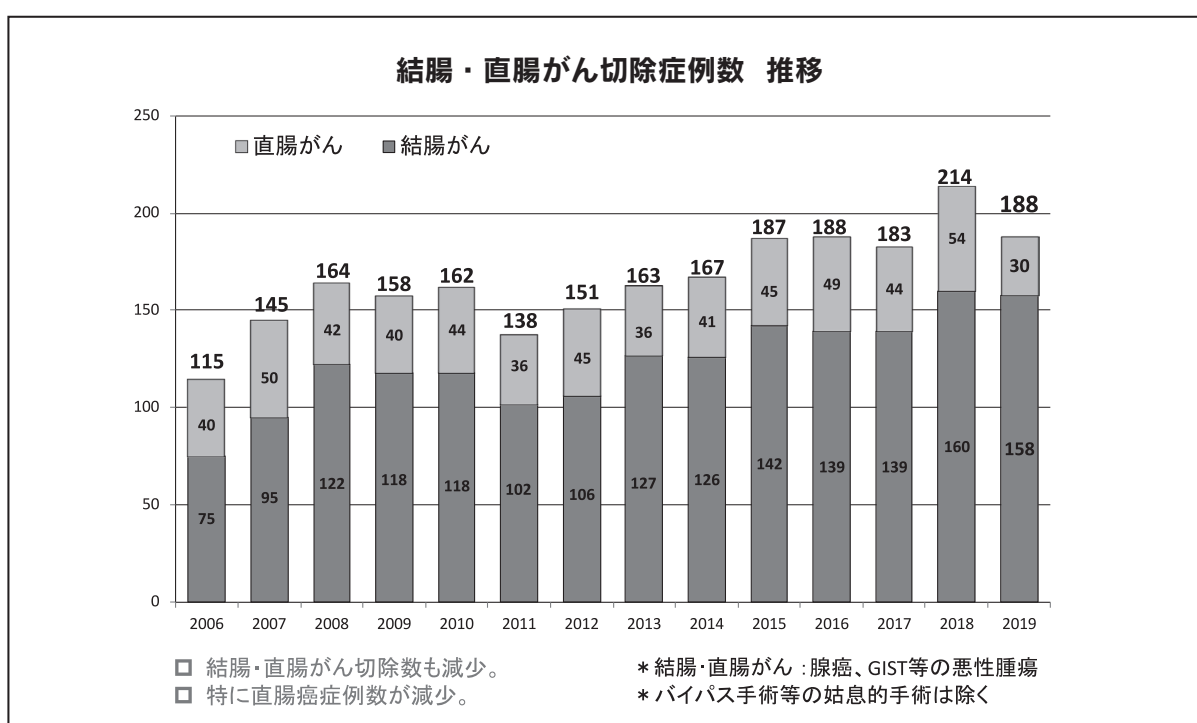
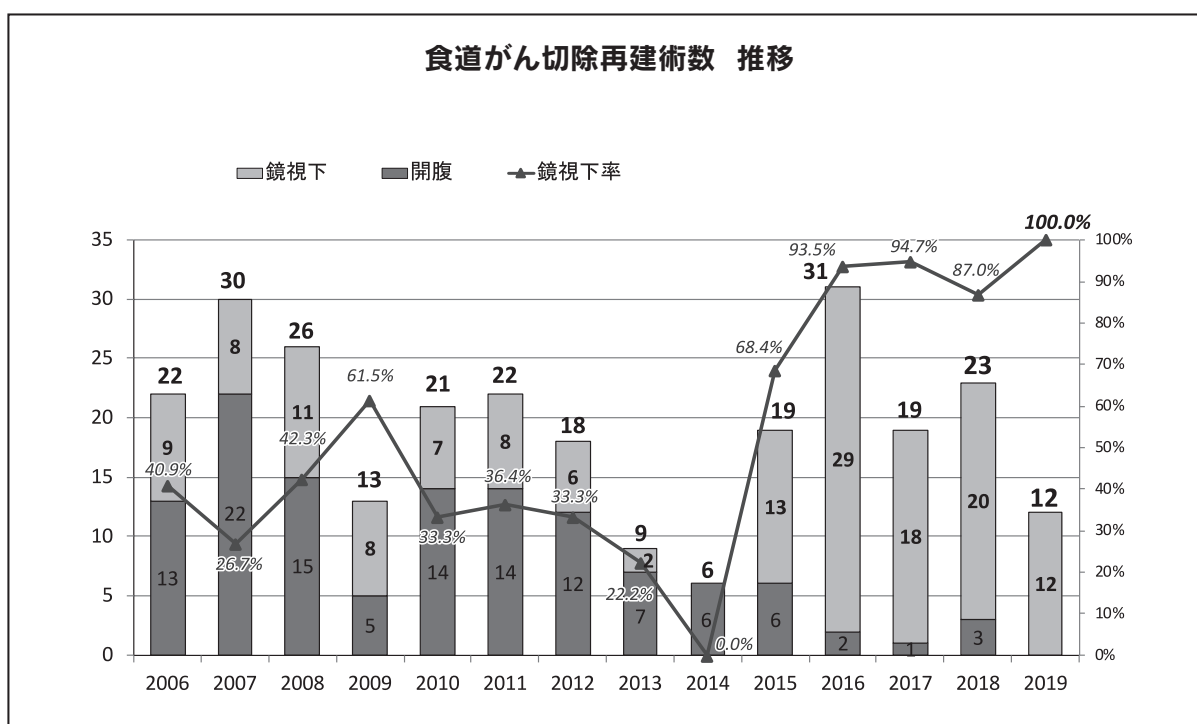
診療面においては、化学療法の症例数は、2018年までと比較して大きな変化はありませんが、外来化学療法の症例は年々増加しています。

20. 消化管・内視鏡外科

消化管・内視鏡外科部長 古賀 聡

2019年の目標としては、2018年に続き手術症例数の維持、質の向上、若手医師の技術向上でした。しかし、食道専門医兼内視鏡外科手術認定医師の3月末の異動に伴い、少なからず影響があったものと思われます。食道疾患に関しては、大学との連携によりなんとか2018年までと同様に医療の継続を行っておりますが、手術例数は約半分の12例となりました。また、胃疾患や大腸疾患に関しては、胃・結腸手術はほぼ前年と変わらず119例、158例でしたが、直腸手術は約半分の30例にとどまりました。

一方、ロボット手術の導入を考慮した手術室増室に向けて具体的な計画が進んでおります。今後とも関係各機関の皆様には、温かいご声援とご協力をよろしくお願いいたします。



胃がん切除症例数 推移



□ 鏡視下手術の比率は65%前後で推移

□ 日本内視鏡外科学会技術認定医 2名在籍

* 胃がん: 胃腺癌、胃GIST等悪性腫瘍

* バイパス手術等の姑息的手術は除く

結腸がん切除数・内視鏡率 推移



□ 結腸がん切除数は横ばい

□ 鏡視下率は73%と低下

* 結腸がん: 腺癌、GIST等の悪性腫瘍

* バイパス手術等の姑息的手術は除く

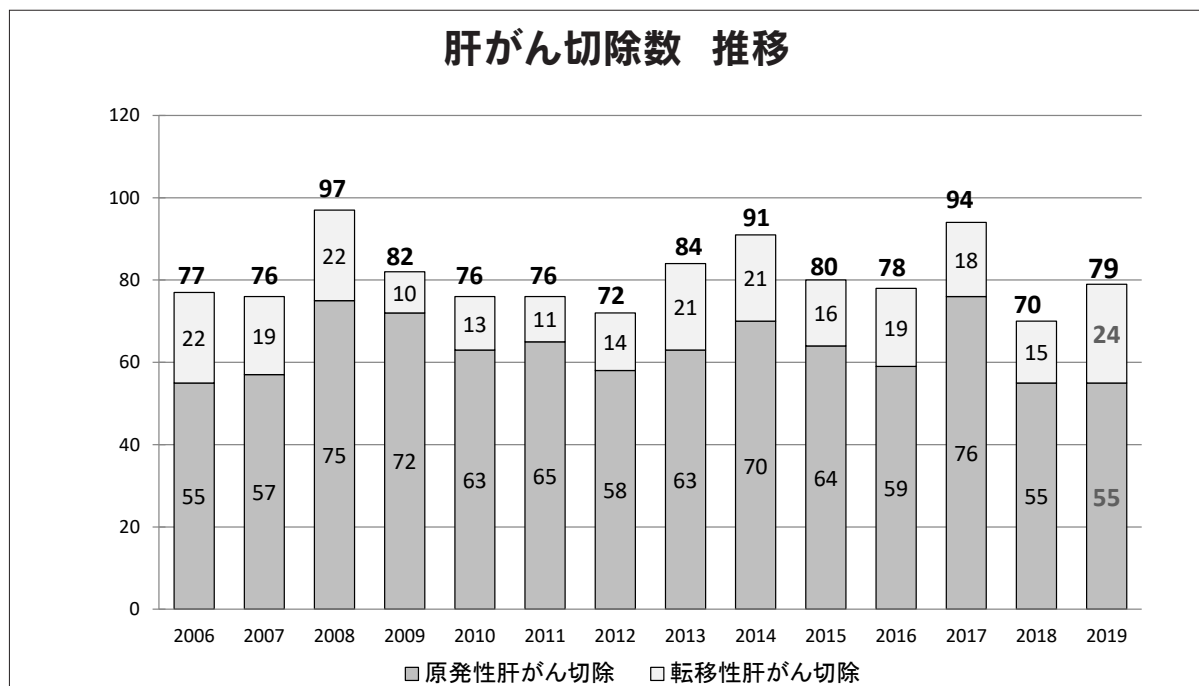
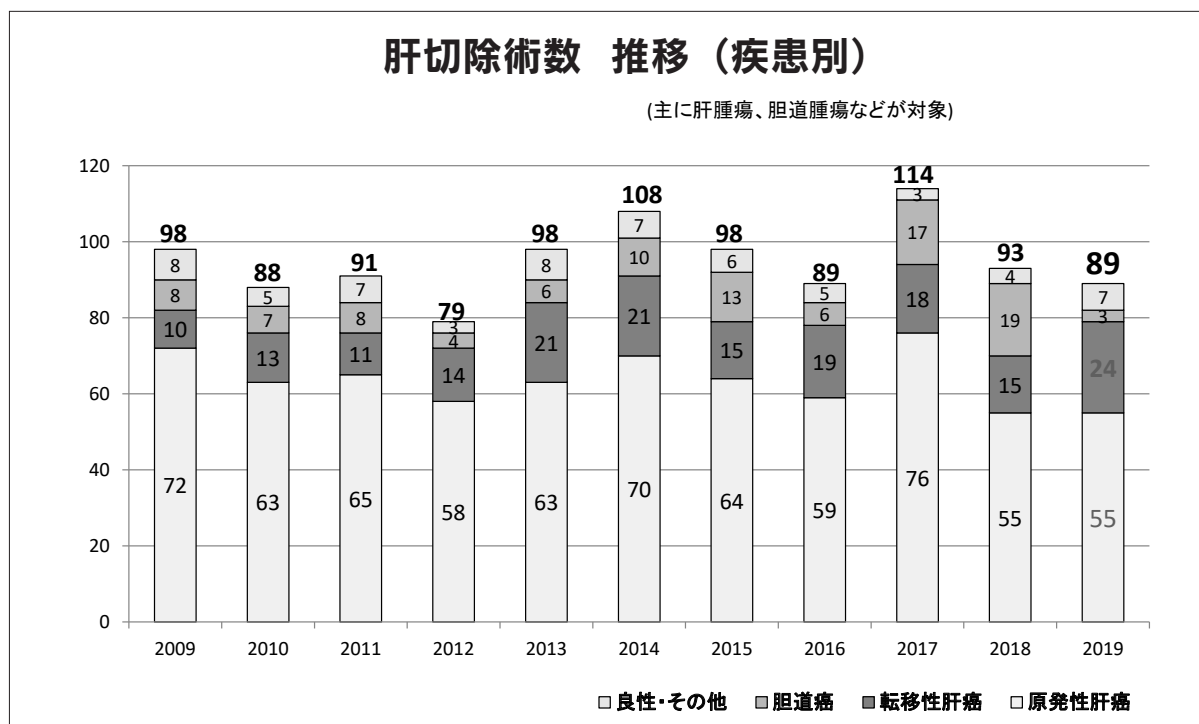
21. 肝胆膵外科

肝胆膵外科部長 皆川亮介

2019年の特筆すべき点は鏡視下手術の増加です。肝切除術件数は、肝嚢胞に対する天蓋切除術3例を除くと86例と例年並みでしたが、この中の30例が鏡視下手術でありました。当科での肝切除術における鏡視下手術の割合は、2014年以降20%前後で推移してきましたが、昨年は35%と大幅に上昇しました。

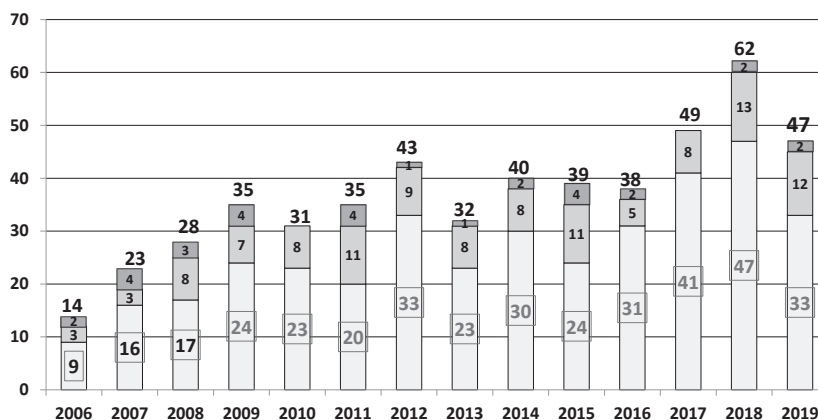
膵切除術件数は47例と2018年よりはやや減少しましたが、2017年とほぼ同数です。特に最近術前化学療法を行う症例が増えており、潜在的な切除症例数は昨年と遜色ありませんでした。膵切除でも5例に鏡視下手術が行われ、肝胆膵外科の領域でも鏡視下手術は着々と増えてきております。

症例数の蓄積とともに手術手技や術後管理の標準化も進み、手術時間の短縮、合併症の減少、在院日数の短縮といった効果が見られています。



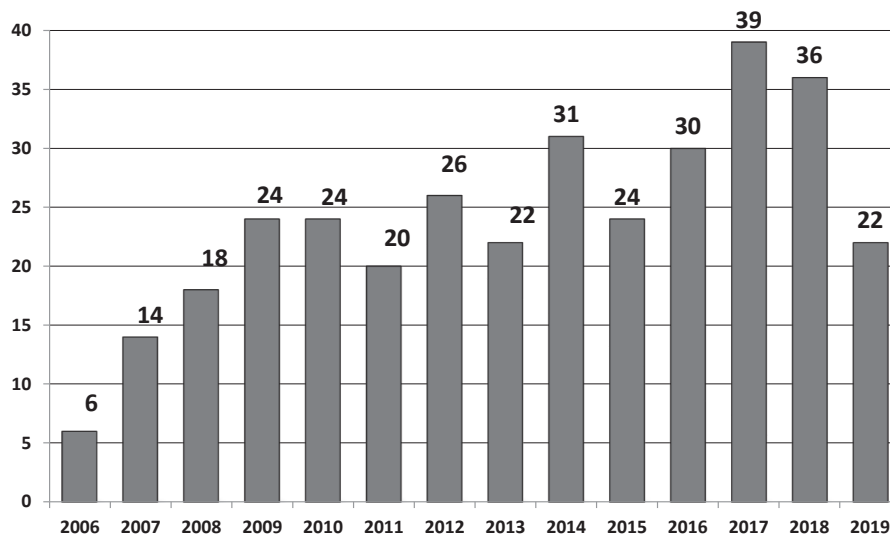
飯塚病院外科 膵切除症例数 推移 (術式別)

(膵腫瘍、胆道腫瘍などが対象)

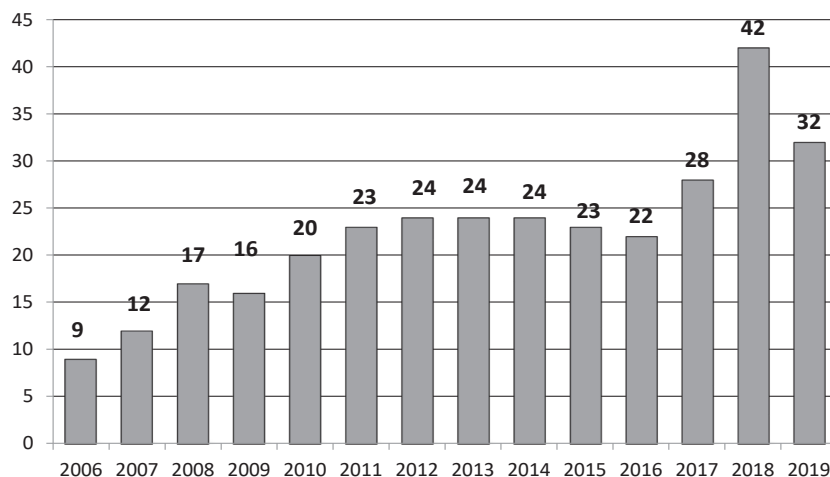


□ PDは11年連続、ハイボリュームセンター(20例以上/年) □ その他 □ 体尾部切除 □ PD
 □ 膵切は、年間50例前後

胆道腫瘍切除術数 推移



膵がん切除症例数 推移



* 膵がん: 通常型膵癌、IPMN等の悪性腫瘍
 * バイパス手術等の姑息的手術は除く

22. 小児外科

小児外科部長 中村晶俊

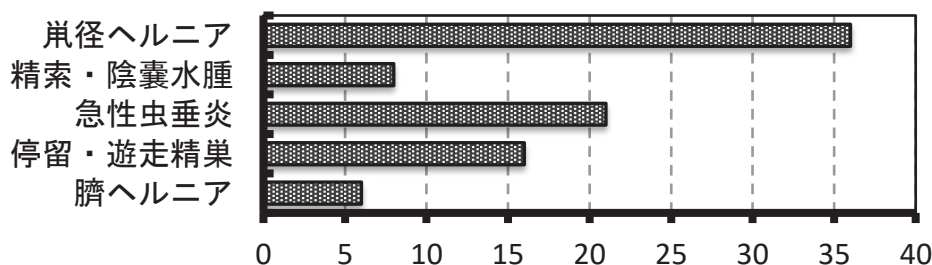
2019年は、新規紹介患者数は2018年より微減程度ですが、手術件数は2017、2018年に引き続き、右肩下がりの減少を認めています。日頃から御紹介いただいています諸先生の今一層の御高配を頂ければと考えます。診療内容は、単径ヘルニア類縁疾患において、2014年から日帰りでの腹腔鏡手術を1歳以上で行っています。手術当日一泊を希望される方以外は全例で安全に実施しており、患児とご家族には好評です。また、小児等在宅医療連携拠点病院に指定されている当院において、その対象となる重症心身障がい患児とその家族のQOL向上を目標に、外科的および栄養学的介入を行っています。

今後も「ちくほうのこどもたち」の健やかな成長をサポートする小児外科医療を提供できるように、微力ながら尽力する所存です。

1) 入院・手術症例の年齢・性別内訳

	男			女			計		
	入院	手術	(緊急)	入院	手術	(緊急)	入院	手術	(緊急)
新生児 (0-30 生日)	2	1	(1)	1	1	(0)	3	2	(1)
乳児 (1-11 生月)	16	14	(1)	2	2	(0)	18	16	(1)
幼児 (1-5 歳)	35	31	(1)	24	21	(0)	59	52	(1)
学童 (6-12 歳)	30	27	(6)	23	21	(5)	53	48	(11)
思春期 (13-15 歳)	9	6	(4)	4	2	(1)	13	8	(5)
成人 (16 歳-)	2	0	(0)	1	1	(0)	3	1	(0)
計	94	79	(13)	55	48	(6)	149	127	(19)

2) 短期滞在手術症例数



3) 主な手術

症例	疾患	手術
1 2 生日 女児	低位鎖肛(肛門後交連部瘻)	鎖肛根治術(Potts法)
2 3 生日 男児	腸回転異常症・中腸軸捻転	中腸軸捻転解除・腸回転異常根治(臍アプローチ)
3 3 生月 男児	Hirschsprung病(Short segment type)	腹腔鏡補助下経肛門の結腸pull-through術
4 1 歳 女児	胃食道逆流症、経口摂取困難、発達遅滞	腹腔鏡下噴門形成術(Nissen)・胃瘻造設術
5 2 歳 女児	経口摂取困難、発達遅滞	腹腔鏡下胃瘻造設術
6 5 歳 女児	Hirschsprung病類縁疾患(IND-B)	内肛門括約筋部分切除術
7 7 歳 女児	遺伝性球状赤血球症・脾腫	腹腔鏡下脾臓摘出術
8 10 歳 男児	胆嚢結石症	腹腔鏡下胆嚢摘出術
9 11 歳 男児	遺伝性球状赤血球症・脾腫	腹腔鏡下脾臓摘出術
10 12 歳 女児	経口摂取困難、脳性麻痺	腹腔鏡下胃瘻造設術
11 12 歳 男児	左精索静脈瘤	腹腔鏡下リンパ管温存左精索静脈結紮術
12 12 歳 男児	漏斗胸(左肋軟骨変形)	胸骨肋骨挙上術
13 16 歳 女児	漏斗胸(左肋軟骨変形)	胸腔鏡補助下胸骨挙上術(Nuss)

23. 整形外科

整形外科部長 原 俊彦

2020年度は人事に大きな変化があります。長年飯塚病院整形外科を牽引された新井堅先生が定年退職され、代わりに九州医療センターから藤村謙次郎先生が就職されます。専門分野はリウマチ一般と関節外科です。また小宮山敬祐先生はスタッフとして就職され専門分野は股関節外科と外傷です。新スタッフを迎え機動力を落とさずに整形外科を運営したいと存じます。飯塚病院は九州大学整形外科の基幹関連病院であり10名の整形外科医が勤務しています。ローテーター3名、それぞれに得意分野を持つスタッフ7名で筑豊地区の急性疾患、慢性疾患に対処しています。特に救急外傷に対しては可能な限り早期に対応しております。2019年は1,350件の手術（内375件の急患手術）を行いました。筑豊地区は周囲が峠に囲まれ交通外傷が大変多く、同時に複数の外傷を有する患者さんが運ばれてきます。これらに対して他科と連携を図り安全な医療を行っております。また筑豊地区は福岡県の中でも特に高齢化が進んでいる地域と言われ、大腿骨近位部骨折、橈骨遠位端骨折、椎体骨折などの外傷治療を数多く行っております。特に大腿骨近位部骨折の手術件数は、5年連続で200件を超えました。合併症を有する高齢者へのきめ細かな医療が行えるよう現在、総合診療科との連携の深化を図っております。これからもチーム医療を心がけて参ります。今後とも飯塚病院をよろしくお願いいたします。

【手術実績】

	当科分類	2019年	2018年	2017年	2016年
1	頸部骨折 - 骨接合	144	152	153	148
2	人工骨頭	64	51	49	53
3	人工膝関節置換術	53	42	50	70
4	人工股関節 / その他の人工関節	117	107	103	74
5	関節鏡視下手術	47	44	29	31
6	脊椎手術	3	11	9	10
7	手の外科（顎部以下の骨折含む）	523	513	483	497
8	骨折・脱臼	179	194	175	183
9	抜釘	105	105	71	75
10	関節形成術（骨切り他）	35	49	35	28
11	切断	11	24	3	8
12	骨・軟部腫瘍	17	6	5	9
13	外傷（その他）アキレス腱含む	17	21	15	19
14	関節外科（その他）	15	8	18	10
15	神経・骨軟部組織	2	5	1	3
16	その他	18	22	19	10
	合計	1,350	1,354	1,218	1,228
	内急患手術	375	323	360	370

24. 皮膚科

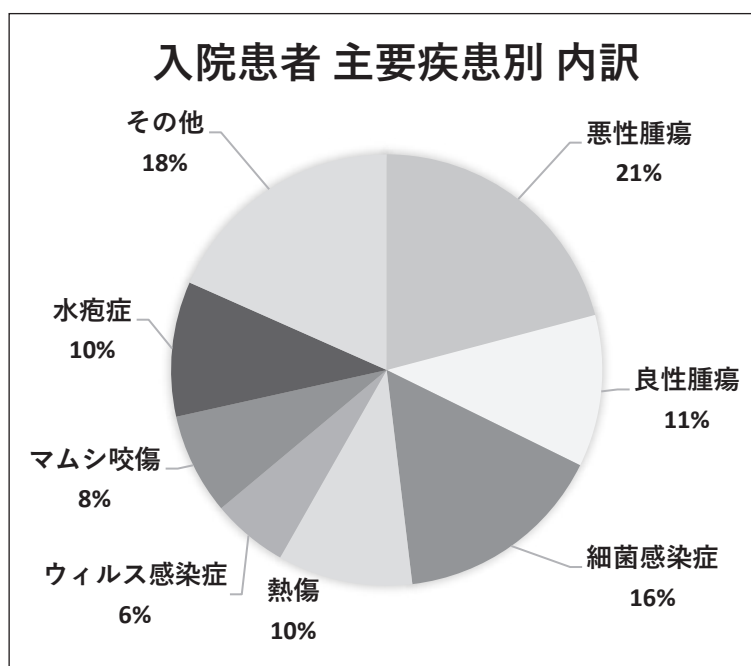
皮膚科部長 幸田 太

2019年は手術症例が増加傾向にあり、2018年と比べると皮膚生検で+120症例、外来手術は+240症例、手術室手術も+20症例と、近年にない手術数でした。

また2019年は水疱症の患者さんが増加した印象でした。原因は分かりませんがステロイド抵抗性の水疱症の患者さんが増えています。そういったケースには漫然と高用量のステロイドを継続するのは避け、早期にIVIGや血漿交換を導入するようにしています。

治療薬では生物学的製剤が乾癬のみではなくアトピー性皮膚炎やじんま疹にも発売されております。当院でも積極的に導入し、これまでコントロールの難しかった症例でも良好な治療成績を上げています。

2020年も勉強を怠ることなく、地域医療に貢献できるよう、診療の質の向上に努めてまいります。



外来手術件数

1月	71	7月	73
2月	62	8月	76
3月	93	9月	72
4月	85	10月	82
5月	82	11月	66
6月	84	12月	59

計 905 件

うち、バイオプシー件数

1月	45	7月	35
2月	33	8月	32
3月	57	9月	37
4月	49	10月	43
5月	50	11月	36
6月	58	12月	28

計 503 件

手術室手術件数

1月	12	7月	14
2月	13	8月	12
3月	11	9月	15
4月	11	10月	17
5月	11	11月	16
6月	8	12月	14

計 154 件

うち

外来日帰り OP	88
OP 室 OP	66

うち、悪性腫瘍手術

基底細胞癌	21
有棘細胞癌	32
ボーエン病	13
パジェット病	3
日光角化症	1
悪性黒色腫	1
ケラトアカントーマ	1

計 72 件

25. 泌尿器科

泌尿器科部長 中島雄一

2019年も常勤は4名のままで、スタッフ1名が変更となりました。非常勤は火曜1名(結石破碎)のみのままです。外来数は2018年までと同様のかなり多い状況を継続しました。

2019年に大きく変わったものは手術症例数で、手術枠に変更が無かったにも関わらず、約80例増加しております。要因としては、レーザー発生装置が変更となり結石手術がかなり増加したことであると思われます。また化学療法が免疫療法に変わり治療法が大幅に変更となってきたことで非常に多忙な状況でした。

今後は、ロボットの導入の有無によりさらなる変革が予想されます。多方面に対しての対応が必要な状況になってきており、2020年はこれまで以上に地域連携を図ることを目標にしていきます。

総手術件数 418 例

尿路腫瘍	(開放手術)	34 例	(内視鏡手術他)	384 例
副腎			腹腔鏡下副腎摘除術	1
上部尿路	根治的腎摘除術	2	腹腔鏡下腎摘除術	7
	腎摘除術	1	腹腔鏡下腎部分切除	3
	腎部分切除術	1	後腹膜鏡下腎摘除術	1
			後腹膜鏡下腎尿管全摘	8
	腎尿管全摘除術 尿管尿管吻合	3 2	腹腔鏡下腎盂形成	1
		尿管腫瘍 Laser 焼灼	2	
下部尿路	膀胱全摘+回腸導管造設術	1	TURBT (経尿道的膀胱腫瘍切除術)	118
	膀胱部分切除術 (尿管)	1	TU 凝固術 (血腫除去、止血)	7
	尿管皮膚瘻造設	1	TURP (経尿道的前立腺切除術)	3
	膀胱尿管新吻合	2	TUI(経尿道的直視下切開術・尿道拡張)	2
		間質性膀胱炎手術	1	
		HoLEP	6	
泌尿生殖器	高位精巣摘除術	5		
	陰茎悪性腫瘍手術 (部分切除)	1		
尿路結石			PNL (経皮的腎結石除去術)	2
			TUL (経尿道的尿管結石碎石術)	120
			膀胱碎石術	11
その他	精索捻転手術 (固定)	3	尿管鏡検査	10
	停留精巣手術	3	尿管拡張術	2
	真性包茎手術 (背面切開)	2	腎瘻造設 (緊急)	7
	真性包茎手術 (環状切除)	6	尿管ステント留置	63
	フルニエ切除	1	前立腺生検	1
	陰囊外傷修復	1	Epi Tube 挿入	2

ESWL (体外衝撃波結石破碎術) : 施行件数	125 件	入院患者中パス適応者	389 件
前立腺生検	138 例	前立腺生検	138
		TURBT	120
		TUL	116
		GC 療法	15

26. 産婦人科

産婦人科部長 辻岡 寛

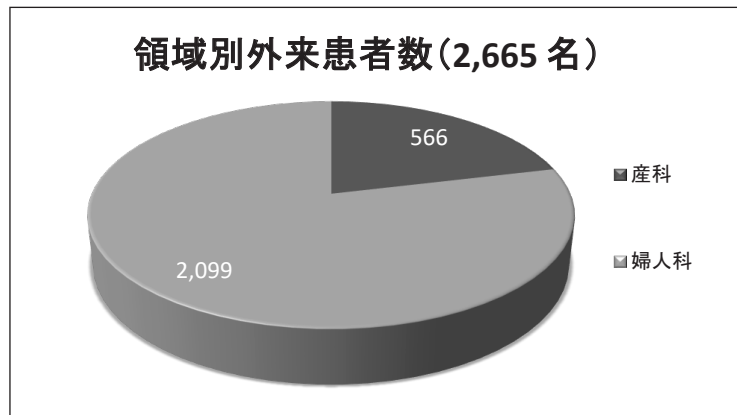
本邦の2019年の出生数は86万人と初めて90万人を割り込みました。当初の予想よりも遙かに速いペースで少子化が進んでいる深刻な状況です。筑豊地域においても分娩数は減少し続けており、地域の基幹施設としての役割を担う当院でも産科症例は確実に減少傾向にあります。その一方で高齢妊娠や合併症のある周産期管理など、ハイリスク症例の割合は増加しています。周産期センターとしての当院の役割はこれらのハイリスク症例に対して24時間体制での受け入れ体制を維持することであり、2019年も母体搬送の100%受け入れを達成いたしました。

婦人科症例数は堅調で、多くの症例をご紹介いただいております。特に婦人科悪性腫瘍は卵巣がんを中心に新規の薬物療法が次々と開発されており、当院でも遅滞なくこれらの治療に対応しております。また腹腔鏡手術を含め、多くの手術を2019年も施行することができました。

2018年度より新専門医制度による研修が始まり、2018・2019年度とも2名の新規専攻医を受け入れることができました。また専門医制度の連携施設間での研修交流も始まっており、2019年は沖縄中部病院および鹿児島市立病院からの専攻医受け入れも行いました。また当院の専攻医もこれらの施設での研修に派遣しています。他施設との交流は多くの刺激をお互いに受けることができ、当科もさらに活性化できているものと思います。

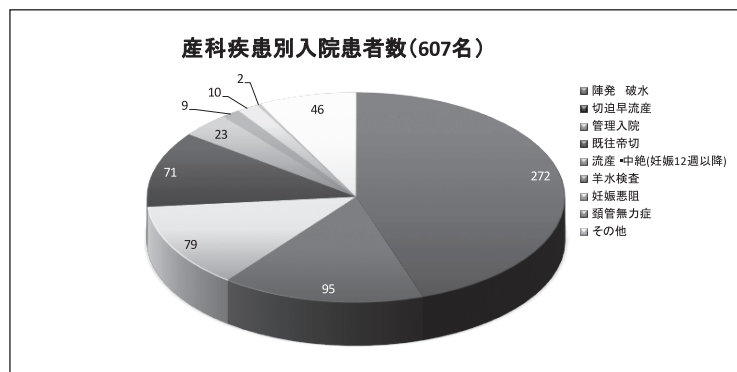
産婦人科外来初診統計

疾患	数
産科	566
婦人科	2,099
計	2,665



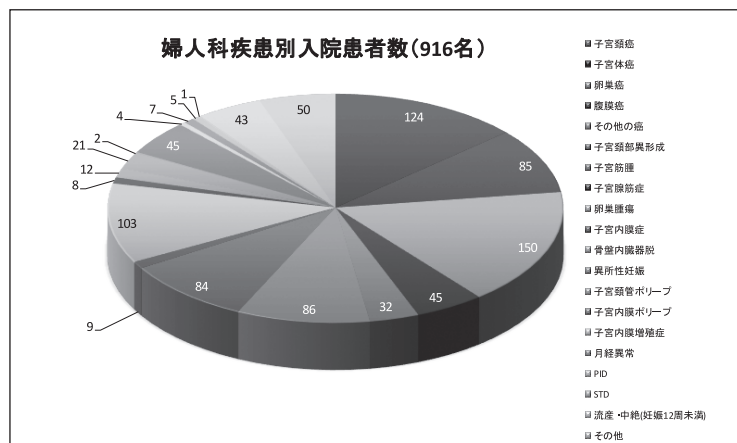
産科入院統計

疾患	数
陣発 破水	272
切迫早流産	95
管理入院	79
既往帝切	71
流産・中絶(妊娠12週以降)	23
羊水検査	9
妊娠悪阻	10
頸管無力症	2
その他	46
計	607



婦人科入院統計

疾患	数
子宮頸癌	124
子宮体癌	85
卵巣癌	150
腹膜癌	45
その他の癌	32
子宮頸部異形成	86
子宮筋腫	84
子宮腺筋症	9
卵巣腫瘍	103
子宮内膜症	8
骨盤内臓器脱	12
異所性妊娠	21
子宮頸管ポリープ	2
子宮内膜ポリープ	45
子宮内膜増殖症	4
月経異常	7
PID	5
STD	1
流産・中絶(妊娠12周未満)	43
その他	50
計	916



産科統計

疾患	数
総分娩数	470
経膣分娩	279
帝王切開	191(40.6%)
多胎妊娠	23
中期分娩	19
早産症例	96(20.4%)
NICU 入院	160(34.0%)
母体搬送受け入れ	111
母体搬送依頼	3

婦人科悪性腫瘍統計

疾患	数
子宮頸癌	27
子宮頸部上皮内癌	2
子宮頸部上皮内腺癌	1
子宮体癌	28
子宮肉腫	2
子宮癌肉腫	4
卵巣癌	14
卵巣境界悪性腫瘍	7
腹膜癌	2
卵管癌	3
高度腔上皮内腫瘍	1
子宮平滑筋腫瘍	2
胞状奇胎	4
転移性子宮内膜癌	1
計	98

産婦人科手術統計

疾患	数
子宮頸癌（広汎子宮全摘術）	13
子宮体癌根治術（開腹）	14
子宮体癌根治術（腹腔鏡）	9
卵巣癌根治術	13
試験開腹	1
子宮全摘術（開腹）	72 (68%)
子宮全摘術（腹腔鏡）	24 (22%)
子宮全摘術（腔式）	3 (3%)
子宮全摘術（腹腔鏡補助下腔式）	7 (7%)
子宮筋腫核出術（開腹）	5 (50%)
子宮筋腫核出術（腹腔鏡）	5 (50%)
卵巣腫瘍（開腹）	28 (25%)
卵巣腫瘍（腹腔鏡）	82 (75%)
異所性妊娠（開腹）	0
異所性妊娠（腹腔鏡）	12 (100%)
帝王切開術	191
子宮鏡下手術（筋腫）	10
子宮鏡下手術（ポリープ）	42
子宮鏡下手術（内膜焼灼）	0
子宮鏡検査	29
LASER 蒸散術	18
子宮頸部円錐切除術	71
子宮内容除去術	55
子宮頸管縫縮術	4
その他	18
計	726 (月平均 60.5)

27. 眼科

眼科部長 吉山慶三

2019年は2018年に引き続き手術件数が増加しました。硝子体手術が50件、緑内障手術が47件増加し、総手術件数は819件と大幅に増加しました。手術件数の増加に伴い手術までの待機日数も伸びており、約5ヶ月待ちが常態化しております。白内障手術、硝子体手術ともに手術用機械を更新したことにより平均手術時間が短縮しました。また緑内障手術におきましても小切開緑内障手術（MIGS）の導入により手術時間の大幅な短縮が可能になりました。少しでも待機日数を短縮できるよう、一日あたりの手術件数を増やす方向で努力していきたいと考えております。

このように多くの症例を治療させていただけるのも、ひとえに当科を信頼してくださりご紹介いただいた先生方のご協力の賜であると感謝の念を申し上げますとともに、引き続き今後ともよろしく願い申し上げます。

入院患者疾患別内訳（2019年）

病名	総計	急患	性別		年齢 (平均)	在科日数 (平均)
			男	女		
白内障	365	0	155	210	73.4	2.8
網脈絡膜疾患	141	8	67	74	66.1	9.1
緑内障疾患	95	0	51	44	74.7	9.1
硝子体疾患	34	0	20	14	70.9	8.2
眼内レンズトラブル	13	0	9	4	74.4	6.5
眼瞼内反症と睫毛乱生症	8	0	3	5	15.0	2.8
外傷性疾患	6	5	3	3	60.2	5.0
翼状片	5	0	4	1	61.0	2.0
角膜疾患	3	3	0	3	82.0	20.7
水晶体疾患	3	0	0	3	81.0	5.0
虹彩及び毛様体のその他の癒着・破壊	1	0	0	1	51.0	2.0
その他	2	1	2	0	67.0	3.0
総計	676	17	314	362	71.1	5.4

手術室での総手術件数 [819件]

手術（内訳）	件数
水晶体再建術	488
硝子体手術	182
緑内障手術	99
IOL 入れ替え	16
その他	34

（重複を含む）

28. 耳鼻咽喉科

耳鼻咽喉科部長 麻生丈一郎

2019年の耳鼻咽喉科は大きな変化がありました。まず、2月に温 光太郎医師に代わり、佐藤公宣医師が赴任され、さらに4月からは川口壽比古医師が赴任されました。これにより従来の常勤2名体制から3名体制となり、近年の課題であったマンパワー不足が改善され、より安定した診療が可能となりました。

手術症例に目を向けると、前年から30件ほど増加しました。中でも、小児の手術症例が前年の約2倍、悪性腫瘍の手術症例が前年の約1.5倍に増加したことが特徴的でした。また、それ以外の疾患を見ると、突発性難聴での治療数も年々増加しています。

2020年も地域医療に貢献できるよう、診療の質の向上に努めてまいります。

入院患者疾患別内訳（2019年）

病名	総数	急患	手術件数	性別	
				男	女
悪性腫瘍	75	4	48	51	24
咽頭悪性腫瘍	36	3	15	32	4
悪性リンパ腫	13	0	13	3	10
甲状腺悪性腫瘍	9	0	9	5	4
転移性リンパ節	7	0	6	4	3
耳下腺	6	0	3	5	1
その他	3	1	1	1	2
口腔・舌悪性腫瘍	1	0	1	1	0
咽頭・扁桃・喉頭疾患	161	72	87	96	65
慢性扁桃炎	41	2	39	24	17
急性咽喉頭炎	39	36	0	22	17
扁桃周囲膿瘍	34	34	1	24	10
扁桃肥大	24	0	24	13	11
アデノイド肥大を伴う扁桃肥大	12	0	12	6	6
声帯ポリープ	8	0	8	4	4
その他	2	0	2	2	0
声帯	1	0	1	1	0
外耳・中耳・内耳疾患	28	0	26	13	15
中耳炎	14	0	13	4	10
中耳真珠腫	13	0	13	9	4
その他	1	0	0	0	1
神経麻痺	4	1	1	2	2
顔面神経麻痺	4	1	1	2	2
鼻・副鼻腔疾患	60	0	59	43	17
鼻中隔彎曲症	42	0	42	31	11
慢性副鼻腔炎	14	0	13	10	4
その他	3	0	3	1	2
急性副鼻腔炎	1	0	1	1	0
良悪不詳の腫瘍	3	0	3	0	3
良悪不詳の腫瘍	3	0	3	0	3
良性腫瘍	37	1	37	17	20
その他	13	1	13	4	9
耳下腺良性腫瘍	10	0	10	6	4
口腔・咽頭・喉頭良性腫瘍	7	0	7	4	3
甲状腺・副甲状腺良性腫瘍	5	0	5	1	4
鼻腔・副鼻腔良性腫瘍	2	0	2	2	0
その他	112	60	22	56	56
突発性難聴	77	47	0	34	43
その他	24	8	16	15	9
鼻出血	4	4	0	3	1
I g A腎症	3	0	3	2	1
唾液腺	2	1	1	1	1
唾石症	2	0	2	1	1
総計	480	138	283	278	202

29. 脳神経外科

脳神経外科部長 名取良弘

脳神経外科が、直接血管造影を行うことになって、3年目に入り、年間の血管造影も98件と増加してきました。これらは、脳塞栓に対する急性血栓回収術が年間20例ほど安定して行っていることや、脳動脈瘤治療の脳血管内外科治療も同様に定着した結果と思われます。

人事では、3月15日に森 恩先生が九州大学に転出（4月1日からは厚生労働省へ出向）され、当院の初期研修医プログラムの藤井裕太郎先生が、2年次の選択で脳神経外科研修していたのに引き続き、4月から九州大学脳神経外科プログラムの専攻医として診療を継続されています。

今後共、24時間365日受け入れる体制を継続し、質の高い脳神経外科医療を行っていきます。

総退院患者数 640名、急患者数 407名

1. 日本脳神経外科学会 研修施設
2. 脳神経外科の病床数：30～60床
3. 年間入院症例数：646名
4. 専従脳神経外科医数：専門医4名 専修医2名
5. 年間手術総数：286件

脳神経外科症例数

脳腫瘍	a. 脳腫瘍摘出術	21
	b. 脳腫瘍生検術	5
	c. 経蝶形骨洞手術	0
脳血管障害	a. 破裂動脈瘤	20
	b. 未破裂動脈瘤	3
	c. 脳動静脈瘤奇形	1
	d. 血管吻合術	3
	e. CEA	3
	f. 高血圧性脳出血 開頭血腫除去術	16
	定位（穿頭・内視鏡）手術 穿頭ドレナージ術 その他	2 6 1
外傷	a. 急性硬膜外血腫	2
	b. 急性硬膜下血腫	13
	c. 減圧開頭術	6
	d. 慢性硬膜下血腫	101
	e. その他	1
水頭症	a. 脳室シャント術	8
	b. 内視鏡手術	1
	c. その他	4
奇形	a. 頭蓋・脳	0
機能的手術	a. 脳神経血管減圧術	0
血管内手術	a. 動脈瘤塞栓術（破裂動脈瘤）	18
	（未破裂動脈瘤）	2
	b. 動脈奇形（脳）	2
	（脊髄）	
	c. 閉塞性脳血管障害の総数	26
（上記の内ステント使用例）	6	
d. その他	1	
その他		20

30. 歯科口腔外科

歯科口腔外科部長 中松耕治

2019年は大きな2つの動きがあり、①単独型歯科研修医を採用したことと、②7月に外来移転があったことである。これまで九大との協力型研修施設として半年交替の研修歯科医が在籍していたが、通年で研修を行うことで研修医はさまざまな症例を経験し、麻酔科や形成外科など医科での多彩な研修を行うことが可能となった。2020年度は初の後期研修歯科医師が着任することが決まっており、若い歯科医師達を教育しながら充実した口腔外科診療を発展させていきたい。

外来は南病棟2階に移転し、治療台は6台のままだが全体にゆとりのあるスペースが得られ、車椅子やストレッチャー、ベッドでの移動が無理なく行えるようになった。

1) 2019年 診療実績

手術症例	件数
抜歯（正中埋伏過剰歯、埋伏智歯等）	88
嚢胞（含歯性嚢胞、歯根嚢胞等）	23
外傷	11
良性腫瘍	9
悪性腫瘍	10
炎症（顎骨周囲炎、下顎骨骨髓炎等）	2
骨整形・サイナスリフト	7
インプラント埋入	7
全麻 / 静脈鎮静下歯科治療	8
唾液腺	1
顎関節疾患	0
その他	9
計	175

31. 心臓血管外科

心臓血管外科部長 内田孝之

2019年は念願の経カテーテル大動脈弁留置術（TAVI）が開始となりました。関係する各部署の皆さんの多大なるご協力の甲斐もあって3月に開始することができ、年末までに19例の症例を施行、いずれの患者さんも無事退院されました。これからも一例一例、適応や手術方法などを丁寧に検討しつつ治療を進めていきたいと思っております。これによって超高齢者など開胸手術困難な大動脈弁狭窄症患者さんへの筑豊での治療の道が開けたこととなります。

また低侵襲心臓手術術式としては、右側胸部の小さな創から手術を行うMICS(低侵襲小切開)僧帽弁手術も徐々にですが症例を増やしています。ダビンチを使用したいわゆるロボット手術もこの延長にあります。今後は大動脈弁置換術への応用、傷の痛みをより軽減する完全内視鏡手術への移行、とさらなる進化を目指して技術研鑽を重ねていきたいと考えています。

2019年は人工心肺を使用した心臓大血管手術が2018年に続いて100例を超え、末梢血管、不整脈デバイス含めた手術総数も500例以上と多くの患者さんをご紹介いただけています。もちろん治療の質こそが常に最重要であり、今後も一層の低侵襲化、救命率向上を目指して技術向上を図っていききたいと思っております。

1) 2019年診療実績

手術症例数

- CABG : 19
- VHD : 65 (CABG 併施 : 10、Maze : 11、MICS : 3、TAVI : 19)
- その他の開心術 : 7
- TAA : 69 (うち TEVAR : 29、VHD 併施 : 2、CABG 併施 : 1)
心臓+胸部大動脈手術 : 160
- AAA : 56 (うち EVAR : 41)、末梢血管内治療 : 13
- 末梢動脈瘤 : 5
- 血栓除去 : 15
- ASO (閉塞性動脈硬化症) 外科治療 : 14、EVT : 34、ハイブリッド : 6
- 静脈瘤治療 : 55 (レーザー : 54、硬化療法 : 1)
- ペースメーカー 新規 : 106、交換 : 38
- ICD 新規 : 6 (s-ICD 3 例含む) 交換 : 8
- CRTD : 1、CRTP : 8
- その他 : 7

総手術数 596 例

32. 脳神経内科

脳神経内科部長 高瀬敬一郎

飯塚病院神経内科は2019年4月より「脳神経内科」に名称変更を行いました。これは日本神経学会の意向によるものですが、「神経内科」では科の特性が若干分かりにくいという社会的要望に応えたものです。当科は例年脳神経救急疾患が診療の主軸であり、この1年もその傾向は同様です。脳神経内科では入院患者の8割が急患入院です。なかでも最も多いのが脳梗塞で、年間500人前後が脳梗塞で入院されます。2019年は2018年に比べ約20人減少していますが、ほぼ横ばいと言えます。超急性期血栓溶解療法（t-PA療法）も積極的に行っています。2019年には計31人に行い、患者数は2018年並でした。また脳神経外科の協力の下、血管内カテーテル治療（超急性期血栓回収療法）も計20人に行っています。また脳梗塞、てんかん重積状態、髄膜炎・脳炎などの救急神経疾患以外にも、筋萎縮性側索硬化症、脊髄小脳変性症、パーキンソン病などの神経変性疾患や、多発性硬化症、重症筋無力症などの神経免疫疾患なども、筑豊地域唯一の神経難病専門病院として引き続き数多く診療しております。認知症は外来で「物忘れ外来」として診断を中心とした診療をしています。てんかん専門外来や片側顔面けいれん等へのボトックス治療も行っております。

1) 2019年 入院患者内訳

総退院患者数	839件
急患数	664件
死亡数	46件
剖検数	0件

疾患名	件数
脳血管障害	514
脳梗塞	474
脳出血	4
TIA	36
意識障害	1
脳症	0
感染症・炎症	7
髄膜炎	4
脳炎	3
クロイツフェルト・ヤコブ病	0
神経梅毒	0
変性疾患	71
パーキンソン病	23
パーキンソン症候群	23
脊髄小脳変性症	4
筋萎縮性側索硬化症	17
その他の変性疾患	6

疾患名	件数
多発性硬化症／急性散在性脳脊髄	7
重症筋無力症	15
筋疾患	12
脊髄疾患	2
脊髄炎	1
頸椎症・腰椎症	1
脊髄血管障害	0
痙性脊髄麻痺	0
その他の脊髄症	0
末梢神経障害	38
てんかん／けいれん	102
認知症／健忘症	6
中毒	1
代謝性疾患	0
腫瘍性疾患	1
心因性疾患	4
その他	56

33. 漢方診療科

漢方診療科部長 田原英一

2019年の漢方診療科は、関連施設のももち東洋クリニックの閉院と六本松漢方内科の開院、加えてこれまで非常勤で勤務していただいていた仲間の独立開業などがあり、人事の面で大きな変動がありました。外来スタッフの交代や、非常勤医師の長期病欠などでご迷惑をおかけしたかもしれません。

大分大学、宮崎大学、産業医科大学、熊本大学からの学生実習がほぼ途切れることなく、また筑豊地域医療サポーター養成講座や小学生を対象としたキッズツアーなどで、一般の方にもアピールする年となりました。

大学の社会人制度を用いて博士号を取得した医師スタッフがいたほか東京、北海道、中国からの研修なども受け入れ、全体に教育に力を入れた1年であったと思います。引き続き、慢性難治性疾患の治療に力を注ぐとともに、誤嚥性肺炎に関する新たな経験を深めました。

2019年診療実績

1) 入院患者疾患別内訳

病名	総数	急患	性別		年齢 (中央値)	在科日数 (中央値)
			男	女		
その他	3	2	1	2	57	12
倦怠感	1	0	0	1	41	12
足関節, 外果骨折(閉鎖性)	1	1	1	0	77	20
眩暈症NOS(めまい及びよろめき感)	1	1	0	1	57	10
感染症	1	1	0	1	40	9
その他の明示された急性ウイルス肝炎	1	1	0	1	40	9
筋骨格・結合組織疾患	4	1	0	4	55.5	25.5
混合性結合組織病(MCTD)	2	0	0	2	58	35.5
線維筋痛症, 多部位	1	0	0	1	54	29
複合性局所疼痛症候群(多部位)	1	1	0	1	51	22
呼吸器疾患	4	4	4	0	79	26
肺炎, 病原体不明, 詳細不明	2	2	2	0	80	26.5
誤嚥性肺炎	1	1	1	0	79	37
肺炎球菌肺炎, 肺炎レンサ球菌による	1	1	1	0	67	14
循環器疾患	12	3	6	6	14	15
起立性調節障害	12	3	6	6	14	15
消化器疾患	4	3	1	3	64.5	12.5
非感染性胃腸炎および非感染性大腸炎, 詳細不明	2	2	0	2	72.5	7.5
胃腸手術後の嘔吐	1	0	1	0	69	15
過敏性腸症候群(下痢を伴う)	1	1	0	1	14	19
神経系	3	1	1	2	25	28
ジストニー, 詳細不明	1	1	0	1	40	28
睡眠障害・詳細不明	1	0	1	0	18	38
片頭痛, 詳細不明	1	0	0	1	25	8
腎尿路系疾患	1	1	0	1	84	28
尿路感染症, 部位不明	1	1	0	1	84	28
精神疾患	5	1	1	4	47	29
疲労症候群	2	0	1	1	30.5	16.5
うつ病エピソード, 詳細不明	1	0	0	1	79	46
恐慌性パニック障害・発作性不安神経症	1	1	0	1	62	29
転換性障害, 詳細不明	1	0	0	1	17	39
内耳疾患	1	1	0	1	75	9
前庭機能障害, 詳細不明	1	1	0	1	75	9
内分泌・栄養・代謝疾患	7	3	2	5	46	19
肥満症, 詳細不明	3	1	0	3	46	20
アルコール性ケトアシドーシス	1	1	1	0	69	13
低カリウム血症	1	1	1	0	69	19
副腎皮質不全	1	0	0	1	36	26
慢性甲状腺炎/橋本病	1	0	0	1	49	3
皮膚疾患	5	2	2	3	48	17
アトピー性皮膚炎, 詳細不明	2	0	1	1	37.5	17
アレルギー性接触皮膚炎(その他の因子)	1	1	0	1	68	17
皮膚そう痒症・詳細不明	1	0	0	1	48	59
慢性湿疹	1	1	1	0	79	17
総計	50	23	18	32	46	17.5

34. 救急科

救急科部長 山田哲久

当院は、人口40万人の筑豊地域唯一の三次救急施設です。筑豊地域最後の砦としての役割を担うために、救急科医師（スタッフ・後期研修医・専攻医）が365日24時間救急患者に対応しています。従って、一次二次症例は受け入れをお断りしています。

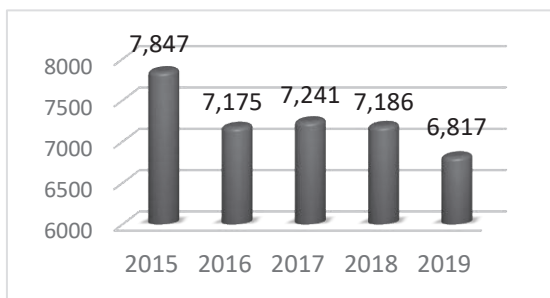
救急科医師は搬送患者の状態を迅速に安定化させ、各専門科医師に引き継ぐ役割を担っております。当科の特色の一つに、病院車運用方式でラピッドレスポンスカーによるドクターカーの運用があります。現場から傷病者に対する診断、処置を開始します。本事業は筑豊地域の救命体制の中心的役割を果たしていると考えられます。

教育面では、当院は臨床研修指定病院であり、初期研修医および院外からの後期研修医・専攻医は救急科をローテーションすることを必須としています。救命救急センターでは、救急科医師（スタッフ・後期研修医・専攻医）のバックアップのもと、研修医が初期診療を行います。症例数は豊富であり、研修医にとって修練の場として優れた環境となっています。

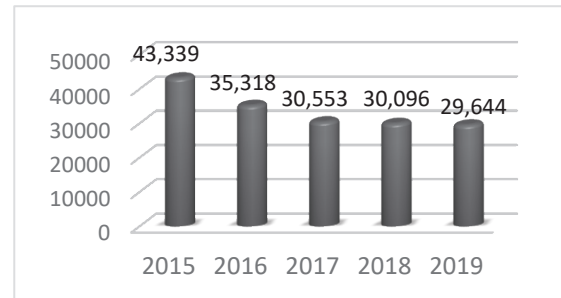
以上、今後も筑豊地域の救急医療に貢献させていただくことが出来ましたら幸いです。

1) 救命救急センター統計

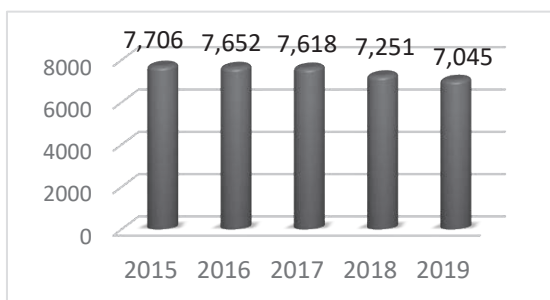
①救急車受入件数推移



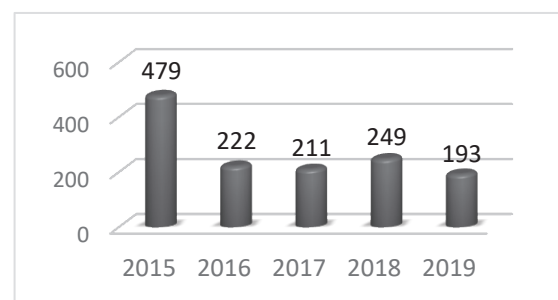
②センター受診患者数推移



③センター経由入院患者数推移（全診療科）



④ドクターカー出動件数



2) 主な症例別件数

・外傷	599例	・脳卒中	611例
AIS ≥3	404例	脳梗塞	349例
ISS ≥16	167例	くも膜下出血	63例
		脳出血	199例
・CPA	237例	・急性冠症候群	237例
救外死亡	187例	心筋梗塞	179例
入院	48例	狭心症	58例
転医	1例	・急性大動脈解離	52例
帰宅	1例	・敗血症	137例
(入院後転帰)			
死亡	31例		
帰宅	7例		
転医	7例		
入院中	3例		

35. 集中治療科

集中治療科部長 吉野俊平

12床で構成される集中治療室（以下、ICU）は、集中治療を専門とするスタッフにより院内急変や救急搬送された重症患者に対する集中治療管理、および外科系患者の周術期管理などを行っています。現在、集中治療専門医2名と集中ケア認定看護師2名を含む多職種が、主科と密に連携を取りながらセミクローズドICUとして運営しています。

2019年の入院患者数は580名、疾患別順位は心・血管疾患、敗血症、呼吸器疾患、消化器疾患で、同年の生命維持装置の装着患者は人工呼吸器376名、血液浄化療法153名、経皮的心補助装置28名でした。人事関連では後期研修医3名、初期研修医2名がローテイトしてくれました。また、スタッフ1名が集中治療専門医に合格しました。今後とも診療の質や安全性の更なる向上を目指して努力して参ります

2019年 ICU入室患者

全入室患者数	580名
平均年齢	71.1 (3～95) 歳

性 別	
男性	361名
女性	219名

入院経路	
緊急	367名
予定	213名

平均在室日数	5.0日
ICU内死亡	6.40%

疾患別	
心・血管疾患	280 (48.3%)
Sepsis	59 (10.2%)
呼吸器疾患	53 (9.1%)
消化器疾患	51 (8.8%)
外傷	15 (2.6%)
腎疾患	21 (3.6%)
代謝疾患	14 (2.4%)
脳神経疾患	10 (1.7%)
肝疾患	1 (0.2%)
その他	76 (13.1%)

36. 形成外科

形成外科部長 橋口晋一郎

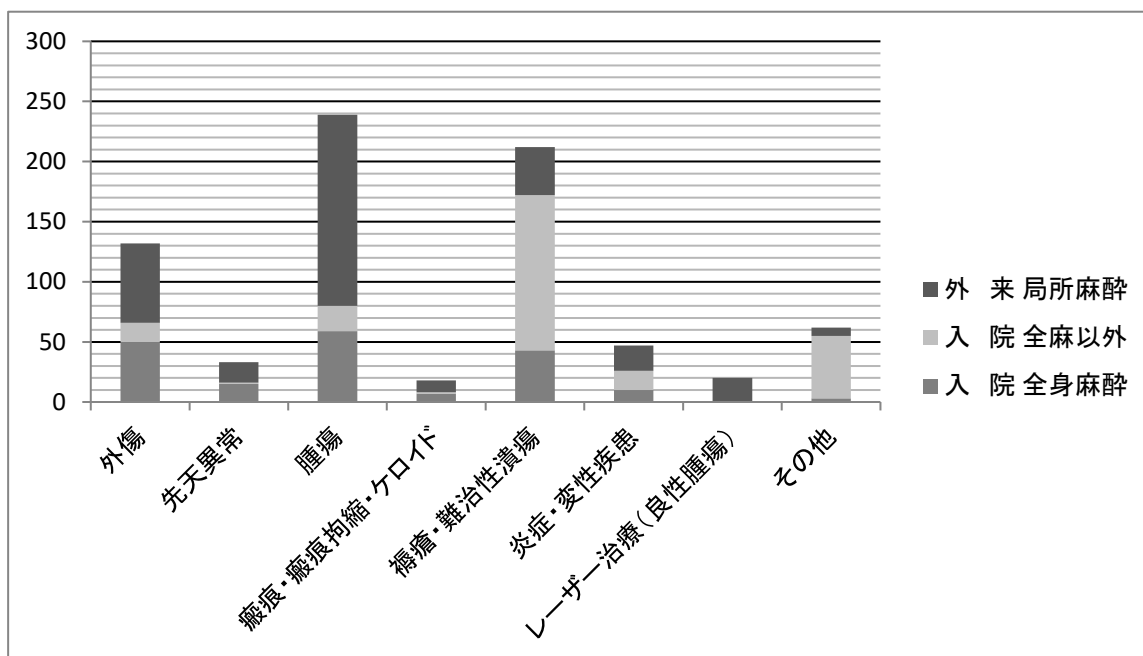
現在、飯塚病院形成外科は橋口晋一郎、小山麻衣の常勤2名と、非常勤として前川絵美、清川兼輔教授（久留米大学形成外科・顎顔面外科学講座）の、常勤2名・非常勤2名体制で診療を行っております。

顔面骨骨折や皮膚腫瘍、難治性潰瘍などを主体に診療を行っておりますが、近年では眼瞼下垂症や先天異常などにも力をいれております。他科との合同手術も多く行っており、特に心臓血管外科（虚血肢の治療）、耳鼻咽喉科（頭頸部再建）、乳腺外科（乳房再建）とのチーム医療を積極的に行っております。

今後も筑豊地域の基幹病院に所属する一員として、より一層充実した医療を地域の皆様にご提供できればと考えておりますのでよろしくお願い致します。

1) 手術件数内訳

区 分	入院		外来		計
	全身麻酔	全麻以外	全身麻酔	局所麻酔	
外傷	50	16	0	66	132
先天異常	15	1	0	17	33
腫瘍	59	21	0	159	239
瘢痕・瘢痕拘縮・ケロイド	7	1	0	10	18
褥瘡・難治性潰瘍	43	129	0	40	212
炎症・変性疾患	10	16	0	21	47
レーザー治療（良性腫瘍）	0	0	0	20	20
その他	3	52	0	7	62
合計	187	236	0	340	763



37. リハビリテーション科

リハビリテーション科部長 山下智弘

脳卒中後遺症である上下肢痙縮に対するエコーガイド下ボトックス療法は適切な筋へのアプローチにより治療効果が向上し、患者さん、ご家族、介助者の満足度も向上しています。

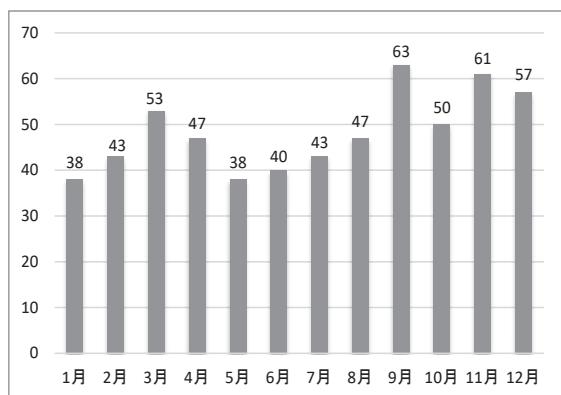
2020年4月より、歩行解析器を導入し治療効果（歩行の改善度）を提示することが出来ますので治療に対する更なるモチベーションの向上に寄与できると思います。

昨今、健康寿命を阻害するサルコペニア・フレイルが話題となり、あらゆる疾患の治療、治療後の身体機能に影響することが判明しています。現在肝臓癌患者に対し、肝臓内科、外科、栄養部とともに運動、栄養両面よりアプローチすることで周術期合併症予防、退院後のスムーズな社会復帰を目指し介入しています。

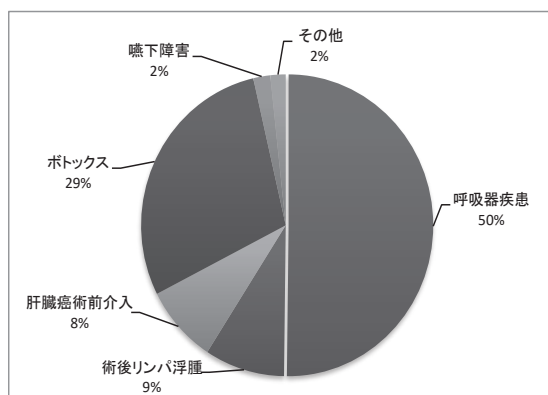
呼吸器外科の患者さんに対する呼吸リハビリテーションの介入は良好な結果が得られています。

新たに、肺癌術後の患者さんに対して、抗癌剤治療中の運動療法の介入を呼吸器外科協力の下、積極的に行っています。これら介入は今後も継続的に行っていきます。

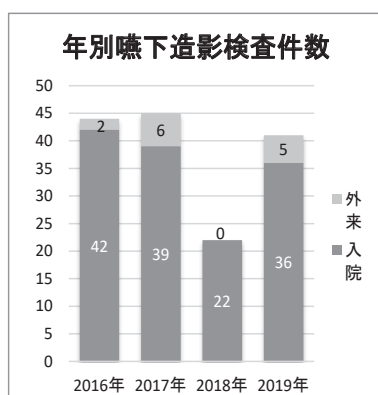
1) 月別延べ患者数



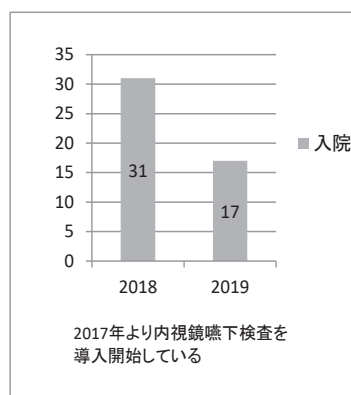
2) 年間外来患者疾患別内訳



3) VF 実施件数（リハ医担当分のみ）



4) VE 実施件数



38. 麻酔科

麻酔科部長 尾崎実展

2019年は麻酔科専門医6名と麻酔科専修医3名の常勤スタッフ9名でのスタートでしたが、4月より専門医1名が常勤となり、日勤のマンパワーが増加しました。5月より専修医1名が福岡市立子ども病院麻酔科での研修に出向しましたが、その後9月末に当院退職となり、残念ながら麻酔科研修プログラムを中断することとなりました。10月よりさらに専修医1名が自治医大さいたま医療センター集中治療部での研修に出向しましたが、スタッフの献身的な働きで手術症例数の増加になんとか対応出来ました。2018年のハイブリッド手術室竣工後、準備を整えTAVI手術が開始され、順調に症例を重ねています。

1) 麻酔方法

2019年度の麻酔科管理症例数は4,636例で、2018年の4,622例と比べ14例の増加となりました。

日本麻酔科学会の分類法に基づく麻酔方法の内訳は次の通りです。

麻酔法	2019年	2018年	2017年
全身麻酔（吸入麻酔）	1,834例（39.5%）	（36.2%）	（35.3%）
全身麻酔（静脈麻酔）	471例（10.1%）	（10.9%）	（11.2%）
全身麻酔（吸入＋硬膜・脊椎・伝達）	1,389例（29.9%）	（32.7%）	（29.7%）
全身麻酔（静脈＋硬膜・脊椎・伝達）	99例（2.1%）	（1.3%）	（1.1%）
脊椎＋硬膜外	647例（13.9%）	（15.5%）	（19.5%）
硬膜外麻酔	9例（0.1%）	（0.1%）	（0.1%）
脊椎麻酔	118例（2.5%）	（2.1%）	（1.6%）
伝達麻酔	39例（0.8%）	（0.4%）	（0.5%）
その他	30例（0.6%）	（0.8%）	（0.9%）

2019年の例数と（）内に比率を示します。2017、2018年分は比率のみ示します。

全身麻酔では、吸入麻酔は増加し静脈麻酔は減少しています。覚醒の速やかなDesfluraneが普及してきた影響と思われます。超音波ガイド下神経ブロックを併用した全身麻酔の施行も増加しています。

2) 手術症例の年齢分布

年齢分布（学会による分類法に基づく）は次のようになっています。

年齢区分	2019年	2018年	2017年
～1ヶ月	5例（0.1%）	（0%）	（0.2%）
～12ヶ月	18例（0.3%）	（0.5%）	（0.4%）
～5歳	117例（2.5%）	（2.7%）	（3.0%）
～18歳	225例（4.8%）	（4.9%）	（5.4%）
～65歳	2,001例（43.1%）	（42.9%）	（43.7%）
～85歳	1,942例（41.8%）	（42.9%）	（41.1%）
86歳以上	328例（7.0%）	（6.1%）	（6.0%）

65歳以上の高齢患者さんの割合が全体の半分近くとなっています。

3) 偶発症

麻酔学会の定義する偶発症とは、原因（麻酔、手術、患者さんの病態による理由）の如何を問わず、手術中に起きた危機的状態とされます。偶発症は1.危機的偶発症 2.神経系偶発症 3.その他の神経系偶発症 4.その他と4つに分類されています。

2019年に当院で報告した偶発症は10例です。

分類	2019年	2018年	2017年
1. 危機的偶発症			
心停止	3例 (6.4)	(4.3)	(6.9)
高度低血圧	1例 (2.1)	(2.2)	(11.4)
高度低酸素血症	0例 (0)	(0)	(0)
高度不整脈	0例 (0)	(2.2)	(2.3)
その他	1例 (2.1)	(0)	(0)
2. 神経学的偶発症	4例 (8.6)	(0)	(0)
3. その他の神経学的偶発症	0例 (0)	(0)	(0)
4. その他	1例 (2.1)	(2.2)	(2.3)
合計	10例 (21.3)	(10.9)	(22.9)

() は1万人当たりの発生人数を示しています。つまり、偶発症発合計は1万人あたり21.3人となります。

39. ペインクリニック科

ペインクリニック科部長 小畑勝義

2019年度ペインクリニック科診療は入院患者メインの診療となりました。連携医療・緩和ケア科および消化器内科から紹介の難治性がん性疼痛症例に対し、ハイブリッド手術室で侵襲的神経ブロックを実施しました。50代膵がん患者さんに早期の段階で腹腔神経叢ブロック介入を行い、疼痛寛和を得て退院に至ったケースが、侵襲的神経ブロック施行例の中で「自宅で最期を迎えられるようになり有り難い」と感謝の言葉を頂けた印象的な症例となりました。がん性疼痛に対する神経ブロックは、適切なタイミングでの介入が重要となるため紹介元診療科への啓蒙の重要性も痛感した次第です。

2017年からの課題であったペインクリニック科外来診療は、残念ながら2019年も外来スペースの提供が叶わず、診療開始に至りませんでした。紹介状持参でペインクリニック科を受診された患者さんにお詫びする頻度が高まり、2020年1月に飯塚病院外来部門からペインクリニック科を削除することとしました。引き続き2020年度に新患外来開設出来るよう努力する所存です。

2019年度 ペインクリニック科 診療業績

1) 不對神経節ブロック（前立腺癌直腸浸潤由来の肛門部痛）	1件
2) 硬膜外テストブロック（上下腹神経叢ブロックの有効性確認目的）	1件
3) 上下腹神経叢ブロック（膀胱癌由来の膀胱伸展時痛）	1件
4) 腹腔神経叢ブロック（膵体部癌に伴う腹痛）	2件
5) 持続坐骨神経ブロック（壊疽性膿皮症）	1件

40. 病理科

病理科部長 大石善丈

2019年3月まで大屋正文前部長、平木由佳医師、専攻医の久保山雄介医師の3名体制で、4月から大屋前部長が福岡山王病院へ異動し、九州大学病理学教室から大石善丈が後任として赴任した。また浜の町病院で初期研修を修了した朝永匠医師が専攻医として赴任した。4月は大石、平木医師、久保山医師、朝永医師の4人体制で生検、組織診、術中迅速診断、細胞診、病理解剖、CPC等のカンファレンスに対応した。5月からは平木医師の産休・育休に伴い、大石、久保山医師、朝永医師の3名体制となった。九州大学病理学教室から山田裕一医師に、福岡山王病院から大屋前部長に週1回ずつ診断応援をいただいた。12月からは平木医師が週に2日のペースで復帰された。血液疾患はこれまで同様、久留米大学病理学教室の大島教授に御高診いただいた。病理組織診、細胞診の総数は例年通りいずれも1万件を超えた。

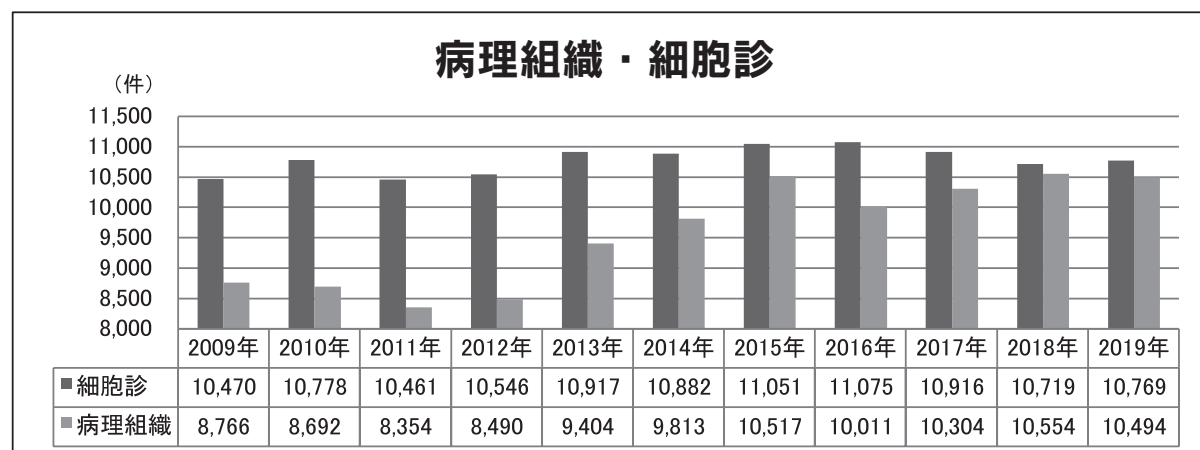
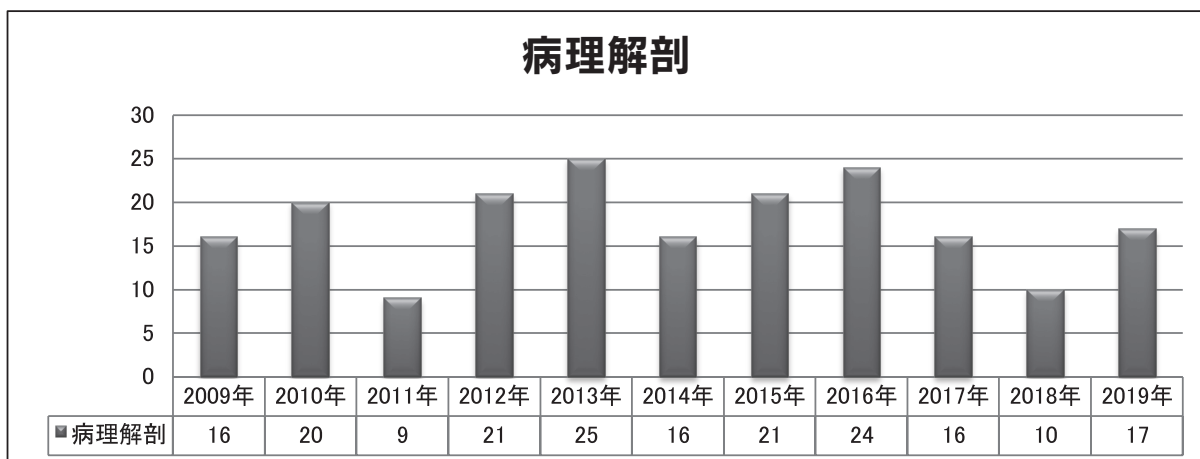
< 2019 年中央検査部病理 診療業績 >

1. 病理組織診断	10,494 件	(特染 1,213 件、免疫染色 1,521 件) (癌 1,700 件 肉腫 7 件 リンパ腫 150 件 黒色腫 4 件)
2. 術中迅速診断	375 件	
3. 細胞診	10,769 件	
4. 遺伝子診断	13 件	ISH 法による EBER-1 の解析(検体は胃切除標本など)
5. 血球細胞機能検査	537 件	(フローサイトメトリーによる造血器腫瘍の診断など) 検体は末梢血、骨髄、リンパ節等の新鮮材料
6. 腎生検	28 件	
7. 蛍光抗体検査	64 件	
8. 剖検	17 件	

剖検内容一覧 (主病理診断名、一部臨床診断名を含む)

剖検番号	病理診断名 (一部臨床診断名を含む)
剖 1744	【主病変】 1: サイトメガロウイルス感染症 (肺、肝臓)
剖 1745	【主病変】 1: 前立腺癌 (Gleason score 2+2) 2: 間質性肺炎 (DAD, organizing phase)
剖 1746	【主病変】 1: 肝硬変 2: 肺うっ血水腫 (左葉)
剖 1747	【主病変】 1: 悪性胸膜中皮腫 (胸膜原発と考えられ、傍縦隔組織へ浸潤) 2: 間質性肺炎 (DAD, acute phase)、うっ血水腫、肺胞出血
剖 1748	【主病変】 1: [敗血症性ショック] 2: 急性腎盂腎炎
剖 1749	【主病変】 1: [慢性腎不全] 2: [2 型糖尿病]
剖 1750	【主病変】 1: [敗血症] (肺、腎、前立腺に膿瘍形成を伴う) 2: 肺化膿症 (広範な出血性梗塞を伴う)
剖 1751	【主病変】 1: 腹部大動脈十二指腸瘻

剖検番号	病理診断名（一部臨床診断名を含む）
剖 1752	【主病変】 1: びまん性大細胞型 B 細胞リンパ腫と古典的ホジキンリンパ腫の中間的特徴を伴う B 細胞リンパ腫・分類不能型（肝臓・脾臓・骨髄・左腎臓・傍気管支リンパ節・脾周囲リンパ節） Stage IV（Ann Arbor 分類）
剖 1753	【主病変】 1:[突然死] 2:[代謝性アシドーシス]
剖 1754	【主病変】 1: 慢性心不全（心肥大、肝細胞うっ血壊死や心不全肺を伴う） 2: 両肺器質化肺炎 + 塵肺症 3:[基底細胞癌]（左眼角下方、6x6mm、nodular type、死亡 5 年前より再発なし）
剖 1755	レジオネラ肺炎、ARDS
剖 1756	間質性肝炎疑い、慢性心不全、心筋梗塞
剖 1757	【主病変】 1: 右卵巣粘液性癌 2: 右肺誤嚥性肺炎
剖 1758	低酸素脳症、アルコール性ケトアシドーシス
剖 1759	敗血症性ショック、外傷性脾損傷、左血胸
剖 1760	敗血症



41. 感染症科

感染症科部長 的野多加志

2019年4月から感染症科が新設され、病棟業務では主に①感染症コンサルテーション、②血液培養陽性患者のフォローアップ、③抗菌薬適正使用支援を行っています。②に関しては、血液培養ラウンド（血液培養陽性患者の初期治療の確認と de-escalation のフィードバック）に加え、2019年4月から、黄色ブドウ球菌ならびにカンジダ属菌血症の全例介入を開始致しました。③に関しても、今までの支援をさらに強化し、2019年4月からはカルバペネム系抗菌薬長期使用例（ ≥ 7 日）の全例介入、2019年10月からはピペラシリン/タゾバクタムの長期使用例（ ≥ 7 日）の全例介入を開始しております。

2019年7月からワクチン・トラベル外来を開設し、完全予約制の専門外来も行っています。2020年度からは保険診療外来や入院診療を開始する予定です。

□診療実績	
感染症コンサルト件数	2019年4月～12月
448件	
血液培養支援件数	2019年4月～12月
818件	
広域抗菌薬適正使用支援件数	2019年4月～12月
110件	
新規ワクチン・トラベル外来受診者数と内訳	2019年7月～12月
201名（ワクチン：172名、トラベル：29名）	
新規入院患者数と内訳	2019年10月～12月
4名（HIV：2名、成人水痘：1名、播種性抗酸菌症：1名）	

42. 予防医学センター

予防医学センター長 矢野博美

2019年は、予防医学本部長 名取良弘医師（副院長・脳神経外科部長）、予防医学センター長 矢野博美（漢方診療科診療部長）、保健師3名、看護師4名（2019年9月2名増員）、事務6名、DS 1名の体制でした。事務は1名異動、2名退職、1名産休となり、一時、人員不足となりましたが、従来通り、6名の体制（うち1名パート）になりました。

院内各部門のご協力のおかげで順調に運営することができ、大変感謝しております。

2019年より、飯塚病院の特定保健指導対象者に特定保健指導を開始いたしました。対象者115名のうち、75名に初回面談を行いました。引き続き、支援を行いますので、よろしくお願いいたします。

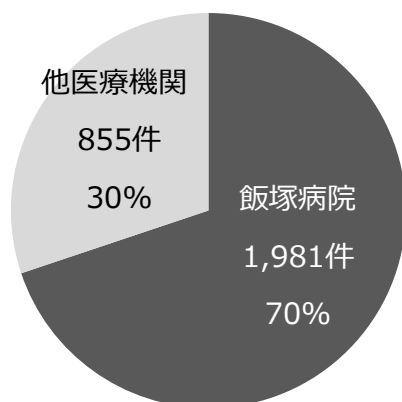
1) 受診者数（人）

健診区分	受診者数
日帰りドック	2,705
健診（企業）	1,722
全国健康保険協会	1,483
特定健診	528
乳がんドック	435
レディースドック	365
脳ドック	257
婦人検診	233
健診（個人）	227
消化器がんドック	226
がんPET 検診	66
婦人検診（協会けんぽ）	55
胃検診	14
心臓・肺がんドック	13
被爆検診	13
心臓ドック	12
肺がんドック	11
大腸がんドック	9
漢方いきいきドック	4
計	8,378

2) 紹介状件数（件）

紹介目的	総件数
婦人科	397
上部消化管内視鏡	354
眼科疾患	259
心電図	184
便検査	162
上部消化管 X 線	161
乳腺	133
肝機能異常	119
胸部 X 線	118
脂質異常	112
ピロリ・除菌治療	101
尿検査	99
糖尿病	92
腹部超音波検査	89
高血圧	85
診察異常所見	75
貧血	63
耳鼻咽喉疾患	47
腫瘍マーカー	25
漢方適応症状	20
PET-CT 検査	19
MR 検査（脳ドック）	9
下部内視鏡	8
睡眠時無呼吸	8
高尿酸血症	7
腎機能異常	7
骨密度低下	3
動脈硬化	2
RA	1
その他	77
計	2,836

3) 紹介状依頼先



43. 看護部門

看護部門長 森山由香

2019年は、全国各地にもたらされた想定外の大雨や台風により被災された方々に、心よりお見舞い申し上げます。加えて、一日も早い復興により日々の日常を取り戻されますことをお祈り申し上げます。

2019年も新人看護師・助産師70名（看護師63名・助産師7名）を採用し、離職者0名という結果を残すことができました。新人看護師や常勤看護師の離職率も全国平均と比較して低い状況で維持することができています。このように離職率が低い要因のひとつに、セル看護提供方式（以下、セル看護）を導入したことが挙げられます。また、2019年4月に「セル看護推進研究会」を立ち上げ、9月21日には「第1回セル看護推進研究会」を飯塚病院にて開催しました。詳細は、〔I〕院内の動き4ページをご参照ください。想定以上の方々からご応募いただき、お陰様で沢山の方々にご参加いただき、心より感謝申し上げます。

セル看護の特徴は、業務の「流れ」を注視し、看護の中に製造業のセル生産方式を取り入れたことです。つまり、“患者対看護師”の仕事のやり方に「時間軸」を入れ、時間内に最高のパフォーマンスを発揮すること、看護師を限りある資源と認識して効率を上げることを前提としています。かつて、「詰め所」と言われていた場所に看護師は一人もおらず、スタッフステーションから病室へという働き方イノベーションが実現しています。

セル看護については、日本のみならず中国での商標登録を行いました。中国では、「AsoIJ 単元式护理模式（たんげんしき ふーりーもしき）」です。国内外で商標を申請したのは、全国の病院で働く看護師たちにセル看護の良さを実感していただき、広く周知・導入してもらいたいと考えたからです。2019年も41施設から見学にお越しいただきましたが、ひとつでも多くの施設がこの方式を導入し“セル看護をやっています”と堂々と声をあげていただきたいと思っています。

11月には、2日間にわたり「7th Conference for Health Care」が東京の経団連会館で開催され、院内外から95名の方々が参加されました。看護部からも「看護ナビコンテンツによる看護計画と記録のイノベーション～病院経営と診療・看護の質向上に貢献する～」について発表し、厚生労働省や医療及び企業関係者の方々、バージニアメイソン病院のカプラン院長と共に活発なディスカッションが交わされました。改善活動がこれから多くの病院にも導入されていく雰囲気、期待を感じました。今後も、国内だけでは得られない情報を積極的に海外からも取り入れ、国内外の病院や医療関係者のモデル病院であり続けられるよう、当院の医療・看護の質を継続的に高めていきたいと考えています。

一方、新たに「がん化学療法看護」と「慢性心不全看護」の認定看護師が誕生しました。また、現在「認知症看護」1名、「緩和ケア」2名の看護師が認定試験合格を目指して取り組んでいます。今後も、心にとどく「まごころ医療・まごころサービス」を看護の力で実現し、新たな100年に向かって力を合わせていきたいと思えます。

【認定看護管理者】 6名

専門分野	人数
認定看護管理者	6

【専門看護師】 2名

専門分野	人数
慢性疾患看護専門看護師	1
精神看護専門看護師	1

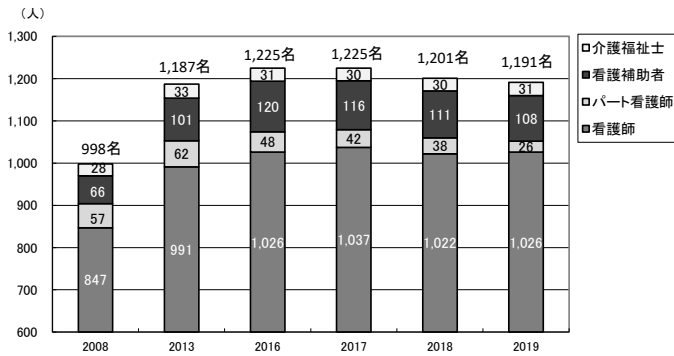
【WOCN】 1名（海外で取得）

専門分野	人数
WOCN	1

【認定看護師】 18名

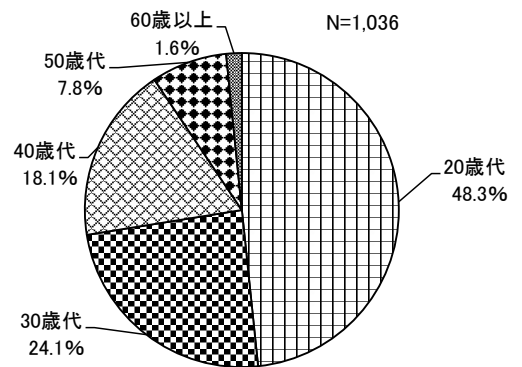
専門分野	人数
集中ケア認定看護師	2
感染管理認定看護師	2
皮膚・排泄ケア認定看護師	2
糖尿病看護認定看護師	1
手術看護認定看護師	1
救急看護認定看護師	1
乳がん看護認定看護師	1
摂食・嚥下障害看護認定看護師	1
緩和ケア認定看護師	2
慢性呼吸器疾患看護認定看護師	1
小児救急看護認定看護師	1
がん化学療法看護認定看護師	2
慢性心不全看護認定看護師	1

看護スタッフ数 (2019年4月30日現在)



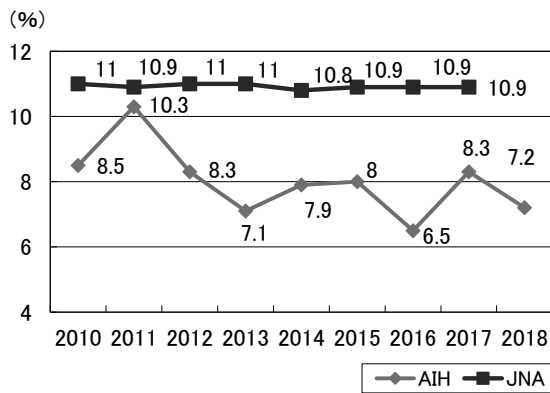
* データ：看護部長室「月間看護職員動向」より
産休育休者含む、退職者・出向者除く

看護師の年齢構成 (2019年4月30日現在)



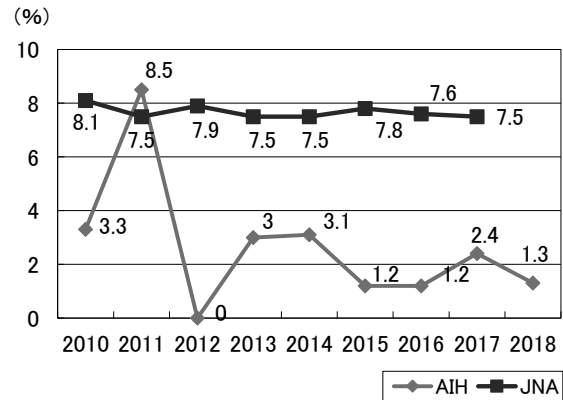
* 産休・育休：常に60名前後
* 看護師平均年齢：33.4才
* 勤続年数：9.8年

常勤看護職員離職率の推移



※パート看護師除く、定年退職者含む

新人看護職員離職率の推移



【見学・研修受け入れ一覧】

	2017年		2018年		2019年	
	セル	セル以外	セル	セル以外	セル	セル以外
1月	2	0	1	0	3	2
2月	1	0	3	3	4	0
3月	0	0	0	0	5	2
4月	0	0	2	0	3	0
5月	0	2	0	2	2	1
6月	2	2	2	1	2	0
7月	2	0	0	1	3	0
8月	1	0	0	0	2	0
9月	3	0	1	0	6	0
10月	5	1	2	5	3	3
11月	1	0	0	1	4	0
12月	1	2	2	0	4	0
合計	18	7	13	13	41	8

【認定看護管理者教育課程実習受け入れ】

7月25日	愛知県看護協会：サードレベル 羽島市民病院
8月21日	福岡県看護協会：サードレベル 九州医療センター
8月30日	日本赤十字社幹部看護師研修センター サードレベル 岐阜赤十字病院
10月2日	岡山県看護協会：サードレベル 倉敷中央病院
10月16日	広島県看護協会：サードレベル 中電病院
11月6日	大阪府看護協会：サードレベル りんくう総合医療センター
11月13日	福岡県看護協会：サードレベル 嘉麻赤十字病院
11月26日	北海道看護協会：サードレベル 北海道大野記念病院
12月3日	上尾中央医科グループ協議会キャリアサポートセンター サードレベル 山梨厚生病院

44. 医療技術部門

医療技術部門長 金澤康範

医療技術部門は、中央放射線部、臨床工学部、リハビリテーション部、栄養部、薬剤部、中央検査部、医療福祉室、歯科衛生室、臨床心理室の9部署で構成され、所属するスタッフ数は500名以上となっている。

事業目標としては、中長期計画に基づき、①専門医療や救急外来体制の視点を中心とした中長期計画達成のための取り組み、②人材育成として積極的な学会発表、③健全経営への貢献を目的としたコスト削減及び診療報酬算定における増収の3項目について取り組んだ。

合同勉強会では、「認知症」について、臨床心理士、臨床検査技師や薬剤師よりそれぞれの専門分野において関係する項目について発表した。

各部署の人材交流の場として例年6月に開催している「合同懇親会」には2019年も約300名が参加した。

なお、各部署の活動については概略を下記に示す。

【中央放射線部】 2019年3月に一般撮影装置1台・透視撮影装置1台を更新した。従来の透視撮影装置もDSA撮影が可能な仕様に変更し、透視装置を使用した様々な検査に対応可能となった。ハイブリッド手術室では、2月よりTAVIを開始、4月より夜間・日祝日でもハイブリッド業務に対応可能な人材を育成し配置した。知識・技術の向上を目指しマンモグラフィ技術認定3名（金澤晴菜・平島沙薫・杠友希）・X線CT認定技師2名（近藤慧・高橋圭輔）・放射線治療専門放射線技師2名（今村英寛・山野正起）・肺がんCT検診認定技師1名（吉田裕美）等の認定資格を取得した。現在、2020年4月より施行される医療法の一部改正（診療放射線に係る安全管理体制）への対応に向けて活動している。

【臨床工学部】 2019年は高気圧酸素治療部門の充実に注力した。9～10月に高気圧酸素治療装置を増設し3台体制の運営とするため、高気圧酸素治療操作技師の育成に重点を置いた。3名の技師（高中七海、阿部裕也、福嶋崇徳）を育成し、11月中旬より治療機器3台のフル稼働を開始することができた。さらに、1月と12月に高気圧酸素治療講演会、7月には九州高気圧環境医学会を開催するなど、院外を含めた高気圧酸素治療に対する広報活動も行った。また、認定医療機器管理臨床工学技士3名（井桁洋貴、指原伶一、上村健斗）、特定化学物質作業主任者2名（平塚幸大、岩佐浩平）、透析専門技術認定技師2名（野坂 瞭、池田勝也）、3学会合同呼吸療法認定士2名（穴手雅士、山野愛未）等、各分野の専門的な認定資格を積極的に取得することで技術の向上を目指した。

【リハビリテーション部】 2019年度よりTAVI（経カテーテル的大動脈弁置換術）を筑豊地域で初めて導入するにあたり、九州大学病院のリハビリテーション部と病棟見学を実施し、リハビリテーション部では心臓リハビリテーションのスキルアップの為、心臓リハビリテーション指導士7名体制で早期に心臓リハビリテーションを実施出来る体制整備を行った。

【栄養部】 2019年は、2017年に続き糖尿病の栄養指導が担えるスタッフの育成を継続し、更に肝臓がん、膵臓がん、胆嚢がんの栄養指導が担えるスタッフの育成を行うなど各診療科の外来患者への関わりを増やすように取り組んだ。給食部門では、人員不足が深刻化しており業

務内容の見直し及び業務改善に取り組み、早出の人員4名を日勤帯及び遅出勤務に移行することが可能となった。

【薬剤部】 2019年の後発医薬品使用率は、外来使用医薬品数量も含め9月より70%以上となり、目標の70%以上を達成した。事業目標としては、周術期管理センター設立への支援として業務マニュアル作成、医療安全への取組みとして抗癌剤のインシデント対策、人材育成として学会の積極的な参加、また、薬剤管理指導料の算定件数増加にも取り組んだ。認定薬剤師として日本病院薬剤師会認定感染制御認定薬剤師を1名（長崎皓光）が取得した。

【中央検査部】 2019年度はアブレーションカテーテル検査のスペシャリストを育成することを事業目標とし、スペシャリスト候補者が検査に定着できるように超音波検査、脳波検査担当者の増員を実施し、日常監視項目であるTAT（Turn Around Time）は設定基準を上回ることもなく検査は実施できた。また2018年に購入したMALDI（質量分析装置）による細菌同定は結果報告までに約2日間の短縮が可能となり、試薬代も前年と比較して年間約600万円減となった。品質マネジメントシステム（QMS）においては今年よりリスクマネジメントに力を入れ、より安全で品質保証のとれた検査を実施するために検査導入前、手順変更前などにリスク分析を行い、リスクが高い部分に対して予防処置を講じている。

【医療福祉室】 4月より3名の新人を採用し、地域連携室へ中堅者1名を配置した。地域連携の強化を目指し、共立病院と転院進捗状況の共有、嘉麻赤十字病院と施設待機者の転院、飯塚薬剤師会と在宅医療の課題など、積極的な意見交換を行った。相談支援に必要な知識・技術を向上させていくため、11科の力量評価表の作成に取り組んだ。筑豊MSW研修会を再開し、3回開催した。日本医療ソーシャルワーカー学会（兵庫）、秋田県院内臓器移植コーディネーター研修会等、医療福祉室の取り組みについて外部で発表した。

【歯科衛生室】 2019年は認定歯科衛生士の輩出を目標とし、必要研修や学会に積極的に参加し単位取得に注力した。取得単位は目標の2割を超え、技術向上にも繋がった。また口腔ケア浸透のため歯科衛生室のホームページの公開（https://aih-net.com/shika/about/depts_eisei.html）や市民向け講演などに積極的に参加し、口腔ケアに関する情報発信を院内外に向け行った。今後も継続的に情報発信を行っていく。また看護師を中心とした口腔ケア研修会も実施し、参加看護師は延べ101名にも及んだ。

【臨床心理室】 小児発達支援は、優先度の高い発達検査を医師の指定期間内に、その他の依頼は臨時的に予約枠を追加し対応を行った。中長期計画に基づき多職種情報共有のあるべき姿を検討中である。リエゾン精神科との連携強化では診断補助として心理検査実施件数を増やし、デイケアではマインドフルネス・プログラムを開始した。医学教育学会、臨床救急医学会、生命倫理学会の発表、新生児成育医学会、移植学会総会の講演等にも注力した。中央化した心理室の先駆けとして、全国から臨床心理センター等の設立に関するコンサルトが相次ぎ、今後も患者さん及びご家族とチームのこころの健康に寄与するまごころ医療の実現に向け、モデルとなる臨床心理室を目指す。

45. 経営管理部門

経営管理部門長 岩佐紀輝

2019年5月14日13時35分、突然の停電事故が発生しました。停電は北棟以外のすべての建物に及びました。非常用発電機が起動し、次に院内常用発電機からの電気を供給し、1～26分間後にはハイケア棟を除く建物が正常に戻る中、停電の原因となったハイケア棟では、原因箇所の特定に時間がかかり、なかなか電気の供給を再開できませんでした。原因箇所の特定を終え、遮断器の取り換えを行い、電気の供給が再開されたのは、17時11分、停電発生から216分が経過していました。停電の原因は、ハイケア棟屋上に設置された遮断器の接触不良による短絡事故ということが判明しました。停電の間、患者の生命・安全に支障が出ないよう冷静に職務にあたっていただきました従業員の皆様に感謝いたしますとともに、今後、2度とこのような事故を発生させないため、原因となったハイケア棟の遮断器を安全装置付きへ変更するなど検討し、特高受電施設としての責任を全うしたいと存じます。

2019年7月、教育研修棟が竣工し、引き続き旧本館の解体工事に着手しました。同時並行で進んだ旧本館以外の建物の耐震補強工事も終了しましたので、旧本館の解体工事が完了すれば、当院の建物は、すべて、「建築物に対する耐震改修を促進する法律（2013年）」の基準をクリアすることになります。従来、未耐震の建物が残る災害拠点病院として、その都度、新聞に病院名が公表されてきましたが、今後は公表の対象外となるはずです。工事中は、騒音や振動、あるいは移転や駐車台数の減少など、多くの患者さんやご家族、従業員の皆様、お取引をいただく業者の方々にご不便、ご迷惑をおかけしました。この紙面を借りて、改めてお詫び申し上げ、合わせてそのご協力にお礼を申し上げます。1955年以来、病院正面の顔として親しまれてきました旧本館がなくなり、外から見た病院の景色、顔もまた変わるものと思います。

最後に、2019年も災害が全国で頻発しました。8月の大雨では佐賀県、長崎県で大きな被害が発生したのを皮切りに、9月には台風15号、10月には台風19号の首都圏直撃がありました。特に、台風19号の被害は、関東、甲信越、東北の広域におよび、14都県390市区町村に災害救助法が適用されました。適用自治体数としては東日本大震災を超えるものとなったそうです。自然災害が常態化してきました。当院も災害に対する備えを加速し、レジリエンスを上げていきたいと考えます。

〔Ⅲ〕 診 療 統 計

1. 退院患者統計

	総退院患者数	性別		入院年齢(平均値)			在科日数(平均値)	入院手順		入院経路			搬送数	救急車(患者数)	主病名転帰							死亡状況			紹介患者数	救外CPA患者数
		男	女	全体	男	女		急患	予約	外来	救命	転科			軽快	検査終了	死亡	治癒	増悪	中止	不変	術後30日以内の死亡:A	入院後48時間内の死亡:B	AかつB		
診療科 総数	22,695	11,541	11,154	63.4	63.3	63.5	14.9	10,841	11,854	14,081	7,277	1,337	4,380	5,569	15,779	1,070	1,206	916	235	22	3,467	23	347	4	8,244	209
肝臓内科	744	427	317	71.2	70.9	71.7	12.4	255	489	571	148	25	62	0	528	53	42	1	10	0	110	0	2	0	120	0
呼吸器内科	1,593	1,044	549	71.9	71.8	71.9	17.5	736	857	1,067	458	68	263	14	652	254	151	48	40	0	448	0	7	0	475	0
内分泌・糖尿病内科	341	178	163	63.3	65.0	61.5	10.1	49	292	279	33	29	20	0	240	18	1	15	0	0	67	0	1	0	128	0
消化器内科	2,310	1,286	1,024	70.7	69.5	72.2	8.6	918	1,392	1,660	614	36	306	18	1,567	192	16	245	28	1	261	0	6	0	886	0
血液内科	609	336	273	70.3	70.4	70.1	27.4	174	435	512	69	28	20	2	464	2	37	9	9	1	87	0	1	0	100	0
総合診療科	2,678	1,258	1,420	72.3	69.7	74.7	18.4	2,432	246	654	1,887	137	1,144	72	1,886	7	199	263	30	0	293	0	32	1	1,027	0
膠原病・リウマチ内科	275	107	168	66.0	66.5	65.7	16.6	69	206	236	20	19	11	3	155	11	4	1	0	0	104	0	0	0	38	0
連携医療・緩和ケア科	851	450	401	76.6	74.5	79.0	21.7	376	475	284	216	351	140	4	214	0	344	6	28	0	259	0	40	0	141	1
リエゾン精神科	55	27	28	54.9	49.4	60.1	174.1	25	30	21	8	26	2	2	37	0	0	0	0	0	18	0	0	0	5	0
小児科	1,400	735	665	3.7	3.6	3.9	8.5	1,150	250	791	609	0	200	2	1,096	104	5	22	2	3	168	0	4	0	434	3
腎臓内科	629	359	270	70.4	69.3	71.9	18.3	182	447	506	79	44	47	132	375	12	12	23	19	0	188	1	0	0	249	0
循環器内科	1,793	1,097	696	73.6	70.5	78.6	12.0	917	876	1,037	686	70	516	121	1,436	160	43	16	1	0	137	1	8	1	816	1
外科	1,789	936	853	67.4	67.7	67.1	11.5	414	1,375	1,396	245	148	110	1,108	1,260	11	10	36	7	5	460	4	1	0	568	0
整形外科	1,002	401	601	62.4	50.0	70.7	19.5	492	510	644	303	55	188	882	960	4	2	10	1	1	24	0	0	0	431	0
皮膚科	170	94	76	63.5	59.9	68.0	17.0	62	108	115	39	16	5	62	141	0	0	13	1	0	15	0	0	0	85	0
泌尿器科	670	517	153	69.4	69.3	69.6	8.7	105	565	615	36	19	12	344	394	157	4	18	8	1	88	2	0	0	271	0
婦人科	939	0	939	52.9	0.0	52.9	6.4	176	763	852	65	22	19	494	660	10	2	13	10	4	240	0	0	0	323	0
産科	606	0	606	31.9	0.0	31.9	12.3	466	140	300	306	0	134	198	504	8	0	18	1	0	75	0	0	0	395	0
眼科	676	314	362	71.1	69.9	72.1	5.4	17	659	664	4	8	2	662	582	0	0	79	0	0	15	0	0	0	380	0
耳鼻咽喉科	480	278	202	48.4	48.4	48.5	11.9	138	342	435	28	17	7	283	367	12	0	0	0	3	98	1	0	0	318	0
小児外科	149	94	55	5.7	5.6	6.0	3.9	29	120	125	14	10	1	125	138	3	0	0	0	0	8	0	0	0	87	0
脳神経外科	640	345	295	70.5	68.3	73.1	25.3	546	94	126	492	22	433	210	501	24	59	0	9	0	47	3	31	1	218	0
歯科口腔外科	166	70	96	43.5	36.7	48.5	6.1	11	155	164	2	0	1	139	119	2	0	40	1	0	4	0	0	0	131	0
呼吸器外科	392	243	149	68.4	66.7	71.3	12.1	68	324	310	35	47	26	247	284	8	2	3	3	2	90	1	0	0	90	0
心臓血管外科	397	242	155	74.5	71.2	79.5	20.5	101	296	268	83	46	71	319	345	3	15	10	0	0	24	9	2	1	152	0
脳神経内科	840	437	403	72.0	68.5	75.7	31.7	637	203	239	543	58	390	5	620	15	46	16	27	0	116	1	6	0	251	0
漢方診療科	50	18	32	44.5	45.3	44.0	21.5	23	27	45	5	0	4	0	45	0	0	1	0	0	4	0	0	0	14	0
感染症科	4	3	1	55.3	46.0	83.0	27.5	0	4	1	0	3	0	0	3	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0
救急科	207	110	97	76.3	71.2	82.1	1.0	206	1	1	206	0	205	2	3	0	204	0	0	0	0	0	204	0	13	204
形成外科	182	102	80	52.4	50.8	54.4	13.0	13	169	163	2	17	1	117	171	0	0	2	0	1	8	0	0	0	84	0
集中治療科	58	33	25	68.6	67.6	69.8	8.6	54	4	0	42	16	40	2	32	0	8	8	0	0	10	0	2	0	14	0

2. 科別統計表

2019年1月～12月

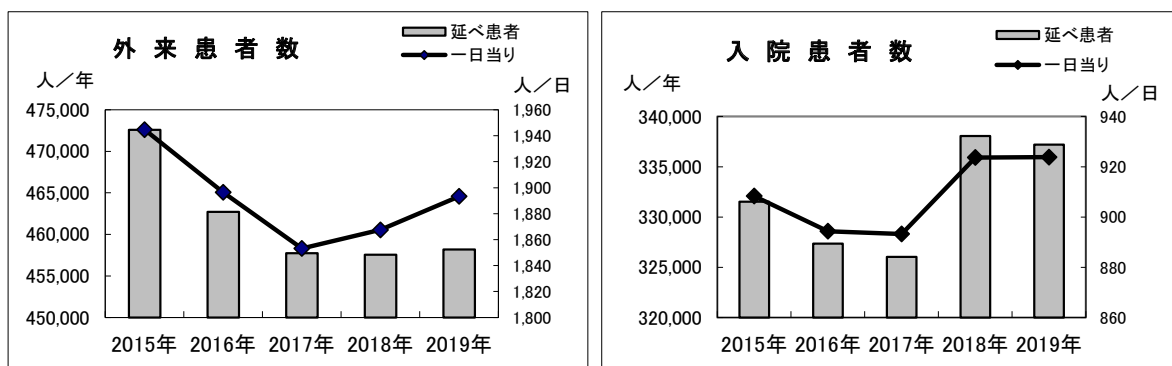
診療科	外来患者		入院患者		新入患者数（入院経路別）				手術件数 (件/年) ※2	紹介率	平均在院日数 (日) ※3
	延べ患者数※1	実患者数	延べ患者数※1	実患者数	予約	救急外来	外来緊急	合計			
肝臓内科	16,091	4,040	9,244	415	440	160	116	716	/	91.2%	12.0
	66.5		25.3								
呼吸器内科	22,694	4,546	28,009	1,133	706	477	339	1,522	/	86.3%	17.3
	93.8		76.7								
心療内科	5,896	676	/	/	/	/	/	/	/	71.5%	/
	24.4		/								
内分泌・糖尿病内科	22,076	3,521	3,332	319	236	34	42	312	/	94.6%	11.1
	91.2		9.1								
消化器内科	22,232	5,898	19,812	1,954	1,255	619	396	2,270	44	92.5%	7.9
	91.9		54.3								
血液内科	10,409	1,612	17,028	299	373	72	137	582	/	96.1%	27.7
	43.0		46.7								
総合診療科	17,294	5,997	48,018	2,431	68	1,923	532	2,523	/	56.5%	18.5
	71.5		131.6								
膠原病・リウマチ内科	15,661	2,136	4,577	152	171	21	69	261	/	91.1%	16.5
	64.7		12.5								
連携医療・緩和ケア科	1,989	450	19,362	729	83	215	200	498	/	57.3%	27.4
	8.2		53.0								
ペインクリニック科	44	3	/	/	/	/	/	/	6	/	/
	0.2		/								
画像診療科	1,240	983	/	/	/	/	/	/	1	99.1%	/
	5.1		/								
リエゾン精神科	9,317	963	10,847	72	0	9	18	27	/	27.8%	289.3
	38.5		29.7								
小児科	27,356	7,009	12,031	1,131	237	600	572	1,409	/	59.9%	5.2
	113.0		33.0								
腎臓内科	30,851	2,354	11,726	460	331	87	167	585	148	85.8%	18.5
	127.5		32.1								
循環器内科	23,046	6,043	21,438	1,545	761	690	272	1,723	/	93.5%	11.5
	95.2		58.7								
外科	22,109	4,846	20,361	1,360	1,190	266	180	1,636	1,196	89.7%	11.1
	91.4		55.8								
整形外科	23,652	5,339	19,482	967	419	321	215	955	1,148	86.6%	19.5
	97.7		53.4								
皮膚科	21,325	4,788	2,805	159	74	44	37	155	154	83.6%	17.0
	88.1		7.7								
泌尿器科	18,701	4,173	5,938	533	523	43	86	652	417	96.0%	8.1
	77.3		16.3								
産婦人科	24,818	5,468	13,523	1,158	832	348	342	1,522	726	61.8%	8.1
	102.6		37.0								
眼科	15,236	3,765	3,713	540	635	7	29	671	796	88.2%	4.5
	63.0		10.2								
耳鼻咽喉科	9,899	2,957	5,661	455	304	37	124	465	317	91.1%	11.1
	40.9		15.5								
小児外科	2,409	788	574	138	111	14	14	139	125	86.2%	2.8
	10.0		1.6								
脳神経外科	5,830	2,106	16,851	642	75	498	50	623	265	74.1%	26.4
	24.1		46.2								
歯科口腔外科	15,661	3,992	1,007	159	149	3	14	166	162	45.3%	5.2
	64.7		2.8								
呼吸器外科	4,946	1,078	5,134	325	260	37	41	338	275	88.3%	12.6
	20.4		14.1								
心臓血管外科	5,273	2,206	8,560	390	243	87	33	363	557	95.9%	22.6
	21.8		23.5								
脳神経内科	9,268	2,373	23,929	780	141	565	91	797	/	88.2%	23.9
	38.3		65.6								
漢方診療科	22,023	2,056	1,050	45	18	5	28	51	/	59.8%	20.0
	91.0		2.9								
放射線治療科	8,006	417	/	/	/	/	/	/	/	81.3%	/
	33.1		/								
感染症科	603	423	110	4	0	0	1	1	/	5.3%	42.4
	4.2		0.5								
救急科	16	15	216	207	1	205	1	207	1	/	1.0
	0.1		0.6								
救急外来	16,321	13,349	/	/	/	/	/	/	/	23.3%	/
	67.4		/								
形成外科	5,523	1,192	2,414	172	142	3	19	164	156	82.8%	13.6
	22.8		6.6								
リハビリテーション科	373	114	/	/	/	/	/	/	/	39.6%	/
	1.5		/								
集中治療科	5	4	444	58	0	43	0	43	/	/	16.3
	0.0		1.2								
診療科合計	458,193	107,680	337,196	18,732	9,778	7,433	4,165	21,376	6,495	72.6%	13.7
	1,893.4		923.8								

予防医学センター	8,528	/
	35	/
従業員健診	3,675	/

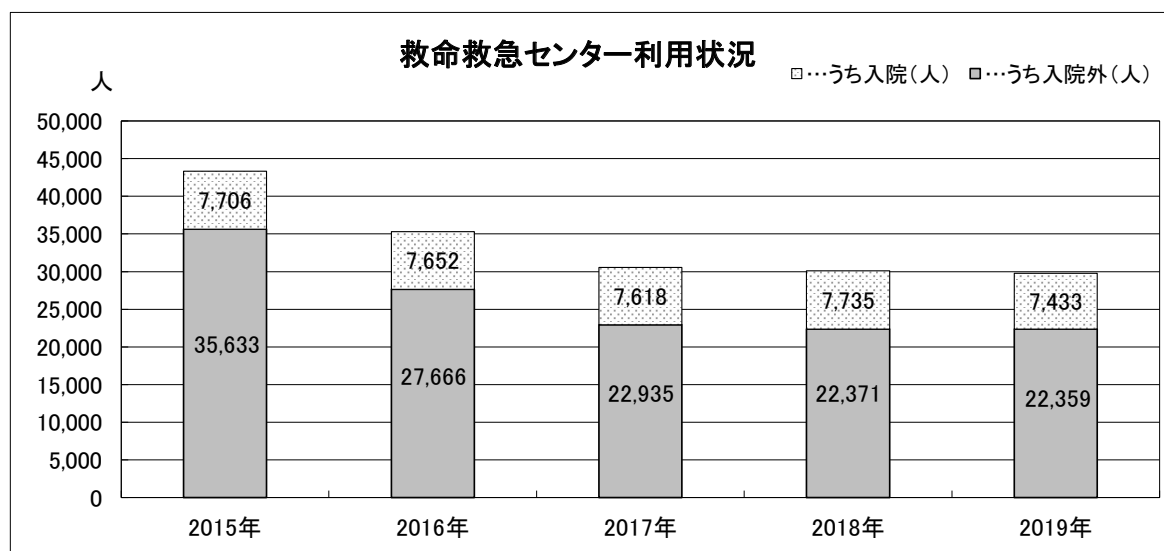
		2019年
病床稼働率	全体	93.4%
	精神科除く	95.8%

※1 患者数：上段は年間延べ患者数、下段は1日当たり患者数。 ※2 手術件数：手術室で行われた件数。
 ※3 医科点数表の解釈の施設基準に沿って計算した社会保険事務局への届出ベース。診療科合計はリエゾン精神科を含まない。

3. 最近5年間の患者数推移



4. 最近5年間の救命救急センター利用状況の推移

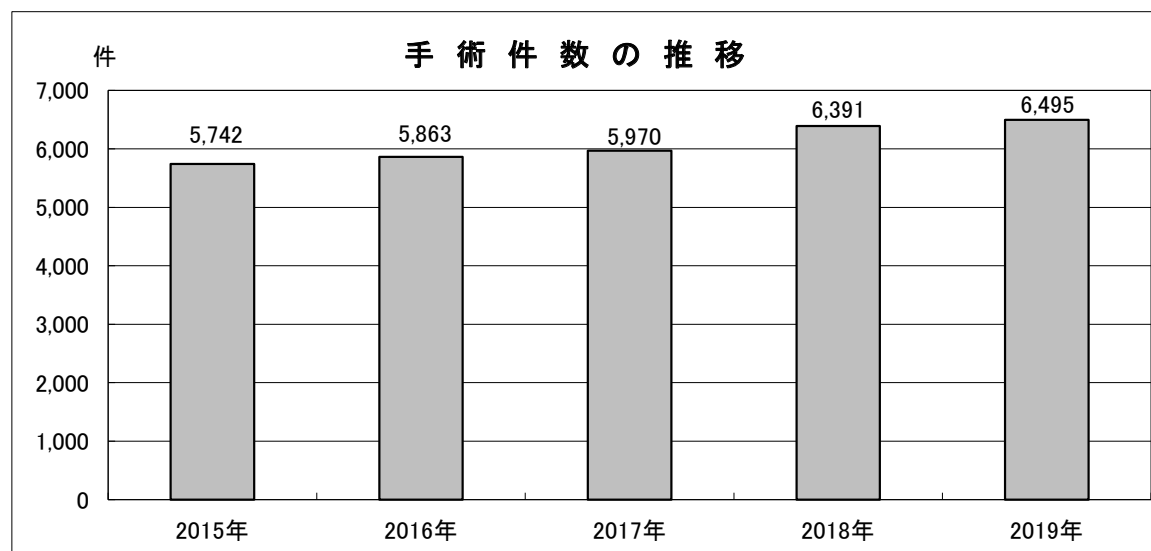


[表1] 過去掲載分の救命救急センター利用状況の推移*

	2015年	2016年
1次患者	35,354	27,672
2次患者	6,867	6,555
3次患者	544	457
合計	42,765	34,684

* 2017年より集計方法を変更したため、2016年までの年報に掲載していた数値とは異なります。参考まで、2016年までの年報に掲載した数値を表1に記載しております。

5. 最近5年間の年間手術件数の推移



6. 科別・年齢別・性別 退院患者数

退院科	性別	0	10	20	30	40	50	60	70	80	90歳	合計	75歳以上 (再掲)
		～9	～19	～29	～39	～49	～59	～69	～79	～89	～		
		1,454	498	656	951	1,254	1,798	4,435	5,848	4,495	1,306	22,695	8,678
肝臓内科	男	0	0	4	1	4	33	144	161	72	8	427	144
	女	0	1	2	5	9	36	83	64	105	12	317	140
呼吸器内科	男	1	5	12	9	32	51	244	442	208	40	1,044	463
	女	0	4	5	13	9	64	116	165	133	40	549	256
内分泌・糖尿病内科	男	0	1	4	7	17	15	51	63	20	0	178	43
	女	0	8	5	11	18	15	36	47	22	1	163	45
消化器内科	男	0	6	11	7	71	142	319	443	248	39	1,286	484
	女	0	5	8	24	51	77	196	323	248	92	1,024	515
血液内科	男	0	0	4	14	3	20	73	147	72	3	336	144
	女	0	0	4	1	15	29	82	85	48	9	273	107
総合診療科	男	0	9	40	52	73	114	236	315	336	83	1,258	593
	女	0	23	51	49	64	78	148	225	463	319	1,420	923
膠原病・ リウマチ内科	男	0	0	3	2	11	15	28	31	16	1	107	38
	女	0	1	4	6	16	26	36	41	37	1	168	53
連携医療・緩和ケア科	男	0	1	4	2	8	27	95	146	137	30	450	234
	女	0	1	1	1	8	13	72	90	122	93	401	272
リエゾン精神科	男	0	2	2	7	4	1	6	3	2	0	27	2
	女	0	0	3	3	3	4	4	6	5	0	28	9
小児科	男	638	97	0	0	0	0	0	0	0	0	735	0
	女	569	83	13	0	0	0	0	0	0	0	665	0
腎臓内科	男	0	3	4	6	22	31	84	138	66	5	359	138
	女	0	1	4	3	13	15	60	91	71	12	270	128
循環器内科	男	0	2	5	14	44	114	294	356	244	24	1,097	431
	女	0	2	4	3	12	17	109	166	261	122	696	487
外科	男	0	7	19	17	35	88	337	269	154	10	936	284
	女	0	7	8	23	75	93	245	232	142	28	853	271
整形外科	男	13	55	21	41	59	52	68	50	29	13	401	67
	女	11	13	8	10	30	41	122	142	157	67	601	306
皮膚科	男	8	6	1	5	4	8	18	22	19	3	94	35
	女	1	1	1	3	5	9	12	19	21	4	76	34
泌尿器科	男	5	7	7	8	12	37	137	201	95	8	517	202
	女	0	1	3	4	8	19	33	31	50	4	153	68
婦人科	男	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	女	0	17	56	150	211	148	149	169	37	2	939	110
産科	男	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	女	0	16	192	323	75	0	0	0	0	0	606	0

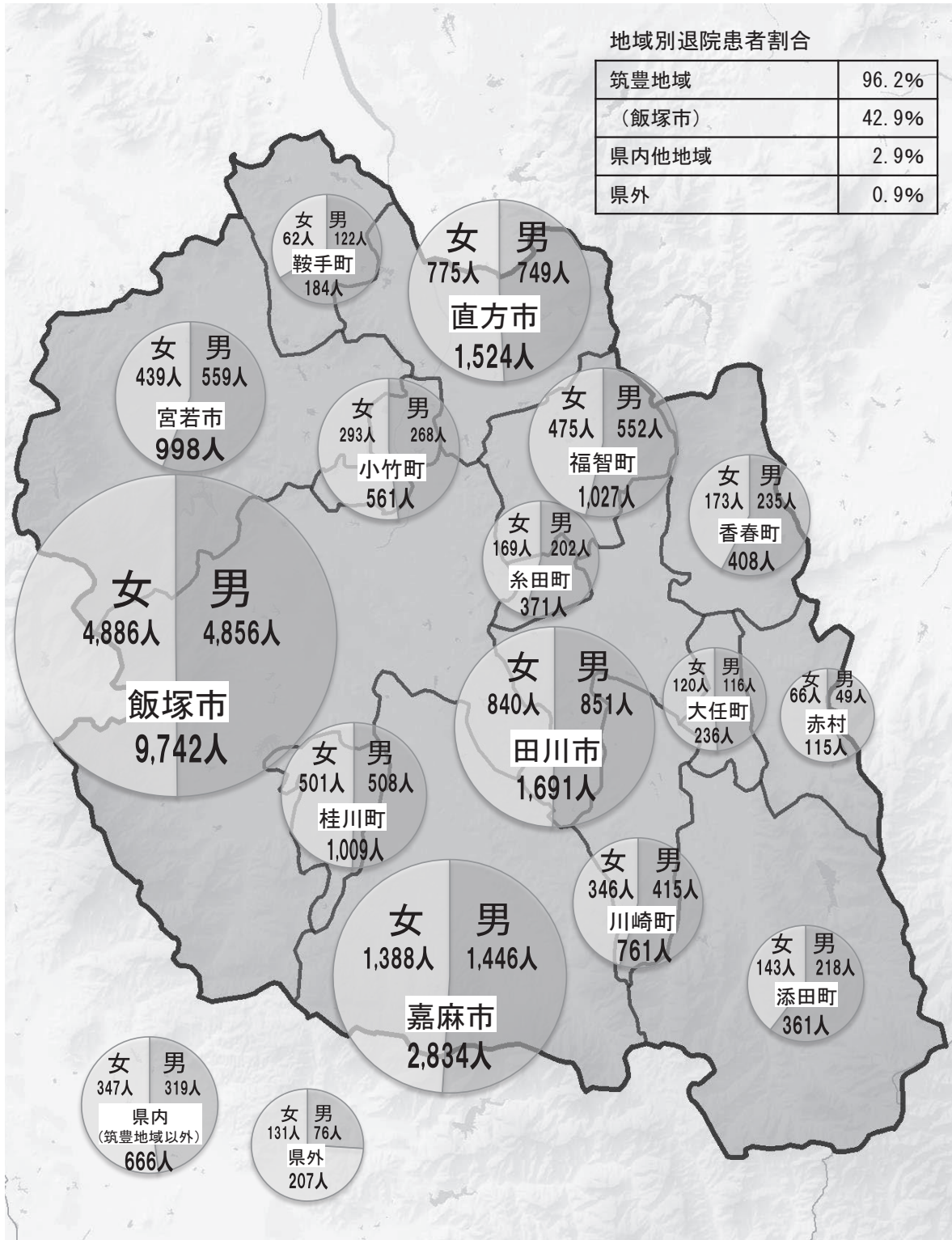
退院科	性別	0 ～ 9	10 ～ 19	20 ～ 29	30 ～ 39	40 ～ 49	50 ～ 59	60 ～ 69	70 ～ 79	80 ～ 89	90歳 ～	合計	75歳以上 (再掲)
眼科	男	3	0	1	5	12	24	83	111	72	3	314	120
	女	4	0	2	3	6	21	92	127	87	20	362	166
耳鼻咽喉科	男	18	15	30	41	25	40	49	45	15	0	278	35
	女	22	13	24	9	20	21	48	36	9	0	202	26
小児外科	男	71	23	0	0	0	0	0	0	0	0	94	0
	女	45	10	0	0	0	0	0	0	0	0	55	0
脳神経外科	男	3	4	9	5	20	35	80	99	71	19	345	133
	女	2	2	2	4	15	24	46	74	100	26	295	166
歯科口腔外科	男	17	6	11	8	5	6	6	6	4	1	70	9
	女	9	5	12	10	14	7	17	9	9	4	96	15
呼吸器外科	男	0	3	9	4	12	24	55	107	27	2	243	71
	女	0	0	0	2	6	14	33	61	31	2	149	64
心臓血管外科	男	0	0	0	4	11	28	47	90	51	11	242	111
	女	0	0	0	1	2	4	16	44	63	25	155	113
脳神経内科	男	0	2	21	5	27	42	86	136	104	14	437	177
	女	0	1	7	5	10	24	60	122	114	60	403	242
漢方診療科	男	0	8	0	1	0	0	4	4	1	0	18	5
	女	0	8	1	1	10	5	3	2	2	0	32	4
感染症科	男	0	0	0	2	0	0	0	1	0	0	3	0
	女	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	1
救急科	男	0	0	3	2	8	9	21	32	27	8	110	54
	女	0	1	0	1	1	2	7	20	35	30	97	77
形成外科	男	8	9	5	5	15	19	16	13	10	2	102	18
	女	6	2	6	8	12	8	12	9	13	4	80	24
集中治療科	男	0	1	0	0	1	5	12	10	2	2	33	9
	女	0	0	0	1	1	4	5	7	7	0	25	12

7. 地域別・年齢別・性別 退院患者数

住 所	性別	0	10	20	30	40	50	60	70	80	90歳	合計	75歳以上 (再掲)
		～9	～19	～29	～39	～49	～59	～69	～79	～89	～		
		1,454	498	656	951	1,254	1,798	4,435	5,848	4,495	1,306	22,695	8,678
飯塚市	男	344	103	100	106	226	391	1,073	1,388	960	165	4,856	1,837
	女	287	94	204	340	289	366	751	934	1,127	494	4,886	2,159
嘉麻市	男	82	39	33	34	75	116	283	424	317	43	1,446	537
	女	67	34	33	39	94	104	266	340	285	126	1,388	571
田川郡 福智町	男	43	16	8	20	10	45	125	171	98	16	552	194
	女	24	14	18	24	34	37	86	126	82	30	475	174
川崎町	男	18	8	8	6	17	42	104	141	67	4	415	130
	女	21	12	11	14	25	19	95	74	68	7	346	114
糸田町	男	18	7	3	4	7	13	48	48	49	5	202	76
	女	7	3	9	6	17	10	23	46	38	10	169	73
香春町	男	7	1	3	4	12	10	71	82	42	3	235	93
	女	8	4	1	4	5	12	24	49	55	11	173	86
添田町	男	9	2	4	4	15	9	69	66	39	1	218	68
	女	3	2	2	2	5	5	40	35	31	18	143	67
大任町	男	9	0	0	3	5	8	21	45	19	6	116	45
	女	6	4	4	11	5	3	18	51	16	2	120	38
赤村	男	1	2	0	1	0	5	7	23	8	2	49	27
	女	7	3	1	1	7	4	19	9	7	8	66	18
田川市	男	35	24	14	17	24	78	212	283	143	21	851	294
	女	83	13	23	34	55	90	145	195	147	55	840	308
直方市	男	52	26	13	22	50	64	163	217	128	14	749	238
	女	39	8	21	34	58	50	126	187	182	70	775	338
宮若市	男	61	7	11	7	24	40	142	191	66	10	559	154
	女	22	8	17	26	32	40	72	91	100	31	439	168
嘉穂郡 桂川町	男	32	16	7	13	19	45	135	147	75	19	508	156
	女	31	7	20	21	34	29	65	119	127	48	501	233
鞍手郡 小竹町	男	9	3	5	6	22	27	37	93	53	13	268	102
	女	7	1	2	11	23	10	51	80	64	44	293	168
鞍手町	男	4	0	1	2	2	6	39	48	20	0	122	37
	女	3	2	2	5	1	3	8	17	20	1	62	27
福岡県（筑豊以外）	男	41	14	15	23	23	67	51	63	15	7	319	47
	女	37	12	37	62	27	29	43	41	41	18	347	80
福岡県外	男	20	4	5	2	4	14	13	11	3	0	76	9
	女	17	5	21	43	8	7	10	13	3	4	131	12

地域別退院患者割合

筑豊地域	96.2%
(飯塚市)	42.9%
県内他地域	2.9%
県外	0.9%



9. 病理解剖件数内訳

	死亡数	解剖数	剖検率
肝臓内科	42	0	0.0%
呼吸器内科	151	1	0.7%
内分泌・糖尿病内科	1	0	0.0%
消化器内科	16	0	0.0%
血液内科	39	0	0.0%
総合診療科	199	11	0.5%
膠原病・リウマチ内科	4	0	0.0%
連携医療・緩和ケア科	346	1	0.3%
腎臓内科	12	1	8.3%
循環器内科	43	0	0.0%
小児科	5	1	20.0%
外科	11	0	0.0%
呼吸器外科	2	0	0.0%
産婦人科	2	0	0.0%
脳神経外科	59	0	0.0%
脳神経内科	46	0	0.0%
整形外科	2	0	0.0%
泌尿器科	4	0	0.0%
心臓血管外科	16	0	0.0%
救急科	204	1	0.5%
集中治療科	8	1	12.5%
合計	1,212	17	1.4%

※合計の剖検率には院外症例および死後の針組織検査症例は含まれていません。

※「死亡数」「解剖数」とともに0の診療科は記載していません。

10. 手術に関する施設基準および手術件数

医科点数表第2章第10部手術通則5号及び6号並びに歯科点数表第2章第9部通則第4号に掲げる手術の術式別手術件数（2019年1月～12月）

区分・手術名称	手術件数
(1) 区分1に分類される手術	
ア 頭蓋内腫瘍摘出術等	44
イ 黄斑下手術等	171
ウ 鼓室形成手術等	20
エ 肺悪性腫瘍手術等	180
オ 経皮的カテーテル心筋焼灼術	275
(2) 区分2に分類される手術	
ア 靭帯断裂形成手術等	9
イ 水頭症手術等	35
ウ 鼻副鼻腔悪性腫瘍手術等	0
エ 尿道形成手術等	5
オ 角膜移植術	0
カ 肝切除術等	121
キ 子宮附属器悪性腫瘍手術等	19
(3) 区分3に分類される手術	
ア 上顎骨形成術等	12
イ 上顎骨悪性腫瘍手術等	10
ウ バセドウ甲状腺全摘（亜全摘）術（両葉）	0
エ 母指化手術等	0
オ 内反足等	0
カ 食道切除再建術等	0
キ 同種腎移植術等	0
(4) 区分4に分類される手術	801
(5) その他の区分	
ア 人工関節置換術に関する手術	163
イ 乳児外科施設基準対象手術	0
ウ ペースメーカー移植術およびペースメーカー交換術に関する手術	133
エ 冠動脈、大動脈バイパス移植術（人工心肺を使用しないものを含む）および体外循環を要する手術	153
オ 経皮的冠動脈形成術、経皮的冠動脈粥腫切除術および経皮的冠動脈ステント留置術	451

〔Ⅳ〕学 術 業 績

1. 発表論文・著書

肝臓内科

著者名	表題名	著者・雑誌名	発行年月
本村健太、矢田雅佳、宮崎将之、他	当院のレンパチニブによる肝細胞癌治療の実際	レンパチニブによる肝細胞癌治療 :257-265	2019-1

呼吸器内科

著者名	表題名	著者・雑誌名	発行年月
Yoshimatsu Y, Tobino K, Sueyasu T et al.	Repetitive saliva swallowing test and water swallowing test may identify a COPD phenotype at high risk of exacerbation	The clinical Respiratory Journal 13(5):321-327	2019-3
松本衣里、吉松由貴	12. 患者さんの話を脱線させないためにはどうすればよいでしょうか？	THE 手あての医療 :180-183	2019-3

消化器内科

著者名	表題名	著者・雑誌名	発行年月
安倍俊行、淀江賢太郎、赤星和也、他	胃壁内バンパー埋没症候群に対して把持型鉗子を用いて内視鏡的治療した1例（動画付き）	Gastroenterological Endoscopy 61(1) :42-47	2019-1
赤星和也、大屋正文、古賀 聡、他	20mm を超える胃上皮下病変の治療方針決定	消化器内視鏡 31(1) :115-120	2019-1
Akahoshi K, Shiratsuchi Y, Ooya M et al.	Endoscopic submucosal dissection with a grasping-type scissors for early colorectal epithelial neoplasms: a large single-center experience	Video GIE 4:486-492	2019-10

総合診療科

著者名	表題名	著者・雑誌名	発行年月
的野多加志	細菌性赤痢	今日の治療指針 61:179-181	2019-1
清田雅智、井村 洋	Dr. 井村のクリニカルパールズ 2月号	DOCTOR'S MAGAZINE :18-21	2019-1
Nakai T, Kimura M, Yoshiyama K et al.	Endogenous endophthalmitis caused by Streptococcus agalactiae: an ophthalmologic emergency	IDCases 15:e00499	2019-1
清田雅智、井村 洋	Dr. 井村のクリニカルパールズ 3月号	DOCTOR'S MAGAZINE :18-21	2019-2
富山周作	爪からここまでわかる	Hospitalist 7(1):150-155	2019-3
鶴木友都	腰痛症	Hospitalist 7(1):137-148	2019-3
工藤仁隆	浮腫	Hospitalist 7(1):127-136	2019-3
清田雅智	外来マネジメント（編集）	Hospitalist 7(1):1-167	2019-3
Yamate R, Matono T, Goto Y et al.	Disseminated nocardiosis with Nocardia brasiliensis bacteremia in a patient with rheumatoid arthritis using tocilizumab	Journal of Infection and Chemotherapy 25(7):552-555	2019-3
清田雅智、井村 洋	Dr. 井村のクリニカルパールズ 4月号	DOCTOR'S MAGAZINE :18-21	2019-3
小杉俊介	教えられ上手な研修医になろう	レジデントノート 21(1):106-110	2019-4
清田雅智、井村 洋	Dr. 井村のクリニカルパールズ 5月号	DOCTOR'S MAGAZINE :22-25	2019-4
吉田 伸	部下から相談されたとき	治療 101(5):574-577	2019-5

小杉俊介	仲間の燃え尽きに気づく	治療 101(5):570-572	2019-5
小杉俊介	施設を越えて研修医のリーダーを作る 日本版チーフレジデントミーティング始まる	医学界新聞 :3321(3)	2019-5
清田雅智、井村 洋	Dr. 井村のクリニカルパールズ 6月号	DOCTOR'S MAGAZINE :22-25	2019-5
Mori Y, Katasako A, Matsunaga S et al.	Tetanus: remember to vaccinate	Lancet 393(10188):2331	2019-6
清田雅智、井村 洋	Dr. 井村のクリニカルパールズ 7月号	DOCTOR'S MAGAZINE :18-21	2019-6
江本 賢、清田雅智、吉野俊平、他	Woman With Acute Left Thigh Pain.	Annals of Emergency Medicine 74(1):e11-e12	2019-7
清田雅智、井村 洋	Dr. 井村のクリニカルパールズ 8月号	DOCTOR'S MAGAZINE :22-25	2019-7
清田雅智、井村 洋	Dr. 井村のクリニカルパールズ 9月号	DOCTOR'S MAGAZINE :18-21	2019-8
坂井智達	フレイルな高齢者における心房細動での抗凝固療法	Hospitalist 7(3):583-591	2019-9
清田雅智、井村 洋	Dr. 井村のクリニカルパールズ 10月号	DOCTOR'S MAGAZINE :18-21	2019-9
工藤仁隆、的野多加志	尿路感染症に対する抗菌薬の使い分け どのように治療のアプローチをしたらよいか？	Gノート :1146-1153	2019-10
小杉俊介、福井 翔	JACRA（日本チームレジデント協会）	総合診療 29(10):1163	2019-10
清田雅智、井村 洋	Dr. 井村のクリニカルパールズ 11月号	DOCTOR'S MAGAZINE :24-27	2019-10
清田雅智、井村 洋	Dr. 井村のクリニカルパールズ 12月号	DOCTOR'S MAGAZINE :18-21	2019-11
Kudou M, Matono T, Morita M et al.	Molecular analysis of virulence factors of hypermucoviscous Klebsiella pneumoniae in a diabetes patient with multifocal intramuscular and musculoskeletal abscesses	Journal of Infection and Chemotherapy 26(1):110-114	2019-12
清田雅智	あの先生にちょっと聞きたい！イマドキ医師の指導に困ったとき	日本医事新報（Web版） :49-51	2019-12
清田雅智、井村 洋	Dr. 井村のクリニカルパールズ 1月号	DOCTOR'S MAGAZINE :18-21	2019-12

膠原病・リウマチ内科

著者名	表題名	著者・雑誌名	発行年月
大田俊行	第33章 免疫血清検査	知っておきたい臨床検査値 第2版 :154-156	2019-3
大田俊行、樋口雄哉、松浦辰也、他	抗好中球細胞質抗体 (antineutrophil cytoplasmic antibody: ANCA) 測定試薬間差と ANCA 検査妥当性の検討	臨床病理 67(4):303-308	2019-4

連携医療・緩和ケア科

著者名	表題名	著者・雑誌名	発行年月
橋本法修	【連載 医師のためのビジネススキル8】ファシリテーション 盛り上がらないカンファレンスを改革せよ！	medecina 第56巻 第1号 :178-180	2019-1
岡村知直	【連載 医師のためのビジネススキル10】パワーと影響力 権限がなくてもできることはある！	medecina 第56巻 第3号 :544-547	2019-3
松本衣里、吉松由貴	12. 患者さんの話を脱線させないためにはどうすればよいのでしょうか？	THE 手あての医療 :180-183	2019-3

Ohmori T, Oya K, Okamura T et al.	Morphine Use for Heart Failure Patients with Renal Insufficiency	JOURNAL OF PALLIATIVE MEDICINE Vol22(No.6):617-618	2019-5
大森崇史、今村義浩、吉村しおり、他	退院前カンファレンスが生み出すケアの継続性	れんけい最前線 :8-11	2019-10
柏木秀行、井村洋	院内で、ある医師の行動が「チームの和を乱す」「自分でどんどん決めてしまう」など問題が指摘されています。どうしたらよいでしょうか？	総合診療 29 (10) :1189-1191	2019-10

腎臓内科

著者名	表題名	著者・雑誌名	発行年月
藤崎毅一郎	慢性腎臓病における心血管障害 不整脈 腎と透析 第86巻 1号: 89-92, 2019	腎と透析 :89-92	2019-1
佐々木 彰	一人でも慌てない! 「こんなときどうする?」の処方箋 85 ~ どうしたらいい? 低カリウム	medicina 増刊号 2019 :175-180	2019-4
佐々木 彰	透析患者の定期検査の診かた	medicina8 :1386-1390	2019-8
藤崎毅一郎、常喜信彦、新田孝作、他	心血管領域一血液透析患者と脳血流障害 Dialysis therapy, 2018 years in review	日本透析医学会誌 52 :778-780	2019-12

漢方診療科

著者名	表題名	著者・雑誌名	発行年月
吉永 亮	漢方薬が効きません③ - 食欲不振・上部消化器症状に六君子湯 -	プライマリ・ケア 4(1):22-27	2019-1
Ryo Yoshinaga, Shizukiyo Ishikawa, Katsuhiko Ayukawa et al.	Plasma Glucose Level as a Predictor of In-Hospital Mortality in Patients at an Emergency Room: A Retrospective Cohort Study	Diabetes Care 42(1):e6-e7	2019-1
井上博喜、後藤雄輔、吉永 亮、他	飯塚病院 月曜カンファレンス 臨床経験報告会より [通算 84] 『最近の治験・知見・事件!』パート II 69 漢方治療研究会特別企画「筑豊の変」～パート②～	漢方の臨床 66(1):125-133	2019-1
田原英一	漢方診療のコツと漢方医による生活指導	総合診療の G ノート おなかに漢方! 6(1):91-96	2019-2
井上博喜	おなかの疾患③ 過敏性腸症候群	総合診療の G ノート おなかに漢方! 6(1):51-57	2019-2
後藤雄輔	おなかの疾患② 機能的ディスペプシア・胃食道逆流症	総合診療の G ノート おなかに漢方! 6(1):41-50	2019-2
矢野博美	おなかの疾患① ウイルス性腸炎	総合診療の G ノート おなかに漢方! 6(1):34-40	2019-2
吉永 亮	おなかの症候④ 「咽喉頭異常感症、嘔気・嘔吐、吃逆」の場合	総合診療の G ノート おなかに漢方! 6(1):27-33	2019-2
吉永 亮	プライマリ・ケア診療の幅を広げる 飯塚☆漢方カンファレンス インフルエンザには麻黄湯?	治療 101(2) :215-221	2019-2
井上博喜、後藤雄輔、吉永 亮、他	飯塚病院 月曜カンファレンス 臨床経験報告会より [通算 85] 『最近の治験・知見・事件!』パート II 70 漢方治療研究会特別企画「筑豊の変」～パート③～	漢方の臨床 66(2):221-231	2019-2
後藤雄輔、田原英一、矢野博美、他	飯塚病院 月曜カンファレンス 臨床経験報告会より [通算 86] 『最近の治験・知見・事件!』パート II 71 難治性アトピー性皮膚炎に通脈四逆湯が奏効した一例	漢方の臨床 66 (3) :333-336	2019-3

吉永 亮	プライマリ・ケア診療の幅を広げる 飯塚☆ 漢方カンファレンス こじれた風邪には……	治療 101(4):490-495	2019-4
吉永 亮	漢方薬が効きません④ - BPSD に抑肝散 -	プライマリ・ケア 4(2):27-32	2019-4
吉永 亮、後藤雄輔、井上博喜、他	腰下肢の電撃痛に甘草附子湯が著効した1例	日本東洋医学雑誌 70(2):146-150	2019-4
吉永 亮、後藤雄輔、井上博喜、他	飯塚病院 月曜カンファレンス 臨床経験報告 会より [通算 87] 『最近の治験・知見・事件!』 パート II 72 リウマチ性多発筋痛症に対して 漢方治療が単独で有効であった一例	漢方の臨床 66(4):423-428	2019-4
矢野博美、牧 俊允、後藤雄輔、他	飯塚病院 月曜カンファレンス 臨床経験報告 会より [通算 88] 『最近の治験・知見・事件!』 パート II 73 甲状腺機能亢進症の皮膚掻痒感 に柴胡加竜骨牡蛎湯が著効した一例	漢方の臨床 66(5):521-525	2019-5
吉永 亮	プライマリ・ケア診療の幅を広げる 飯塚☆ 漢方カンファレンス 体がほてって眠れません……	治療 101(6):756-761	2019-6
井上博喜、牧 俊允、後藤雄輔、他	飯塚病院 月曜カンファレンス 臨床経験報告 会より [通算 89] 『最近の治験・知見・事件!』 パート II 74 呼吸器疾患に桂枝加芍薬湯加減 が奏効した2症例	漢方の臨床 66(6):603-607	2019-6
吉永 亮	漢方薬が効きません⑤ - 全身倦怠感に補中 益気湯 -	プライマリ・ケア 4(3):30-36	2019-7
田原英一、後藤雄輔、牧 俊允、他	飯塚病院 月曜カンファレンス 臨床経験報告 会より [通算 90] 『最近の治験・知見・事件!』 パート II 75 乙字湯が奏効したストーマ周囲 のびらんの1例	漢方の臨床 66(7):707-711	2019-7
吉永 亮	プライマリ・ケア診療の幅を広げる 飯塚☆ 漢方カンファレンス 繰り返す小児の腹痛	治療 101(8):1007-1013	2019-8
後藤雄輔、田原英一、矢野博美、 他	飯塚病院 月曜カンファレンス 臨床経験報告 会より [通算 91] 『最近の治験・知見・事件!』 パート II 76 慢性下痢症に漢方治療が奏効し た2症例	漢方の臨床 66(8):791-794	2019-8
吉永 亮、牧 俊允、後藤雄輔、他	飯塚病院 月曜カンファレンス 臨床経験報告 会より [通算 92] 『最近の治験・知見・事件!』 パート II 77 軽度外傷性脳損傷患者の過眠に 対して漢方治療が奏効した1例	漢方の臨床 66(9):873-877	2019-9
吉永 亮	漢方薬が効きません⑥ - お腹の冷えと大建 中湯 -	プライマリ・ケア 4(4):27-32	2019-10
吉永 亮	プライマリ・ケア診療の幅を広げる 飯塚☆ 漢方カンファレンス 「冷え」で悪化する過敏 性腸症候群	治療 101(10):1246-1253	2019-10
吉永 亮	内科領域 - 半夏厚朴湯と補中益気湯 -	月刊 地域医学 33(10):17-22	2019-10
吉永 亮	I 章「成人の“かぜ”のみかたのど型（急性 咽頭・扁桃炎）」漢方薬で対処するなら 桔梗 湯	かぜとかぜにみえる重症疾患の 見わけ方 かぜ診療マニュアル 第3版 :86-88	2019-10
吉永 亮	I 章「成人の“かぜ”のみかたせき型（急性 気管支炎）」漢方薬で対処するなら 麦門冬湯・ 半夏厚朴湯・辛夷清肺湯	かぜとかぜにみえる重症疾患の 見わけ方 かぜ診療マニュアル 第3版 :134-138	2019-10
吉永 亮	I 章「成人の“かぜ”のみかた 高熱のみ型 インフルエンザ」漢方薬で対処するなら	かぜとかぜにみえる重症疾患の 見わけ方 かぜ診療マニュアル 第3版 :208-209	2019-10
吉永 亮	I 章「成人の“かぜ”のみかた せき、はな、 のど型（普通感冒）」Column 漢方薬の evidence-based medicine (EBM)	かぜとかぜにみえる重症疾患の 見わけ方 かぜ診療マニュアル 第3版 :52-57	2019-10
吉永 亮	I 章「成人の“かぜ”のみかた せき、はな、 のど型（普通感冒）」漢方薬で対処するなら 麻黄湯・葛根湯・桂枝湯・小柴胡湯・柴胡桂 枝湯	かぜとかぜにみえる重症疾患の 見わけ方 かぜ診療マニュアル 第3版 :37-43	2019-10
吉永 亮	I 章「成人の“かぜ”のみかた 微熱、倦怠感 型」漢方薬で対処するなら 補中益気湯	かぜとかぜにみえる重症疾患の 見わけ方 かぜ診療マニュアル 第3版 :235-236	2019-10

吉永 亮	I章「成人の“かぜ”のみかた 下痢型」漢方薬で対処するなら 五苓散・黄芩湯	かぜとかぜにみえる重症疾患の見わけ方 かぜ診療マニュアル第3版 :246-248	2019-10
吉永 亮	I章「成人の“かぜ”のみかた 頭痛型」漢方薬で対処するなら	かぜとかぜにみえる重症疾患の見わけ方 かぜ診療マニュアル第3版 :266	2019-10
吉永 亮	II章「小児の“かぜ”のみかた」漢方の適応と治療 麻杏甘石湯	かぜとかぜにみえる重症疾患の見わけ方 かぜ診療マニュアル第3版 :347-349	2019-10
吉永 亮	III章「妊婦・授乳婦の“かぜ”のみかた」漢方の適応と治療 桂枝湯・麦門冬湯・参蘇飲・葛根湯	かぜとかぜにみえる重症疾患の見わけ方 かぜ診療マニュアル第3版 :372-374	2019-10
吉永 亮	I章「成人の“かぜ”のみかた 発疹型」漢方薬で対処するなら	かぜとかぜにみえる重症疾患の見わけ方 かぜ診療マニュアル第3版 :285-287	2019-10
吉永 亮	I章「成人の“かぜ”のみかた 関節痛型」漢方薬で対処するなら	かぜとかぜにみえる重症疾患の見わけ方 かぜ診療マニュアル第3版 :294	2019-10
吉永 亮	I章「成人の“かぜ”のみかた はな型（急性鼻・副鼻腔炎）」漢方薬で対処するなら 葛根湯加川芎辛夷・辛夷清肺湯・小青竜湯・麻黄附子細辛湯	かぜとかぜにみえる重症疾患の見わけ方 かぜ診療マニュアル第3版 :66-68	2019-10
牧 俊允、田原英一、矢野博美、他	飯塚病院 月曜カンファレンス 臨床経験報告会より [通算 94]『最近の治験・知見・事件!』パート II 79 漢方研修開始半年間で経験し、印象に残った2症例	漢方の臨床 66(11):1063-1067	2019-11
吉永 亮	プライマリ・ケア診療の幅を広げる 飯塚☆漢方カンファレンス 非常にづらい倦怠感	治療 101(12):1486-1492	2019-12
矢野博美、田原英一、井上博喜、他	飯塚病院 月曜カンファレンス 臨床経験報告会より [通算 95]『最近の治験・知見・事件!』パート II 80 飯塚病院漢方診療科入院患者の心理テスト (SDS と STAI) の検討	漢方の臨床 66(12):1154-1158	2019-12

小児科

著者名	表題名	著者・雑誌名	発行年月
大矢崇志	一般内科医のための小児科診療のコツ「小児虐待-診察のポイントと対応-」	福岡県医報 1511:39-40	2019-1

外科

著者名	表題名	著者・雑誌名	発行年月
Yoshiya S, Minagawa R, Kamo K et al.	Usability of Intraoperative Fluorescence Imaging with Indocyanine Green During Laparoscopic Cholecystectomy After Percutaneous Transhepatic Gallbladder Drainage.	World Journal of Surgery 43(1):127-133	2019-1
梶山 潔、皆川亮介、萱島寛人、他	術前 ENPD チューブ留置が有用であった腹腔鏡下臍腫瘍核出術の1例	日本内視鏡外科学会雑誌 :214-221	2019-5
Suyama Y, Emoto Y, Yukaya T et al.	Pneumothorax and Pericardial-mediastinal Emphysema.	Intem Med 58(15):2267-2268	2019-8
吉屋 匠平、皆川亮介、伊藤心二、他	NOM 時代における外傷性肝損傷に対する治療成績 -NOM の適応と限界に関する検討 -	日本腹部救急医学会雑誌 39 巻 7 号 :1179-1183	2019-9

呼吸器外科

著者名	表題名	著者・雑誌名	発行年月
Kanayama M, Osaki T, Nishizawa N et al.	Modified risk scoring system for acute exacerbation of interstitial lung disease	Asian Cardiovascular and Thoracic Annals 27(1):18-22	2019-1

Yasuda M, Osaki T, Fukuichi Y et al.	Anterior mediastinal tumor as a solitary lymph node metastasis of occult thyroid carcinoma	Journal of Surgical Case Reports 2:1-3	2019-2
小林健一、大崎敏弘、福市有希子、他	大量血胸を契機に発見された孤立性線維性腫瘍の1例	日本呼吸器外科学会雑誌 33(2):133-139	2019-3
金山雅俊、大崎敏弘、福市有希子、他	完全寛解導入5年後に局所再発した小細胞肺癌に対して救済手術を施行した1例	肺癌 59(2):163-167	2019-4
小林健一、大崎敏弘、福市有希子、他	迷走神経と肋間神経由来の胸腔内神経鞘腫症の1例	胸部外科 72(13):1123-1125	2019-12

産婦人科

著者名	表題名	著者・雑誌名	発行年月
Matsuoka S, Tsujioka H, Ando M et al.	Anti-N-methyl-D-aspartate receptor encephalitis associated with a tiny ovarian teratoma diagnosed by exploratory laparoscopy: report of two cases	Clinical and Experimental Obstetrics & Gynecology 46(2):305-308	2019-1
Fukami T, Koga H, Goto M et al.	Incidence and risk factors for postpartum hemorrhage among transvaginal deliveries at a tertiary perinatal medical facility in Japan	PLOS ONE 14(1):1-8	2019-1
Ando M, Goto M, Matsuoka S et al.	Case of uterine rupture after multiple intrauterine operations and uterine artery embolization	THE JOURNAL OF Obstetrics and Gynaecology Research 45(3):734-738	2019-3

整形外科

著者名	表題名	著者・雑誌名	発行年月
新井 堅	今日の治療指針 2019 切断肢・指再接着	今日の治療指針 私はこう治療している :75	2019-1
牛島貴宏、新井 堅、浜崎晶彦、他	橈骨遠位端骨折用 HYBRIX プレートの術後 X 線学的評価	整形外科と災害外科 :331-334	2019-3
Soejima Y, Arima J, Doi T	Diffuse Idiopathic Skeletal Hyperostosis: A Case with Dysphonia, Dysphagia and Myelopathy.	Am J Case Rep. 2019 20:349-353	2019-3
牛島貴宏、新井 堅、金堀将也、他	上肢 Heat-press injury の1例	日本マイクロ会誌 :96-100	2019-6
原 俊彦	中年期以降 前股関節症～初期の変形性股関節症	受診時年齢別 発育性股関節形成不全の診かた・治しかた :126-134	2019-11

脳神経外科

著者名	表題名	著者・雑誌名	発行年月
井上大輔、三木健嗣、森 恩、他	脳出血術後に生じた paroxysmal sympathetic hyperactivity の2症例	医学書院 脳神経外科 :79-84	2019-1
Kenji Miki, Yasutoshi Kai, Yuka Hiraki et al.	Malignant Meningioma Mimicking Chronic Subdural Hematoma	World Neurosurgery :71-74	2019-4
Kenji Miki, Yoshihiro Natori, Yasutoshi Kai et al.	How to Remove Penetrating Intracranial Large Nail	World Neurosurgery :442-445	2019-4
Kenji Miki, Takato Morioka Ayumi Sakata	Initial Experience of a Telemetry EEG Amplifier (Headset™) in the Emergent Diagnosis of Nonconvulsive Status Epilepticus	Interdisciplinary Neurosurgery :1-7	2019-5
Kenji Miki, Yoshihiro Natori Yasutoshi Kai	Neuroport, makes brain biopsy less invasive and easy even in eloquent areas	BRITISH JOURNAL OF NEUROSURGERY :1-3	2019-6

山田哲久、名取良弘、井上大輔	器質化慢性硬膜下血腫開頭術後に中枢神経系原発性びまん性大細胞型 B 細胞リンパ腫を発症した 1 例	日本神経救急学会雑誌 31(2):57-62	2019-8
Kenji Miki, Yoshihiro Natori Megumu Mori	Trigeminal Neuralgia Caused by a Persistent Primitive Trigeminal Artery Variant and Superior Cerebellar Artery	Neurologia medico-chirurgica :101-103	2019-9
山田哲久、名取良弘、森 恩	治打撲一方で血腫が縮小した器質化慢性硬膜下血腫の 2 症例	脳神経外科と漢方 5:53-57	2019-10
Miki K, Natori Y, Kai Y	Absence of Microbleeds Reduces the Risk for Recurrent Intracerebral Hemorrhage	Journal of Stroke and Cerebrovascular Diseases :1-6	2019-11

皮膚科

著者名	表題名	著者・雑誌名	発行年月
Ichiki T, Kohda F, Hiramatsu T	Early pathology in venom-induced consumption coagulopathy by Rhabdophis tigrinus(Yamakagashi snake) envenomation	Clin Toxicol 57 (7) :668-671	2019-1
小糸理紗、幸田 太、独孤 龍	Scrotal angiomyxoma	Australas J Dermatol :Epub ahead of pri	2019-9
濱崎友佳、独孤 龍、廣瀬朋子	ニボルマブ投与後に Stevens-Johnson Syndrome を生じた 2 例	皮膚科の臨床 61 : 13:1985-1989	2019-12

形成外科

著者名	表題名	著者・雑誌名	発行年月
緑川麻里	私の英語上達法	形成外科 62:157-164	2019-2

リエゾン精神科

著者名	表題名	著者・雑誌名	発行年月
猪狩圭介	強迫症、不安症群	公認心理師カリキュラム準拠 精神疾患とその治療 :137-152	2019-1

感染症科

著者名	表題名	著者・雑誌名	発行年月
的野多加志	「通常：傷に第 3 世代セフェム」→「代替薬：なし？セファレキシン？」	Medicina 56(7):1078-1080	2019-6
的野多加志	関節痛型の風邪とその類似疾患	G ノート 6(6):136-142	2019-9

歯科口腔外科

著者名	表題名	著者・雑誌名	発行年月
中松耕治	舌根の腫瘍	クイズで学ぶ口腔疾患 123 (分 担執筆) :47-48	2019-3

救急科

著者名	表題名	著者・雑誌名	発行年月
山田哲久、名取良弘	救急搬送受け入れ断り症例の検討から救急搬送受け入れ困難への対策	Neurosurgical Emergency 24(1):1-5	2019-3
山田哲久、名取良弘、香月洋紀、他	院外心肺停止に対して病院前でアミオダロンを投与した 4 例の検討	脳死・脳蘇生 第 31 巻第 2 号 :60-65	2019-6

鮎川勝彦、都留和宏	救急医療における ER-Aide システムの導入と活用およびその効果	病院羅針盤 :14-19	2019-9
片桐 欧	救急外来での「悪いニュース」の伝え方	日経メディカル :0001-0001	2019-11
鮎川勝彦	ICU における末梢静脈栄養法 (PPN)	救急・集中治療 ICU 治療指針 II :1105-1107	2019-12
鮎川勝彦	ICU における栄養サポートチームの役割	救急・集中治療 ICU 治療指針 II :1114-1116	2019-12

集中治療科

著者名	表題名	著者・雑誌名	発行年月
堅 良太、安達普至、鶴 昌太、他	広範囲重症熱傷の急性期以降に発症した重篤な胃潰瘍の 1 例	熱傷：日本熱傷学会機関誌 :31-35	2019-6
鶴 昌太、安達普至、平松俊紀、他	心電図異常を伴うピルジカイニド中毒に hemoperfusion が奏功するも再燃した 1 例	日本集中治療医学会雑誌 Vol. 26 No.5:405-6	2019-10

中央検査部

著者名	表題名	著者・雑誌名	発行年月
川嶋大輔、上原俊貴、金谷直哉、他	気管支鏡検査時の細胞検査士による Rapid On-site cytologic Evaluation (ROSE) 導入の試み - Total Quality Management (TQM) 活動を利用して -	医学検査 VOL.68 NO.1:164-172	2019-1

薬剤部

著者名	表題名	著者・雑誌名	発行年月
進 健司、小林大介、川尻雄大、他	精神科外来における診察前薬剤師面談の患者による評価	YAKUGAKU ZASSHI 139(2):317-325	2019-2
林 勝次	特集 徹底解説！ 静脈栄養・経腸栄養における相互作用とその対処法④ 経腸栄養剤との相互作用	薬局 別冊 70(9):1761-1766	2019-8
進 健司、小林大介、川尻雄大、他	電子診療録へのスタンプ貼付によるベンゾジアゼピン受容体作動薬減薬の取り組みとその評価	YAKUGAKU ZASSHI 139(11):1449-1456	2019-11

臨床工学部

著者名	表題名	著者・雑誌名	発行年月
Igeta H	Chapter14 : Clinical engineering in Japan	Clinical Engineering Handbook 2nd Edition :105-107	2019-12

臨床研究支援室

著者名	表題名	著者・雑誌名	発行年月
古賀秀信	これからの時代を生きる臨床検査技師が学んでおきたいこと、学ぶべきこと	日本臨床検査自動化学会誌 Vol.44:123-128	2019-4

看護部

著者名	表題名	著者・雑誌名	発行年月
森山由香	飯塚病院における新看護提供方式～セル看護提供方式の実際とその効果～	Healthcare note (公共・公益法人レポート・シリーズ) :1-14	2019-5

経営管理部

著者名	表題名	著者・雑誌名	発行年月
仲吉 翔	中長期計画の策定と年度事業計画への展開	病院羅針盤 :16-22	2019-10

改善推進本部

著者名	表題名	著者・雑誌名	発行年月
寺岡理恵子、兵道哲彦	現場の改善リーダーを育てる～KPO ローテートプログラム～	医事業務 :32-35	2019-1

臨床心理室

著者名	表題名	著者・雑誌名	発行年月
松尾純子	システムをつくろう！－自分も仲間もしなやかに働き続けるために－	治療 101:582-584	2019-5
門田隆浩	医師の燃え尽き症候群 コラム 「心理職への相談」	治療 101:618-619	2019-5

2. 学会発表

肝臓内科

表題名	発表者名	学会名	開催日
IVR-CT室で行う肝細胞癌に対するRFAの治療成績	田中紘介、本村健太、宮崎将之、他	第113回日本消化器病学会九州支部例会	2019-5-24～ 2019-5-25
高AFP肝細胞癌（HCC）患者に対する二次治療ラムシルマブ（RAM）の第3相REACH-2試験におけるAFP動態分析	本村健太、Richard S. Finn、工藤正俊、他	第55回日本肝臓学会総会	2019-5-30～ 2019-5-31
IVR-CT室を使用した肝細胞癌に対するRFAの有用性	田中紘介、宮崎将之、矢田雅佳、他	第55回日本肝臓学会	2019-7-4～ 2019-7-5
DAA治療後発癌の短期及び長期スクリーニングにおけるAFPの重要性	矢田雅佳、田中紘介、宮崎将之、他		
高度進行肝癌の集学的治療；レンパチニブ治療の早期治療効果、生存に寄与する因子の解析；多施設共同研究	杉本理恵、宮崎将之、上田哲弘、他		
当科での肝硬変患者における門脈血栓症の集計解析結果	森田祐輔、田中紘介、宮崎将之、他	第139回筑豊肝胆膵研究会	2019-11-12
当院でのカルニチンの使用経験と分子標的薬による二次性カルニチン欠乏症について	宮崎将之、森田祐輔、田中紘介、他		
IVR-CT室を使用した肝細胞癌に対するRFAの有用性	田中紘介、森田祐輔、宮崎将之、他		
肝癌に対するレンパチニブ治療における早期治療効果、奏効に寄与する因子の解析	宮崎将之、杉本理恵、上田哲弘、他	第23回日本肝臓学会総会	2019-11-21～ 2019-11-24
当科での肝硬変患者における門脈血栓症の集計結果	森田祐輔、田中紘介、宮崎将之、他	第43回日本肝臓学会西部会	2019-12-12～ 2019-12-13

呼吸器内科

表題名	発表者名	学会名	開催日
間質性肺炎・肺線維症の考え方と新しい治療について	飛野和則	IPF Academy in 別府	2019-1-31
延髄海綿状血管腫出血に伴う嚥下障害のため肺炎を繰り返した一例	川畑隆史、吉松由貴、山川 礼、他	第82回日本呼吸器学会・日本結核病学会九州支部春季学術講演会	2019-3-15～ 2019-3-17
大腸癌化学療法中に腔洞性病変とすりガラス陰影を呈した一例	村上行人、岡久将暢、後藤夕輝、他		
高齢者の肺炎の診断におけるCT撮影の意義の検討	末安巧人、飛野和則、岡久将暢、他		
肺炎を契機に、嚥下障害の原因疾患が診断された症例の検討	吉松由貴、飛野和則、川畑隆史、他		
延髄海綿状血管腫出血に伴う嚥下障害のため肺炎を繰り返した一例	川畑隆史、吉松由貴、山川 礼、他		
飯塚病院呼吸器内科が目指す男女共同参画の方向性	井手ひろみ		
大腸癌化学療法中に腔洞性病変とすりガラス陰影を呈した一例	村上行人、岡久将暢、後藤夕輝、他		
高齢者の肺炎の診断におけるCT撮影の意義の検討	末安巧人、飛野和則、岡久将暢、他		
当科で経験したリンパ脈管筋腫症のまとめ	飛野和則、岡久将暢、村上行人、他		
診断に苦慮した肺結核の一例	棟近 幸、飛野和則		
JRSガイドラインの「肺炎診断時のCT撮影検討条件」の妥当性の検証	末安巧人、飛野和則、岡久将暢、他	第59回日本呼吸器学会学術講演会	2019-4-11～ 2019-4-14
気管支喘息における閉塞性睡眠時無呼吸（Obstructive Sleep Apnea：OSA）	大井隆之介、安田美奈、岡久将暢、他		
肺炎で入院した患者における、入院期間中の抗菌薬再投与のリスク因子の検討	西澤早織、飛野和則、岡久将暢、他		
誤嚥性肺炎を契機に嚥下障害の原因疾患が診断された24例の検討	吉松由貴、飛野和則、岡久将暢、他		

表題名	発表者名	学会名	開催日
慢性閉塞性肺疾患増悪における末梢血好酸球数評価のタイミングとその後の増悪リスクの検討	棟近 幸、飛野和則、岡久将暢、他	第59回日本呼吸器学会学術講演会	2019-4-11～ 2019-4-14
喘息とOSA	大井隆之介	第189回北九州呼吸器懇話会	2019-6-20
全身麻酔下での胸腔鏡下胸膜生検で診断に至ったIgG4関連呼吸器疾患の一例	吉峯晃平、岡久将暢、村上行、他	第42回日本呼吸器内視鏡学会学術集会	2019-7-3～ 2019-7-5
当院における高齢者自然気胸の検討	西澤早織、飛野和則	第23回日本気胸・嚢胞性肺疾患学会総会	2019-8-30～ 2019-8-31
自然気胸にいおける、脈波センサを用いた非侵襲的胸腔内圧測定パイロットスタディー	飛野和則、西澤早織、黒澤慎也、他		
男女共同参画の実際-飯塚病院呼吸器内科の職場改革-	飛野和則	第83回日本呼吸器学会・日本結核病学会 日本サルコイドーシス/肉芽腫性疾患学会 九州支部 秋季学術講演会	2019-9-6～ 2019-9-7
小細胞肺癌のびまん性肝転移による肝障害と肝転移巣破裂による腹腔内出血を来した剖検例	後藤夕輝、飛野和則、大石善丈		
ペムプロリズマブによる硬化性胆管炎を合併した肺大細胞癌の1例	大井隆之介、飛野和則、岡久将暢、他		
当施設で施行したクライオバイオプシーのまとめ	岡久将暢		
市中病院における特発性肺線維症（IPF）診療	飛野和則		
難治性腹水貯留を主徴としたリンパ脈管筋腫症の一例	坂部光邦		
プロラクチノーマを合併したリンパ脈管筋腫症の一例	村上陽亮		
IPFの早期診断と治療	飛野和則		
肺炎を契機に、誤嚥の原因疾患が新たに診断された症例の検討	吉松由貴	第25回日本摂食嚥下リハビリテーション学会学術大会	2019-9-6～ 2019-9-7
NEWLY DIAGNOSED CAUSES OF ASPIRATION AFTER HOSPITALIZATION FOR PNEUMONIA	Yoshimatsu Y, Tobino K, Okahisa M et al.	The 9th ESSD	2019-9-19～ 2019-9-21
Serum C-reactive protein levels predict the need for surgical intervention in patients with empyema/complicated parapneumonic pleural effusions	Tsuruno K, Tobino K, Okahisa M et al.	The 29th ERS	2019-9-28～ 2019-10-2
Significance of small airway obstruction in patients with idiopathic pulmonary fibrosis	Okahisa M, Tobino K, Sakabe M et al.		
延髄海綿状血管腫出血に伴う嚥下障害のため肺炎を繰り返した一例	吉松由貴、本村大輔	第14回福岡摂食嚥下サポート研究会	2019-11-10
Additional Diagnostic Value of Chest CT in Patients with Suspected Pneumonia	Sueyasu T, Tobino K, Sakabe M et al.	The 24th Congress of the APSR	2019-11-14～ 2019-11-17
A case of lymphangioliomyomatosis who developed refractory ascites with few lung lesions.	Sakabe M, Tobino K, Okahisa M et al.		
TUBERCULOUS PLEURISY MIMICKING MESOTHELIOMA	Nishizawa S, Tobino K, Sakabe M et al.		
A case of large cell lung cancer successfully treated with pembrolizumab, but complicated with cholangitis.	Ooi R, Tobino K, Sakabe M, Okahisa M et al.		
好酸球性胃腸炎に気管支喘息、慢性好酸球性肺炎を合併した1例	後藤夕輝、飛野和則	第327回日本内科学会九州地方会	2019-11-17
Safety of cancer treatment after radiation pneumonitis in Stage 3 NSCLC (和訳：3期非小細胞肺癌患者で放射性肺臓炎発症後の肺癌治療の安全性)	吉松由貴	第60回日本肺癌学会学術集会	2019-12-6～ 2019-12-8
Osimertinib for lung squamous cell carcinoma: a case report and literature review	吉松由貴、海老規之、坂部光邦、他		

内分泌・糖尿病内科

表題名	発表者名	学会名	開催日
Ipragliflozinを追加投与した1型糖尿病25症例の検討	新城明仁、井手 誠、山下彩織、他	第57回日本糖尿病学会九州地方会	2019-10-25～ 2019-10-26
SGLT2阻害薬投与を契機に糖尿病ケトーシスを発症したDAX-1異常症の一例	高柳宏樹、坂本竜一、徳部 慧、他		

消化器内科

表題名	発表者名	学会名	開催日
胃上皮下病変外科切除例におけるEUS-FNA術前組織診断能の検討	赤星和也、久保川 賢、坂井佳世	第15回日本消化管学会総会学術集会	2019-2-1～ 2019-2-2
カプセル内視鏡で出血源と同定できた大腸毛細血管拡張症の1例	稲村和紀、安倍俊行、古賀 楓、他	第12回日本カプセル内視鏡学会学術集会	2019-2-3
小腸カプセル内視鏡が診断と治療方針決定に有用であった腸リンパ管拡張症の1例	安倍俊行、梅北慎也、赤星和也、他		
胃滑膜肉腫の一例	木村勇祐	第237回GCC	2019-2-15
胃滑膜肉腫の一例	木村勇祐	第397回筑豊消化器病研究会	2019-3-27
十二指腸腺腫の一例	丸岡諒平		
EUS-FNA for duodenal hypoechoic solid subepithelial lesion diagnosed by EUS	Akahoshi K, Akahoshi K, Shiratsuchi Y et al.	ESGE DAYS 2019	2019-4-4～ 2019-4-6
Endoscopic submucosal dissection using the short type clutch cutter for superficial non-ampullary duodenal epithelial tumors	Akahoshi K, Kubokawa M, Ooya M et al.		
表在性非乳頭部十二指腸腫瘍に対するESDの現状と臨床的有用性の検討：多施設共同研究	丸岡諒平、赤星和也、長田繁樹、他	第107回日本消化器内視鏡学会九州支部例会	2019-5-24～ 2019-5-25
治療困難例に対する電気水圧衝撃波結石破碎術（EHL）の有用性の検討	野崎哲史、宜保淳也、稲村和紀、他		
当科における膵癌終末期医療の現状	安倍俊行、宜保淳也、野崎哲史、他	第113回日本消化器病学会九州支部例会	2019-5-24～ 2019-5-25
EUS上低エコー充実性腫瘍を呈する十二指腸上皮下病変に対するEUS-FNA診断	赤星和明、赤星和也、久保川 賢、他	第97回日本消化器内視鏡学会総会	2019-5-31～ 2019-6-2
当院における表在性非乳頭部十二指腸腫瘍に対するロングフード併用Clutch Cutter short-type 単独ESDのクリニカルアウトカム	赤星和也、久保川 賢、宜保淳也		
EUS上低エコー充実性腫瘍を呈する胃上皮下病変に対するEUS-FNA診断	赤星和也、久保川 賢、宜保淳也		
十二指腸・空腸静脈瘤に対するcyanoacrylate系薬剤（CA）を用いた内視鏡治療（ET）の有用性	久保川 賢、木村勇祐、赤星和也		
食道悪性黒色腫の一例	梅北慎也	第398回筑豊消化器病研究会	2019-6-26
食道悪性黒色腫の一例	梅北慎也	第239回GCC	2019-7-19
当院での血液透析患者における食道静脈瘤治療成績の検討	丸岡諒平、吉本貴則、梅北慎也、他	第26回日本門脈圧亢進症学会総会	2019-9-12～ 2019-9-13
当院での胃静脈瘤出血に対する急性期治療の現状	梅北慎也、久保川 賢、赤星和也、他		
Technical outcome by organ of endoscopic submucosal dissection using the clutch cutter for early digestive tract epithelial tumors	Akahoshi K, Kubokawa M, Gibo J et al.	World Congress of Gastroenterology 2019	2019-9-21～ 2019-9-24
胃粘膜下腫瘍様形態を呈し、ESDで診断治療しえた粘膜下層に限局する異所性胃腺由来の粘膜内胃癌の1例	長田繁樹	第400回筑豊消化器病学会	2019-9-25
胃底腺型胃癌について	稲村和紀		
EUS-FNAで診断に至った乳癌の転移性食道腫瘍の1例	福谷洋樹、小副川 敬、赤星和也、他	第114回日本消化器病学会九州支部例会	2019-11-8～ 2019-11-9
EUS-FNAが早期診断及び治療方針決定に有用であった小型十二指腸GISTの一例	吉本貴則、赤星和也、久保川 賢、他		

表題名	発表者名	学会名	開催日
胃粘膜下腫瘍様形態を呈し、ESDで診断、治療しえた、粘膜下層に局限する異所性胃腺由来の粘膜内胃癌の一例	長田繁樹、赤星和也、久保川 賢、他	第108回日本消化器内視鏡学会九州支部例会	2019-11-8～ 2019-11-9
外科手術を要する著明な狭窄をきたした腐蝕性食道炎・胃炎の一例	梅北慎也、淀江賢太郎、赤星和也、他		
ロングフード法、Pocket Creation Method、S-Oclipを用いたClutch Cutter ESDでR0切除し得た幽門輪にかかる早期胃癌の1例	小副川 敬、福谷洋樹、赤星和也、他		
Clutch Cutter ESD用新型STフードの開発と使用経験	赤星和也、久保川 賢、宜保淳也、他		
臓器別にみた早期消化管上皮性腫瘍に対するClutch Cutter ESDの手技成績	赤星和也、久保川 賢、宜保淳也、他	第98回日本消化器内視鏡学会総会	2019-11-21～ 2019-11-24
当院で経験した肝管空腸吻合部静脈瘤5症例の診療経過の検討	久保川 賢、長田繁樹、木村勇祐、他	第61回日本消化器病学会大会	2019-11-21～ 2019-11-24
早期食道癌を伴う平滑筋腫の一例	丸岡諒平	第401回筑豊消化器病研究会	2019-11-27～ 2019-11-27
胃滑膜肉腫の一例	木村勇祐	第22回九州胃と腸大会	2019-12-7

血液内科

表題名	発表者名	学会名	開催日
白血病とは	油布祐二	第29回飯塚病院住民医療協議会	2019-6-13
血液内科・総合診療科、それぞれの立場からの汎血球減少	八木 悠	第326回日本内科学会九州地方会	2019-8-17
血液疾患の病態について-特に救急隊が知っておくべきこと-	油布祐二	第250回筑豊地域救命救急研究会	2019-8-29
飯塚病院における働き方改革の導入	喜安純一	第1回 Novartis Hematology Web Seminar	2019-9-24
自然退縮したメトトレキサート関連T細胞リンパ増殖性疾患の一例	大山 真、喜安純一、荒川文子、他	第81回日本血液学会学術集会	2019-10-11～ 2019-10-13
大動脈瘤に起因した播種性血管内凝固症候群に対して rivaroxaban が有効であった1例	八木 悠、喜安純一、松島孝充、他		

総合診療科

表題名	発表者名	学会名	開催日
専門研修って実際どうよ？専攻医で情報交換しませんか？！	金 弘子	第14回九州支部総会・講習会	2019-2-9～ 2019-2-10
当科における中心静脈カテーテル留置教育に関する取り組み	森 雄亮、小杉俊介、吉野俊平、他	第18回日本病院総合診療医学会学術総会	2019-2-15～ 2019-2-16
敗血症性肺塞栓、肺化膿症を合併した血液培養陰性であった菌性感染症の1例	木安貴大、片桐 欧、宮崎 悠、他		
時間外労働の原因調査として、入院依頼時間の集積と今後の対応策の提案	工藤仁隆、小杉俊介、江本 賢、他		
初期研修2年次のローテーションで総合内科を選択する因子の検討	小杉俊介、井村 洋		
シスプラチン投与後の急性症候性低Na血症に対して3%食塩液による急速補正で後遺症なく救命できた一例	長谷川雄一、工藤仁隆、富山周作、他		
失神と認知していたが、実際は意識障害であり最終的に脳底動脈閉塞による脳幹梗塞であった一例	泉 汀、小杉俊介、齊藤悠太、井村 洋、他		
脳梗塞後の右顔面神経麻痺や筋力低下が耳下腺唾液排出低下を来し、反復性耳下腺炎を認めた一例	宮崎 悠、片桐 欧、小田浩之、他		
総合病院の総合診療科 どうすれば？	井村 洋		
癌性髄膜腫に尿閉を合併したMeningitis-Retention Syndromeの1例	片桐 欧、吉野俊平、松永 諭、他		

表題名	発表者名	学会名	開催日
リンパ節転移の病理・免疫染色・文献的検索により診断し得た耳下腺原発Lymphoepithelial carcinomaの一例	土方貴道、鶴木友都、清田雅智、他	第116回日本内科学会総会・講演会	2019-4-26～ 2019-4-28
Impact of "Critical Care General Internal Medicine (CC-GIM) " outside the Intensive Care Unit (ICU) on the other departments in Japan	Satoshi Matsunaga	2019 SGIM Annual Meeting	2019-5-8～ 2019-5-11
How to encourage Young Doctors Movement within Asia-Pacific Region and all over the world	Yoshida S	WONCA Asia Pacific Region Conferencs 2019	2019-5-15～ 2019-5-19
Japanese,Korean and UK delegates of official exchange program	Watanabe I		
Building your Future as a Family Physician through Mentorship:Steps for Junior Physicians	Matsumoto T		
難治性癌性疼痛患者への対応 -在宅における麻薬持続皮下注射の薬剤・デバイス選択の考察	赤岩 喬	第10回日本プライマリ・ケア連合学会学術大会	2019-5-17～ 2019-5-19
体重減少を主訴とした免疫不全状態でない高齢者のサイトメガロウイルス腸炎	渡部なつき		
一過性の発熱、頭痛を精査し巨細胞性動脈炎と診断した一例	石松 咲		
専攻医に優しい九州へ「KOPe：九州沖縄地区での定例オンラインレポートフォーラム勉強会」の活動報告 第3報	金 弘子		
高齢者心不全ってどうする？病院総合医が教えます！明日から使えるエビデンス集	小杉俊介		
終末期患者に対して急性期より在宅医療を導入し、主治医として継続して診療を行った症例	長谷川順一		
在宅療養支援病院における在宅非がん高齢患者の終末期皮下輸液の実態と生存期間に関する記述研究	北野峻介		
Lewy小体型認知症の終末期における摂食嚥下障害に対し、臨床4分割倫理を用いて経管栄養を開始した1例	中安一夫		
ギランバレー症候群に対し、個別性を重視した亜急性期ケアを行った1例	木安貴大		
Early-career physician committee 企画 医療×法律 ～現役弁護士を交えて法律について楽しく学びましょう～	富山周作	ACP（米国内科学会）日本支部年次総会	2019-6-8～ 2019-6-9
A rare case of Ramsay Hunt syndrome that involved cranial nerves IX and X ,but not VII or VIII	長谷川雄一、富山周作、中村権一、他		
RaTs Clinical Communication Skills ～臨床コミュニケーションの教え方～	小杉俊介、岡村知直		
Odontogenic bacteremia in a patient complaining of fever with shaking chills : a case report	堀田亘馬、山口裕崇、井村 洋		
Point of Care Ultrasound(POCUS) 肺エコーを用いた呼吸不全へのアプローチ	吉野俊平		
Clinical Problem solvong：問題解決に必要な思考過程とは	清田雅智		
A rare elderly case of survival from colon cancer-related infected aortic aneurysm caused by Clostridium septicum	工藤仁隆、小糸 秀、小野正詩、他		
Myocarditis and pericarditis caused by mesalazine in a 16-year-old with ulcerative colitis	鈴木祥太郎、的野多加志、梅北慎也、他		
Oncologic emergency:An update in management	吉野俊平		
Septic shock:An update in management	吉野俊平		

表題名	発表者名	学会名	開催日
Sjogren's syndrome in an elderly woman presenting with gait disturbance : A case report	小糸 秀、工藤仁隆、井上友美、他	ACP（米国内科学会）日本支部年次総会	2019-6-8～ 2019-6-9
チャレンジ！国際学会発表	小杉俊介	第51回日本医学教育学会大会	2019-7-26～ 2019-7-27
The effectiveness of "educational teams" for developing the teaching skills of senior residents	Kosugi S	AMEE 2019	2019-8-24～ 2019-8-28
incidental diagnosisを適切に振り返ろう～ラッキー診断症例とover diagnosisの狭間で～	江本 賢	第19回日本病院総合診療医学会学術総会	2019-9-14～ 2019-9-15
「incidental diagnosisを適切に振り返ろう～ラッキー診断症例とover diagnosisの狭間で～」	小糸 秀		
心外膜炎を契機に診断した全身性エリテマトーデスの一例	黒川智美、富山周作、清田雅智、他		
心窩部痛の原因検索目的で行った上部消化管内視鏡検査で偶発的に見つかったランタン沈着症の1例	穴戸諒平、菅原大輔、富山周作、他		
DLSTにより被疑薬を想定した急性汎発性発疹性膿疱症（AGEP）の一例	岩佐和樹、鈴木祥太郎、井村 洋		
病院総合医教育の最前線～新たななる挑戦～	松永 諭		
Multiple myeloma with delayed diagnosis	Sugawara D	The 12th Annual Diagnostic Error in Medicine Conference	2019-11-10～ 2019-11-13
Long-time diagnostic delay of a young woman with a chronic generalized body pain.	Sakai T, Imura H		
チーフレジデントの1日 -チーフレジデントは何をしているのか？-	菅原大輔	第8回日本プライマリ・ケア連合学会関東甲信越ブロック地方会	2019-11-17
チーフレジデントの1日 -チーフレジデントは何をしているのか？-	長谷川雄一		
チーフレジデントの1日 -チーフレジデントは何をしているのか？-	小杉俊介		

膠原病・リウマチ内科

表題名	発表者名	学会名	開催日
無顆粒球症を呈した全身性エリテマトーデスの一例	日浦惇貴、内野愛弓、大田俊行、他	第57回九州リウマチ学会	2019-3-9～ 2019-3-10

連携医療・緩和ケア科

表題名	発表者名	学会名	開催日
家庭医必須の飯塚発「全方位型緩和ケアキャンオン」	柏木秀行、大森崇史、岡村知直	第14回若手医師のための家庭医療学冬季セミナー	2019-2-9～ 2019-2-10
様々な症状を呈し、診断に難渋した癌性髄膜炎の1例	松本弥一郎	第10回日本プライマリ・ケア連合学会学術大会	2019-5-17～ 2019-5-19
Investigation of optimal timing for palliative care referral in patients with chronic heart failure	Ohmori T, Imamura Y, Inoue S et al.	The 16th World Congress of the European Association for Palliative Care	2019-5-23～ 2019-5-25
飯塚病院緩和ケア科のダイバーシティマネジメント	柏木秀行		
救急×緩和ケアセミナーの試み	岡村知直	第24回日本緩和医療学会学術大会	2019-6-21～ 2019-6-22
緩和医療に主に従事する医師による、介護療養病床・医療療養病床（20対1）をもつ医療機関へのアウトリーチの有用性について	大屋清文、柏木秀行、岡村知直、他		
非緩和医療医が意識障害の原因として医療用麻薬の退薬症状を想起できず診断に苦慮した2症例のRCA分析	松本衣里、大屋清文、岡村知直、他		
緩和医療に主に従事する医師による、介護療養病床・医療療養病床（20対1）をもつ医療機関へのアウトリーチで同定された問題点と推奨について	大屋清文、柏木秀行、岡村知直、他		

表題名	発表者名	学会名	開催日
飯塚病院におけるハートサポートチームの立ち上げと実践 「一歩進めるために必要なものは何か」	大森崇史	第24回日本緩和医療学会学術大会	2019-6-21～ 2019-6-22
重症下肢虚血に対し、症状緩和・意思決定支援が有効であった3症例	石山雄太、松本衣里、中山隆弘、他		
スキルとしての経営学	柏木秀行		
ホームホスピスを利用し、日常生活に近い形でその地域での療養が可能となった1例	松本弥一郎、立石紀子、廣門優子、他	第1回日本在宅医療連合学会大会	2019-7-14～ 2019-7-15
緩和ケア科内における研修医向け臨床腫瘍トレーニングプログラムの立ち上げ報告	石山雄太	第17回日本臨床腫瘍学会学術集会	2019-7-18～ 2019-7-20
Association between bathing and survival in patients with advanced cancer in the terminally ill period:a propensity score analysis	Oya K, Kashiwagi H, Morita T et al.	The 13th Asia Pacific Hospice Conference	2019-8-1～ 2019-8-4
The incidence of tuberculosis at palliative care units in Japan.	Kashiwagi H		
ヒドロモルフォンに対する臨床家としての妥当な態度を探る	柏木秀行	第2回日本緩和医療学会中国・四国支部学術大会	2019-8-30～ 2019-8-31
セデーションコース（処置時の鎮静及び鎮痛シミュレーション）イントロ版	石上雄一郎、本間洋輔、吉村真一郎、他	第19回日本病院総合診療医学会学術集会	2019-9-14～ 2019-9-15
飯塚病院連携医療・緩和ケア科へ転院となり、在宅診療から再入院、お看取りまで関わった一症例	中山隆弘	第9回緩和・疼痛管理研究会	2019-9-27
救急の現場で使える緩和ケア知識の啓蒙の取り組み	石上雄一郎	第47回日本救急医学会総会・学術集会	2019-10-2～ 2019-10-4
腎機能障害を伴う心不全患者に対するモルヒネ使用	大森崇史	第23回日本心不全学会学術集会	2019-10-4～ 2019-10-6
悪い知らせの伝え方～スキルとしてのコミュニケーションを考える～	柏木秀行		
緩和医療における医療安全につなぐ道しるべ！ 「医療安全～医師の立場から」	岡村知直	第29回日本医療薬学会年会	2019-11-4
地域連携、多職種連携	柏木秀行、世利佐知子	第2回日本緩和医療学会九州支部学術大会	2019-12-14

循環器内科

表題名	発表者名	学会名	開催日
病院前心電図伝送は再灌流時間を短縮するか：地方基幹病院での検討	川上将司、稲永慶太、堤孝樹、他	第6回12誘導心電図伝送を考える会	2019-1-19
A case of successful endovascular therapy for ALI after Forgaty catheter	古川正一郎、今村義浩、稲永慶太、他	Japan Endovascular Treatment Conference	2019-2-22～ 2019-2-24
冠動脈疾患患者における抗凝固療法について	古川正一郎、稲永慶太、今村義浩、他	飯塚医師会学術講演会	2019-2-28
迅速な診断と治療方針決定によって救命し得た急性心筋梗塞後左室自由壁破裂による院外心停止の一例	川上将司、稲永慶太、堤孝樹、他	第46回日本集中治療医学会学術集会	2019-3-1
The Importance of Time to Extracorporeal Cardiopulmonary Resuscitation in Patients with Out-of-Hospital Cardiac Arrest due to Acute Coronary Syndrome	Kawakami S, Tahara Y, Noguchi T et al.	第83回日本循環器学会学術集会	2019-3-29
単純CTがST上昇型心筋梗塞の責任病変の同定に有用であった1例	池江隆志、川上将司	第70回北九州循環器懇談会	2019-4-19
高度石灰化を有する左冠動脈前下行枝病変のPCI	川上将司	第5回 K-BOND (Kyushu ambitious interventional cardiologist conference)	2019-4-26
来院時収縮期心雑音を認め心原性ショックを合併した急性前壁心筋梗塞の一例	片迫 彩、川上将司、池江隆志、他	第126回日本循環器学会九州地方会	2019-6-29
脳梗塞によるADL低下を契機に発症した platypnea-orthodeoxia syndrome の一例	川上将司、片迫 彩、池江隆志、他		
単純CTがST上昇型心筋梗塞の責任病変同定に有用であった1例	池江隆志、川上将司、片迫 彩、他		

表題名	発表者名	学会名	開催日
当院における地域包括的心不全診療の取り組み	古川正一郎、庄島耀子、前園明寛、他	第14回西日本心臓血管研究会	2019-7-7
A case of successful PV stenting for lung cancer : after obstructive shock	古川正一郎、今村義浩、稲永慶太、他	TOPIC 2019	2019-7-11
治療に工夫を要した心肺停止後の一例	古川正一郎、庄島耀子、片迫 彩、他	第71回北九州循環器懇談会	2019-8-2
急性冠症候群の初期治療の実際（ランチョンセミナー3）	川上将司	第29回日本心臓血管インターベンション治療学会 九州・沖縄地方会	2019-8-23
閉塞性ショックでの心肺停止でECMO離脱のために肺静脈ステントが著効した一例	古川正一郎、稲永慶太、片迫 彩、他	第29回日本心臓血管インターベンション治療学会 九州・沖縄地方会	2019-8-24
心筋炎の一例	古川正一郎、今村義浩、稲永慶太、他	第30回玄海心不全カンファレンス	2019-9-6
ST上昇心筋梗塞患者における病院到着前のカテーテル治療チーム起動と再灌流までの時間の検討	川上将司、井上修二郎	第67回日本心臓病学会学術集会	2019-9-13～ 2019-9-15
心停止から蘇生まで126分要したが、神経学的合併症なく社会復帰に至った症例	前園明寛	第28回日本心臓血管インターベンション治療学会	2019-9-19～ 2019-9-21
The relationship between pre-arrival activation of catheterization laboratory and time to reperfusion in ST-elevation myocardial infarction patients	川上将司、片迫 彩、庄島耀子、他		
A case of RCA CTO	稲永慶太	CCT2019	2019-10-24～ 2019-10-26
POBA summit in Fukuoka 2019 Case Conference	古川正一郎、池江隆志、今村義浩、他	DCB meets POBA Summit	2019-10-30
Association Between Time To First Administration Of Epinephrine After Defibrillation And Outcome In Out-of-hospital Cardiac Arrest Patients With Shockable Rhythm	Kawakami S, Tahara Y, Noguchi T et al.	American Heart Association Resuscitation Science Symposium 2019	2019-11-16～ 2019-11-17
劇症型心筋炎で補助循環を用いた症例の検討	川上将司	ARIA	2019-11-21～ 2019-11-24
(コメンテーター) PCIライブ13 Calc (Rotablator) ~Physiology~	川上将司		
Leriche 症候群に対する EVT 後2nd Session EVTでProximal BNSが変形した一例	古川正一郎、池江隆志、今村義浩、他		
当院での PAD 診療についてー内科的視点からー	古川正一郎、今村義浩、稲永慶太、他	飯塚医師会学術講演会	2019-11-29
閉塞性ショックでの心肺停止でECMO離脱のために肺静脈ステントが著効した一例	古川正一郎、池江隆志、今村義浩、他	CPAC 2019	2019-11-29～ 2019-11-30
頻回な失神を契機に判明し、早期治療介入により救命し得た透析関連肺高血圧症の一例	片迫 彩、吉田賢明、池江隆志、他	第127回日本循環器学会九州地方会	2019-12-7

脳神経内科

表題名	発表者名	学会名	開催日
診断治療に難渋した Contactin-1陽性 CIDP の1例	前田教寿、前田泰宏、宇根隼人、他	第225回日本神経学会九州地方会	2019-3-16
外眼筋麻痺で発症した浸潤性副鼻腔アスペルギルス症の1例	高瀬敬一郎、吉村 基、前田泰宏、他		
Gray but not white matter astroglia-specific connexin 43 ablation ameliorates neuroinflammation	Une H, Yamasaki R, Ulfa Camelia Indiasari et al.	The 60th 日本神経学会学術大会	2019-5-22～ 2019-5-25
脊髄性筋萎縮症Ⅲ型病との鑑別を要したセントラルコア病の1例	前田教寿、前田泰宏、宇根隼人、他	第226回日本神経学会九州地方会	2019-6-29
胸髄に長大な T2 高信号病変を呈した脊髄硬膜動脈瘻の一例	宇根隼人、劉 景晨、前田泰宏、他	第227回日本神経学会九州地方会	2019-9-7～ 2019-9-7
Botulinum toxin block with cervical traction as a treatment for dropped head syndrome of Parkinson's disease	Takase K	European Congress of NeuroRehabilitation 2019	2019-10-9～ 2019-10-12

表題名	発表者名	学会名	開催日
救急外来における血清プロラクチン濃度測定 の有用性の検討	進村光規、劉 景晨、前田泰宏、他	第53回日本てんかん学会学術 集会	2019-10-31～ 2019-11-2
そのお薬飲みやすいですか？ — 抗てんかん薬 の形状による内服困難の検討—	高瀬敬一郎		
胸部大動脈瘤による右心房圧排により奇異性 塞栓 と platypnea-orthodeoxia syndrome (P OS) を呈した1例	高瀬敬一郎	第228回日本神経学会九州地方会	2019-12-7

腎臓内科

表題名	発表者名	学会名	開催日
Secondary Peritonitis Associated with Mucormycosis in a Peritoneal Dialysis Patient:a a Case Report	服部宗軒、平川 亮	第39回アメリカ透析学会	2019-3-16～ 2019-3-20
Peritonitis in a Peritoneal Dialysis Patient due to Moraxella Osloensis and Staphylococcus Epidermidis:a Case Report	原納 遥、佐々木 彰、平川 亮、他		
context で頭に刻む高血圧ガイドライン	佐々木 彰	ACP 米国内科学会	2019-6-8～ 2019-6-9
Serum alkaline phosphatase level as a predictor of bacteremia in maintenance hemodialysis patients who suspected of bacteremia in outpatient setting; multicenter cross — sectional study	佐々木 彰	第56回 EDTA2019	2019-6-14～ 2019-6-15
DO EARLY ECHOCARDIOGRAPHIC FINDINGS IN ACUTE DECOMPENSATED HEART FAILURE PREDICT SHORT—TERM RENAL PROGNOSIS AND READMISSION ?	服部宗軒、佐々木 彰		
学術委員会企画2019Year in review 「心血管 疾患」	藤崎毅一郎	第64回日本透析医学会学術集 会・総会	2019-6-28～ 2019-6-30
腹膜透析患者においてカルニチンは有効なパ ラメーターとなりうるか？	古閑和生		
非定型抗酸菌症による尿細管間質性腎炎の発 症例	藤崎毅一郎、服部宗軒、中俣悠亮、 他	第10回福岡県透析医学会学術 集会・総会	2019-10-27
カルシフィラキスとの鑑別に苦慮し致死 的な壊死性筋膜炎の経過を辿った腹膜透析患者 の一例	古閑和生、中俣悠亮、米谷拓朗、 他	第25回日本腹膜透析医学会学 術集会・総会	2019-11-23～ 2019-11-24

漢方診療科

表題名	発表者名	学会名	開催日
Introduction to Kampo and its application in primary care and general hospitals	吉永 亮	WONCA APR Conference 2019	2019-5-15～ 2019-5-18
Introduction to Kampo and its application in primary care and general hospitals	吉永 亮	第10回日本プライマリ・ケア 連合学会学術大会	2019-5-17～ 2019-5-19
卒後研修カリキュラムに沿った漢方診療科 研修の実際、5年前との比較	矢野博美	第70回日本東洋医学会学術総会	2019-6-28～ 2019-6-30
軽度外傷性脳損傷による頭痛、睡眠障害など の諸症状に対して漢方治療が奏効した2例	吉永 亮		
シェーグレン症候群に伴う発熱に通脈四逆湯 が有効であった1症例	後藤雄輔		
四物湯により精神症状の改善をみた5例	田原英一		
漢方薬の副作用に関するシンポジウム	田原英一		
心下痞堅を目標に木防己湯を使用し有効で あった2症例	井上博喜		
著明な栄養障害に五苓散が奏功した1例	田原英一	第29回筑豊漢方研究会	2019-10-6

画像診療科

表題名	発表者名	学会名	開催日
腹部刺創患者に対する死因究明の画像検査	三浦亘智	第16回法医画像勉強会	2019-3-9
十二指腸潰瘍出血に対し2回塞栓術を施行した1例	三浦亘智、鎌野宏礼	第39回福岡IVRカンファレンス	2019-9-27
重症熱傷患者の画像経過	三浦亘智	第17回法医画像勉強会	2019-10-1

小児科

表題名	発表者名	学会名	開催日
発達障害の見方、考え方、つなぎ方	大矢崇志	第305回筑豊小児科医会勉強会	2019-2-7～ 2019-2-7
過剰な食物除去と・日光忌避が原因で14歳でビタミンD欠乏性低Ca血症となったアトピー性皮膚炎の症例報告	岡松由記、齊木玲央、田中祥一郎	第1回日本アレルギー学会九州・沖縄支部地方会	2019-2-16
平成30年 飯塚病院における小児診療のまとめ	神田 洋	第306回筑豊小児科医会勉強会	2019-3-14
幼児期から続く食事制限・日光回避でビタミンD欠乏性低Ca血症を来した14歳男児	齊木玲央、北城恵史郎、山下大輔、他	第122回日本小児科学会学術集会	2019-4-19～ 2019-4-21
過去5年間に飯塚病院に受診した小児アナフィラキシー 110例の検討	岡松由記、松永 遼、田中ゆかり、他		
在宅移行したcampomelic dysplasia の一例	田中ゆかり、嘉村拓朗、喜多村美幸、他		
舌下免疫療法の地域連携 - 市中病院の取り組み -	田中祥一郎、田中ゆかり、坂口万里江、他		
Analysis of the etiology of fever in infants aged ≤ 90 days using multiplex real-time PCR and 16S rRNA gene amplicon sequencing.	Tanaka Y, Gotoh K, Miyata I et al.	The 37th Annual Meeting of the European Society for Paediatric Infectious Diseases	2019-5-6～ 2019-5-11
知っておきたい乳児におけるビタミンD欠乏症～母乳栄養児におけるピットフォール～	齊木玲央	第48回筑豊周産期懇話会	2019-6-6
背面の皮下血腫により発症したビタミンK欠乏症を合併した重症血友病Aの新生児症例	齊木玲央、松尾陽子	第29回日本産婦人科・新生児血液学会学術集会	2019-6-7～ 2019-6-8
過剰な食物除去と日光忌避でビタミンD欠乏性低Ca血症となった14歳のアトピー性皮膚炎患者の報告	岡松由記、齊木玲央、八ッ賀秀一、他	第68回日本アレルギー学会学術大会	2019-6-14～ 2019-6-16
最近10年間の当院における来院時心肺停止(CPAOA) 小児48例のまとめ	森田啓督、岡松由記	第19回九州・沖縄小児救急医学研究会	2019-7-27
当院で経験した施設外分娩の特徴	大矢崇志、津村由紀、山野淳子、他	第11回日本子ども虐待医学会学術集会	2019-7-27～ 2019-7-28
当院に入院する喘息患者のまとめ	岡松由記	第310回筑豊小児科医会勉強会	2019-8-22
期末試験終了後より背部痛および両下肢不全麻痺を認めた14歳女児例	田中悠平、大矢崇志、岡松由記	第29回日本外来小児科学会年次集会	2019-8-31～ 2019-9-1
過去3シーズンにおけるヒトメタニューモウイルス感染症98例の検討	津村直弥、田中悠平、嘉村拓朗、他	第506回日本小児科学会福岡地方会例会	2019-10-12
小児期に心肺停止で救急搬送された当院出生児の検討－出生時からの関わりについて－	森田啓督、神田 洋	第64回日本新生児成育医学会・学術集会	2019-11-27～ 2019-11-29
頬部巨大血管腫に対してプロプラノロール内服療法を行った超低出生体重児の一例	齊木玲央	第313回筑豊小児科医会勉強会	2019-12-5
低ホスファターゼ症女児例の4年間の酵素補充療法の経験	田中ゆかり、齊木玲央、岡松由記、他	第507回日本小児科学会福岡地方会例会	2019-12-14

外科 / 消化管・内視鏡外科 / 肝胆膵外科 / 臨床腫瘍科

表題名	発表者名	学会名	開催日
The treatment of primary gastric synovial sarcoma by laparoscopic surgery :A case report	平山佳愛、古賀 聡、木村和恵、他	第91回日本胃癌学会総会	2019-2-27～ 2019-3-1
潜在性乳癌に対し乳房切除+リンパ節郭清を施行した一例	松枝花奈、武谷憲二、平山佳愛、他	第16回日本乳癌学会九州地方会	2019-3-2～ 2019-3-3
約7年間、フルベストラントでSDを維持できた再発乳癌の1例	武谷憲二、松枝花奈、利田賢哉、他		
右外鼠径ヘルニア偽還納の一例	利田賢哉、由茅隆文、松枝花奈、他	第55回日本腹部救急医学会総会	2019-3-7～ 2019-3-9
初回手術で固定せずに再発した盲腸捻転の1例	武谷憲二、松枝花奈、利田賢哉、他		
当院における成人腸重積の検討	由茅隆文、木村和恵、利田賢哉、他		
穿孔を来した4型大腸癌の1例	平山佳愛、甲斐正徳、松枝花奈、他		
当院における肝切除周術期管理の現状～チーム医療の視点から～	皆川亮介、萱島寛人、梶山 潔	第136回筑豊肝胆膵研究会	2019-3-12
選択的門脈血栓を併用した 二期的肝切除にて切除した 多発大腸癌肝転移の1切除例	萱島寛人、皆川亮介、山本一治、他		
胆嚢がんのハイリスクと治療	梶山 潔、皆川亮介、萱島寛人、他		
大腸化学療法－患者毎の治療選択	由茅隆文	GI Cancer Academy in Fukuoka	2019-4-12
小腸穿孔36例の臨床的検討	松枝花奈、由茅隆文、利田賢哉、他	第119回日本外科学会定期学術集会	2019-4-18～ 2019-4-20
肝切除後の無気肺が術後成績に及ぼす影響	利田賢哉、皆川亮介、松枝花奈、他		
食道癌術後肺合併症における術前ケアと術式の関係	木村和恵、古賀 聡、利田賢哉、他		
絞扼性腸閉塞に対する腹腔鏡手術の検討	由茅隆文、木村和恵、古賀 聡、他		
胆嚢癌疑診例に対しての肝十二指腸間膜リンパ節郭清は必要か－12c リンパ節のセンチネルリンパ節としての意義－	萱島寛人、皆川亮介、梶山 潔、他		
下部消化管穿孔手術例の検討	平山佳愛、甲斐正徳、利田賢哉、他		
肝細胞癌に対する肝切除後胆汁瘻の危険因子並びに術後成績の及ぼす影響に関する検討	皆川亮介、梶山 潔、萱島寛人、他		
The treatment of primary gastric synovial sarcoma by laparoscopic surgery :A case report	平山佳愛、古賀 聡、木村和恵、他	第13回国際胃癌学会	2019-5-8～ 2019-5-10
腹腔鏡手術を施行した外傷性小腸穿孔の3例	由茅隆文、坂野高大、賀茂圭介、他	第33回日本外傷学会総会・学術集会	2019-6-6～ 2019-6-7
腹腔鏡下に胃腹壁固定を行った成人胃軸捻転症の1例	甲斐正徳、小佐々貴博、利田賢哉、他	第44回日本外科系連合学会学術集会	2019-6-19～ 2019-6-21
当院における乳癌術後腋窩リンパ節再発の検討	武谷憲二、松枝花奈、平山佳愛、他	第27回日本乳癌学会	2019-7-11
乳癌の脳転移に対しベバシズマブを使用した4例に対する検討	松枝花奈、武谷憲二、平山佳愛、他		
異時性の肝転移および肺転移に対し外科的切除が有用であった膵腺房細胞癌の1例	梶山 潔、皆川亮介、萱島寛人、他	第50回日本膵臓学会大会	2019-7-12～ 2019-7-13
若年者の上部消化管穿孔症例の検討	賀茂圭介、皆川亮介、利田賢哉、他	第74回日本消化器外科学会総会	2019-7-17～ 2019-7-19
切除不能膵癌に対する計画的消化管バイパス手術の検討	柿添圭成、山本一治、萱島寛人、他		
選択的門脈血栓を併用した二期的肝切除にて切除した多発大腸癌肝転移の1切除例	萱島寛人、皆川亮介、武末亨、他		
大腸癌穿孔17例の検討	平山佳愛、甲斐正徳、武谷憲二、他		
肝切除後の中心静脈カテーテル留置による内頸静脈血栓症に関する検討	利田賢哉、皆川亮介、松枝花奈、他		

表題名	発表者名	学会名	開催日
肝外胆管原発 Large cell neuroendocrine carcinoma の一例	梶山 潔、皆川亮介、萱島寛人、他	第74回日本消化器外科学会総会	2019-7-17～ 2019-7-19
周術期輸血は肝細胞癌に対する肝切除術後の独立した予後不良因子である	皆川亮介、梶山潔、萱島寛人、他		
自身の胃切除術者例での治療成績とその評価	古賀 聡、平山佳愛、武谷憲二、他		
縦隔リンパ節に再発し食道縦隔瘻を来した早期胃癌の一例	甲斐正徳、播磨朋哉、松枝花奈、他	第17回日本臨床腫瘍学会学術集会	2019-7-18～ 2019-7-20
遅発性小腸穿孔を来した高エネルギー外傷の1例	坂井崇一郎、由茅隆文、播磨朋哉、他	第256回福岡外科集談会	2019-7-27
当院における壊疽性胆嚢炎手術症例の検討	播磨朋哉、皆川亮介、萱島寛人、他		
術翌日からの腹臥位ドレナージは肝切除術後無気肺の予防に有効である	利田賢哉、皆川亮介、萱島寛人、他	松枝花奈、武谷憲二、播磨朋哉、他	
DTXの休業・再開を繰り返しながらも3年以上DTX+HER+PERを継続しているHER2陽性進行乳癌の1例	松枝花奈、武谷憲二、播磨朋哉、他		
ステントグラフト内挿術後に大動脈食道瘻を来した1例	播磨朋哉、木村和恵、由茅隆文、他		
偶発的に発見された胆嚢扁平上皮癌の1切除例	梶山 潔、皆川亮介、萱島寛人、他	第55回日本胆道学会学術集会	2019-10-3～ 2019-10-4
急性孤立性上腸間膜動脈解離症の治療戦略～当院での18例の治療経験を踏まえて～	由茅隆文、賀茂圭介、播磨朋哉、他	第11回日本 Acute Care Surgery 学会学術集会	2019-10-25
小腸・結腸型特発性腸重積の1例	坂井崇一郎、由茅隆文、播磨朋哉、他		
腹腔動脈狭窄による仮性動脈瘤破裂に対して緊急血管塞栓術後、待機的に腹腔鏡下で低侵襲な根治手術を施行した1例	賀茂圭介、萱島寛人、播磨朋哉、他		
当院における外傷性腸間膜損傷手術症例の検討	皆川亮介、梶山 潔、萱島寛人、他	Fukuoka Immuno-Therapy Conference	2019-10-30
当院における切除不能進行胃癌に対するオプジーボの使用経験	由茅隆文、古賀 聡、播磨朋哉、他		
当院成人臍ヘルニア嵌頓に対する手術症例の検討	甲斐正徳、播磨朋哉、松枝花奈、他	第81回日本臨床外科学会総会	2019-11-14～ 2019-11-16
術翌日からの腹臥位ドレナージは、肝切除術後無気肺の予防に有効である	利田賢哉、皆川亮介、萱島寛人、他	第17回日本消化器外科学会大会 (JDDW)	2019-11-21～ 2019-11-24
膵切除術後の仮性動脈瘤出血に対し血管内カバードステントの予防的留置が有効であった1例	梶山 潔、皆川亮介、萱島寛人、他		
裂傷出血を伴う特発性食道破裂に対して胸腔鏡下穿孔部閉鎖+内視鏡的止血術を施行した1例	武谷憲二、古賀 聡、小佐々貴博、他	第32回日本内視鏡外科学会総会	2019-12-5～ 2019-12-7
右胃大網動脈を用いた CABG 術後の十二指腸 GIST に対して腹腔鏡下十二指腸部分切除を施行した一例	藤中良彦、平山佳愛、武谷憲二、他		
膿瘍形成性虫垂炎の治療	平山佳愛、甲斐正徳、武谷憲二、他	甲斐正徳、播磨朋哉、松枝花奈、他	
腹腔鏡下に胃腹壁固定を行った成人胃軸捻転症の2例	甲斐正徳、播磨朋哉、松枝花奈、他		
当院における腹腔鏡下膵体尾部切除術の現況と課題	梶山 潔、皆川亮介、萱島寛人、他	萱島寛人、皆川亮介、小佐々貴博、他	
腹腔動脈狭窄症に対してハイブリッド手術室を用いて施行した 腹腔鏡下正中弓状靱帯切開術の1症例	萱島寛人、皆川亮介、小佐々貴博、他		
再発 GIST 破裂による腹膜炎に対して腹腔鏡下腫瘍摘出術を施行した1例	古賀 聡、平山佳愛、武谷憲二、他		

呼吸器外科

表題名	発表者名	学会名	開催日
肺動脈原発肉腫の1例	福市有希子、大崎敏弘、岩田輝男、他	第61回呼吸器疾患研究会	2019-2-19
胸壁発生デスモイド型線維腫の1手術例	小林健一、大崎敏弘、福市有希子、他	第59回日本肺癌学会九州支部 学術集会	2019-2-22～ 2019-2-23
重粒子線治療後の局所再発に対してサルベージ手術として肺部分切除を行った2例	福市有希子、大崎敏弘、小林健一、他		
右上葉スリーブ切除後の気管支吻合部縫合不全に対して再手術を行った1例	大崎敏弘、福市有希子、岩田輝男、他	第20回福岡呼吸器外科手術セミナー	2019-3-1
パネルディスカッション：精神疾患合併例に対する呼吸器外科周術期管理の検討	安田 学、福市有希子、小林健一、他	第36回日本呼吸器外科学会学術集会	2019-5-16～ 2019-5-17
重粒子線治療後の局所再発に対するサルベージ手術として肺部分切除を行った2例	福市有希子、大崎敏弘、小林健一、他		
人工心肺下に右肺全摘と左肺動脈形成を行った肺動脈原発腫瘍の1例	小林健一、大崎敏弘、福市有希子、他		
外傷性再建胃管胸腔瘻に対する膿胸閉塞術後に高気圧酸素療法が有効であった1例	小林健一、大崎敏弘、福市有希子、他		
わたしの VATS Lobectomy ～右上葉切除およびリンパ節郭清～	福市有希子、大崎敏弘、西澤夏將、他	第13回北九州 Chest Surgical Forum	2019-6-8
当院で経験した肺 MALT リンパ腫の4例	西澤夏將、大崎敏弘、福市有希子、他	第14回九州肺癌胸膜中皮腫研究会	2019-6-19
肺 MALT リンパ腫の4手術例	西澤夏將、大崎敏弘、福市有希子、他	第62回呼吸器疾患研究会	2019-7-16
Clinical single station N2肺癌に対する初回手術（Upfront Surgery）の妥当性	大崎敏弘、福市有希子、西澤夏將、他	第9回福岡胸部外科疾患研究会	2019-7-20
外傷性再建胃管胸腔瘻の1例	大崎敏弘、福市有希子、西澤夏將、他	第52回日本胸部外科学会九州 地方会総会	2019-8-29～ 2019-8-30
侵入胞状奇胎の肺転移に対して切除を行った1例	岩田輝男、福市有希子、西澤夏將、他		
超音波凝固切開装置の cavitation が原因と考えられた肺癌術後遅発性胸壁出血の1例	西澤夏將、大崎敏弘、福市有希子、他	第29回九州内視鏡下外科手術研究会	2019-9-14
当科における自然気胸に対する胸腔鏡下肺嚢胞切除と胸膜被覆術	福市有希子、大崎敏弘、西澤夏將、他		
胸腺腫術後2年6ヶ月目に診断された低ガンマグロブリン血症の1例	福市有希子、大崎敏弘、草薙佳澄、他	第6回北部九州肺縦隔研究会	2019-11-12
胸部外傷に対する手術症例の検討	大崎敏弘、福市有希子、西澤夏將、他	第81回日本臨床外科学会総会	2019-11-14～ 2019-11-16
下大静脈浸潤が疑われた右下葉腫瘍に対し他科との合同手術により完全切除した症例	安田 学、大崎敏弘、福市有希子、他		
当院で経験した肺原発 MALT リンパ腫の4手術例	西澤夏將、大崎敏弘、福市有希子、他	第60回日本肺癌学会学術集会	2019-12-6～ 2019-12-8
ワークショップ：人生100年時代の肺がん治療をどう考えるか-高齢者肺癌術後再発症例の検討	安田 学、大崎敏弘、福市有希子、他		
胸膜原発脱分化型死亡肉腫の1切除例	岩田輝男、大崎敏弘、福市有希子、他		
肺動脈内膜肉腫の1治療経験	福市有希子、大崎敏弘、西澤夏將、他		

産婦人科

表題名	発表者名	学会名	開催日
妊娠35週時に可逆性後白質脳症候群による脳出血を発症し、その後可逆性脳血管攣縮症候群を合併した一例	田中仁悟、後藤麻木、林 宗太郎、他	第71回日本産科婦人科学会	2019-4-11～ 2019-4-14
子宮体癌原発 Large cell neuroendocrine carcinoma の一例	松岡咲子、近藤晴彦、吉良さちの、他		
子宮頸部原発 Signet-ring cell carcinoma の一例	林 宗太郎、辻岡 寛、田中仁悟、他		

表題名	発表者名	学会名	開催日
子宮頸部原発 Signet-ring cell carcinoma の一例	林 宗太郎、大石善丈、平木由佳、他	第61回日本婦人科腫瘍学会	2019-7-4～ 2019-7-6
審査腹腔鏡により診断した転移性卵巣癌の1例	藤 庸子、平木由佳、大石善丈、他		
原疾患の診断に審査腹腔鏡が有効であった2例	藤 庸子、田中仁悟、林 宗太郎、他	第59回日本産科婦人科内視鏡学会	2019-9-12～ 2019-9-14

整形外科

表題名	発表者名	学会名	開催日
人工股関節における軟部バランスに関する研究 選択ネック長における伸展屈曲時軟部緊張評価と戦略	原 俊彦、園田和彦	第 49 回日本人工関節学会	2019-2-15～ 2019-2-16
人工股関節全置換術における、伸展時の軟部緊張と脚長の関係に関する検討	園田和彦、原 俊彦、中村哲郎		
人工股関節における軟部バランスに関する研究 選択ネック長における伸展屈曲時軟部緊張評価と戦略	原 俊彦、園田和彦		
TKA 術前と術後感染沈静化獲得後にそれぞれ発生したペーカー膝窩嚢腫破裂の2例	浜崎晶彦、白石浩一、原 俊彦、他	第45回九州膝関節研究会	2019-3-2
手根骨長軸脱臼の治療経験	牛島貴宏、新井 堅、浜崎晶彦、他	来手見ん会	2019-3-6
Spherical Periacetabular Osteotomy 他の術式との違い 利点と欠点	原 俊彦、園田和彦	第92回日本整形外科学会	2019-5-10～ 2019-5-12
posterolateral approach：後方軟部組織修復に関する工夫	園田和彦、原 俊彦	北九州股関節研究会	2019-5-21
人工股関節における軟部バランスに関する研究 選択ネック長における軟部緊張の適性評価	園田和彦、原 俊彦、浜崎晶彦	第137回西日本整形・災害外科学会	2019-6-1～ 2019-6-2
人工股関節全置換術における伸展時軟部緊張と術後脚長差に関する検討	牛島貴宏、新井 堅、浜崎晶彦、他		
手根骨長軸脱臼の治療経験	牛島貴宏、新井 堅、浜崎晶彦、他		
手根管症候群に対する鏡視下手根管開放術の治療成績	牛島貴宏、新井 堅、浜崎晶彦、他		
小指基節骨骨頭欠損の1例	牛島貴宏、新井 堅	来手見ん会	2019-6-5
Mid-Term Results Of Spherical Periacetabular Osteotomy For The Treatment Of Symptomatic Hip Dysplasia	原 俊彦、園田和彦	第20回EFORT	2019-6-5～ 2019-6-9
飯塚病院での手外科疾患の治療	牛島貴宏	第2回運動器疼痛セミナー in 筑豊	2019-6-12
overlapping法による骨切り併用セメントレスTHAの経験	園田和彦、原 俊彦	サンフロンティアール股関節研究会	2019-7-13
手関節痛の1例	牛島貴宏	来手見ん会	2019-9-2
Intraoperative evaluation of cup height using radiography in total hip arthroplasty	Sonoda K, Hara T	European Orthopaedic Research Society 2019	2019-10-2～ 2019-10-4
Spherical Periacetabular Osteotomy (SPO) 術中骨折の部位別発生頻度	原 俊彦、園田和彦	第46回日本股関節学会	2019-10-24～ 2019-10-26
当科におけるTHA術前のレーザーガイドとポータブルレントゲン撮影を用いた側臥位体位取りの精度に対する検証	岸川 準、園田和彦、原 俊彦		
寛骨臼形成不全における、関節不安定性を示唆するMRI所見の検討	園田和彦、原 俊彦		
Beak 状の健常域を有する大腿骨頭壊死症の治療経験	園田和彦、原 俊彦	Osteotomy を語る会	2019-10-26
Spherical Periacetabular Osteotomy SPO より安全な手術手技をめざして	原 俊彦、園田和彦	第138回西日本整形・災害外科学会	2019-11-30～ 2019-12-1
側臥位人工股関節全置換術における術前矢状面体位補正について	馬渡大介、園田和彦、原 俊彦、他		
3次元作図におけるMPR画像から再構成したFunctional Pelvic Plane (DRR画像)の正確性の検証	岸川 準、園田和彦、原 俊彦		
股関節後側方アプローチ：後方軟部組織修復で内旋制動が得られるか？	園田和彦、原 俊彦、岸川 準		

表題名	発表者名	学会名	開催日
慢性手関節痛の1例	牛島貴宏	来手見ん会	2019-12-4
SPO：内板損傷についての検討	園田和彦、原 俊彦	SPO 研究会	2019-12-6

リハビリテーション科

表題名	発表者名	学会名	開催日
食道癌術後患者に対する言語聴覚士（ST）介入における臨床学的検討	山下智弘	第56回日本リハビリテーション医学会学術集会	2019-6-12～ 2019-6-16
乳癌術後リンパ浮腫に関する臨床学的検討	山下智弘	第3回日本リハビリテーション医学秋季学術集会	2019-11-15～ 2019-11-17

脳神経外科

表題名	発表者名	学会名	開催日
脳死下臓器提供の現状と対策	名取良弘	第24回日本脳神経外科救急学会	2019-2-1～ 2019-2-2
What are the tips on surgery for orbital apex lesion?	Natori Y	The 29th North American Skull Base Annual Meeting	2019-2-15～ 2019-2-17
重症急性硬膜下血腫症例に対する早期気管挿管と予後の検討	山田哲久、名取良弘、甲斐康稔、他	第46回日本集中治療医学会学術集会	2019-3-1～ 2019-3-3
慢性硬膜下血腫穿頭術後の再発予防のためのトラネキサム酸・五苓散内服効果に対する前向き研究	山田哲久、名取良弘、甲斐康稔、他	第42回日本脳神経外傷学会	2019-3-8～ 2019-3-9
脳出血患者における再出血リスクの検討	三木健嗣	第44回日本脳卒中学会	2019-3-20～ 2019-3-24
くも膜下出血の発症と気圧の関係の検討	山田哲久、名取良弘、甲斐康稔、他		
血栓回収術における Immediately flow restoration 時間についての検討	甲斐康稔		
非外傷性急性硬膜下血腫の特徴と予後の検討ー外傷性急性硬膜下血腫との比較からー	山田哲久、名取良弘、甲斐康稔、他	第33回日本外傷学会	2019-6-5～ 2019-6-7
臓器提供の意思確認は主治医が行って良いのだろうか？	名取良弘	第32回日本脳死・脳蘇生学会総会・学術集会	2019-6-15～ 2019-6-16
上矢状静脈洞近傍の穿通性外傷の一例	藤井裕太郎、三木健嗣、野口直樹、他	第132回日本脳神経外科学会九州支部会	2019-6-29
脳神経外科医にとってのハンドブック発刊ーパブリックコメントを踏まえてー	名取良弘	第47回日本救急医学会総会・学術集会	2019-10-2～ 2019-10-4
慢性硬膜下血腫穿頭術症例に対する年次変化の検討	山田哲久、名取良弘、甲斐康稔、他	第78回日本脳神経外科学会総会	2019-10-9～ 2019-10-12
高血圧性脳出血患者の急性期に桂枝茯苓丸を投与した症例の経験	山田哲久、名取良弘	第28回日本脳神経外科漢方医学会学術集会	2019-11-9

心臓血管外科

表題名	発表者名	学会名	開催日
EVAR 後遅発性の腎動脈閉塞に対する血管内治療の経験	内田孝之、本郷哲央、松元 崇、他	第33回心臓血管外科ウィーターセミナー学術集会	2019-1-23～ 2019-1-25
重症虚血肢に対する段階的 Hybrid 治療の一例	西島卓矢、松元 崇、内田孝之、他	第113回日本血管外科学会九州地方会	2019-2-2
完全広背筋下への sICD 植込みの取り組み	内田孝之	第11回植込みデバイス関連冬季大会	2019-2-14～ 2019-2-16
ICD リード断線からの不適切作動に対してリード追加を要した1例	松元 崇、内田孝之、西島卓矢、他		
EVAR 術後遅発性に発生した腎動脈狭窄に対する治療	松元 崇、内田孝之、西島卓矢、他	第47回日本血管外科学会	2019-5-22～ 2019-5-24
孤立性上腸間膜動脈解離の保存的治療の成績	竹本 捷		
EVT による腸骨動脈損傷の1例	松元 崇、内田孝之、満尾 博、他	第1回 MMK 研究会	2019-5-31
Y グラフト脚閉塞に対するハイブリッド血行再建の経験	松元 崇、内田孝之、西島卓矢、他	第44回日本外科連合学会学術集会	2019-6-19～ 2019-6-21

表題名	発表者名	学会名	開催日
腫瘍性肺塞栓を来した原発性肺動脈肉腫に対して右肺全摘、肺動脈形成を行った一例	竹本 捷、内田孝之、西島卓矢、他	第126回日本循環器学会九州地方会	2019-6-29
有機的結合を目指したチーム医療体制の模索	内田孝之	第69回日本病院学会	2019-8-1～ 2019-8-2
EVT時の腸骨動脈損傷の1例	松元 崇	第3回筑豊地区心臓治療研究会	2019-8-16
造影CT検査で偶然発見された大腿深動脈の真性瘤の1例	溝上悠介、内田孝之、松元 崇、他	第114回日本血管外科学会九州地方会	2019-8-24
Bentall術後の感染性大動脈瘤破裂に対する再手術	満尾 博、溝上悠介、竹本 捷、他	第52回日本胸部外科学会九州地方会	2019-8-29～ 2019-8-30
術中造影が有用であった腹部debranch手術の一例	内田孝之、松元 崇、満尾 博、他		
慢性解離性大動脈瘤に対するCandy plug法の1例	竹本 捷、内田孝之、溝上悠介、他		
急激に拡大した胸部・腹部大動脈瘤に対する段階的治療	松元 崇、内田孝之、満尾 博、他		
下肢虚血を伴うB型急性大動脈解離の1例	溝上悠介、竹本 捷、満尾 博、他		
外傷性膝窩動脈損傷の1例	竹本 捷	第11回日本Acute Care Surgery	2019-10-25～ 2019-10-26
亜急性期および慢性期StanfordB型大動脈解離に対するTEVARの中期成績	竹本 捷、内田孝之、溝上悠介、他	第72回日本胸部外科学会定期学術集会	2019-10-30～ 2019-11-2
若年感染性心内膜炎症例治療へ尾崎法を応用した一例	内田孝之、松元 崇、満尾 博、他	第81回日本臨床外科学会	2019-11-14～ 2019-11-16
当科におけるSSI 対策の現状とICT との連携の模索	内田孝之、松元 崇、満尾 博、他	第32回日本外科感染症学会	2019-11-29～ 2019-11-30

皮膚科

表題名	発表者名	学会名	開催日
当科で経験した小児におけるマムシ咬傷の検討	濱崎友佳、小糸理紗、挽地史織、他	第71回日本皮膚科学会西部支部学術大会	2019-9-7～ 2019-9-8
Fibrous hamartoma of infancyの1例	小糸理紗、濱崎友佳、挽地史織、他	第390回日本皮膚科学会 福岡地方会	2019-9-28
セクキヌマブからプロダルマブへのスイッチが奏効した難治性嚢胞性乾癬の一例	井上慶一、濱崎友佳、挽地史織、他	第391回日本皮膚科学会 福岡地方会	2019-11-23
脂肪腫を思わせたマンソン孤虫症の1例	佐竹真緒、濱崎友佳、挽地史織、他		
二次性の好酸球肺炎を併発した水疱性類天疱瘡の1例	挽地史織、小糸理紗、濱崎友佳、他		

形成外科

表題名	発表者名	学会名	開催日
齶歯が原因で左頬部から頭部に至るガス瘻瘻を発症した一例	小山麻衣、橋口晋一郎	第110回九州・沖縄形成外科学会学術集会	2019-7-20
有茎大胸筋弁による難治性潰瘍の治療経験	小山麻衣、橋口晋一郎	第111回九州・沖縄形成外科学会学術集会	2019-11-9

泌尿器科

表題名	発表者名	学会名	開催日
飯塚病院における2009～2018年の臨床統計	中島雄一、宮嶋哲匡、郡家直敬、他	第304回日本泌尿器科学会福岡地方会	2019-7-27

眼科

表題名	発表者名	学会名	開催日
DMEの前房水中ペリオスチン	小林義行	第123回日本眼科学会総会	2019-4-18～ 2019-4-21
RPの白内障手術後長期成績	中村 駿		
当院における線維柱帯切開術眼外法とマイクロフック眼内法の短期成績報告	林田 陽、高木由貴、小林義行、他	第89回九州眼科学会	2019-5-31～ 2019-6-2
当院における裂孔原性網膜剥離の硝子体手術成績	中村 駿、林田 陽、向坂親蔵、他	第57回六大学合同眼科研究会	2019-9-21
眼瞼腫脹を契機に診断に至った脈管肉腫の2例	向坂親蔵		
眼瞼腫脹を契機に診断に至った脈管肉腫の2例	向坂親蔵	第37回日本眼腫瘍学会	2019-9-28～ 2019-9-29

リエゾン精神科

表題名	発表者名	学会名	開催日
せん妄患者に対する精神科作業療法の効果検証	梶島敬行、堤 一樹、猪狩圭介、他	第32回日本総合病院精神医学会	2019-11-15～ 2019-11-16
飯塚病院の外來診療における睡眠薬と抗不安薬の処方の実態	濱崎厚子、猪狩圭介、光安博志、他		
総合病院入院中にせん妄を起こした高齢者に対する抗精神病薬処方の実態調査	猪狩圭介、光安博志、梶島敬行、他		
ドッグフードを主食とした自閉的生活死んだ犬の魔術的復活儀式など多彩な症状があり診断に苦慮した症例	三根政弘	第72回九州精神神経学会	2019-12-12～ 2019-12-13

麻酔科

表題名	発表者名	学会名	開催日
大規模災害時手術部初動体制の構築	内藤智孝	第66回日本麻酔科学会	2019-5-30～ 2019-6-1
術中にグラフト以遠の灌流障害と突然の換気困難を生じた全弓部置換術の症例経験	日高淳介、橋本匡彦、山田宗範、他		
高度心機能低下の拡張型心筋症患者に対する乳房切除術の麻酔経験	橋本匡彦	第57回九州麻酔科学会	2019-9-14
弓部大動脈人工血管置換術中、気道狭窄を来した2症例	内藤智孝、田平暢恵、小西 彩、他	第24回日本心臓血管麻酔学会	2019-9-20～ 2019-9-22
多発筋炎による間質性肺炎合併肺高血圧症患者の麻酔経験	田平暢恵		
先天性片腎患者の腎盂癌・子宮体癌に対する左腎尿管全摘および子宮体癌根治術の麻酔管理	田平暢恵、尾崎実展	第39回日本臨床麻酔学会	2019-11-7～ 2019-11-9

ペインクリニック科

表題名	発表者名	学会名	開催日
An anesthetic case of total arch replacement for right sided aortic arch in a patient with Kommerell's diverticulum associated with intraoperative pseudo-coarctation and airway obstruction	Obata K, Hidaka Y, Yamada M et al.	The 2019th EUROANESTHESIA	2019-6-1～ 2019-6-3
肺癌に伴う寛骨白病的骨折由来の難治性疼痛に対し持続硬膜外ブロックを施行した一症例	小畑勝義	第53回日本ペインクリニック学会	2019-7-18～ 2019-7-20
抜管後再挿管に至った下部消化管急性腹痛症手術の2症例	小畑勝義	第39回日本臨床麻酔学会	2019-11-7～ 2019-11-9

感染症科

表題名	発表者名	学会名	開催日
Impact of an infectious diseases specialist-led postprescription carbapenem intervention in a Japanese tertiary hospital: a before-after study	Matono T, Uchida M, Koga H et al.	IDWeek2019	2019-10-2~ 2019-10-10

歯科口腔外科

表題名	発表者名	学会名	開催日
広範囲にわたる骨吸収抑制薬関連顎骨壊死患者に対する介入の一例	吉田涼子、中松耕治、本田智恵子、他	第16回日本口腔ケア学会	2019-4-27~ 2019-4-28
レスパイト入院中の重症心身障害児への介入の取り組み	内田美貴、中松耕治、波多江有香、他		
当科における骨吸収抑制薬投与患者の抜歯時の対応とARONJ症例	長野公喜	日本口腔外科学会総会	2019-6-30
低ホスファターゼ症について? 歯科医師が知っておくべき病気	中松耕治	第40回筑豊歯科・口腔外科懇話会	2019-9-20
菌性感染症により頭頂部まで波及したガス壊疽の1例	富永梨沙、中松耕治、長野公喜、他	第64回日本口腔外科学会総会	2019-10-25~ 2019-10-27
外側翼突筋の外傷性骨化性筋炎を伴った顎関節強直症の1例	中松耕治		

救急科

表題名	発表者名	学会名	開催日
救急搬送断り症例および消防地区ごとの搬送数の検討	山田哲久、名取良弘	第24回日本脳神経外科救急学会	2019-2-1~ 2019-2-2
救急病棟避難を経験して	山田哲久、名取良弘	第23回日本災害医学会総会・学術集会	2019-3-18~ 2019-3-20
筑豊地域医療サポーター（MS）活動2018	鮎川勝彦、稗島 武、河野佳代、他	第23回日本救急医学会九州地方会	2019-5-14~ 2019-5-15
ドクターカークルーに対するシミュレーション教育の効果の検討	山田哲久、名取良弘、山岸量博、他	第22回日本臨床救急医学会総会・学術集会	2019-5-30~ 2019-6-1
福岡県における救急救命士による処置拡大の検証	鮎川勝彦、伊藤重彦、坂本喜彦、他		
当初迷走神経反射による転倒で脳振盪と診断したが小脳梗塞であった一例	山田哲久、名取良弘、前田泰宏、他	第33回日本神経救急学会学術集会	2019-6-8~ 2019-6-9
院外心肺停止症例で救急救命士の治療介入とドクターカーによる治療介入の検討	山田哲久、名取良弘、香月洋紀、他	第32回日本脳死・脳蘇生学会総会・学術集会	2019-6-15~ 2019-6-16
O14-5 人生100年時代に向け、地域医療サポーター（MS）と共に地域と連携し予防救急の輪を広げる!	鮎川勝彦、河野佳代、久保志依、他	第69回日本病院学会	2019-8-1~ 2019-8-3
予防救急委員会活動2018	鮎川勝彦、藤野隆之、山下 寿、他	第38回福岡救急医学会	2019-9-7
院外心肺停止症例で救急救命士の治療介入の検討	山田哲久、名取良弘、香月洋紀、他	第47回日本救急医学会総会・学術集会	2019-10-2~ 2019-10-4
PD2-5 地域医療サポーター（MS）活動を通じて、救急車適正利用の意識を広げる!	鮎川勝彦、香月洋紀、熊城伶己、他		
シンポジウム：ドクターカー診療における安全管理	山田哲久、山岸量博、元浦由佳、他	第14回日本病院前救急診療医学会総会・学術集会	2019-12-7~ 2019-12-8

集中治療科

表題名	発表者名	学会名	開催日
地方3次医療施設における劇症型溶血性レンサ球菌感染症の臨床的検討	安達普至	第23回エンドトキシン血症救命治療研究会	2019-1-25～ 2019-1-26
PMX-DHPを施行した超高齢患者の臨床的検討	藤本得宮子、堅 良太、鶴 昌太、他		
マグネシウム製剤の単回投与で致死的血中濃度の高Mg血症を来した1症例	鶴 昌太、安達普至、小西良一、他	第46回日本集中治療医学会学術集会	2019-3-1～ 2019-3-3
水中毒に伴う超重症低ナトリウム血症に対して神経学的後遺症を残さずに治療できた一例	藤本得宮子、鶴 昌太、堅 良太、他		
鈍的胸部外傷の約1ヶ月後に再建食道穿孔を来した1例	堅 良太、鶴 昌太、平松俊紀、他		
当ICUでの、乾燥濃縮人プロトロンビン複合体注射薬の使用経験	堅 良太、鶴 昌太、平松俊紀、他		
ICUにおけるプロカルシトニン値の臨床的意義についての検討	鶴 昌太、安達普至、小西良一、他		
心肺蘇生により自己心拍再開したDNAR (Do Not Attempt Resuscitation) 指示のある2症例	安達普至、堅 良太、鶴 昌太、他		
超高齢者の敗血症に対するAN69ST膜を使用した持続的腎代替療法の有用性	安達普至、堅 良太、鶴 昌太、他		
Treatment strategy of emphysematous pyelonephritis	Tate R, Tsuru S, Hiramatsu T et al.	The 25th American Academy of Emergency Medicine (AAEM) Annual Scientific Assembly	2019-3-9～ 2019-3-13
地域3次医療施設で同時に受け入れざるを得なかった重症熱傷の3症例	堅 良太、安達普至、鶴 昌太、他	第45回日本熱傷学会総会・学術集会	2019-5-23～ 2019-5-24
人工呼吸療法中の重症患者における気管切開術の時期の検討	安達普至、平松俊紀、鶴 昌太、他	第66回日本麻酔科学会学術集会	2019-5-30～ 2019-6-1
ICUで持続的腎代替療法を施行した外傷患者の検討	安達普至、平松俊紀、鶴 昌太、他	第33回日本外傷学会総会・学術集会	2019-6-6～ 2019-6-7
多彩な致命的合併症を生じたシェーグレン症候群の一例	平松俊紀、安達普至、鶴 昌太、他	第34回日本Shock学会	2019-7-5～ 2019-7-6
マムシ咬傷受傷後の複視に対し受傷後24時間以降にマムシ抗毒素血清を投与した一例	平松俊紀、安達普至、鶴 昌太、他	第41回日本中毒学会総会・学術集会	2019-7-20～ 2019-7-21
Motor vehicle collision secondary to ventricular dysrhythmia: A case report	Adachi H, Tate R, Hiramatsu T	The 10th Critical Care Conference in THAILAND	2019-8-15～ 2019-8-17
A case of hemothorax with shock with hemorrhagic shock after removing thoracicCatheter	Hiramatsu T, Tate R, Adachi H		
住宅火災後に化学性肺炎と気管支出血を認めた1症例	田中仁悟、平松俊紀、堅 良太、他	第47回日本救急医学会総会・学術集会	2019-10-2～ 2019-10-4
メチシリン耐性黄色ブドウ球菌 (MRSA) 感染により壊死性変化をきたした肺炎の一例	平松俊紀、堅 良太、安達普至、他		
敗血症性ショックの経過中に意識障害を認めた全身性エリテマトーデスの一症例	佐々木一駿、平松俊紀、堅 良太、他		
Klebsiella pneumoniaeによる肺化膿症・敗血症性ショックに対して長期ECMOにより救命できた一例	鶴 昌太、安達普至、平松俊紀、他		
ICUに長期滞在した救急患者の検討	安達普至		
多発外傷の急性期にStreptococcus gallolyticusによる敗血症性ショックを合併した1症例	堅 良太、平松俊紀、安達普至		
腸管切除を免れた孤立性上腸間膜動脈解離の1例	堅 良太、平松俊紀、安達普至		
VV-ECMOによる奇静脈損傷により 致死的な出血性合併症を認めた1症例	鶴 昌太、安達普至、平松俊紀、他		
ICUで直接血液吸着を施行した急性中毒症例の検討	安達普至	第40回日本アフェレシス学会	2019-10-17～ 2019-10-20
AKIを合併したアルコール性ケトアシドーシスに対するCHDFの有用性について	堅 良太、平松俊紀、安達普至	第30回日本急性血液浄化学会学術集会	2019-10-26～ 2019-10-27
VA-ECMO中に間歇的血液透析を施行した症例の検討	安達普至		

表題名	発表者名	学会名	開催日
意識障害が遷延した心停止後症候群に対して気管切開術を施行した症例の検討	安達普至	第39回日本臨床麻酔学会第39回大会	2019-11-7～ 2019-11-9
急性大動脈解離術後にアメーバ症を来した一例	平松俊紀、安達普至	第89回日本感染症学会西日本地方会学術集会	2019-11-7～ 2019-11-9
入院中に致死的な高カリウム血症が再発した血液透析患者の1症例	安達普至	第38回日本蘇生学会	2019-11-16～ 2019-11-17
急性カフェイン中毒に対し急性血液浄化療法をおこない、血中カフェイン濃度を経時的に評価した一例	平松俊紀、安達普至、松永理恵、他	第31回日本中毒学会中国四国地方会学術集会	2019-12-7

呼吸器腫瘍内科

表題名	発表者名	学会名	開催日
EGFR 遺伝子変異陽性局所進行非小細胞肺癌の検討	海老規之、岡久将暢、村上行人、他	第59回日本呼吸器学会学術講演会	2019-4-12～ 2019-4-14
EGFR-TKI 耐性後の T790M 判定目的の再生検症例の検討	海老規之、岡久将暢、村上行人、他	第42回日本呼吸器内視鏡学会学術集会	2019-7-4～ 2019-7-5
ホスアプレピタントにおける注射部位反応の発現状況調査	小田怜史、三好康介、荒木哲也、他	第17回日本臨床腫瘍学会学術集会	2019-7-18～ 2019-7-20
複数の EGFR 遺伝子変異を有する非小細胞肺癌症例の検討	海老規之、岡久将暢、村上行人、他		
スペシャリスト育成に向けた管理者としての関わり～自部署で実践した研修を活かした人材育成～	和田麻美、海老規之、横溝千登勢、他		
外科外来で経口抗がん剤を導入された患者に対する薬剤師の介入	三好康介、小田怜史、金澤康範、他		
再発悪性胸膜中皮腫に対してニボルマブが著効した症例	海老規之、末安巧人、西澤早織、他	第83回日本呼吸器学会・日本結核病学会 日本サルコイドーシス/肉芽腫性疾患学会 九州支部 秋季学術講演会	2019-9-6～ 2019-9-7
切除不能局所進行非小細胞肺癌に対する同時放射線化学療法後の2次治療の検討	海老規之、大井隆之介、岡久将暢、他	第60回日本肺癌学会学術集会	2019-12-5～ 2019-12-7

病理科

表題名	発表者名	学会名	開催日
AIDS に伴う全身 Kaposi 肉腫転移と診断した1剖検例	久保山雄介	第93回日本感染症学会	2019-4-4～ 2019-4-6
子宮の間葉系腫瘍 子宮内膜間質肉腫	大石善丈	第108回日本病理学会総会	2019-5-9～ 2019-5-11
子宮内膜増殖症と EIN	大石善丈	第50回日本婦人科病理学会	2019-6-15

中央検査部

表題名	発表者名	学会名	開催日
当検査部におけるリスクマネジメント	秋永理恵、山中宏晃、太田絢子、他	第18回日本医療マネジメント学会 福岡支部学術集会	2019-3-9
中央採血室での患者急変に対応した当検査部独自のフローチャート	樋口雄哉、吉富博人、秋永理恵、他		
TQM活動を利用した気管支鏡検査時の細胞検査士による ROSE 導入の試み	川嶋大輔、上原俊貴、片瀨寿美、他		
機器の機能縮小と業務効率化を両立するための取り組み～血液検査検体搬送システムの更新～	日高大輔、縄田恵里香、榊田晋作、他		
飯塚病院中央検査部における是正処置および是正サイクルの有効性について	浦園真司、犬丸絵美、川野和彦、他		
バルサルバ洞動脈瘤破裂により右心負荷をきたした一例	鈴木尚子、藤上祐子、杉山倫子、他	第30回日本心エコー学会	2019-5-10～ 2019-5-12
全自動蛍光抗体法分析装置 HELIOS の性能評価と運用法の構築	樋口雄哉、松浦辰也、秋永理恵、他	第68回日本医学検査学会	2019-5-18～ 2019-5-19
消化管病変における EUS-FNA での迅速細胞診の有用性と当院における検体処理方法	井上佳奈子、木場華子、川嶋大輔、他	第60回日本臨床細胞学会総会学術集会	2019-6-7～ 2019-6-9
病理部門における新規試薬導入及び試薬変更までの手順と一例	吉田健登、秋永理恵、井上佳奈子、他	第29回福岡県医学検査学会	2019-6-30
ドラッグマップ投与患者に対する飯塚病院検査部での情報収集の検討	片瀨寿美、川野和彦、本山優子		
右心カテーテル検査による左-右短絡疾患の検出について	本田 恵、桑岡 勲、秋永理恵、他		
混合形質性急性白血病 (T細胞/巨核球) が疑われた一症例	榊田晋作、日高大輔、栗山正嗣、他	第20回日本検査血液学会学術集会	2019-7-6～ 2019-7-7
外部精度管理で2SDIを超えた尿中無機リンの原因究明からみえてきたもの	鹿子木実咲、秋永理恵、吉田真紀、他	第54回日臨技九州支部医学検査学会	2019-11-2～ 2019-11-3
食道壁肥厚に対し EUS-FNA が診断に有用であった乳癌転移再発の一症例	井上佳奈子、川嶋大輔、上原俊貴、他	第58回日本臨床細胞学会 (秋期大会)	2019-11-16～ 2019-11-17
初期症状に神経症状を呈し、末梢神経伝導検査 (NCS) が診断に有用であった好酸球性多発血管炎性肉芽腫症 (EGPA) の1症例	吉富博人、宇根隼人、瀬尾修一、他	第49回日本臨床神経生理学学会学術大会	2019-11-28～ 2019-11-30

リハビリテーション部

表題名	発表者名	学会名	開催日
右放線冠梗塞により交叉性の発話障害を呈した一例	松永未来	第8回言語聴覚士協会 九州地区学術集会	2019-1-19～ 2019-1-20
急性期病院における間質性肺炎患者の Frailty 率と身体機能との関連	白土健吾、中園貴子	第56回日本リハビリテーション医学会学術集会	2019-6-12
高齢者の肺炎による入院から離床までの期間は日常生活動作能力に影響を与える	奥野将太、白土健吾、山辺 楓、他		
当院心臓リハビリテーション外来での遠隔モニタリングの取り組みと課題	中村裕輔、西村天利、石井 敦、他	第25回日本心臓リハビリテーション学会学術集会	2019-7-13～ 2019-7-14
頭頂部から釘が陥入し一次運動野の損傷を来した外傷性脳損傷症例	川満謙太	第17回日本神経理学療法学会学術大会	2019-9-28～ 2019-9-29
高齢心疾患患者における最高酸素摂取量と運動機能の関連性-心不全と心筋梗塞の違い-	横手 翼、西村天利、中村裕輔、他	第23回日本心不全学会学術集会	2019-10-4～ 2019-10-6
高齢心不全患者におけるフレイル基準に対する膝伸展筋力と最高酸素摂取量の関連	横手 翼、西村天利、中村裕輔、他	第6回日本サルコペニア・フレイル学会大会	2019-11-9～ 2019-11-10
当院間質性肺炎患者の Frailty 率及び Frailty スコアと日常生活息切れスケールの関係	白土健吾、中園貴子	第29回日本呼吸ケア・リハビリテーション学会	2019-11-11～ 2019-11-12
慢性閉塞性肺疾患患者の Frailty 有病率と低栄養との関連	中園貴子、白土健吾		
高齢者の肺炎後の入院から歩行までの日数は退院時の日常生活動作能力に影響を与える	山辺 楓、奥野将太		
がん悪液質を呈する肺癌患者にリハ栄養ケアプロセスが有効であった1症例	白土健吾	北部福岡NST研究会	2019-11-16
がん悪液質を呈する肺癌患者にリハ栄養ケアプロセスが有効であった1症例	白土健吾	第9回日本リハビリテーション栄養学会学術集会	2019-11-23

薬剤部

表題名	発表者名	学会名	開催日
飯塚病院における抗菌薬適正使用支援チーム(AST)の活動	内田守次	第9回九州山口感染制御専門・認定薬剤師連絡会議	2019-1-19
地域連携における大規模急性期病院の胃瘻栄養への関わりの変化	林 勝次、中村晶俊	第34回日本静脈経腸栄養学会	2019-2-14～ 2019-2-15
精神科薬剤師外来の取り組みについて	進 健司、小林大介、川尻雄大、他	第139回日本薬学会	2019-3-21～ 2019-3-23
メサドンへオピオイドスイッチング後に難治性の神経障害性疼痛が改善した一例	皆元文恵、金澤康範	第13回日本緩和医療薬学会年会	2019-6-1～ 2019-6-2
オピオイド誘発性便秘症治療薬ナルデメジンと併用下剤の使用状況調査	上西真理子、梅田勇一、皆元文恵、他		
電子診療録へのスタンプ貼付によるベンゾジアゼピン受容体作動薬減薬の取り組みとその評価	進 健司、小林大介、川尻雄大、他	第29回日本医療薬学会年会	2019-11-2～ 2019-11-4
リエゾンチーム薬剤師主導の高齢者に対するベンゾジアゼピン受容体作動薬減薬の試み	進 健司、小林大介、川尻雄大、他	第32回日本総合病院精神医学会総会	2019-11-15～ 2019-11-16

中央放射線部

表題名	発表者名	学会名	開催日
医療安全の基礎 ～診療放射線技師業務の視点から～	石田直久	第5回福岡県診療放射線技師会筑豊地区学術研修会	2019-4-8
医療安全の基礎 ～診療放射線技師業務の視点から～	石田直久	第5回福岡県診療放射線技師会学術大会	2019-6-30
PET検査従事者の被ばく線量測定値を変動させる要因に関する検討	関川祐矢、西谷芳徳	第33回日本核医学技術学会九州地方会学術大会	2019-7-6～ 2019-7-7
ドーパミントランスポーター SPECT において収集時間がSBRに与える影響	矢邊孝平、関川祐矢	第198回北九州インビボ勉強会	2019-11-13

臨床工学部

表題名	発表者名	学会名	開催日
ECMO患者のCT検査搬送の安全性の検討	香月レイナ、有田大祐、村崎由起、他	第46回日本集中治療医学会	2019-3-1～ 2019-3-3
大型病院における透析担当技士の育成プログラム	東 昌宏、沖永一樹	第46回日本血液浄化技術学会学術大会	2019-4-19～ 2019-4-21
医療機器開発を目的とした企業向け病院実習プログラムと臨床工学技士の関わり	井桁洋貴、山田菜津美、樋口梨子、他	第29回日本臨床工学会	2019-5-18～ 2019-5-19
全透析患者のフットチェックへの取り組み	金城依子、徹島孝俊、山本はるみ		
当院の院内資格である『超音波内視鏡ガイド下穿刺吸引法支援臨床工学技士(EUS-FNA ME)』のチーム医療への貢献	佐藤謙太、小峠博樹、上村健斗、他		
人工呼吸器装着患者院外搬送業務改善への取り組み	高田真行、有田大祐、伊藤明広、他	第27回福岡県臨床工学会	2019-6-1～ 2019-6-2
Clinical Engineer System in JAPAN	Igeta H	AAMI Exchange 2019	2019-6-7～ 2019-6-10
飯塚病院における高気圧酸素治療の現状報告と安全管理について	久留嶋貴至	第94回日本医療機器学会	2019-6-13～ 2019-6-15
V-V ECMOにて送血圧急上昇し送血不能を経験して	清水重光	第45回日本体外循環技術医学会九州地方会	2019-6-22～ 2019-6-23
維持血液透析患者における透析中運動療法開始前栄養マーカーと運動療法効果の関係	池田勝哉、佐々木 彰、沖永一樹、他	第64回日本透析医学会学術集会・総会	2019-6-28～ 2019-6-30
高気圧酸素治療室における女性患者の対応に関する問題点の検討	川村美乃莉、久留嶋貴至、上村健斗、他	第20回九州高気圧環境医学会	2019-7-6
高気圧酸素治療における映像を用いた患者説明の取り組み	山本恭平、小峠博樹、久留嶋貴至、他		
TAVI導入前に生じた課題とその対策及び今後の展望	諸正知之、小峠博樹、清水重光	第45回日本体外循環技術医学会大会	2019-10-5～ 2019-10-6
当院における医師から臨床工学技士(CE)へのタスクシフト	藤元哲也、藤本貴之、沖永一樹	第52回九州人工透析研究会総会	2019-11-24

臨床研究支援室

表題名	発表者名	学会名	開催日
福岡県における疫学・統計に関する教育の試み	古賀秀信	第68回日本医学検査学会	2019-5-18～ 2019-5-19

医療安全推進室

表題名	発表者名	学会名	開催日
「血糖測定およびインスリン投与に関するシステム」の開発	林 真由美、清成道子、福村文雄	第18回日本医療マネジメント学会 福岡支部学術集会	2019-3-9
「血糖測定およびインスリン皮下注に関するシステム」の開発と運用	林 真由美、清成道子、福村文雄	第14回医療の質・安全学会学術集会	2019-11-29～ 2019-11-30

地域連携センター

表題名	発表者名	学会名	開催日
HIV患者が安心して暮らせる地域にするために～施設入所の関わりを通して～	桂木 瞳	第1回九州HIVソーシャルワーク研修会	2019-2-9
チームにおける医療ソーシャルワーカーの役割を考える（シンポジウム「チームで取り組む医療現場の実際」）	浦川雅広	第18回日本医療マネジメント学会福岡支部学術集会	2019-3-9
急性期医療機関の脳神経外科入院患者におけるソーシャルワーカーの初期介入の現状と考察	浦川弘美、堀内茅加	第22回日本臨床救急医学会総会・学術集会	2019-5-30～ 2019-6-1
退院時共同指導における複合的な介入により時間短縮が実現した多職種での在宅緩和ケア移行支援の取り組み	吉武順一、堀内茅加、柏木秀行、他	第24回日本緩和医療学会学術大会	2019-6-21～ 2019-6-22
地域完結型医療を目指した連携訪問の効果	上田恭平、田村美恵	第21回日本医療マネジメント学会	2019-7-19～ 2019-7-20
入院診療計画書の推定入院期間の妥当性について～病床稼働予測の指標となるか～	田村美恵		
増加するMSW・退院支援看護師の管理・人材育成について～飯塚病院 相談支援部門のユニット体制の取り組み～	浦川雅広	第10回日本医療ソーシャルワーク学会	2019-9-14～ 2019-9-15
各期に活用できる社会資源	浦川雅広	第57回日本糖尿病学会九州支部	2019-10-25～ 2019-10-26

看護部

表題名	発表者名	学会名	開催日
ストーマ保有者・介護者への抗がん薬曝露対策指導に関する実態調査 ～指導時の反応に着目して～	藪本斉子、和田麻美	第36回日本ストーマ・排泄リハビリテーション学会	2019-2-22～ 2019-2-23
物品管理を見直したカイゼン活動の取り組み	荒巻美鈴、佐野美和子、山本百恵、他	第18回日本医療マネジメント学会 第18回福岡支部学術集会	2019-3-9
看護ナビコンテンツの改定と活用	佐野美和子、梶原優子、須藤久美子	第3回日本臨床知識学会	2019-3-9
末期腎不全患者の治療法選択時における多職種連携～慢性疾患看護専門看護師の立場から～	岡 佳子、大井恵子、松尾純子、他	第7回日本臨床倫理学会	2019-3-30～ 2019-3-31
看護ケア実践～アセスメントを極める～	藤岡智恵	看護実践研修	2019-6-3
クリティカルケアにおける倫理的ジレンマ	藤岡智恵	第15回日本クリティカルケア看護学会	2019-6-15～ 2019-6-16
腹膜透析（PD）導入の要介護患者2症例の検討	後藤奈々、小松加寿子、松尾実佳、他	第64回日本透析医学会学術集会	2019-6-28～ 2019-6-30
透析中止を申し入れる家族と腎不全患者間の倫理的課題への多職種での取り組み	岡 佳子、河津美香、中島久美子、他		
スペシャリスト育成に向けた管理者としての関わり～自部署で実践した研修を活かした人材育成～	和田麻美、海老規之	第17回日本臨床腫瘍学会 学術集会	2019-7-18～ 2019-7-20

表題名	発表者名	学会名	開催日
セル看護提供方式による看護師の働き方改革	森山由香	第21回日本医療マネジメント学会	2019-7-19～ 2019-7-20
糖尿病専門病棟での自己注射チェックスタンプの活用により硬結の発見、インスリン減量につながった一例	坂ノ上文子、長岡由起、黒木 愛、他	第7回日本糖尿病療養指導学会	2019-7-20～ 2019-7-21
セル看護提供方式による看護師の働き方改革～楽しく働く職場環境を目指して～	森山由香	第69回日本病院学会	2019-8-1～ 2019-8-2
セル看護提供方式定着への取り組み	小松加寿子、倉智恵美子、日置由季	第23回日本看護管理学会学術集会	2019-8-22～ 2019-8-24
セル看護提供方式導入後の患者有用性に関する調査について ～患者質問紙調査の結果から～	倉智恵美子、森山由香		
看護ナビコンテンツのマニュアル作成による再教育と外来看護への展開	佐野美和子、梶原優子、須藤久美子		
3年間の院内医療関連機器圧迫創傷発生要因の振り返りと予防対策の取り組み	高口則子、冷川 薫	第21回日本褥瘡学会学術集会	2019-8-23～ 2019-8-24
外科系混合病棟の物品管理改善活動の成果	佐野美和子、上杉佐由美、後藤有加、他	第50回日本看護協会管理学会	2019-8-23～ 2019-8-24
クリティカルケアにおける倫理的ジレンマ～現状を改善するためには～	藤岡智恵、竹田智子	看護研究発表会	2019-8-24
安全な輸血看護を目指してーセル看護提供方式の中での取り組みー	樋口圭子	輸血シンポジウム2019in九州	2019-8-31
他施設への腹膜透析普及についての取り組み	後藤奈々、小松加寿子、松尾実佳、他	第9回国際腹膜透析学会アジア・太平洋大会	2019-9-6～ 2019-9-7
RST 外部コース	藤岡智恵	呼吸管理委員会	2019-9-14
「自分が自分でなくなる怖さ」を自覚する膵がん切除後の高齢糖尿病患者への看護外来での支援	岡 佳子、篠崎妙江	第24回日本糖尿病教育・看護学会学術集会	2019-9-21～ 2019-9-22
急性期病院で子育てをしながら病棟勤務を行う看護師の子育て経験が職務満足度に及ぼす影響	中尾里美、梅津 歩、川口まどか、他	第50回日本看護学会 看護管理	2019-10-23～ 2019-10-24
新人看護師教育の再構築に向けた取り組み～輸血シミュレーション内容の検討～	吉川英里、玉城葉月、樋口圭子		
敗血症性ショックに至る前の4徴候を活用した予防ツールの作成	野見山由美子、石垣あい、梶原優子、他		
セル看護提供方式による働き方改革の実現	和田麻美、倉智恵美子、松岡洋子		
セル看護提供方式が患者に与える効果について ～患者アンケート調査から考える～	倉智恵美子、森山由香		
Kaizen から生まれたセル看護は質改善と働き方改革に貢献する	森山由香		
人生最終段階にある高齢膵がん患者の糖尿病に対する治療法選択の一例	篠崎妙江、岡 佳子、岩橋淑恵、他	第57回日本糖尿病学会九州地方会	2019-10-25～ 2019-10-26
受診中断の既往を有する壮年期患者への糖尿病治療と仕事の両立に向けた療養支援	岡 佳子		
A病院における心不全緩和ケアに対する看護師の意識の変化や今後の課題	伊藤瑛梨奈、里 真奈美、下見美智子	第16回日本循環器看護学会学術集会	2019-11-2～ 2019-11-3
セル看護提供方式による看護師の働き方改革～楽しく働く職場環境を目指して～	森山由香	大分県認定看護管理者研修会	2019-11-9
外科系混合病棟における包交に関わる無駄を省き、患者に寄り添う ～傷を良く見てケア力UP!!～	鍵中拓也、米森靖人、中尾里美、他	第21回フォーラム「医療の改善活動」全国大会in仙台	2019-11-14～ 2019-11-16
セル看護提供方式による働き方改革～誰もが楽しく働く職場を目指して～	森山由香		
意思疎通手段が限られたALS患者の意思決定支援の関わりを通して～オートクラインの効果を活用して～	関野和香、松永裕美、野見山香菜、他	第7回日本難病医療ネットワーク学会学術集会	2019-11-15～ 2019-11-16
当院の腹膜透析患者の訪問看護への取り組みについて	松尾実佳、後藤奈々、小松加寿子、他	第25回日本腹膜透析医学会学術集会・総会	2019-11-23～ 2019-11-24

表題名	発表者名	学会名	開催日
透析などの治療の不開始を希望する患者への多職種役割と連携を問い直す -施設を超えた多職種と共に考える-	岡 佳子、松尾純子、大井恵子	第31回日本生命倫理学会 年次大会	2019-12-7～ 2019-12-8
外科系女性病棟での患者の意見を取り入れた自己導尿パンフレットの改訂	古野里沙、佐野美和子、緒方友香、他	第19回福岡県看護学会	2019-12-14
A病院における産後うつ病のリスク因子の検討とケアの効果	中嶋かおる、久保佳子、中山和子		

栄養部

表題名	発表者名	学会名	開催日
統合失調症の患者に対し多職種で関わり体重管理を行った一症例	古家妃華里、江田千種、重松由美	第45回福岡県栄養改善学会	2019-10-14

経営管理部

表題名	発表者名	学会名	開催日
病棟医療物品の適切な管理方法構築 ～三定概念とPDAの導入～	後藤有加、佐野美和子、荒巻美鈴、他	第18回日本医療マネジメント学会第18回福岡支部学術集会	2019-3-9
「臨床知識と経営指標の相互利用は可能か」～シンポジウム「組織で実践する臨床知識」～	岩佐紀輝	第3回日本臨床知識学会	2019-3-9
末期腎不全患者の治療法選択時における多職種連携-倫理委員会事務局の立場から-	大井恵子、名取良弘、平川 亮、他	第7回日本臨床倫理学会年次大会	2019-3-30～ 2019-3-31
飯塚病院中長期計画（2018～2025年度）の策定と年度事業計画への展開	仲吉 翔	第21回日本医療マネジメント学会学術総会	2019-7-19～ 2019-7-20
病棟クラークによる診療報酬請求に対する制度向上の取り組みの一例	松田加奈子	第18回日本医療マネジメント学会	2019-9-21～ 2019-9-22
算定項目チェック表による病棟クラークの活動の見える化	今津好美		
病棟クラークによる診療報酬請求に対する精度向上の取り組みの一例	松田加奈子	第61回全日本病院学会	2019-9-28～ 2019-9-29
算定項目チェック表による病棟クラークの活動の見える化	今津好美		
透析などの治療の不開始を希望する患者への多職種役割と連携を問い直す -施設を超えた多職種と共に考える-	大井恵子、岡 佳子、松尾純子	第31回日本生命倫理学会年次大会	2019-12-7～ 2019-12-8

地域包括ケア推進本部

表題名	発表者名	学会名	開催日
地域に開かれた地域包括ケア病棟の活用と連携を目指したシステムアプローチ ～住民×専門職×行政の協働による5ブロック地域包括ケアシステム推進協議会の取り組み～	小栗和美	第1回日本在宅医療連合学会大会	2019-7-14～ 2019-7-15
住民目線の地域完結型医療・介護の実現を目指した地区単位での取り組みの一考察	小栗和美	第21回日本医療マネジメント学会学術総会	2019-7-19～ 2019-7-20

臨床心理室

表題名	発表者名	学会名	開催日
家庭背景が複雑で自立への葛藤から転換性障害を呈した一例	仲吉美沙子、西山織江、岡松由記、他	第15回日本小児心身医学会九州沖縄地方会	2019-3-10
重症頭部外傷後の乳幼児と家族に対する多職種チームの関わり	松尾純子	第22回日本臨床救急医学会	2019-5-30～ 2019-6-1
Aちゃんとお母さんが関係を紡いでいく過程 －臨床的脳死の状態となった赤ちゃんご家族への関わり－	竹下明子	第38回日本心理臨床学会	2019-6-6～ 2019-6-9
初期研修医メンタルヘルスサポートシステムの課題と実践	松尾純子、倉嶋修司、小田浩之	第51回日本医学教育学会	2019-7-26～ 2019-7-27
デイケアマインドフルネスプログラムの試み 臨床心理士の立場から	和田花穂里	第195回筑豊ブロック地域精神医療研究会（PNC）	2019-9-20
透析などの治療の不開始を希望する患者への多職種の役割と連携を問い直す －施設を超えた多職種と共に考える－	松尾純子、岡佳子、大井恵子、他	第31回日本生命倫理学会	2019-12-7～ 2019-12-8

3. 講演

肝臓内科

表題名	発表者名	講演会名	開催日
レンパチニブにおける最新データのレビュー報告	本村健太	第19回肝がん分子標的治療研究会	2019-1-26
生活習慣病と肝がん	本村健太	第19回実地医家のための糖尿病セミナー	2019-5-21
HCV治療の現状～DAA既治療に対する再治療と非代償性肝硬変を中心に～	矢田雅佳	第463回北九州肝臓懇話会	2019-11-18

呼吸器内科

表題名	発表者名	講演会名	開催日
肺癌の薬物療法について	飛野和則	第43回洞葉会がん薬物療法研修会	2019-1-30
多発肺膿疱の2例	飛野和則	第61回呼吸器疾患研究会	2019-2-19
当院における重症喘息治療について	棟近 幸	Kitakyushu Severe Asthma Symposium	2019-3-18
高齢者のCOPD増悪予防と管理	西澤早織	第13回筑豊呼吸器RENKEIの会	2019-4-23
飯塚病院におけるIPF診断の現状	飛野和則	第36回九州臨床画像解析研究会	2019-5-31
飯塚病院呼吸器内科における抗ヒスタミン薬の使用状況について	靄野広介	Allergy Forum in 飯塚	2019-6-18
喘息とOSA	大井隆之介	第189回北九州呼吸器懇話会	2019-6-20
COPDに合併する病態画像診断	飛野和則	第62回呼吸器疾患研究会	2019-7-16
COPDの診断と治療 - 最近の話題を含め -	飛野和則	第272回福岡県病院薬剤師会筑豊支部学術講演会	2019-7-24
COPDの治療と薬剤選択	飛野和則	エアロスフィア講演会	2019-8-6
嚥下障害スクリーニングとCOPD増悪	吉松由貴	21st IREF プログラム	2019-8-24
COPD治療における第一選択薬について	末安巧人	ULTIMATE Forum in Iizuka COPD Interactive Meeting	2019-9-17
ALK陽性肺癌の治療戦略	吉峯晃平	第42回北九州胸部疾患研究会	2019-9-18
当科で経験したリンパ脈管筋腫症のまとめ	飛野和則	第4回北九州呼吸器病研究会	2019-10-4
よくある肺腫瘍～その診断へのアプローチ～	靄野広介	第190回北九州呼吸器懇話会	2019-10-10
飯塚病院におけるCOPD診療	飛野和則	第37回九州臨床画像解析研究会	2019-11-15
呼吸器内科医的COPDの捉え方	靄野広介	第14回筑豊呼吸器RENKEIの会	2019-11-19
当院における重症喘息診療について	棟近 幸	GSK重症喘息セミナー in 飯塚	2019-12-4
狙いを定めた誤嚥性肺炎のケア	吉松由貴	第24回宮崎県呼吸ケア研究会	2019-12-21

内分泌・糖尿病内科

表題名	発表者名	講演会名	開催日
当院における糖尿病治療薬の現状について	井手 誠	第269回福岡県病院薬剤師会筑豊支部学術講演会	2019-4-17

消化器内科

表題名	発表者名	講演会名	開催日
EUS-FNA now：消化管疾患から膵疾患まで“上部消化管上皮下病変に対するEUS-FNAの実際”	赤星和也	第37回日本消化器内視鏡学会 関東セミナー	2019-1-20
IBDの病態と治療	久保川 賢	持田製薬株式会社社員教育勉強会	2019-1-24
潰瘍性大腸炎に対するゴリムマブ(GLM)の有用性検討	長友周三郎	IBD治療を考える会	2019-2-15
夢そして挑戦	赤星和也	第25回消化器懇話会	2019-3-16
上部消化管上皮下病変に対するEUS-FNAの実際	赤星和也	第398回筑豊消化器病研究会	2019-6-26

総合診療科

表題名	発表者名	講演会名	開催日
遂に国が旗を振る～薬剤耐性対策アクションプラン概要～	的野多加志	第13回鹿児島呼吸器外科感染症フォーラム	2019-1-18
acid-base disorders	清田雅智	水戸協同病院 特別講演会	2019-2-1
ジュネたま冬の陣～初期研修、あと1年どう過ごす！？～	木安貴大	第14回若手医師のための家庭医療学冬期セミナー	2019-2-9～ 2019-2-10
総合診療医と学ぶ！循環器内科医のためのグランドカンファレンス	清田雅智	第6回 Watering Hole Osaka	2019-2-9
透析患者のHIV感染症管理	的野多加志	北九州透析感染症セミナー :HIV医療講習会	2019-2-21
抗菌薬適正使用支援～私の理想と現実～	的野多加志	アムビゾームエリアフォーラム in北九州～抗菌薬・抗真菌薬の 適正使用を考える～	2019-3-7
その抗菌薬本当にいると？～風邪診療を見直す～	的野多加志	筑豊ブロック薬剤師会学術研修会	2019-3-13
風邪と抗菌薬と私	的野多加志	第1回バリバリ感染症を勉強する会 in九州	2019-3-16
清田雅智先生による総合診療 Conference	清田雅智	湘南藤沢徳洲会病院 臨床研修センター	2019-3-23
Logical Case Conference	清田雅智	Geriatric Clinical Forum 2019	2019-5-17
HIV感染症の最新情報	中村権一	第34回福岡HIVネットワーク シンポジウム	2019-7-25
内科医からみた急性腎障害	清田雅智	21世紀 適々齋塾 腎臓病セミナー	2019-7-27～ 2019-7-28
Carrier design 総合診療科のキャリアの積み方	清田雅智	阪神循環器研究会	2019-8-9
診療現場に即した臨床推論の枠組み	吉野俊平	JADECUM 講演会	2019-8-16
潰瘍性大腸炎治療中に血球貧食症候群により汎血球減少を認めた50歳男性	富山周作	教育セミナー（九州）	2019-8-17
メトトレキサート長期内服中に巨赤芽球性貧血をきたし、汎血球減少を認めた92歳男	黒川智美		
ビタミンB12欠乏による巨赤芽球性貧血により汎血球減少を認めた42歳男性	鈴木祥太郎		
忙しい！忙しい！毎日大変だ。。。テクノロジーを仲間にできないのか-そんなあなたに学びのためのライフハックを！-	小杉俊介	医学教育フェスティバル	2019-8-31
「日本にチーフレジデントは必要か？～JACRA コア施設の成功例を踏まえて～」	小杉俊介	基本的臨床能力評価試験シンポジウム2019	2019-9-1
「成績上位医療機関における初期研修の取り組み」	小田浩之		
過敏性腸症候群（IBS）ももう怖くない～困ったときの漢方～	赤岩 喬	第17回秋季生涯教育セミナー	2019-9-21～ 2019-9-23
スーパー指導医のInteractive Conference	清田雅智	Yokohama GM Forum 2019	2019-9-22

表題名	発表者名	講演会名	開催日
感染管理認定看護師教育課程講義「血流感染、尿路感染、疥癬、髄膜炎、消化器感染症感染症」	中村権一	国際医療福祉大学 感染管理認定看護師教育課程講座	2019-10-15
ホスピタリストが教える発熱・皮疹のみかた	鈴木祥太郎	Antaa	2019-10-18
初めての動機付け面接法	松本朋樹	Antaa	2019-11-22
各施設での総合医の取り組みについて／総合医のあるべき姿・未来予想図とは	小田浩之	Consultant Meeting	2019-11-23
抗菌薬はどういうところで使わないのか	清田雅智	第15回 Fujita Primary Care Skills	2019-12-21

膠原病・リウマチ内科

表題名	発表者名	講演会名	開催日
治療に難渋した股関節炎の一例	日浦惇貴	リウマチ膠原病治療を考える会	2019-2-5
当科高齢関節リウマチ患者に対するアダリムマブ投与経験	内野愛弓	第6回筑豊リウマチ研究会	2019-2-21
高齢化が進む地域でのリウマチの実臨床	永野修司	筑豊リウマチ連携セミナー	2019-6-11
高齢化が進む地域でのリウマチの実臨床	永野修司	第5回馬借リウマチ勉強会	2019-7-4
実臨床に適した高齢リウマチの治療戦略	永野修司	第28回佐賀リウマチ研究会	2019-7-19
当院におけるイグランチモドの使用経験	永野修司	DMARDsを語る会	2019-7-25
グリムマブの自己注射における有用性の検討	内野愛弓	北九州 Golimumab Meeting	2019-10-2
サリルマブを使用した関節リウマチの2例	佐川文彬	第27回七隈膠原病セミナー	2019-10-8
高齢者の関節リウマチ治療	永野修司	第55回日本赤十字社医学会総会ランチョンセミナー	2019-10-17
膠原病について	内野愛弓	難病医療相談会	2019-10-18
当科における大血管炎のトシリズマブ治療経験～リウマチ膠原病診療に関連する注意点とは～	内野愛弓	第2回アネモネ会	2019-10-19
リウマチ治療を考える	永野修司	第275回福岡県病院薬剤師会筑豊支部学術研修会	2019-10-24
ループス腸炎を呈した男性全身性エリテマトーデスの1例	佐川文彬	第8回筑豊リウマチ研究会	2019-10-31
発作的な発熱、脂肪織炎を繰り返す原因不明の症例	佐川文彬		
当科での大型血管炎に対するトシリズマブ使用経験	内野愛弓	第3回IL-6から考えるリウマチ性疾患セミナー	2019-11-1

連携医療・緩和ケア科

表題名	発表者名	講演会名	開催日
飯塚病院緩和ケアチームの活動	柏木秀行	第6回福岡大学筑紫病院 緩和ケアセミナー	2019-1-31
心不全の緩和ケアは地域で実践できるのか？	大森崇史	心不全 Conference	2019-2-5
スピリチュアルペインを割と簡単に理解する	柏木秀行、大森崇史、岡村知直	第17回北九州・筑豊痛みを考える会	2019-2-26
実践・心不全緩和ケア	大森崇史	第29回玄海心不全カンファレンス	2019-3-1
緩和ケアにおける多職種で考える臨床倫理	柏木秀行、川口篤也	第67回飯塚緩和医療勉強会	2019-3-29
心不全の緩和ケア	柏木秀行	心不全トータルケアセミナー	2019-4-19
緩和ケアの視点で心不全症例を振り返る	大森崇史	慢性心不全管理について考える会	2019-4-25
がん診療の経験に基づく、心不全患者のせん妄	柏木秀行	第3回長崎心不全緩和ケア研究会	2019-5-20
全方位型緩和ケアのすすめ ～救急外来から終末期まで～	岡村知直	救急×緩和ケアセミナー	2019-5-24
全方位型緩和ケアのすすめ	岡村知直	市立奈良病院 救急・緩和勉強会	2019-5-24

表題名	発表者名	講演会名	開催日
非がんの患者に対する緩和ケア ～心不全を中心～	柏木秀行	ホスピス緩和ケア協会九州支部 支部大会	2019-5-25
看取りにおける多職種連携の重要性について	松本弥一郎	多職種連携研修会	2019-6-30
自分らしい最期を迎えるために～他職種でできる事～	松本弥一郎、吉武順一		
プライマリケア医のための鎮痛	岡村知直	藤田医科大学 総合診療プログラム勉強会	2019-7-10
リアルワールドに緩和ケアを実装する！	柏木秀行	第7回総合内科セミナー	2019-7-20
がん疼痛緩和ケアにおける在宅と病院の連携～日々考えた事～	柏木秀行、河原正典	第68回飯塚緩和医療勉強会	2019-8-9
お看取り時の立ち振る舞いについて考える	大屋清文	第7回医学生・若手医師のための緩和ケア夏季セミナー	2019-8-17～
私のキャリアパス	松本衣里		2019-8-18
心不全緩和ケアについて	大森崇史	第23回糸島唐津県境医療ネットワーク in 糸島	2019-8-24
緩和ケア領域のイノベーションアイデア	柏木秀行	日本生体Q医工学会 サマースクール	2019-8-27～ 2019-8-28
心不全緩和ケアチームは本当に必要か？ ～設立3年目の課題と展望～	大森崇史	第18回長崎緩和ケアセミナー	2019-9-7
心不全診療にも活用できる！緩和ケアのスキルとシステム	柏木秀行	第7回阪神循環器研究会	2019-9-12
心不全の緩和ケア	柏木秀行	第9回緩和・疼痛管理研究会	2019-9-27
心不全の緩和ケア	大森崇史	第24回北九州薬剤師ハートカンファレンス	2019-9-30
循環器専門医と緩和ケア医はいかに協働すべきか？	柏木秀行、安斉俊久	第23回日本心不全学会学術集会	2019-10-4～ 2019-10-6
心不全とともにある人生 ～あなたの支えを増やします～	柏木秀行	第23回心臓いきいき市民公開講座	2019-10-6
全方位型緩和ケアのススメ ～いつでもどこでも誰でも緩和ケア～	岡村知直	葉山ハートセンター 勉強会	2019-10-9
エビデンスに基づく臨床コミュニケーション教育基礎編 ～何を教えればいいのか？～	岡村知直、小杉俊介、菊川 誠、金澤剛志、橋本忠幸、三島千明	第74回医学教育セミナーとワークショップ	2019-10-12～ 2019-10-13
循環器診療におけるACP ～飯塚地域における連携の実際～	大森崇史	心疾患の地域医療とチーム医療を考える会	2019-11-20
心不全の緩和ケア	大森崇史	循環器緩和ケアセミナー	2019-11-25
高齢者の食と健康（維持）	柏木秀行	活力ある超高齢社会を共創するグローバル・リーダー養成プログラム	2019-11-26
補完代替医療ってニセモノ医療？～良き相談者になるために知っておくべきこと～	柏木秀行、鈴木 梢	第69回飯塚緩和医療勉強会	2019-12-4
コンビニ型緩和ケアと若手中心の医師組織の運営を経営的視点から考える	柏木秀行	一宮西病院 医局会議	2019-12-6

循環器内科

表題名	発表者名	講演会名	開催日
ポンプ不全患者における血行動態を意識した補助循環管理	川上将司	第13回心不全梁山泊	2019-2-2
低酸素血症と血行動態の解釈	川上将司	第6回 Watering Hole Osaka	2019-2-9
DVTの診断と治療	高原勇介	第4回筑豊ハートミーティング	2019-6-14
令和時代も役立つ急性冠症候群の古典的な話	川上将司	飯塚医師会学術講演会	2019-6-17
院外心停止・心原性ショック患者を救うために必要なこと	川上将司	飯塚医師会学術講演会	2019-7-30
当院における心不全うっ血管理	高原勇介	心不全治療講演会 in 飯塚	2019-10-16
静脈血栓塞栓症の現状と課題	高原勇介	筑豊VTEフォーラム	2019-11-5
心不全治療の最前線～急性期治療から心移植・補助人工心臓まで～	川上将司	第6回救急緩和セミナー	2019-12-7
急性冠症候群の初期治療と抗血栓薬	川上将司	WEBカンファレンス	2019-12-9

心不全ケア科

表題名	発表者名	講演会名	開催日
循環器目線で見えた、心不全緩和ケアの意義－飯塚病院での取り組み－	今村義浩	第25回福岡東部 心臓血管カンファレンス	2019-6-19

脳神経内科

表題名	発表者名	講演会名	開催日
パーキンソン病 診断と治療	高瀬敬一郎	第267回福岡県病院薬剤師会筑豊支部学術研修会	2019-1-23
Contactin-1陽性CIDPの1例～電顕病理を添えて～	前田教寿	第15回福岡神経免疫セミナー	2019-2-15
心原性脳塞栓症の治療戦略 二次予防について	高瀬敬一郎	第3回脳卒中治療連携勉強会 in 筑豊	2019-4-10
そのお薬飲みやすいですか？抗てんかん薬の形状による内服困難の検討	高瀬敬一郎	第29回福岡てんかん研究会	2019-6-7
脳卒中後てんかんの診断と治療	高瀬敬一郎	Think Epilepsy after Stroke in Miyawaka	2019-7-29
脳卒中後てんかんの診断と治療	高瀬敬一郎	てんかんセミナー in 小倉	2019-9-9
心原性脳塞栓症の二次予防	高瀬敬一郎	九州エリアWebセミナー	2019-9-17
化学療法による高アンモニア血症性脳症のため重積状態となった症例	高瀬敬一郎	第31回北九州てんかん懇話会	2019-11-15

腎臓内科

表題名	発表者名	講演会名	開催日
白紙からの臨床研究：データシートの作り方	佐々木 彰	Statistical Analysis Conference	2019-2-14
飯塚病院で学んだ事	岡村貞裕、瀧小路友哉	ネフロロジーラウンド	2019-2-22
糖尿病とCKD 対策	藤崎毅一郎	第19回実地医家のための糖尿病セミナー	2019-5-21
CKDと薬剤投与	藤崎毅一郎	第270回福岡県病院薬剤師会筑豊支部学術研修会	2019-5-28
飯塚イズム：飯塚病院での教育 過去・現在・未来	佐々木 彰	STRRM.c(Southern TOHOKU Research medical conferanse	2019-8-30
忙しい臨床の中で臨床研究を継続する極意	佐々木 彰	JCR 臨床研究トレーニング合宿・日本リウマチ学会	2019-9-14
腹膜透析治療におけるカルニチン欠乏について	古閑和生	第7回透析患者の治療を考える会	2019-9-19
慢性腎臓病（CKD）の診療	藤崎毅一郎	第16回飯塚病院地域医療病院報告会	2019-10-4
飯塚病院の現況	藤崎毅一郎	第157回北九州透析懇話会	2019-10-17
「慢性腎臓病（CKD）とはどういう病気か？」	藤崎毅一郎	飯塚医師会 市民公開講座	2019-10-26
「透析患者の急変突然死」	藤崎毅一郎	第252回筑豊地域救命救急研究会	2019-10-30
CKD（慢性腎臓病）を予防しよう！	藤崎毅一郎	鞍手町講演会	2019-11-18
CKD（慢性腎臓病）を予防しよう！	藤崎毅一郎	住民医療協議会	2019-12-2

漢方診療科

表題名	発表者名	講演会名	開催日
症例から学ぶ漢方治療の実際	吉永 亮	第230回麻生飯塚漢方診療研究会	2019-1-17
『傷寒論演習』解説 (18)	田原英一、吉永 亮		
ストレス疾患と漢方	田原英一	第25回産業医科大学漢方医学セミナー	2019-1-30
漢方実践レクチャー「漢方治療ことはじめ」(①知っておきたい【水毒】と【冷え】②漢方診療実技 ③参加者からの希望テーマでレクチャー)	吉永 亮	General Medicine 漢方ベースキャンプ in 日南・串間	2019-2-2
まず知っておきたい「水毒」と「冷え」－外来・救急・病棟で活かす－	吉永 亮	JA広島総合病院漢方研修会	2019-2-6
『チーム四物湯』の奇跡	田原英一	第337回遊漢方臨床談話会	2019-2-9
症例から学ぶ漢方治療の実際	後藤雄輔	第253回筑豊漢方研究会	2019-2-14
フレイル・高齢者と漢方	田原英一		
症例から学ぶ漢方治療の実際	井上博喜	第231回麻生飯塚漢方診療研究会	2019-2-21
『傷寒論演習』解説 (19)	田原英一、井上博喜		
処方へのアプローチ「漢方教育委員会～効くのはどれだ?～」症例検討会 2	田原英一	日本東洋医学会 福岡県部会	2019-3-3
処方へのアプローチ「漢方教育委員会～効くのはどれだ?～」症例検討会 1	井上博喜		
東洋医学から学ぶ 更年期と上手く付き合うヒント	矢野博美	宗像市男女共同参画推進センター「ゆい」女性の健康週間講演会	2019-3-8
春先に多いストレス性疾患	井上博喜	第254回筑豊漢方研究会	2019-3-14
症例から学ぶ漢方治療の実際	矢野博美		
漢方概論、設問解説、診断実技、処方トレーニング	田原英一	漢方学舎 IN 九州	2019-3-23～ 2019-3-24
漢方概論、設問解説、診断実技、処方トレーニング	矢野博美		
漢方概論、設問解説、診断実技、処方トレーニング	井上博喜		
メジャー漢方薬を活かす	吉永 亮	長崎プライマリ・ケア漢方セミナー	2019-4-13
「漢方薬学概論」2019 / 漢方治療の概要	田原英一	福岡大学薬学部講義 (医学部4年)	2019-4-17
症例から学ぶ漢方治療の実際	後藤雄輔	第232回麻生飯塚漢方診療研究会	2019-4-18
『傷寒論演習』解説 20	田原英一、後藤雄輔		
漢方の診断法と処方運用Ⅱ (少陽病)、漢方診療の診断法 (腹診実技)	矢野博美、田原英一、井上博喜 吉永 亮、後藤雄輔	筑豊漢方基礎講座 2019	2019-4-20～ 2019-4-21
漢方医学概論、漢方診療の診断法 (腹診実技)、漢方の診断法と処方運用Ⅴ (気)	井上博喜、田原英一、矢野博美 吉永 亮、後藤雄輔		
漢方の診断法と処方運用Ⅳ (陰証①、②)、漢方診療の診断法 (腹診実技)、症例検討	田原英一、矢野博美、井上博喜 吉永 亮、後藤雄輔		
漢方の診断法と処方運用Ⅲ (陽明病)、漢方診療の診断法 (腹診実技)、漢方の診断法と処方運用Ⅴ (水)	吉永 亮、田原英一、矢野博美 井上博喜、後藤雄輔		
漢方の診断法と処方運用Ⅰ (太陽病)、漢方診療の診断法 (腹診実技)、漢方の診断法と処方運用Ⅴ (血)	後藤雄輔、田原英一、矢野博美 井上博喜、吉永 亮		
ストレスに対する漢方治療	井上博喜	薩摩川内東洋医学研究会	2019-5-14
『傷寒論演習』解説 21	田原英一、矢野博美	第233回麻生飯塚漢方診療研究会	2019-5-16
症例から学ぶ漢方治療の実際	矢野博美		
総論	田原英一	福岡県立大学 東洋医学概論	2019-6-5
女性と漢方 月経障害・更年期障害を中心に	矢野博美	第25回熊本漢方談話会	2019-6-8
「風邪」服薬指導にも役立つ処方の意図を学ぶ 症例検討会	井上博喜	日本東洋医学会 福岡県部会	2019-6-8
「風邪」服薬指導にも役立つ処方の意図を学ぶ 風邪の亜急性期	田原英一		

表題名	発表者名	講演会名	開催日
地域医療で学んだ漢方医療	吉永 亮	令和元年度 日本東洋医学会九州支部大分県部会学術講演会	2019-6-9
六病位、太陽病	後藤雄輔	福岡県立大学 東洋医学概論	2019-6-12
症例から学ぶ漢方の実際	後藤雄輔、田原英一	第255回筑豊漢方研究会	2019-6-13
女性と漢方 妊婦から授乳婦まで含めて	田原英一		
薬理学Ⅱ 漢方医学と漢方薬	後藤雄輔	福岡大学医学部 薬理学講義	2019-6-17
少陽病、陽明病	矢野博美	福岡県立大学 東洋医学概論	2019-6-19
症例から学ぶ漢方治療の実際	井上博喜	第234回麻生飯塚漢方診療研究会	2019-6-20
『傷寒論演習』解説 22	田原英一、牧 俊允		
陰証	井上博喜	福岡県立大学 東洋医学概論	2019-6-26
血の失調	後藤雄輔	福岡県立大学 東洋医学概論	2019-7-3
消化器疾患に対する漢方治療	井上博喜	第56回鹿児島漢方学術懇話会	2019-7-6
「漢方薬学概論」2019 / まとめ 方剤の運用と治療	田原英一	福岡大学 薬学部講義 (医学部4年)	2019-7-9
漢方診の実際から	田原英一	産業医科大学医学部 医学概論Ⅲ (医学部3年)	2019-7-9
水の失調	吉永 亮	福岡県立大学 東洋医学概論	2019-7-10
プライマリケアにおける皮膚疾患と漢方	吉永 亮	第256回筑豊漢方研究会	2019-7-11～ 2019-7-11
症例から学ぶ漢方の実際	矢野博美、田原英一		
漢方医学の診断・治療1.2	田原英一	長崎大学医学部 臨床特論 (東洋医学)	2019-7-16
症例から学ぶ漢方治療の実際	吉永 亮	第235回麻生飯塚漢方診療研究会	2019-7-18
『傷寒論演習』解説 23	田原英一、牧 俊允		
気の失調	井上博喜	福岡県立大学 東洋医学概論	2019-7-24
診断実技 (脈診・腹診・舌診の診かた)、症例問題の解き方、症例問題	吉永 亮、田原英一	第1回会津漢方学舎 2019 漢方スキルアップセミナー	2019-7-27～ 2019-7-28
設問解説、診断実技 (脈診・腹診・舌診の診かた)、症例問題	田原英一、吉永 亮		
消化管の冷えと熱	後藤雄輔	第5回福岡大学医学部薬理化学外研究会	2019-7-30
診察と診断のまとめ	田原英一	福岡県立大学 東洋医学概論	2019-7-31
総合診療漢方医のススメ	吉永 亮	第338回熊本県東洋医学研修会	2019-8-24
漢方で楽しくなる『痛み診療』-その痛み、お風呂で温まるとどうなりますか?-	吉永 亮	あま市民病院地域医薬連携会議	2019-8-31
高齢者医療における漢方 認知症を中心に	井上博喜	第257回筑豊漢方研究会	2019-9-12～ 2019-9-12
症例から学ぶ漢方の実際	吉永 亮、田原英一		
『傷寒論演習』解説 24	田原英一、牧 俊允	第236回麻生飯塚漢方診療研究会	2019-9-19
症例から学ぶ漢方治療の実際	後藤雄輔		
腹診オリエンテーション、腹診実技、症例問題の解き方・考え方	田原英一	漢方アドバンスセミナー	2019-9-21
過敏性腸症候群 (IBS) ももう怖くない～困ったときの漢方～	吉永 亮	日本プライマリ・ケア連合学会 第17回 秋季生涯教育セミナー	2019-9-21～ 2019-9-23
水毒の漢方治療	田原英一	日本東洋医学会関東甲信越支部新潟県部会 ランチョンセミナー	2019-9-22
漢方専門医が知っておくべき事	田原英一	第13回日本東洋医学会専門医制度九州地区教育講演会	2019-9-28
症例から考える処方意図	井上博喜		
専門医に求められる生薬・薬理・副作用の知識	後藤雄輔		
傷ついた心にも、四物湯で潤いを。	田原英一	令和元年度日本東洋医学会兵庫支部会	2019-9-29
討論会：流派を超える	田原英一	第29回漢方治療研究会	2019-10-6
特別企画「医案を語る」	田原英一、井上博喜、牧 俊允		
右手の第2から5指挫滅切断後の夜間疼痛が漢方治療で改善した一例	矢野博美	第258回筑豊漢方研究会	2019-10-10
症例から学ぶ漢方の実際	井上博喜、田原英一		
ストレス社会における四物湯の意義	田原英一	川西市東洋医学医会	2019-10-12

表題名	発表者名	講演会名	開催日
薬剤	田原英一	麻生看護大学校 (1年次Bクラス) 治療論 I	2019-10-15
『傷寒論演習』解説 25 症例から学ぶ漢方治療の実際	田原英一、牧 俊允	第237回麻生飯塚漢方診療研究会	2019-10-17
	矢野博美		
薬剤	田原英一	麻生看護大学校 (1年次Aクラス) 治療論 I	2019-10-18
気血水	田原英一	麻生看護大学校 (1年次Aクラス) 治療論 I	2019-10-25
高グルコースに起因する細胞内シグナル異常と酸化ストレスを標的とした糖尿病性腎症治療法の検討：選択的PPAR α モジュレーターとSGLT2阻害薬の腎保護効果	牧 俊允	第57回日本糖尿病学会九州地方会	2019-10-25～ 2019-10-26
痛みに対する漢方治療～腰痛・関節痛～	井上博喜	薩摩川内東洋医学研究会	2019-10-31
海の漢方、山の漢方 -プライマリケアにこそ漢方！ - (①地域医療で覚えておきたい漢方薬 ②症例から学ぶ ③漢方何でも相談)	吉永 亮	General Medicine 漢方 ベース キャンプ in 日向市2	2019-11-9
消化器疾患と漢方～便秘・下痢～	田原英一	第25回岩国東洋医学研究会	2019-11-12
気血水	田原英一	麻生看護大学校 (1年次Bクラス) 治療論 I	2019-11-15
痔核による激しい疼痛に芍薬甘草湯の温湿布が奏効した1例	吉永 亮	第45回日本東洋医学会九州支部学術総会	2019-11-17
更年期女性の持続するほてりに薄荷が有効であった1症例	後藤雄輔		
心肺蘇生後繰り返す誤嚥性肺炎と意欲低下に釣藤散合葶藶大棗瀉肺湯が有効であった一例	井上博喜		
著明な倦怠感に大黃蘆虫丸の併用が有効であった1例	牧 俊允		
車前子にわいたタバコシバンムシ	矢野博美		
麦門冬湯エキスとブシ末の併用が奏効した下痢の1例	田原英一		
お腹に漢方	吉永 亮		
『傷寒論演習』解説 26 症例から学ぶ漢方治療の実際	田原英一、牧 俊允	第238回麻生飯塚漢方診療研究会	2019-11-21
	後藤雄輔		
陰陽、六病位、総論	田原英一	麻生看護大学校 (1年次A、B クラス) 治療論 I	2019-11-22
呼吸器疾患の漢方治療	矢野博美	第26回熊本漢方談話会	2019-11-23
四物湯はこころも潤している	田原英一	第14回実践東洋医学講座	2019-11-24
高齢者医療における漢方	井上博喜	八幡・中間・遠賀漢方の集い	2019-11-28
四物湯が情動に及ぼす影響	田原英一	第2回日本東洋医学会 福岡県 部会	2019-11-30
風邪、咳の診かた、メジャー漢方～海の漢方、山の漢方～、漢方よろず相談	吉永 亮	漢方入門セミナー in KOCHI	2019-11-30
診断実技 (脈診・腹診・舌診の診かた)、症例問題	吉永 亮	第2回会津漢方学舎 2019 漢方 スキルアップセミナー	2019-12-7～ 2019-12-8

画像診療科

表題名	発表者名	講演会名	開催日
飯塚病院で放射線科が行う緊急IVRの傾向	三浦亘智	第53回田川画像研究会	2019-6-17

小児科

表題名	発表者名	講演会名	開催日
女性医師の離職期間を短縮するために取り組んできたこと～キャリア教育～	岡松由記	第41回親仁会医師団総会	2019-1-12～ 2019-1-13
発達障害のとらえ方 ～みんなちがって、みんないいの？～	大矢崇志	平成30年度 田川市学校保健会講演会	2019-3-19
舌下免疫療法の地域連携－当院の現状と取り組み－	田中祥一郎	鳥居薬品社内勉強会	2019-5-10

外科

表題名	発表者名	講演会名	開催日
当院における肝切除周術期管理の現状～チーム医療の視点から～	皆川亮介、萱島寛人、梶山 潔	第136回筑豊肝胆膵研究会	2019-3-12
胃がんの最新の治療法！～胃がんの基礎知識から予防法まで～	古賀 聡	第52回筑豊地域医療サポーター養成講座	2019-11-27

呼吸器外科

表題名	発表者名	講演会名	開催日
飯塚病院呼吸器外科2018年診療実績報告	大崎敏弘	第13回筑豊呼吸器RENKEIの会	2019-4-23
診断・治療に苦慮した症例	福市有希子、大崎敏弘、安田 学	筑豊肺癌カンサーボード	2019-7-9
福岡県肺癌地域連携パス（術後UFT）の現状と取り組み	大崎敏弘		
飯塚病院における救急医療 胸部外傷と呼吸器外科	大崎敏弘、草薙佳澄、福市有希子、西澤夏将、安田 学	第14回筑豊呼吸器RENKEIの会	2019-11-19

産婦人科

表題名	発表者名	講演会名	開催日
婦人科診療にまつわる最近の話題	辻岡 寛	八幡産婦人科医会総会学術講演会	2019-4-23～ 2019-4-23
抗癌化学療法と血栓	吉良さちの	筑豊VTEフォーラム	2019-11-5
周術期合併症の予防について-TLHのピットホール-	辻岡 寛	Kitakyushu young OBGYN seminar	2019-11-21

整形外科

表題名	発表者名	講演会名	開催日
Spherical Periacetabular Osteotomy の手術手技	原 俊彦	SPO カダバセミナー（福島県立医大）	2019-1-24～ 2018-1-25
寛骨臼形成不全に対する安全で低侵襲な関節温存術 ～ Spherical Periacetabular Osteotomy ～	原 俊彦	第218回宮城股関節研究会	2019-3-2
Spherical Periacetabular Osteotomy 歴史の中のSPO	原 俊彦	第1回 Hip Total Solution 骨と未来を支える	2019-5-25～ 2019-5-26
変形性股関節症の治療戦略	原 俊彦	のぞみ会 医療講演	2019-5-26
軟部バランスを考慮した人工股関節の設置について	原 俊彦	THA Rhapsody MDM hip seminar	2019-6-29
THAの術前計画	原 俊彦	九大整形股関節教育セミナー	2019-8-4
飯塚病院での骨粗鬆症治療の取り組み（案）	浜崎晶彦	Osteoporosis Diagnosis and Treatment	2019-9-11
飯塚病院での骨粗鬆症治療の取り組み	浜崎晶彦		
骨粗鬆症診断、治療の重要性	浜崎晶彦	飯塚医師会学術講演会	2019-9-18
Spherical Periacetabular Osteotomy 術前計画と手術手技	原 俊彦	SPO キャダバセミナー	2019-10-4～ 2019-10-5
大腿骨頭壊死の病態と治療	原 俊彦	田川市 骨関節基礎知識	2019-10-29
3D Template を活用した術前計画 基本から実際	原 俊彦	Hip Forum	2019-11-16

表題名	発表者名	講演会名	開催日
Evolution of technique Spherica Peri-acetabular Osteotomy	原 俊彦	AO Trauma Course Hip Preservation with Anatomical Specimens	2019-11-21～ 2019-11-22
Planning of SPO and Surgical Procedure	原 俊彦		
Anatomy of the acetabulum What is normal	原 俊彦		
Avascular Necrosis of Femoral head MRI, CT, XP	原 俊彦		
股関節の病気のお話し	原 俊彦	NTT 退職者の会	2019-12-19
変形性膝関節症の病態と治療	浜崎晶彦	アドバイザーミーティング	2019-12-20

リハビリテーション科

表題名	発表者名	講演会名	開催日
がん悪液質に対するリハビリテーション	山下智弘	第6回福岡がんのリハビリテーション研修会	2019-4-11
リハビリテーションにおける言語聴覚士 (ST) と医師の役割	山下智弘	麻生リハビリテーション大学校	2019-5-7
リハビリテーションにおける言語聴覚士 (ST) と医師の役割	山下智弘	麻生リハビリテーション大学校	2019-5-21
リハビリテーションにおける言語聴覚士 (ST) と医師の役割	山下智弘	麻生リハビリテーション大学校	2019-6-4
リハビリテーションにおける言語聴覚士 (ST) と医師の役割	山下智弘	麻生リハビリテーション大学校	2019-6-18
リハビリテーションにおける理学療法士 (PT) と医師の役割	山下智弘	麻生リハビリテーション大学校	2019-7-4
リハビリテーションにおける理学療法士 (PT) と医師の役割	山下智弘	麻生リハビリテーション大学校	2019-7-13
脳卒中後遺症の痙縮に対するボツリヌス療法について	山下智弘	第51回筑豊地域医療サポーター養成講座	2019-9-19
がんのリハビリテーション	山下智弘	山口がんのリハビリテーション研修会	2019-10-26
COPD 症例に対する術前呼吸器リハビリテーション	山下智弘	第14回筑豊呼吸器 RENKEI の会	2019-11-19

脳神経外科

表題名	発表者名	講演会名	開催日
現実の脳死下臓器提供 - その源流から終着点まで -	名取良弘	秋田大学医学部附属病院脳死下臓器提供シミュレーション	2019-1-12
提供施設としてやらねばならないことって何? - 急性期医療における終末期医療のありかたから -	名取良弘	平成30年度和歌山県院内臓器移植コーディネーター養成研修会	2019-1-19
チームで進める臓器提供 - 終末期対応の一環として -	名取良弘	旭川医科大学臓器提供講演会	2019-3-4
頭蓋底手術の今と医療器具	名取良弘	第39回日本脳神経外科コンGRESS	2019-5-16～ 2019-5-19
法的脳死判定と一般的脳死診断	名取良弘	大牟田市立病院脳死下臓器提供シミュレーション	2019-6-5
小児脳死判定セミナー：無呼吸テスト	名取良弘	第33回日本小児救急医学会	2019-6-21～ 2019-6-22
これで良いのか!? 主治医に任せっきりの臓器提供	名取良弘	第3回ぼんたね病院臓器移植セミナー	2019-7-5
PCAPS 急性期病院における活用	名取良弘	医療の質マネジメント基礎講座	2019-7-26～ 2019-7-29
臓器提供の意思確認は誰の仕事?	名取良弘	佐賀県臓器移植普及会議	2019-8-23
チームで進める臓器提供 - 終末期対応の一環として -	名取良弘	名古屋市立大学病院 臓器提供講演会	2019-8-29

表題名	発表者名	講演会名	開催日
無呼吸テスト	名取良弘	2019年度救急医療における脳死患者の対応セミナー(1日コース)	2019-9-15
無呼吸テスト	名取良弘	2019年度救急医療における脳死患者の対応セミナー(1日コース)	2019-9-16
臓器提供の取り組みを院外へ	名取良弘	福岡県臓器提供普及協議会	2019-10-4
プレングレス：脳死判定セミナー	名取良弘	第78回日本脳神経外科学会総会	2019-10-8
急性疾患で救命困難となった患者家族に対する多職種チーム対応の重要性と臓器提供の意思確認	名取良弘	第78回日本脳神経外科学会総会	2019-10-9～ 2019-10-12
臓器提供に関わる環境整備の現状と今後－脳神経外科医の立場から－	名取良弘	第11回大阪府移植医療セミナー	2019-10-25
無呼吸テスト	名取良弘	2019年救急医療における脳死患者の対応セミナー(2日コース)	2019-11-2～ 2019-11-3
終末期医療の一選択肢としての臓器提供の意思確認	名取良弘	岐阜大学臓器移植講演会	2019-11-14
チームですすめる臓器提供－終末期対応の一環として－	名取良弘	JCHO 熊本総合病院 臓器移植講演会	2019-11-20
臓器移植推進のために出来ること－脳神経外科医の立場から－	名取良弘	第18回JATCO 総合研修会	2019-11-22
チームで進める臓器提供－体制整備事業の先にあるもの－	名取良弘	鳥根県立中央病院臓器移植講演会	2019-11-26
脳死下臓器提供シミュレーション	名取良弘	秋田大学医学部附属病院脳死下臓器提供シミュレーション	2019-12-14
脳死下臓器提供－体制整備だけではわからない現場の問題－	名取良弘	愛媛大学医学部附属病院脳死下臓器提供シミュレーション・講演会	2019-12-21

心臓血管外科

表題名	発表者名	講演会名	開催日
下肢静脈瘤について 最新の診断や治療、術後静脈血栓症への対応	松元 崇	下肢血管治療フォーラム	2019-5-16
飯塚病院心臓血管外科の2018年	内田孝之	第141回筑豊循環器懇談会	2019-7-19
当院でのPAD診療について-外科的視点から	松元 崇	飯塚医師会学術講演会	2019-11-29
下肢静脈瘤血管内レーザー治療について	松元 崇	第47回飯塚病院地域医療支援病院運営委員会	2019-12-4

皮膚科

表題名	発表者名	講演会名	開催日
飯塚病院における乾癬バイオスイッチ症例について	幸田 太	大鵬薬品工業株式会社社内研修会	2019-3-1
乾癬治療について	幸田 太	協和発酵キリン社内研修会	2019-4-19
膿疱性乾癬に対する生物学的製剤の使用経験	挽地史織	第7回筑豊リウマチ研究会	2019-6-20
乾癬の病態と治療	幸田 太	第273回福岡県病院薬剤師会筑豊支部学術研修会	2019-8-21
乾癬の免疫学的病態と治療	幸田 太	第7回内房皮膚科懇話会	2019-10-29
変わりつつある掌蹠膿疱症治療	幸田 太	福岡地区皮膚科医会	2019-11-8
乾癬	挽地史織	第11回筑豊臨床皮膚研究会	2019-11-15
当科にて診療した乾癬性関節炎の1例	佐竹真緒	第2回筑豊PsA学術講演会	2019-12-6

リエゾン精神科

表題名	発表者名	講演会名	開催日
先生、患者が死にたいって言ってます。私どうしたら良いですか？	三根政弘	PNC	2019-8-23

ペインクリニック科

表題名	発表者名	講演会名	開催日
心臓外科・胸部外科手術の麻酔	小畑勝義	産業医科大学講座 侵襲医学	2019-10-31

感染症科

表題名	発表者名	講演会名	開催日
インフルエンザの診断・治療は間違いだらけ	的野多加志	第17回福岡県透析医会感染症対策学術講演会	2019-5-16
2020年東京オリパラと感染症	的野多加志	九州大学第一内科21世紀若手の会	2019-5-21
抗菌薬適正使用支援～日本の動向と当院の現状～	的野多加志	筑豊インフェクションフォーラム	2019-6-5
感染症予防の秘訣～病原体から身を守る～	的野多加志	第50回筑豊地域医療サポーター養成講座	2019-7-23
抗菌薬適正使用支援～日本の動向と当院の現状～	的野多加志	日本病院薬剤師会 感染制御専門薬剤師講習会	2019-7-27
実践！エビデンスに基づいた治療期間アップデート	的野多加志	第2回バリ感@九州	2019-8-24
2020年東京オリパラと感染症	的野多加志	感染管理講習会	2019-9-13
感染症トピックス	的野多加志	地域新型インフルエンザ等対策連絡会議	2019-9-18
播種性抗酸菌感染症	山手亮佑、的野多加志	第6回Fukuoka ID Conference	2019-9-28
飯塚病院感染症科について	山手亮佑	第16回飯塚病院地域医療支援病院報告会	2019-10-4
感染症の原則	的野多加志	第42回筑豊感染症懇話会	2019-10-23
AMR	鈴木祥太郎	地域連携カンファレンス	2019-11-22
感染症の原則と予防～ワクチン総論～	的野多加志	京都医師会学術講演会	2019-11-27

歯科口腔外科

表題名	発表者名	講演会名	開催日
口腔機能管理の重要性と医科歯科連携	中松耕治	第13回筑豊呼吸器RENKEIの会	2019-4-23
リハビリテーション医学	本田智恵子	麻生リハビリテーション大学 特別授業	2019-5-24
健口から健康へ	吉田涼子	ふれあいサロン	2019-7-23
健康寿命と口腔ケア	本田智恵子	西日本新聞社市民医療講座	2019-9-7
むし歯の予防について	波多江有香	筑豊地域小児在宅医療定例研修会	2019-9-13
口腔癌を見逃さないために	中松耕治	歯科医師会講演・講習会	2019-9-29
歯周病	本田智恵子	桂川町ボランティア連絡協議会 健康講座	2019-11-25
口腔内アセスメントに応じた口腔ケア	中松耕治、河野真由美 小野あかり	筑豊臨床栄養研究会	2019-12-11

救急科

表題名	発表者名	講演会名	開催日
生理機能と代謝	鮎川勝彦	第1回2019年度 TNT 研修会 九州地区	2019-5-18～ 2019-5-19
ERでの効果的なコミュニケーション～重症患者編～	片桐 欧	第5回救急×緩和ケアセミナー	2019-8-31
ERでの効果的なコミュニケーション	片桐 欧	第9回Antaa生放送	2019-10-25
急性呼吸不全	鮎川勝彦	第37回日本呼吸ケアネットワーク 呼吸ケアセミナー	2019-10-27

呼吸器腫瘍内科

表題名	発表者名	講演会名	開催日
NSCLC III期のCRT症例およびイミフィンジの使用経験	海老規之	Lung cancer Forum	2019-6-13
イミフィンジの使用経験	海老規之	III期肺がんを考える会	2019-8-1
EGFR変異陰性非小細胞肺癌の1次治療について～conboを極める～	海老規之	Lilly Lung Cancer Web Conference	2019-9-5
私の考える肺がん治療	海老規之	筑豊地区がん免疫療法セミナー 2019	2019-9-12
肺癌治療の進歩	海老規之	第274回筑豊支部学術研修会	2019-9-17
肺癌最新情報Topics	海老規之	激論！FUKUOKA Lung Cancer Workshop	2019-10-4
III期NSCLCに対するc CRT治療と維持療法に関して	海老規之、大栗隆行、土屋裕子	北九州肺癌講演会	2019-10-11
ドライバー遺伝子変異陽性肺癌の薬物治療について～過去から現在を振り返る～	海老規之	Web講演会 ドライバー遺伝子変異陽性肺癌の薬物治療について～過去から現在を振り返る～	2019-11-22

中央検査部

表題名	発表者名	講演会名	開催日
ISO15189が要求する品質保証と当院における実例	秋永理恵	第3回福岡県病院協会主催 臨床検査研修会	2019-2-16

薬剤部

表題名	発表者名	講演会名	開催日
患者と医師の架け橋を担う薬剤師外来の取り組み	進 健司	第33回熊本精神科病院協会薬剤師部会研修会	2019-3-2
精神科薬物療法の安全性確保に向けて薬剤師ができること	進 健司	医療安全セミナー	2019-5-31

中央放射線部

表題名	発表者名	講演会名	開催日
腹部骨盤領域のC-SENSEについて	下清水 陸、井下田栄吉	第2回福岡県診療放射線技師会筑豊地区学術研修会	2019-9-11
九州と韓国の核医学技術交流	西谷芳徳	第197回北九州インビボ勉強会	2019-9-11

臨床工学部

表題名	発表者名	講演会名	開催日
EMIに対する当院のデバイス業務	松岡翔平	第4回Kitakyushu Medical Engineers Zakkubaran Discussion	2019-1-26
人工呼吸器の安全管理～日常点検の重要性～	村上輝之	第2回筑豊地域医療機器安全管理勉強会	2019-1-28
内視鏡業務における医療機器の安全管理	田村慎一	医療機器管理・手術室関連業務部会 内視鏡関連業務部会 合同セミナー	2019-2-17
当院における体外循環技術教育の現状	平井基貴、清水重光	第2回人工心肺懇話会 InCHIKUHO	2019-2-22
デバイス開発における臨床工学技士の可能性	井桁洋貴	第27回福岡県臨床工学会	2019-6-1～ 2019-6-2
内視鏡業務指針の再確認	指原伶一		
心電図の基礎	松岡翔平	第3回医療機器安全管理勉強会	2019-9-3
医療安全への取り組み	小松真也		
人工呼吸器の基礎	松本隼人		

医療安全推進室

表題名	発表者名	講演会名	開催日
医療安全管理体制	福村文雄	医療のための質マネジメント基礎講座	2019-7-26
Patient Safety Alert System	福村文雄	第7回Conference for Health Care	2019-11-1～ 2019-11-2

地域連携センター

表題名	発表者名	講演会名	開催日
救急搬送された自殺未遂者への危険因子を減らし、保護因子を増やすための支援	笹田幸秀	平成30年度嘉穂・鞍手保健福祉環境事務所管内 自殺未遂者支援連携強化会議	2019-2-28
入院時重症患者家族への意思決定支援サポートへの取り組み	浦川弘美、浦川雅広	人生の最終段階における意思決定の支援のあり方を考える研修会	2019-8-30
飯塚病院における相談支援体制について	浦川雅広、浦川弘美		

看護部

表題名	発表者名	講演会名	開催日
日本糖尿病教育・看護学会主催 糖尿病重症化予防（フットケア研修）	岡佳子	聖マリア大学	2019-2-2～ 2019-2-3
みんなで話そう 看護の出前授業	岡佳子	飯塚第2中学校	2019-2-8
専門看護師の役割と活動	岡佳子	福岡女学院看護大学	2019-4-26
自己注射指導におけるセルフマネジメント	工藤江里子	第30回北九州リウマチ薬物治療懇話会	2019-6-5
「透析せずに生きたい」という末期腎不全患者の意思を尊重するための支援	岡佳子	第11回エンボディメントケア看護研究会	2019-6-22
高齢患者の自己注射継続支援について	工藤江里子	第5回馬借リウマチ勉強会	2019-7-4
医療倫理	岡佳子	福岡県立大学 看護実践教育センター糖尿病看護認定看護師教育課程	2019-8-13
病みの軌跡モデル	岡佳子	福岡県立大学 看護実践教育センター糖尿病看護認定看護師教育課程	2019-9-5
「病みの軌跡モデル」を用いた事例検討	岡佳子	嘉麻赤十字病院	2019-10-15
患者から学ぶ医療	岡佳子	麻生看護大学校 通信課程	2019-11-3
医療機関における“カイゼン”と働き方改革	森山由香	医療分野の「雇用の質」の向上のための研修会	2019-12-5
医療機関における“カイゼン”と働き方改革	森山由香	大阪市立大学医学部附属病院 KAIZEN 研修会	2019-12-9

栄養部

表題名	発表者名	講演会名	開催日
CKDの食事療法～在宅の食事管理を支援するために～	田代千恵子	第2回九州CKD看護研究会	2019-1-29
STと栄養士の関わりについて	山崎夏実	麻生リハビリテーション大学校講義	2019-5-23
腹膜透析患者への栄養指導～体液管理を中心に～	田代千恵子	沖縄中部エリアPD講演会	2019-8-17
褥瘡と栄養管理	山崎夏実	褥瘡勉強会	2019-9-18
CKDの食事療法～在宅の食事管理を支援するために～	田代千恵子	第2回九州CKD看護研究会	2019-9-29
社会における管理栄養士の役割 病院栄養士として後輩に伝えたいこと	古家妃華里	食物栄養研究会	2019-10-5
急性期の栄養管理	田代千恵子	九州女子大学	2019-11-26
糖尿病の栄養指導が担える人材育成の試み	重松由美	臨床に役立つ！糖尿病セミナー2019	2019-12-5

改善推進本部

表題名	発表者名	講演会名	開催日
飯塚病院の改善活動～改善活動と人材育成～	立石奈々	北野病院シニアマネージャー研修	2019-7-20
TQM活動の取り組み紹介	立石奈々	北野病院ミドルマネージャー研修	2019-9-7
飯塚病院におけるKaizenワークショップ	立石奈々	第7回 Conference for Health Care	2019-11-1～
Total Quality Management	福村文雄		2019-11-2

地域包括ケア推進本部

表題名	発表者名	講演会名	開催日
飯塚地域におけるソーシャルアクションの実践～社会システムへのアプローチ～	小栗和美	4団体社会福祉専門職団体研修会	2019-1-12
地域包括ケアシステム	小栗和美	田川医師会主催在宅医療介護連携推進研修会	2019-3-4
排泄障害者のための社会資源活用について	小栗和美	大分県社会福祉研修センター主催コンチネンスセミナー	2019-6-23

イノベーション推進本部

表題名	発表者名	講演会名	開催日
市中病院における医療機器開発の取り組みと企業向け臨床観察プログラム「飯塚メディコラボ」	井桁洋貴	Medtec Japan 2019	2019-3-18～ 2019-3-20
民間病院における医工連携の仕組み作りと実践	井桁洋貴	東京都医工連携HUB機構医工連携セミナー	2019-5-22
飯塚病院における医工連携	井桁洋貴	医工連携に関する勉強会	2019-5-24

臨床心理室

表題名	発表者名	講演会名	開催日
臓器提供に伴うチームの揺れをめぐって	松尾純子	第50回日本移植学会総会	2019-10-10～ 2019-10-12
親子の出会いを支えるもの～臨床心理士の視点から	松尾純子	第64回日本新生児成育医学会・日本新生児看護学会	2019-11-27～ 2019-11-29

経営管理部

表題名	発表者名	講演会名	開催日
家族が病気になったとき慌てないために～100歳のおばが天寿をまっとうしました～	大井恵子	2019年第1回飯塚市婦人科会「コスモスカフェ」	2019-6-18
高齢になって気をつけてほしいこと～食事、運動…そして、人生会議～	大井恵子	忠限地区福祉のつどい健康講座	2019-6-23

〔V〕 院内研修会・勉強会

1. 院内臨床病理検討会（CPC）記録

開催日	年齢	性別	診療科	検討した診断
第189回 1月18日	80代	男	総合診療科	重複腫瘍 肝細胞癌+悪性リンパ腫
第190回 5月17日	80代	男	総合診療科	膵炎に起因するびまん性肺胞障害とそれに伴う呼吸不全
第191回 7月19日	80代	男	呼吸器内科	悪性胸膜中皮腫
第192回 9月20日	80代	女	総合診療科	サイトメガロウイルス感染症
第193回 11月26日	90代	男	呼吸器内科	両肺器質化肺炎+うっ血性肺水腫

2. 看護部

内 容	対 象	開催日	場 所
第58回院内看護研究発表会	全看護師	1月12日	エネルギーセンター大会議室
2018年度 専門コース 「臨床指導者コース」	看護師経験3年以上	1月29日・2月15日・2月26日	北棟4階多目的ホール
プリセプター研修	2019年度プリセプター	2月4日・2月6日	エネルギーセンター大会議室
2018年度若葉ナース研修プログラム ～フォローアップ研修～	2018年度新人看護師	2月25日・2月28日	エネルギーセンター大会議室
介護福祉士研修会 「まごころ発表会」 「看護補助者研修」 「牽引療法について」 「急変勉強会」	介護福祉士	2月4日・2月12日 3月11日・3月12日 8月19日・8月21日 11月13日・11月27日	エネルギーセンター大会議室
看護補助者研修	ナースエイド ナースアシスタント メッセンジャー コンシェルジュ・クラーク	3月11日・3月12日・11月7日・ 11月11日	エネルギーセンター大会議室
2019年度新規採用者研修	2019年度新規採用者	4月9日・4月10日	エネルギーセンター大会議室 北棟4階多目的ホール
2019年度看護部方針説明会	全看護師	4月18日・4月22日・4月23日・ 4月24日 5月2日・5月13日・5月16日・ 5月21日 6月7日・6月11日	エネルギーセンター大会議室他
新人看護師研修「褥瘡勉強会」	新人看護師	4月15日	エネルギーセンター大会議室
新人看護師研修「ME研修」	新人看護師	4月22日・4月23日・4月24日・ 4月25日・4月26日	MEセンター・ラーニングセンター
基礎Ⅱ「リフレクション」	卒後2年目	5月13日・5月23日	北棟4階多目的ホール
新人看護師研修 「注射に関する一連のケア」シミュ レーション	新人看護師	5月13日・5月14日・5月15日	ラーニングセンター
新人看護師研修 「インスリン投与中の患者のケア」 実践編	新人看護師	5月8日・5月9日	エネルギーセンター大会議室
新人看護師研修「麻薬の取り扱い」	新人看護師	5月30日	エネルギーセンター大会議室
新人看護師研修 「インスリン投与中の患者のケア」 シミュレーション	新人看護師	6月3日・6月5日・6月7日	ラーニングセンター
看護ケア実践Ⅱ	卒後2年目看護師	6月3日・6月12日	エネルギーセンター大会議室
新入社員フォローアップ研修	新人看護師	6月1日	のがみプレジデントホテル
新人看護師研修 「呼吸器演習 ビギナーズコース」	新人看護師	6月6日・6月11日・6月18日・ 6月20日 6月25日・7月2日・7月4日	ラーニングセンター
新人集合教育 「若葉ナース研修プログラム」	新人看護師	6月19日・6月26日	エネルギーセンター大会議室
新人看護師研修 「摂食・嚥下障害をもつ患者の看護」	新人看護師	7月2日・7月16日	エネルギーセンター大会議室

内 容	対 象	開 催 日	場 所
新人看護師研修 「フィジカルアセスメント研修」	新人看護師	7月3日・7月4日・7月5日・7月8日 7月9日・7月10日・7月11日 7月12日 7月16日・7月17日・7月18日 7月19日 7月22日・7月23日・7月24日 7月25日 7月29日・7月30日・7月31日 8月1日・8月2日・8月5日 8月6日・8月7日 10月19日	E4救急・E4HCU・H2 救急・ICU
プリセプターフォローアップ研修	プリセプター全員	7月8日・7月22日	エネルギーセンター大会議室
倫理研修	卒後2年目	8月20日・8月27日	北棟4階多目的ホール
第59回院内看護研究発表会	全看護師	8月24日	エネルギーセンター大会議室
新人看護師研修 「KYTトレーニング」	新人看護師	7月26日	エネルギーセンター大会議室
新人看護師研修 「輸血の実践：シミュレーション」	新人看護師	8月5日・8月6日・8月7日	ラーニングセンター
臨床指導者コースフォローアップ 研修	卒後3年以上	9月10日	北棟4階多目的ホール
リーダーナース研修（セル看護提 供方式）	卒後2年以上	9月12日	エネルギーセンター大会議室
セル看護提供方式研究会発表会	院外・院内	9月21日	百年ホール
2019年度 専門コース 「第2回緩和ケアスキルアップコース」	看護師経験3年以上	9月26日・10月4日・10月17日	北棟4階多目的ホール エネルギーセンター大会議室
看護ケア実践Ⅲ	卒後3年目看護師	10月16日・10月18日	エネルギーセンター大会議室
新人看護師研修 「呼吸器演習 Aコース」	新人看護師	10月1日・10月3日・10月8日・ 10月10日 10月15日・10月17日 10月24日	ラーニングセンター
2019年度 専門コース 「褥瘡スキルアップ専門コース」	看護師経験3年以上	10月1日・10月31日・11月19日	北棟4階多目的ホール
2019年度 専門コース 第18回 「アセスメント力・スキルアップ コース～リカバリークラス～」	看護師経験3年以上	11月15日・12月20日 11月18日～12月13日 実習	北棟4階多目的ホール

3. 医療安全研修

1. MRM研修一覧

開催日	タイトル	講師	参加数
1月 8日	1型糖尿病患者が入院してきた時に気をつけること	岩橋淑恵(糖尿病看護認定看護師)	138
1月25日	コンフリクトマネジメント	松尾純子・西山織江(臨床心理士)	116
2月 1日	Rapid Response System	新井正康(北里大学)	103
2月15日	医療安全推進週間活動表彰および報告会	表彰部署	72
2月26日	診断エラーとは?	綿貫 聡(多摩総合医療センター)	81
3月15日	筑豊 MRM セミナー	海渡 健(東京慈恵会医科大学)	85
4月19日	医療安全の基礎「危険を知ってルールを守る」	福村文雄(医療安全推進室)	141
5月27日	2018年度活動報告および2019年度目標	投薬チーム、転倒転落チーム	122
6月21日	新人研修(看護部以外) KYT 研修	林 真由美(医療安全推進室)	31
6月25日	メモリアル研修 「医療安全としての敗血症診療」	中村権一(感染管理センター長)	121
7月 9日	新人研修(看護部以外) KYT 研修	清成道子(医療安全推進室)	32
7月 9日	ナレッジマップ	林 真由美(医療安全推進室)	82
7月26日	看護部新人 KYT 研修	清成道子(医療安全推進室)	71
9月11日	転倒転落	甲斐田幸輝(リハビリテーション部) 林 勝次(薬剤部)	127
10月 4日	医療安全管理体制	福村文雄(医療安全推進室)	108
10月21日 ～29日 (8回)	【録画】医療安全管理体制	福村文雄(医療安全推進室)	231
11月 7日	補助者研修	清成道子(医療安全推進室) 山下智雅(感染管理認定看護師) 長岡由起(管理師長)	90
11月11日	補助者研修	清成道子(医療安全推進室) 山下智雅(感染管理認定看護師) 長岡由起(管理師長)	73
11月25日	管理者研修「医療安全管理体制」	福村文雄(医療安全推進室) 清成道子(医療安全推進室)	63
12月 6日	アナフィラキシーショック 「このタイミングで?」	小田浩之(総合診療科)	89
12月24日	中途採用者研修「リスク管理と医療事故」	清成道子(医療安全推進室)	7

2. 教育

開催月	開催回数	タイトル	参加数
10/11 11/27 12/11	3回	人事制度分析研修(2等級以上対象)	64
5月～8月	4回	KYT エキスパート教育	10
8月～11月	4回	不具合分析エキスパート教育	9

4. 改善勉強会

No.	内 容	対 象	【開催回数】開催日	受講者 総数
1	改善基礎1	新入社員	【1回】4月8日（新入社員研修）	137名
2	改善基礎2 EK(Everyday Kaizen)をやってみよう！	1等級以上	【12回】 1月11日、2月12日、5月13日、6月11日、 6月24日、7月11日、7月22日、8月7日、 9月11日、10月11日、11月11日、12月11日	292名
3	Kaizenワークショップ1・2	3等級以上	【6回】 2月22日、5月21日、8月20日、9月20日、 11月22日、12月20日	89名
4	EK指導者研修	4等級以上	【2回】5月8日、10月23日	19名

5. 学会を除く学術研修会・勉強会

主催部署 または院内窓口	カンファレンス	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
肝臓内科	筑豊肝胆膵研究会			12日					27日			12日	
	肝臓と代謝懇話会			2日									
	研究論文抄読会	毎月2回 木曜日開催											
呼吸器内科	筑豊呼吸器疾患研究会							16日					
	北九州呼吸器懇話会						20日				10日		
	九州臨床画像解析研究会					31日						15日	
	筑豊呼吸器 RENKEI の会				23日							19日	
	呼吸器カンファレンス・抄読会	毎週金曜日											
呼吸器腫瘍内科	オンコロジナーズ研修会	21日	4日	4日	1日	13日	3日	1日	5日	2日	7日	21日	2日
	免疫チェックポイント阻害薬勉強会	17日	27日	28日	23日	31日	20日	24日	29日		3日	28日	
	がんチーム医療推進勉強会		7日					16日	9日				
	北部九州肺縦隔研究会					23日						12日	
	肺がんキャンサーボード		26日	26日		28日		9日		24日		26日	
消化器内科	筑豊消化器病研究会			27日			26日		7日	25日		27日	
	Gut Clinical Conference		15日		19日			19日		27日		29日	
	消化管がん Cancer Board	毎週水曜日											
血液内科	中外 e セミナー on Hematology			13日			5日			4日			11日
	抄読会	毎週火曜日											
総合診療科	レジデントデー	11日		8日	25日	9日		12日	16日	13日		22日	
	家庭医レジデントデー (颯田病院にて)	19日	16日	16日	20日	11日	15日	20日	17日	28日	19日	16日	21日
	M&M 委員会	30日		12日					9日				
	九州総合診療セミナー	24日		14日		16日		18日		19日		28日	
	福岡内科合同カンファレンス					29日			1日		3日		5日
	シニアカンファレンス	毎週木曜日											
	家庭医家族会議	第1・4木曜日											
	ジャーナルクラブ	隔週火曜日											
	重症レクチャー	隔週水曜日											
	清田 Dr. モーニングレクチャー	毎週金曜日											
膠原病・リウマチ内科	筑豊リウマチ研究会		21日				20日				31日		
	病棟講義	第3火曜日											
	抄読会	毎週木曜日											
心療内科	14A スキルアップミーティング		21日		18日		20日		22日		17日		19日
循環器内科	筑豊ハートミーティング						14日					20日	
	筑豊循環器懇話会							19日					
	論文抄読会	毎週月曜日											

主催部署 または院内窓口	カンファレンス	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
小児科	筑豊小児科医会勉強会		7日	14日		23日	6日	24日	22日		23日	28日	5日
	筑豊感染症懇話会										23日		
	筑豊周産期懇話会 (産婦人科合同)						6日					28日	
	筑豊地域小児在宅医療研修会			7日						13日			
	勉強会	毎週月・金曜日											
産婦人科	筑豊周産期懇話会 (小児科合同)						6日					28日	
	筑豊婦人科腫瘍懇話会										9日		
	ALSO プロバイダーコース											31日	1日
	筑豊 VTE フォーラム											5日	
	勉強会	毎月第2月曜日											
	抄読会	毎週火曜日											
腎臓内科	Nephrology Round		22日										
	抄読会	毎週火曜日											
漢方診療科	麻生飯塚漢方診療研究会	17日	21日		18日	16日	20日	18日		19日	17日	21日	
	麻生飯塚生薬研究会	24日	28日	28日	25日	23日	27日	25日		26日	24日	28日	
	筑豊漢方研究会		14日	14日			13日	11日		12日	10日	9日	
	院内医師向け漢方勉強会		12日	12日			11日	9日		10日	8日	12日	10日
	皇漢医学輪読会		7日	7日	4日 11日	2日 9日	6日	4日		5日	3日	7日	
	筑豊漢方基礎講座				20日 21日								
	勉強会	月～金曜日											
	漢方基礎勉強会	毎週火曜日											
泌尿器科	筑豊地区泌尿器科医抄読会	10日	14日			9日	13日	11日			10日		
画像診療科	筑豊地区脳神経画像診断研究会	28日		25日		27日		22日					
	筑豊画像研究会	16日			17日						2日		
病理科	病理診断室内勉強会	不定期											
外科	外科手技セミナー (縫合トレーニング)				14日						13日		
	筑豊肝胆膵研究会			13日									
	筑豊地区がん診療連携講演会											7日	
	筑豊乳腺懇話会										26日		
	消化管術後カンファレンス	5日	3日	2日	6日	11日	1日	6日	3日	7日	5日	2日	14日
	内視鏡手術勉強会	毎週水曜日											
	消化管がん Cancer Board	毎週水曜日											

主催部署 または院内窓口	カンファレンス	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
呼吸器外科	筑豊肺癌カンサーボード							9日					
	筑豊呼吸器疾患研究会		19日					16日					
	呼吸器画像病理カンファレンス	21日	18日					17日		19日		21日	16日
	筑豊呼吸器 RENKEI の会				23日							19日	
	肺がんカンサーボード		26日	26日		28日				24日		26日	
	呼吸器病センター合同抄読会	毎週金曜日											
脳神経内科	筑豊脳疾患研究会										2日		
	筑豊地域連携パス研究会						28日						
	抄読会	毎週木曜日											
歯科口腔外科	筑豊歯科口腔外科懇話会									20日			
	外来スタッフ勉強会	月1回 火曜日											
心臓血管外科	筑豊心臓外科治療カンファレンス								16日				
	筑豊循環器懇談会							19日					
	抄読会	毎週木曜日											
	心外勉強会	毎週金曜日											
脳神経外科	東 6 階脳神経外科勉強会	25日	1日	22日		11日 31日	14日	19日 26日	23日	6日	4日 25日	22日	20日
整形外科	筑豊整形外科医会				12日		28日			27日			
	院内スタッフ勉強会	30日	27日			29日	26日	31日	30日	27日		29日	25日
	抄読会	毎週月曜日											
皮膚科	筑豊臨床皮膚研究会							12日				15日	
	皮膚科カンファレンス	毎週水曜日											
リエゾン精神科	リエゾンチーム研修会		8日					25日		2日			
	患者行動制限最小化勉強会	24日	21日	14日	25日	20日	27日	24日	30日	19日	29日	26日	25日
麻酔科 ペインクリニック科	麻酔科 AAN 懇話会	17日	21日		18日	16日	20日		19日	3日	17日	21日	19日
	POPS 定期 カンファレンス							19日					
	麻酔科 月例カンファレンス	31日	28日	28日	25日	30日	27日	25日	29日	26日	3日	28日	26日
	第1回 飯塚区域麻酔セミナー										5日		
	勉強会	毎週月曜日、火曜日、木曜日、金曜日											
救急科	筑豊重症患者治療研究会									19日			
	筑豊地域救命救急研究会	24日	26日	22日	23日	28日	26日	26日	29日	24日	30日	22日	19日
	ドクターカーカンファレンス	15日	27日	20日	15日	20日	17日	16日	13日	17日	21日	18日	
	ドクターカーシュミレーション	17日	27日	14日	19日	13日	10日	25日			26日		
	大規模災害訓練									28日	26日		
	症例振り返りカンファレンス	毎日(各勤務時間内)											
	救急科スタッフ会議	毎月3回(不定期)											
	呼吸器内科とのカンファレンス	第2水曜日											

主催部署 または院内窓口	カンファレンス	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
集中治療科	集中治療科勉強会								28日		9日		6日
	心外合同カンファレンス												9日
	ICU 看護師対象勉強会							10日 17日	9日 26日	18日 25日	18日 31日	13日 25日	11日 27日
感染症科	バリバリ感染症を勉強する会 in 九州								24日				
	Fukuoka ID Conference									28日			
	九州臨床感染症セミナー					25日							
	筑豊感染症懇話会										23日		
	Clinical Microbiology Round						31日	28日	26日	16日	27日	8日	13日
	抄読会・輪読会	毎週月・金曜日											
リハビリテーション科・部	筑豊地域連携パス研究会	19日				18日				6日			
	北九州支部②理学療法士研修会		21日	20日 26日			17日	12日	22日	14日	15日 25日		
	筑豊地区作業療法士研修会	17日 24日	16日				2日 16日		23日		25日	21日	3日 4日
	筑豊地区言語聴覚士研修会	16日		20日		15日		17日		18日			
	リハ勉強会	不定期											
薬剤部	福岡県病院薬剤師会筑豊支部 学術研修会	23日	20日		17日	28日	20日	24日	21日	17日	24日	26日	18日
	筑豊地区薬剤師抄読会	29日							29日				
	筑豊ブロック薬剤師会学術研修会			13日	24日								
	福岡県病院薬剤師会筑豊支部 中小病院懇話会			12日			7日					25日	
	勉強会	毎週月曜日											
中央検査部	検査部新人発表会	17日		27日						25日			
	メッセージ教育										24日		
	急変時トレーニング			28日							1日		
	検査技師会 臨床生理部門勉強会		20日		17日		19日		21日		16日		11日
	検査技師会 病理細胞部門勉強会	22日		19日		21日		16日				26日	
	検査技師会 臨床一般部門勉強会			15日									
	検査技師会 臨床血液部門勉強会		28日					25日		26日			19日
	検査技師会 臨床微生物部門勉強会				18日		17日						
	検査技師会 輸血細胞治療部門勉強会		27日										
	検査技師会 遺伝子部門勉強会			28日							25日		5日
	QMS 勉強会	不定期											
	学会参加 伝達講習会	不定期											
	検査技師会 総合管理勉強会	不定期											

主催部署 または院内窓口	カンファレンス	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
臨床工学部	高気圧酸素治療講演会 in 筑豊	18日											6日
	人工心肺懇話会		22日										
	医療機器安全管理勉強会	28日											
	医療機器安全使用講習会						13日	22日	22日	9日	15日	5日	24日
	人工呼吸器セミナー in 飯塚							20日					
	人工心肺安全研修							25日					
	PCPS 安全研修	8日	18日		17日				22日 29日				
	IABP 安全研修								14日				
	高気圧酸素治療安全研修							31日					
	臨床工学部新人発表会		28日										
	宅直カンファレンス	毎週火曜日											
臨床心理室	専門医コース研修 (コンフリクトマネジメント) 初期研修医メンタルサポート プログラム	25日											
	スキルアップ勉強会 (SV)		21日		18日		20日		22日		17日		19日
	新患カンファレンス	毎週火・木・金曜日											
	ケースカンファレンス	毎月第1木曜日											

〔VI〕 委員会活動報告

1. 医療ガス安全管理委員会

委員長 尾崎実展

副委員長 村上輝之

目 的：

医療ガス（医療に用いる酸素、各種麻酔ガス、吸引、医用圧縮空気、窒素など）設備の安全管理をはかり、患者の安全を確保する

活 動 内 容：

1. 医療ガス保守点検

厚生労働省による医療ガス保守点検指針に基づく日常点検、定期点検の実施及び、監督。

2. 医療ガス使用状況の把握。

3. 必要に応じて室内のガス濃度測定、及び試験。

4. 医療ガス取り扱いの安全講習会の主催。

5. 年4回の定期会議・報告。

- ・ 中央手術室看護師長交代に伴い、委員会メンバーが緒方博美から花村裕美に交代しました。
- ・ 医療ガス設備の始業点検、日常点検および定期点検を行い、記録を保管しました。
- ・ 医療ガス取扱安全講習会を5月17日および11月15日に行いました。
- ・ 安全管理のための職員研修として、臨床工学部が毎月実施している医療機器安全使用講習会の内容に医療ガスの使用方法を追加しました。
- ・ 医療ガス安全管理者継続講習会（9/26 東京都 蒲田）に施設環境サービス課スタッフが参加しました。
- ・ 第23回医療ガス学会学術大会・総会（10/26 東京都 御茶ノ水）に臨床工学部スタッフが参加しました。
- ・ 10月1日、東病棟地下マニホールドから供給しているCO₂ガスの漏れが発生しました。中央配管からのCO₂ガス供給を停止し、手術室毎のボンベによる供給に一時的に変更し対応しました。手術室12、13号室のステリス社製シーリングペンダント内部のホースバンドの経年劣化による緩みが原因であると判明し、11月20日に通常状態に復旧しました。シーリングペンダント内部は、医療機器のため施設環境サービス課による点検が行えないため、メーカーに定期的点検を行うよう依頼しました。
- ・ 嘉穂鞍手保健所立入検査（11/14）は、液化酸素貯蔵装置の定期点検項目の、3ヵ月、6ヵ月点検項目の改善の指摘があり、対応の必要はありましたが、概ね問題はありませんでした。

次 年 向 け て：

- ・ 院内各所には、さまざまな医療ガス施設や設備があり、安全な医療ガス環境維持のため、施設環境サービス課と臨床工学部が日々全力で保守点検や補修を行っています。院内の医療ガス環境がより安全に保たれるよう、今後も委員会活動を行っていきます。
- ・ 医療ガスの正しい取り扱いのため2020年度も春と秋に講習会を行うと共に、毎月の医療機器安全使用講習会でも医療ガスについての講習を継続する予定です。当委員会メンバーも、学会や講習会への積極的な参加で、その力量を高めていきます。

2. 放射線安全委員会・特定放射性同位元素防護委員会

委員長 吉開友則

副委員長 宮原信一郎

目 的：

本委員会の目的は、「放射性同位元素等の規制に関する法律」に基づき、当院における放射性同位元素および放射線発生装置の取り扱いや管理に関する事項を定め、放射線障害の発生を防止し、あわせて公共の安全を確保することにあります。また、特定放射性同位元素の防護のために必要な措置を講じることにより、特定放射性同位元素の盗取の防止を図っています。

活 動 内 容：

放射線発生装置や放射性同位元素の安全な取り扱い、被ばく低減についての講習会（初期教育や再教育）および放射線管理区域内で勤務される職員の個人被ばく線量管理を行っています。また産業医の協力のもと、法令に則った健康診断や過剰被ばく者への対応なども行っています。

2019年は、以下の内容で院内講習会を行いました。

1. 放射線概論
2. 放射線の人体への影響
3. 放射線関連法規と個人被ばく線量管理
4. 原子力災害時の対応と放射線被ばくのリスク管理

放射線管理区域内で勤務する職員の個人被ばく線量管理は、個人被ばく線量計（ガラスバッジ）での管理を行っております。毎月、測定会社より貸与されたガラスバッジを各部署対象職員に配布回収し、測定会社に測定を依頼しております。後日、測定会社より送付された個人被ばく線量データを確認し、被ばく線量の比較的多い職員に対しては注意を促しております。当院のガラスバッジ使用者は年々増加傾向であり、今後も厳重な管理が必要と考えています。

2019年度は放射線障害防止法の改正に伴い、当院の放射線障害予防規程の改訂を行いました。また、特定放射線同位元素防護委員会を設立し、放射性同位元素のセキュリティ強化を実施しました。

次 年 に 向 け て：

放射線を用いた診療や治療の件数が増加するなか、当委員会活動によって放射線業務従事者が職業被ばくや医療被ばくを再認識し、且つ最新の情報を得ることにより無駄な被ばくや医療事故を無くすように努めてもらえればと考えています。院内で被ばく線量の比較的高い職員に対しては、関連診療科との協力を図りながら当該職員の被ばく状況に留意し、被ばく防護の指導や必要に応じた対応を遅滞なく行います。各診療科からの被ばく防護に関する問い合わせなどにも対応を行います。

院内で個人被ばく線量限度を超過する職員が発生しないように、また院内全体の放射線に対する理解を深めるため、被ばく防護の指導を強化します。教育訓練（放射線障害防止安全講習会）の受講率向上を目指して、その開催時期や内容、開催方法を検討していく必要があると考えます。

3. 感染管理委員会

委員長 増本陽秀

副委員長 中村権一

目 的：

この組織は科学的根拠に基づいた病院感染対策を推進し、MRSA、VREなどの薬剤耐性菌やHIVなどのウイルスによる感染症から患者及び医療従事者を守ることを目的とする。

活 動 内 容：

○院内外職員教育

ICTメンバーによる週1回の病棟回診を継続し、リンクメンバーおよび全職員対象の勉強会を以下のように実施した。

[テーマと参加者数]

4月26日、5月10日「よい手洗？悪い手洗い？」	147名
5月29日、6月7日 標準予防策 ビデオ研修（動画30分、計11回）	381名
6月14日 「来ていますか？正しい防護具の使い方」	55名
6月24日 「検体採取について～血液培養と便～」	49名
7月 4日 適切な尿路感染対策のためのフォーリーカテーテル管理	45名
8月30日 血液体液曝露防止（専門医研修対象）	58名
9月13日 人咬傷対策	40名
9月30日 結核対策	54名
10月11日 粘膜曝露対策	55名
10月31日 「インフルエンザ対策」（専門医研修対象）	75名
12月 3日 「HIV感染症の現状と当院での対応」	45名

○病棟回診

週1回のICTによる環境ラウンドを全病棟は月1回、非侵襲性処置実施部署は2ヶ月毎、その他部署は3ヶ月毎に実施し2週間以内に各現場へ結果を報告した。

○手指衛生モニタリングとフィードバック

入院病棟全体で、1日1入院患者あたりの手指消毒回数を定期的にモニタリングしたが全国平均の75%と低いため感染管理認定看護師による直接観察や手指衛生の勉強会を実施した。また、使用量の少ない部署へフィードバックを行った。

○NICUでのMRSAアウトブレイクに対する対策

2019年4月以降、MRSA陽性例が増加した。5月、NICU環境培養を実施し145箇所中、3箇所よりMRSAを検出し2箇所から検出した株は新生児から検出したMRSA株とPOT値が一致した。ゾーニングや手指消毒遵守を依頼した。嘉穂保健福祉環境事務所のNICUへの立ち入り後、6月をピークに減少し、8月保健所への報告を終了した。

○抗菌薬供給低下に対する対策

2019年2月、セファゾリンが供給停止となったため適応疾患をMSSAによる感染性心内膜炎などに限定することとしセファゾリン代替薬について感染症科より提示した。セフメタゾール、ピペラシリン・タゾバクタムの供給低下についても使用量の多い診療科への代替薬につ

いて提示した。

○抗菌薬適正使用支援チーム活動

カルバペネム系抗菌薬を7～14日間継続した診療科を週報として、毎週、全医師を対象にメールで配信した。感染症専門医による支援的介入のタイミングを14日から7日に短縮しこれらの対策によりカルバペネム使用量は減少した。これまでモニタリングをしていた Piperacillin/tazobactam にも支援的介入を開始し使用量は減少した。

○感染管理地域ネットワーク施設間会議と相互回診

[施設間会議]

- ・3月8日 第14回筑豊地区感染管理ネットワーク：21施設80名
「一本松すずかけ病院でのICTの取り組み」
感染管理認定看護師 山下敦司先生
「2018年度 済生会飯塚嘉穂病院感染管理委員会活動報告」
感染管理認定看護師 伊藤啓子先生
- ・5月24日 第25回飯塚病院連携地域カンファレンス：14施設58名
「2018年度手指衛生回数の施設間比較」
- ・7月26日 第26回飯塚病院連携地域カンファレンス：15施設59名
「飯塚病院での経路別感染対策の創意工夫について」
- ・11月27日 第27回地域連携カンファレンス：13施設59名
「当院と飯塚地域における耐性菌の検出状況と傾向について」
感染症検査室 古野貴未技師
「AMR・飯塚病院感染症科の働きと現状について」
感染症科 鈴木祥太郎先生
- ・9月27日 第15回筑豊地区合同カンファレンス（場所：田川病院）：27施設（保健所含）82名
「インフルエンザにかからないために」今からできる予防対策あれこれ
ささきこどもクリニック 佐々木宏和先生
「新型インフルエンザ発生時の医療体制再確認について」
田川保健福祉環境事務所 守口聡先生

[社会保険田川病院 感染対策チームとの相互回診]

3月1日 社会保険田川病院感染対策チームによる当院評価

3月19日 当院感染対策チームによる社会保険田川病院評価

○HIV対策室

3名の新規HIV/AIDS入院患者を担当した。30名が外来通院中であり、22名が抗HIV薬治療中である。また、11月1日、第45回福岡HIVネットワークシンポジウムを当院で開催し、「HIV感染症の最新情報」と「ユマニチュード」をテーマに本田美和子先生（東京医療センター）を講師に迎え講演会を行った。

次年に向けて：

手指消毒回数が全国平均より低いため、使用量の少ない部署への指導を引き続き継続し、全国平均と同等またはそれ以上を目指して活動をする予定である。抗菌薬適正使用については、カルバペネムとPiperacillin/tazobactamについても支援的介入を継続し、その評価を行っていく。また、経口第三世代抗菌薬の採用削減に向けて対策を立案し実行していく予定である。

4. 労働安全衛生委員会

委員長 増本陽秀

副委員長 中松耕治

目 的：

[基本方針]

- 安 全 労働災害を防止する。特に発生件数の多い針刺し事故について、防止対策運動を展開する。
- 環境衛生 院内感染等を防ぎ、清潔で働きやすい職場環境をつくる。環境基準を確立する。
- 健康管理 社員の健康保持増進を推進する。
- 防 災 訓練の実施と教育を強化する。

活 動 内 容：

2019年度から産業医2名体制（土井康文・濱田紀代美）となったため、下記の活動がこれまでよりもきめ細やかに行えるようになった。

1. 安全管理体制

労働災害を防止するために、毎月発生した事例と対策を検討している。特に発生件数の多い針刺し・切創及び粘膜暴露事例について、防止対策に重点を置いている。業務上災害件数は前年と比較し、針刺し、粘膜暴露による事例ともにやや減少した。

対策や措置として多く取り上げられた保護具装着等の徹底を、部長会や外科系フィールド会議、手術室業務改善委員会でも促していく。また針刺し損傷発生時のマニュアルが分かりづらい点があるため、産業医を中心に改訂作業を進めている。

8月30日にはMRM委員会と共催で「針刺しゼロに向けて」と題して全職員向けの講演を行った。

2. 防火管理体制

4月の新入社員講習として防火講習を、1月23日に中央5階病棟で避難訓練を実施した。

3. 職場健康管理

産業医が常駐する医務室を設置し、特にメンタルヘルス問題が起きそうな職員に対する相談や職場環境調整を行い、問題が起きてしまった職員に対しては、休職の必要性の判断、復職プログラム作成などに取り組んでいる。また、職場健診の未受診を減らすために、18時までの受付日を設定したことでほぼ100%の受診率が得られている。

4. 職場巡視

職場におけるリスクを発見し、労働災害や健康障害を未然に防ぐ対策の実施として、職場巡視を毎週実施している。避難通路や消火栓・防火扉前への物品の放置、整頓の不備なども指摘し、改善を勧告している。

次年に向けて：

2020年度も引き続き、職場の安全衛生に関する情報の周知の強化を図り、危機意識や対策等を共有化できるよう努めていきたい。針刺し損傷に加えて粘膜曝露が多発しているため、実態に合った対策を講じて、発生件数がゼロになるよう努めていきたい。

5. 医師の負担軽減・処遇改善委員会

委員長 増本陽秀

副委員長 中松耕治

目 的：

わが国の医療現場におけるスタッフ、なかでも病院勤務医については、昨今より過重労働が指摘されている。当院においても状況は同様であり、可及的早期に抜本的な改善に着手することが急務となっている。こうした状況を鑑み、医師の勤務状況や負担を把握し、改善を行う責任部署として、フィールド長会議が設立された（2010年4月）。

医師の負担軽減・処遇改善委員会は、フィールド長会議の活動状況のモニタリングならびに評価、さらには改善への提言を行うことを目的として2010年度に設置された。

活動内容：

科別の平均超過労働時間、時間外労働80時間および100時間超過者数、100時間超過者と80時間超疲労蓄積者を対象とした過重労働面談実施状況の調査・報告を行った。2019年度より年次有給休暇の5日間取得が義務化され、2024年度に向け、超過勤務時間を1860時間以内に抑える取り組みが必要となってくる。2019年度は12月現在の年次有給休暇の取得状況は医師一人あたり3.6日となっており、昨年同時期よりも0.7日増加している。また、超過勤務時間についても医師一人あたり月35.1時間となっており、昨年同時期よりも月1.8時間減少している。

また、医師だけではなく、看護師や医療職スタッフの負担軽減・処遇改善に関しても同様の報告を行っている。

次年に向けて：

働き方改革の推進が急務となる中、より一層の医師全体の過重労働低減を目指す。そのためには、過重労働による健康障害との関連性が強いとされる100時間を超える長時間労働を行っている医師については面談等によって勤務実態を調査し、負担軽減への対策を講じる必要がある。それと同様に、連続する80時間を超える長時間労働を行っている医師へも働きかけを行うこととしたい。

今後、当委員会では過重労働に関する調査・報告のみに留まらず、モニタリングならびに評価を実施できるように手順の整備をしていきたい。そして、さらなる年次有給休暇の取得促進、超過勤務時間の削減を図るために労働安全衛生委員会とも連携し、医師の負担軽減・処遇改善に資する提言を積極的に行っていく。

6. 薬事委員会

委員長 増本陽秀

副委員長 金澤康範

目 的：

薬事委員会は、飯塚病院における麻薬管理をはじめ医薬品の採用、削除、および薬品の適正使用基準の作成や副作用情報・対策など、その他の薬事に関する事項について審議し、院内を指導することを目的としています。

活動内容：

当委員会は、院長を委員長とし、副院長、経営管理部長、医局長、看護部、資材課長および薬剤長から構成され、原則として2ヶ月に1回偶数月に開催されています。

2019年度は、4月～12月まで5回の委員会開催において、仮採用を含む新規採用79品目、採用に伴う削除15品目、また例年通り行われた12月の削除の検討にて21品目の削除が決定されました。

2019年12月現在の常用医薬品数は1,822品目です。

当委員会では、1増1減の原則をもって採用薬剤の検討、適正化を図っておりますが、1増1減への御理解・御協力のおかげで、常用医薬品品目数は、ほぼ横ばい状態であります。

また、後発医薬品への切り替えに関しては、5回の委員会で計9品目の切り替えが承認され、12月末現在で、6品目の切り替えが終了しています。2019年度の診療報酬改定では、後発医薬品シェア率は入院処方に加え外来処方の使用量も対象となり、12月では後発品数量シェア率は約73%となり、目標の70%を超えました。

なお、麻薬管理に関しては、麻薬担当者等による研修会の実施や適正な取り扱いへの注意喚起を行いました。その結果、麻薬事故届け件数は減少しています。

次年に向けて：

後発医薬品の使用については、後発医薬品数量シェア率70%以上を維持するため更なる後発医薬品への切り替えを行っていく予定です。また、VHJ関連病院として、一層薬剤部会等の推奨による共同購入を推進していくために、各診療科と協力したいと考えています。また、麻薬管理に関しては、毒薬・向精神薬とともに、さらに慎重かつ適正な取り扱いがなされ麻薬事故の更なる減少を目指して、麻薬管理に関する研修会等の開催を実施する予定です。

7. 資材委員会

委員長 増本陽秀

目 的：

院内で使用する保険医療材料、設備投資等の病院資材について、採用等の審議を行い、安全性の維持、医療の質の向上、経済的適正配置を実現する。

活 動 内 容：

1. 新規保険医療材料

試用20件の届出を受領し、仮採用19件、本採用18件を承認した。

2. 医療機器・備品を購入する設備投資の配分

2019年度予算として申請された278件（定価4,782百万円）の申請の中から、各申請部署の意見を踏まえて144件の購入について認可。また予算外購入として58件（2019年12月末現在）の購入を認可した。

3. 運用・審議方法

①高額医療機器購入の申請および審議方法

定価50百万円以上の機器については、申請者が資材委員会でその必要性を説明する。また、投資額100百万円以上の新規又は増設申請については、経営会議において審議を行う。

②保険医療材料の採用申請方法

試用、仮採用、本採用の3段階による申請を行う。

③保険医療材料の採用審議方法

仮採用申請は、申請者が資材委員会にてその必要性を説明し、本採用申請は仮採用期間中（6ヶ月間）の使用評価を報告する。また、事務局は仮採用、本採用共にコストもしくは差益について説明する。

次年に向けて：

1. VHJ共同購入品目の拡大

VHJ共同購入に関する12の部会及び委員会（医療材料部会、薬剤部会、ME部会、循環器部会 不整脈部門、循環器部会 カテーテル治療部門、整形部会、透析部会、放射線部会、放射線部技術委員会、検査部会、透析部会小委員会、薬剤評価委員会）の事業支援を継続して行い、臨床における質の向上を維持しながら医療機材を調達し、安全面及びコスト面において多くのメリットが得られるように活動を推進する。

2. 2020年4月の診療報酬改定を視野に入れた、設備投資や診療材料購入への対策を行う。

3. 新規診療材料の採用に関する審議、医療機器の評価、調査を随時行う。

4. 医療機器の適切配置、新規医療機器購入時の機器選定を行う。

5. 医療安全・コスト削減、効率化に適合した医療材料物品の選定を行う。

8. ISO 委員会

委員長 名取良弘

副委員長 中嶋弘之

目 的：

ISO9001並びにISO14001の認証取得・更新を継続し、全病院的なQMS（品質マネジメントシステム）を構築し、医療の質の向上と安全な病院を実現すること。

活 動 内 容：

1)2019年ISO委員会主な活動

- 内部監査 テーマ検討、決定
- 内部監査員養成講座開催
- 内部監査実施
- 文書管理

2)内部監査・内部監査員養成講座について

- 水害や地震等の自然災害や事故等人的災害のリスクに備え、内部監査のテーマを「緊急事態の想定とその対応」とした。
- 監査の質問事項及び 評価基準は、ISO委員会で審議し設定した。
- 内部監査員養成講座を開催し85名が参加した（開催日：9月3日、4日）。
- 今回のテーマに基づき、以下2点について、新しい取り組みを実施した。
 - ①例年の講義内容に、総務課長による「緊急事態について」の講義を追加した。
 - ②従来、診療科と関連外来・病棟とのチームを編成し監査を実施していたが、フィールドを対象とした1チームに複数の診療科を含んだ監査を、一部分実施した。
- 監査側は、所属長又は現場管理者を主任監査員とし、ISO委員をサポーターとしてチームを編成し監査を実施した。31チーム中30チームの監査が終了した。
- 文書管理
- 「文書管理・検索システム」での文書の一元管理に向け、広報課と協働し「文書管理・検索システム」とイントラネットのリンク設定を実施した（1文書ごとに設定）。
- 2019年は、33部署より307文書の新規登録があり、登録文書数は644件となった。

次年に向けて：

1. 各部署におけるPDCAサイクル維持のため、内部監査による業務の「適合性」「有効性」を確認し、引き続きISO9001の継続認証が得られるよう活動を継続する。
2. 主任監査員を担えるリーダー育成のため、内部監査員養成講座を開催する。
3. 職員全体に向けた文書管理説明会を実施し、より積極的なシステム利用を促進する。

9. TQM 活動推進委員会

委員長 中島雄一

副委員長 山下卓士

※TQM活動：QCサークルにおける改善活動

目 的：

TQM活動推進委員会は、TQM活動を病院全体の活動へ展開し、職員全員の問題解決能力を高め、快適で安全な環境で業務を行うための思考を養い、病院全体の医療の質向上を実現させ、患者サービスに貢献することを目的とする。

活 動 内 容：

委員会組織は、TQM活動を通じて院内の問題解決に寄与し、TQM活動を行うサークルを以下の活動を以って支援する。また、当院のTQM活動発展のため発表大会に参加する。

- 1) テーマレビュー（テーマ選定時）
- 2) 活動レビュー（活動中2月～8月、原則1ヶ月1回）
- 3) 横断的問題解決の支援
- 4) 発表大会の運営

委員会の下部組織として2つの分科会および推進委員を設置し、それぞれの役割は以下の通り。

■分科会：TQM活動を行うサークルの教育指導・活動支援を行うことを目的とする。

分科会メンバーは分科会ヘッドが選任する。

- 1) 全ての分科会に共通する活動内容は以下の通り。

①勉強会における講師。講師以外のメンバーは勉強会への積極的な参加。

※サークル必修、全職員を対象とする。研修内容は、TQM活動の目的・成果・活動方法・リーダーシップについて・会合の開き方など。

- ②テーマレビュー（テーマ選定時）
- ③活動レビュー（活動中2月～8月、原則1ヶ月1回）
- ④TQM活動発表大会運営
- ⑤院外活動支援における講師

- 2) 各分科会の活動内容は以下の通り。

①教育指導分科会

- (1)TQM活動に必要なQC手法の教育・研修の開催と実施
- (2)QC手法研修（2～5月）：パレート図、特性要因図、系統図等

②標準化分科会

- (1)成果の院内拡大及び標準化と管理の定着
- (2)発表大会において、フォローアップ報告の企画・運営
- (3)標準化と管理の定着の教育

■推進委員：原則として医師を含む各部署の所属長、または所属長の推薦する者とする。

また、その活動内容は以下の通り。(分科会メンバーである推進委員は、双方の役割を兼ねるものとする)

- 1) 自部署サークルへの日常的アドバイスと共に自部署サークルレビューへの自発的参加
- 2) 研修、レビュー等への参加に対し勤務体制配慮および環境整備
- 3) 他部門・他部署への交渉(サークルの活動内容による)
- 4) TQM活動への積極的な参加

次年に向けて：

TQM活動はQC手法を通じて、後継者を育成する教育的な活動と位置づけられ、改善の考え方の基礎の1つとして定着してきた。

近年では、新しいTQM活動を目指し、新レビュー者が多数参加し、この育成についての検討を進め、また改善手法もQCストーリーのみでなく新たな手法も取り入れてきた。活動自体も改善を主体とするものから、院長方針・部署目標の達成や推奨テーマを追求すると共に、人材育成をいかに行うかを目指して活動を展開している。

TQM活動自体のギアチェンジを始めてから5年目を迎え、2020年は教育のやり方の改善と分科会の役割の見直しを行い、デミング賞受審に向けてのTQM活動のステップアップを行っていききたい。TQM活動を行うための改善でなく、自分たちの改善になる活動、そこからリーダーが生まれてくる活動を目指せるように進めていきたいと考えている。

そ の 他：

■委員会名称について

デミング賞受審に向け、2019年9月25日開催の委員会において「TQM委員会」から「TQM活動推進委員会」に名称変更することが決定した。

■院外研修

5月10日	QCサークル北部九州地区『第6114回 KAIZEN活動発表大会』 参加 [委員会1名]
6月6日	QCサークル北部九州地区『問題解決型QCストーリー研修会(基礎編)』 参加 [委員会1名]
10月11日	QCサークル北部九州地区『第6166回 KAIZEN活動発表大会』 参加 [委員会1名]
11月13日	QCサークル北部九州地区『問題解決型QCストーリー研修会(応用編)』 参加 [委員会1名]
11月15日～16日	第21回フォーラム「医療の改善活動」全国大会 in 仙台参加 [委員会4名]
11月16日	第37回 原土井病院グループHQM発表大会参加 [委員会1名]

2019年TQM活動内容は「改善活動報告」(本誌188ページ)の通り。

10. クリニカルパス委員会

委員長 辻岡 寛

副委員長 倉智恵美子

目 的：

医療の質の維持・向上を図るために、クリニカルパス作成・見直し及びパス使用を促進すること。

活動内容：

クリニカルパス委員会では、パスのシステム化を進めるため、医診伝心システムの患者カレンダー機能を利用した電子パス運用に向け、以下の活動を行いました。

- ・アウトカム評価日や評価指標を記載した新フォーマットへの改訂を進めました。地域連携パスを除く全141パスの内、約74%が新フォーマットで運用しています。
- ・パス委員を中心に産婦人科、整形外科、外科の医師、看護師、情報システム室スタッフをメンバーとする「電子パス実行ワーキング」を立ち上げ、電子パス運用の検討を進めました。2020年には、3パスのモデル運用を予定しています。

2019年 主な活動

- 1) 委員会開催；11回
- 2) パスレビュー実施；新規パス（5件） 改訂パス（17件）
- 3) パス発表大会開催；10月3日（木） 発表（4題） 参加者（95名）
- 4) パス担当者連絡会議開催；6月4日（火）、6月20日（木）
- 5) クリニカルパス点検実施；3回（3月、7月、11月）
- 6) パス登録状況（登録総数 145パス）
新規登録；8パス、削除；3パス、改訂登録；20パス
- 7) 2019年入院患者パス使用率（計算式：パス使用患者数／退院数）；40.5%（2018年 38.6%）
- 8) 講演会開催；10月21日（月）「患者状態適応型パス（PCAPS）の概念」
【講師】中尾彰宏先生（東京大学大学院工学系研究科 化学システム工学専攻
品質・医療社会システム工学寄付講座 学術支援専門員）

次年に向けて：

1. 電子パスのモデル運用を開始し、追加修正等の検討を進め、電子パスの運用を増やしていく。
2. 電子パスの本稼働に向けて、委員会におけるパスのレビュー方法・内容の検討を開始する。

11. QI 委員会

委員長 名取良弘

目 的：

医療の質は一般的に構造（ストラクチャー）、過程（プロセス）とアウトカム（結果・転帰）で規定される。QI 委員会では、これら臨床や医療の質に関する指標（Quality Indicator、以下 QI）の測定、報告および活用を基本とし、当院における医療の質を継続的に向上させ、Patient first や患者サービスに貢献することを目的とする。

活 動 内 容：

開催回数：2回（2月、11月）

活動内容：

2019年は、飯塚病院中長期計画「C：質と安全 全職員が、医療の質と安全の向上・改善に取り組み続ける病院」に鑑み、全診療科の QI を統括・整理することを目標とした。今年の活動内容は以下の通り。

- ・飯塚病院における QI の定義や留意事項の決定
- ・相談窓口として各診療科が QI を設定する際のサポート
- ・各診療科が設定した QI の一覧作成および共有

次年に向けて：

2020年は各診療科が設定した QI の測定に向け、以下の活動を行う。

- ・診療科が設定した QI を出来るだけ手間をかけずに測定、補助するための体制を作る。
- ・QI の維持・改善の状況をモニターする体制を作る。
- ・QI 設定・測定に関するサポートの継続。

12. CS・ES委員会

委員長 渡邊恵里子
副委員長 楠元正道

目 的：

当院における医療の質の向上、患者サービスの充実、職員のモラル向上、患者・職員の満足度向上のために①患者満足度調査、②患者満足度向上への取り組み、③病院に対するクレーム対策、④職員の接遇向上、⑤職員の満足度向上の対策等を審議し推進する。

活 動 内 容：

毎月定例会議を設け、患者・家族等の種々の意見やクレームに対し事実確認を行い対応している。ご意見やクレームは、通年行っている“入院患者満足度調査”や3ヶ所に設置している“患者さんご意見箱”から収集している。多く寄せられるご意見については、掲示板や患者さん向けの広報誌で病院の見解をお知らせしている。病院のホームページからのご意見や質問は、治療に関する相談内容が多く、関係部署に依頼して返事をしている。

患者・家族のご意見による主な改善内容

1. 院内駐車場が満車にも関わらず、入り口の表示が「混」となっている。混乱の元になっており、満車の場合は「混」でなく「満」の表示に変更した。
2. 救急救命センター経由で来院する患者が増えている。受付機の操作についてのサポートのため来院患者の多い時間帯である8時から30分間、救急外来スタッフが対応を行う。
3. NICUのメッセージカードの記載が専属保育士の不在のため、不定期になっていた。看護の一環として重要な役割であることを部署内で共有し、定期的な記載を行っている。

次年に向けて：

1. 入院患者アンケートの評価を行う。
2. 挨拶向上に向けての活動を行う。
3. 外来満足度調査の実施を検討する。
4. 職員満足度調査の実施を検討する。

13. 急変対応委員会

委員長 小田浩之
副委員長 山田哲久

目 的：

院内において予期せぬ患者状態の危機的増悪（急変）発生の削減および発生時の影響緩和を目的とする。

活 動 内 容：

審議および決定事項（毎月1回の定例会議）

（ア）分析（2019年）

1. 院内死亡1,213件（来院時心肺停止または蘇生後 243件、終末期＜悪性腫瘍403件、肺炎呼吸器191件、脳神経95件、心臓63件、感染65件、他142件＞、その他11件）
2. ハリーコール：83件（病棟64件、その他19件）
3. Rapid Response System（以下、RRSと省略）稼働：5件

（イ）主な決定事項

1. RRS PHS担当時間をRapid Response System運用規定に入れる。
2. H2救急とE4救急にマックグラスを配置した。C4HCU・E4HCUにも設置する。
3. 現在設置しているエアウェイスコープは回収し、救外で管理する。1台は救外使用分・1台は貸し出し用とする。
4. 挿管チューブの納入先を変更する（スミスメディカルからコヴィディエンへ）。
5. 中央検査部・放射線部での時間外RRS対象事例については、夜間看護管理者へ連絡し、患者をERへ搬送する。夜間看護管理者は救急科医師へ相談、救急科医師が対応困難時は、院内待機の総診重症チーム医師へ相談する。
6. 静脈針変更に伴い救急カート内物品の位置変更を行なう。
アドレナリンシリンジの場所に、アドレナリンシリンジ8本、アトロピンシリンジを2本（ビニール袋に入れる事）入れ、アトロピンシリンジが入っていた場所に静脈内留置針をセットする。
7. 次回より会議時間を15:30より15:00スタートとする。
8. ハリーコール時のビデオ撮影は終了とする。
9. ハリーコール報告にERエイドのコメントを記載する。
10. ハリーバッグに緊急気道確保用のトラヘルパーを入れる。
11. 旧本館眼科外来前のAEDは教育研修棟6階エレベーター前に移設する。

次年に向けて：

- （ア）引き続き、院内の急変事例を監視・測定・改善していく。
- （イ）RRSの改善・整備する。
- （ウ）BLS、ACLS、救急カート標準化、呼吸評価の教育を強化する。

14. MRM 委員会

委員長 福村文雄

目 的：

飯塚病院で発生する不具合および院内外の情報をもとに、患者安全にかかわるシステムを監視・測定・改善していくことで、より安全な組織としていくことを目的とする。

活 動 内 容：

(ア) 審議事項（毎月1回の定例会議）

① 即時報告集計報告

1. 全件4,239件（医師 168件、看護師 3,151件、薬剤師 104件、放射線技師 96件、検査技師 97件、療法士 33件、他の技師 259件、事務303件、その他 28件）
2. 警鐘事例 43件（診療・診断・合併症25件、薬剤2件、検査4件、手術・麻酔5件、ルート・ドレーン・チューブ1件、処置1件、食事1件、その他4件）、転倒転落骨折 11件

② Patient First Prize（不具合早期発見）選出・表彰

61名を表彰（医師 16、看護師 32、薬剤師 5、検査技師 2、放射線技師 3、臨床工学技士 1、その他 2）

③ 主な決定事項

1. 2019年度からのMRM研修は共催をなくし、主催・e-learningを年2回受講とする
2. カリウム製剤投与に関する取り決め規定承認
（一般病床・救急病床での規定以外の使用は随時MRM委員会にて承認を得ること）
3. 薬剤部は「医薬品安全使用のための業務手順書」を半年目処に改定する
4. 2019年度上半期MRM研修予定の承認
5. 手術室の各部屋にFFP用の加温器を置くように優先的に検討
6. カリウム製剤投与に関する規定で一部訂正を承認
（ICU・E4救急/HCU・C4HCUは一部訂正し取り扱いを承認）
7. 総合診療科（重症チーム）の救急病床・HCUにおける注射用KCL投与に関する取り決め事項を承認
8. 行動制限(抑制・拘束)に関する基準を承認
9. DNAR等指示について承認
10. 医療安全推進週間活動を承認

(イ) MRM研修（院内研修会参照）

次年に向けて：

(ア) 引き続き、即時報告から院内の患者安全状況をモニター・改善していく。

(イ) 委員会においても院内の再発防止対策をフォローしていく。

15. 透析機器安全管理委員会

委員長 藤崎毅一郎

副委員長 中嶋崇文

目 的：

透析関連機器の保守管理に関する計画を策定し、それを適切に実施することにより、安全で質の高い透析治療を提供する。

活 動 内 容：

<委員会における活動>

- 透析機器および水処理装置の管理計画立案と実施。
- 透析用水・透析液の水質管理（生菌数検査・エンドトキシン活性値検査の実施）。
- その他、本委員会の目的を達成するために必要と認める活動。

<活動実績>

1. 透析センターの透析装置52台（透析装置50台・個人用透析装置2台）、RO装置1台、透析液供給装置2台、透析剤溶解装置4台に対し添付文書に記載された「保守点検に関する事項」に準じて定期点検、定期部品交換を実施した。
2. 病棟透析室の透析装置12台（透析用監視装置10台・個人用透析装置2台）、RO装置1台、透析液供給装置1台、透析剤溶解装置2台に対し添付文書に記載された「保守点検に関する事項」に準じて定期点検、定期部品交換を実施した。
3. 保守点検と同様に関連装置全台でエンドトキシン活性値の測定及び生菌数検査を行い、清浄化の確認を行った。透析用水・透析液ともに日本透析医学会が提言する「2016年度版透析液水質基準」が定める基準値内で管理することができた。
4. 透析関連機器の安全使用のための研修を7回（延べ41名）実施した。
5. 血液浄化センターを透析センターへ移転することで、充実したスタッフ数のもと、より安全な治療を提供することが可能となった。
6. 留置カテーテル挿入患者の透析治療開始時の接続対応を、医師から臨床工学技士、看護師へのタスクシフトを計画的に行い、待ち時間短縮への取り組みを実施した。
7. 透析センターにおいて安全針への変更を行い、感染対策および医療安全の質の向上を図った。
8. VHJの血液透析回路の値上げに伴うコスト上昇に対し、最小限に抑えるよう運用の変更を実施した。

次年に向けて：

- 透析センターおよび病棟透析室の透析関連装置の保守管理と、透析用水・透析液の清浄化に務める。
- 従事者に対する透析関連機器の安全使用のための研修を継続していく。

16. 病院食サービス委員会

委員長 井手 誠
副委員長 工藤仁隆

目 的：

- 1) 入院患者さんへ適正な栄養管理を行うことを目的に、治療中のさまざまな病態に応じた多食種の食事を提供する。
- 2) 病院食自体が患者さんの治療やQOL向上に効果を認めるため、治療に貢献できる質の高い食事提供や、また入院生活の精神的サポート（楽しみ）になることである。
- 3) 当委員会は、飯塚病院の食事療法全般について、医師・看護師等を含む会議において定期的検討を行うものである。

活 動 内 容：

- 1) 毎月1回の委員会開催。定期会議の中で継続的に問題提議を行い、解決を行う。
- 2) 入院患者さんへのアンケートの実施（2回／年）
2017年より患者アンケートは、患者さんの率直な意見を把握するために、その方法を直接聞き取る方法から、アンケート用紙に直接記入してもらう方法へ変更した。今回の満足度は、85%であり前回の74%と比較して上昇しているが、自由記載の箇所には、患者さんからの率直な意見が多数あり課題が明確となった。
- 3) 災害用非常食の備蓄について
当院は、災害拠点病院の指定を受けているため、その指定要件として食料・飲料水、医薬品を3日分程度備蓄しておく必要があるが、2018年度に飲料水も含め患者さん用の非常食の確保がほぼ完了した。2019年度は、備蓄した非常食を入院患者さんに病院食として提供し、非常食を廃棄しないローリングストック方式の運用について検討し2019年6月より開始した。また、職員用の非常食の確保に向けて検討を開始している。
- 4) 調理スタッフの人員不足対策の検討について
給食業界全体で人員不足が深刻化しており、当院も必要人員の約8割のスタッフで業務を行っている。そのため、人員確保に向けてのリクルート強化と共に、業務内容の見直しを行った。
 - ・従業員食堂のメニューを3種類から人気のあるメニュー 2種類へ変更
 - ・早出業務の一部を見直し、子育て中のスタッフが働きやすい日勤帯へ移行した
 - ・一部の食種を除いて、朝食のおかずを既製品のおかずセットへ変更

次年に向けて：

安心・安全で、且つ満足していただけるような食事提供を可能にするために病院食のKAIZENを継続的に行う。

【現在検討中の案件】

- ・職員用の災害用非常食の検討及び確保
- ・人員不足に対する業務内容の見直し及び効率化の検討

17. 情報システム委員会

委員長 清田雅智

副委員長 田原英一

目 的：

本委員会は、情報システムを通じ、医療の質の向上、患者サービスの向上、業務の効率化、コストの削減等を図ることを目的として、活動しています。

活 動 内 容：

本委員会は、毎月開催し、情報システム・情報セキュリティに関する協議・検討や決定・承認を実施しています。

2019年の主な実績（システムリリース等）は、以下の通りです。 ※（）内はリリース月

- ・ インスリン血糖測定システム（1月）
- ・ 医事会計システム サーバ更新（2月）
- ・ 薬品在庫管理システム 麻薬管理機能等の追加（2月）
- ・ 患者カレンダー機能 フローシート等の追加（3月）
- ・ 手術室予約管理システム 実施情報参照機能等の追加（3月）
- ・ 検査オーダー CT検査申込書 メトホルミン休薬指示機能の追加（3月）
- ・ 医診伝心システム 院内紹介状の返書記載通知機能等の追加（3月）
- ・ 医診伝心システム 処方カレンダー表示機能等の追加（3月）
- ・ 医診伝心システム 医師表示順の変更（3月）
- ・ 医診伝心システム 元号及び西暦変更対応（3月）
- ・ 医診伝心システム 医療機関マスタ項目リニューアル（3月）
- ・ 医診伝心システム 緊急確認機能等の変更（3月）
- ・ 仮想化サーバ構築（プリンタ、Active Directory、ファイルメーカーサーバ更新）（3月）
- ・ 手術室予約管理システム タイムフリー機能等の追加（7月）
- ・ 褥瘡管理システム 褥瘡ハイリスク項目自動チェック機能等の追加（7月）
- ・ 薬剤管理指導支援システム 薬剤総合評価調整加算連携機能の追加（7月）
- ・ 教育研修棟対応（ネットワーク構築、機器展開等）（8月）
- ・ 電子カルテ 2号用紙承認機能の追加（10月）
- ・ 褥瘡管理システム 褥瘡診療計画書等確認機能の追加（10月）
- ・ ふれあい棟（新医局）対応（ネットワーク構築、機器展開等）（10月）
- ・ 消費税10%改正対応（11月）
- ・ RPA（Robotic Process Automation）活用（推進プロジェクト11月キックオフ）
- ・ Windows10対応 パソコン等情報機器展開（11月）
- ・ 輸血検査機器更新に伴う医診伝心システム連携（12月）
- ・ インスリン血糖測定システム 血糖値ミニパス使用表示機能等の追加（12月）

次 年 に 向 け て：

現行の電子カルテ・オーダーリングシステム等を、更に機能強化します。セット化オーダー・患者カレンダー機能の更なる拡充、承認機能、スマートフォンアプリケーション開発等に取り組みたいと考えております。

また、人工知能（AI）・RPA（Robotic Process Automation）の活用や、次期電子カルテシステム導入についても、引き続き検討します。

18. 診療情報管理委員会

委員長 福村文雄

目 的：

診療録等の適切な管理・運用を行うと共に、診療支援・医学研究および教育・病院の運営など各種業務の円滑な遂行を図ることを目的とする。また、DPCコーディング委員会としてDPCコーディングに関する運用・管理を行う。

活 動 内 容：

【2019年主な審議案件】

- ・新規書式の申請（1件）
医事課より医療費支払い誓約書。審議後承認。
- ・量的点検の報告
3月、9月に実施した結果を報告。
- ・「外出外泊許可申請書・兼許可書」について
申請欄の目的部分に「一般」と自動印字されるのを削除。
- ・「栄養食事指導料」について
来年度、情報システム室と承認システムのシステム開発を検討。
- ・「感染症科」について
感染症科新設にあたり、電子カルテ上に感染症科フォルダを設置。
- ・「保険外負担の同意書」について
適時調査において、指摘されたため同意書（案）を作成し、承認。
- ・紙カルテの外部保管について
旧本館取り壊しに伴い、現在旧診療情報管理室に保管している紙カルテを移管。
- ・退院サマリの2週間以内の提出率について
直近1年間において2週間以内の提出率は、基準の90%以上を維持している。
- ・DPCコーディング委員会
 - ①DPCの副傷病名について、②医療資源病名選択の定義について、③傷病名の選択について「最も医療資源を投入した傷病名」を変更した具体例

次年に向けて：

法律や診療報酬請求において求められる記録を検討し、点検を実施していく。さらに記録遵守率の向上を目指して、記録を容易にするために電子カルテシステムの改定を考えていきたい。

19. 研修管理委員会

委員長 井村洋

目 的：

飯塚病院における初期及び新専門医制度・後期研修制度の実施に関する統括管理を行う。

活 動 内 容：

奇数月に定例開催している。

- 初期研修医第29期15名および後期研修医25名の研修修了を承認した。
- 初期研修医が記載するカルテへの指導医承認機能の運用システムを改良した。
- 初期研修医2年次ローテーション変更規約に則り、5名の年度途中でのローテーション変更について承認した。
- 初期研修医細則「引越に伴う休暇取得」について改訂を行なった。

【2020年度採用状況】

- 初期研修医
医科：マッチング17名／定員17名
(採用面接受験者数：56名、中間公表1位希望人数：36名、全国病院ランキング：14位)
歯科：マッチング1名／定員1名
- 専攻医
内科プログラム ：一次登録16名／定員16名
外科プログラム ：一次登録 1名／定員5名
救急科プログラム ：一次登録 1名／定員4名
総合診療プログラム ：一次登録 4名／定員6名
※一次登録期間：2019年10月15日～11月15日

次年に向けて：

- 医師臨床研修マッチングにて中間公表1位希望人数を指標とし受験者増加を目指す。
- 初期、専攻医へとつながるリクルーティング活動に取り組む。
- 新専門医制度の円滑な運用を目指す。
- 初期研修医から専攻医、そしてスタッフ医と研修を通じ将来を俯瞰できる研修プログラムの提供を目指す。

20. 図書委員会

委員長 中島雄一

副委員長 高瀬修治

目 的：

医療情報の効率的な収集の支援。電子情報化時代に即した蔵書管理、情報収集ツールを採用し、効率化、迅速化を進める。

活 動 内 容：

毎月1回委員会を開催している。

「医中誌WEB」「UpToDate」「Dynamed/MEDLINE Complete」「メディカルオンライン」「医書.jpオールアクセス」を契約更新した。

「メディカルオンライン イーブックス」を契約開始した。

年間購読雑誌は、国内雑誌54タイトル、外国雑誌49（うちオンライン30）タイトル。

購入書籍は160冊。

雑誌製本は122冊。

不要書籍2,900冊と、オンラインで閲覧できる雑誌を廃棄した。

「医中誌WEB」の図書室外利用が可能になった。

次 年 に 向 け て：

医学研究・最新医療の提供のためには、膨大な医療情報の中から、スピード感を持つ的確な抽出が必要となっており、特に文献情報は、電子媒体が中心となり、インターネット検索で得られることが当たり前となっています。

近年、書籍・文献も冊子から電子媒体へと変化が進み、ユーザーにとって、検索の効率化が図れる一方、出版社側は情報の一元的管理を進め、ユーザーに対してより優位な地位を得る結果となり、アクセス権料の高騰等の弊害を招いた結果、その選択で混乱を招いていましたが、やっと落ち着いてきたこともあり、極力電子書籍への移行を図るように推進しております。

また、図書室内の使用頻度の低い書籍については、購入の中止や電子媒体への変更を進めております。教育研修棟への移転に伴い、既存の文献情報の整理を進めました。今のところ大きな問題は生じていませんが、今後さらに合理化をすすめ、需要に対して図書室の更なる有効利用をしていただけるよう様に活動していきたいと考えています。

21. クレデンシャル委員会

委員長 名取良弘

副委員長 永野修司

目 的：

クレデンシャル委員会は教育・研修ブロックの常設委員会として、飯塚病院勤務医師の能力向上を通じて、飯塚病院で提供される医療の水準と患者の安全を向上させることを目的に活動を実施しています。

活動としては次のように、医師の技量評価に関する検討と資格認定が主な業務です。

【プリヴィレッジ】各医師の診療行為の範囲を定める

【クレデンシャル】プリヴィレッジを定めるにあたって資格を判断する過程

活 動 内 容：

具体的な委員会活動としましては、毎月1回、部長会後に委員会を開催しております。

開催概要としましては、

◆開催日時：毎月1回、部長会終了後

◆委員：各科管理部長（および部長代行）

◆実行委員：委員長1名、副委員長1名、事務局

◆定例の活動：各診療科、医師ごとに作成されたプリヴィレッジリストの検討として、定期的見直し、修正、項目の追加などの承認を実施しています。

次年に向けて：

2020年も引き続き力量評価表のさらなるブラッシュアップを実施します。

また、各医師に対してReviewを行いPrivilegingし、本委員会でCredentialingすることで、各医師のPrivilegingを決定、見える化を行い、このPrivilegingシステムを基にデミング賞受審に向けての準備、そして将来的にJCI認証（Joint Commission International）を見据えた医師全体の評価方法の見直し、評価システムの再考や諸規程の整備につなげていきたいと考えています。

22. 手術室業務改善委員会

委員長 尾崎実展

副委員長 花村裕美

目 的：

手術室勤務者の業務拡大と資質の向上ならびに手術室運営の効率化を進める。

委員会設立の経緯：

2005年にヨーロッパ静脈経腸栄養学会（ESPEN）で公表された術後強化回復プログラム（Enhanced Recovery after Surgery:ERAS）が普及し、術後回復促進の考え方が激変した。これを受け、当院でも手術前・手術中・手術後を区切ることなく周術期として一つの単位と考え、周術期管理チームで管理する発想が生まれた。麻酔補助看護師（AAN）・手術室エイド（ORA）・手術室テクニシャン（ORT）等の認証制度を立ち上げ、効率的運用に寄与するべく本委員会が創設され、2015年から研修ブロック管轄下に院内安全ブロックから移行した。

活 動 内 容：

1. 麻酔補助看護師（Anesthesia Assistant Nurse:AAN）制度

麻酔科医の業務の一部である麻酔維持管理を補助する資質を有する看護師をAANと呼ぶ。麻酔維持管理について学んだ後に、実地指導と試験合格を経て院長より認証される。麻酔科医の指示のもとで麻酔維持管理を行い、麻酔業務を補助する。

2. 手術室テクニシャン（Operating Room Technician:ORT）制度

手術室外回り業務の一部である器械出し業務を看護師に代わってORTが行う。ステップアップ研修を受け、外科医より評価を受け認証される。

3. 手術室 PACU（Post Anesthesia Care Unit: 麻酔後回復室）設立

PACUは手術終了後にICU・HCU・回復室等を経由せず直接病棟に戻る患者さんを対象として、術後一定時間経過観察を行うエリアである。現在は、整形外科の人工関節手術術後の患者さんを対象とし、麻酔科学会が主催する周術期管理チーム認定試験に合格した5名の手術室看護師を中心に運営されている。

4. 2019年の主な活動

- a) AAN 認定者 13 名（手術室勤務 12 名、ER 勤務 1 名）に変わりなし。夜勤帯の AAN 業務を、
①夜勤帯の超緊急帝王切開の支援業務（麻酔支援医師のお手伝い）と②並列麻酔の際の引き継ぎ業務のお手伝いの 2 つとした。
- b) ORA 認定者 2 名のうち 1 名が ORT 研修を受けていたが 8 月で一旦研修中止し、ORA として勤務を継続した。ORT3 名体制に変わりなし。
- c) ORA/ORT の手術室運営効率化への貢献は非常に大きいですが、離職防止と人材確保における待遇面での魅力が不足していると思われる。待遇改善にむけた提案を検討中である。

次年に向けて：

手術室の効率的運用に向けて、各種人員の増員と各業務でのスキルアップを図っていく。

23. 内視鏡センター業務改善委員会

委員長 赤星和也
副委員長 川畑浩子

目 的：

内視鏡センター勤務者の高度医療への積極的参加を進め、医療の質の向上を図る。

活動内容：

規約上の活動範囲

- 1) 内視鏡センター業務改善に関するもの
- 2) 院内認定資格制度規約の作成及び定期的な運営管理

2019年度活動内容

- 1) 内視鏡センター関連部署のスタッフ（内視鏡施行科医師、内視鏡センター臨床工学技士、内視鏡センター看護師、内視鏡センター医療秘書、診療放射線技師、消化器内科病棟看護師、消化器内科外来看護師）と外部委員（人事課、薬剤部、看護部）による3ヶ月に1回の内視鏡関連業務についての現状把握と業務改善のため会議を開催した。
- 2) 上記会議において内視鏡検査種別件数動向、内視鏡センター内X線関連検査種別検査動向、内視鏡関連機器の故障等発生状況、病棟での内視鏡治療の術後合併症等の発生状況、消化器内科新規紹介患者数動向、鎮静下内視鏡検査を受けた患者の安全度と満足度の調査結果をシェアし、内視鏡診療チーム医療の質の向上に向けた改善に取り組んだ。その取り組みの一つの“患者入れ替え時間の短縮”は2019年度当院のTQM活動発表大会で優秀賞を受賞した。
- 3) 超音波内視鏡ガイド下穿刺吸引法（EUS-FNA）支援臨床工学技士制度に基づき認定された3名の内視鏡センター臨床工学技士は、EUS-FNAチーム医療の診療成績向上のため、2019年度に計161例の症例経験を積みスキルアップした。

次年に向けて：

1. 上記1)、2)の継続（担当：全員）
2. 上記2)の中で最近問題となっている内視鏡機器の故障発生件数増加の原因を調査し、有効な対策を考案し減少に努める。（担当：医師、看護師、臨床工学技士）
3. EUS-FNA支援臨床工学技士のEUS-FNA検査経験数とEUS-FNA手技成績を比較検討し、そのラーニングカーブを明らかにしたい。（担当：医師、臨床工学技士、医療秘書）

24. 地域医療支援病院研修委員会

委員長 岩佐紀輝

目 的：

地域医療支援病院として地域医療レベルを向上させるために必要な研修会の設立・運営・管理・活動支援を行う。

活 動 内 容：

1. 地域の医療従事者の資質の向上を図るための研修の実施状況の把握
2. 研修会の案内、運営、参加者の把握などの実務管理

2019年に飯塚病院が主体となって開催された研修会は以下の通り

- 総 開 催 回 数・・・88回（前年128回）
- 延 べ 参 加 者 数・・・4,312名（前年6,811名）
- 院外からの参加者数・・・1,987名（前年2,645名）

	研修項目	実施回数	参加者数
診療部門	筑豊地区脳神経画像研究会	4回	139名
	麻生飯塚漢方診療研究会	9回	230名
	筑豊救命救急研究会	12回	175名
	筑豊地区感染管理ネットワーク	4回	256名
	筑豊小児科医会勉強会	9回	478名
	筑豊地域小児在宅医療定例研修会	2回	157名
	筑豊呼吸器 RENKEI の会	1回	39名
	筑豊肺癌キャンサーボード	1回	141名
	筑豊リウマチ研究会	1回	33名
看護部門	救急医療における呼吸管理研修	1回	26名
	筑豊地区地域保健研究会	1回	25名
	飯塚褥瘡勉強会	8回	629名
	筑豊臨床栄養研究会	12回	554名
	地域看護連携の会	1回	124名
安全管理部門	MRM 講演会	1回	85名
医療技術部門	筑豊地域 MSW 研究会	2回	88名
	地域連携パス研究会	3回	272名
	筑豊支部病院薬剤師会	11回	763名
	ICLS（第二次救命処置）	2回	52名
	T&A（初期外傷コース）	3回	46名
延べ総数		88回	4,312名

次 年 に 向 け て：

地域包括ケアシステムの実現に向け、医療従事者のみならず、福祉や介護の従事者、行政や学校関係者を交えた研修も企画していきたい。

25. 倫理委員会

委員長 名取良弘

目 的：

「患者の権利に関するリスボン宣言」及び「ヘルシンキ宣言」の趣旨と、「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」（文部科学省/厚生労働省）、「ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針」（文部科学省、厚生労働省、経済産業省）、その他倫理審査委員会の設置について規定する法律及び関係法規・指針に基づき、飯塚病院における患者の人権の擁護を目的として、以下の事項を行う。

- 1) 医療をめぐる患者の権利や生命倫理に関する事項についての審査
- 2) 飯塚病院にて行う研究の実施の可否
- 3) 飯塚病院にて行う新規医療行為の実施・継続の可否
- 4) 生命倫理に関する院内教育

活動内容：

原則的に、毎月第3月曜日に開催されている。2019年の当委員会申請総数は176件（対前年比+9.6%）、新規診療行為4件、企業調査2件、業務改善調査1件、その他12件、臨床研究80件、学会発表77件。

部署名	申請数	部署名	申請数
リハビリテーション部	16	看護部	2
外科	14	救命救急センター	2
呼吸器内科	13	広報課	2
呼吸器腫瘍内科	12	総合診療科	2
救急科	9	臨床研究支援室	2
薬剤部	8	がん集学治療センター	1
小児科	7	形成外科	1
中央検査部	7	血液内科	1
肝臓内科	6	呼吸器外科	1
腎臓内科	6	産婦人科	1
循環器内科	5	小児科外科	1
消化器内科	5	心臓血管外科	1
北7階病棟	5	整形外科	1
連携医療・緩和ケア科	5	西2階病棟	1
集中治療科	5	西1階病棟	1
北6階病棟	4	中央3階病棟	1
医療安全推進室	3	東8階病棟	1
検査急変対応科	3	南3A病棟	1
消化管・内視鏡外科	3	皮膚科	1
脳神経外科	3	病理科	1
膠原病リウマチ内科	3	北5階病棟	1
東7階病棟	3	臨床工学部	1
感染症科	2		
漢方診療科	2	総計	176

審査結果の内訳は承認132件、却下10件、修正の上承認33件、保留1件である。申請部署と申請数は先述の表の通りである。また、研究に係る職員に対し、研究指針等の遵守を目的に臨床研究における倫理的事項に関する研修（臨床研究管理委員会と共同開催）を計15回開催、578名の職員が受講した。

次年に向けて：

引き続き飯塚病院における患者の人権の擁護を目的とし活動を行っていく

1. 倫理委員会の開催

- ・月1回定例に倫理委員会を開催する
- ・案件に応じ適宜に臨時の倫理委員会を開催する

2. 教育活動

- ・研究に係る職員に対し研究倫理指針等の遵守を目的に研修会を行う

26. 臨床研究管理委員会

委員長 海老規之

目 的：

- 飯塚病院におけるすべての臨床研究の適切な運営管理
- 臨床研究に関する教育活動

活 動 内 容：

- 臨床研究の適切な運営管理を行った。
倫理指針に沿って適切に行われるよう、実施状況、実施計画書の変更、同意説明文書・同意書の変更、有害事象及び不具合の発生事例、関係書類の保管状況などについて審査を行った。また定期的な監査を実施した。
 1. 委員会の開催
2019年 7月24日 審議内容：2019年上期 迅速審査及び監査結果の報告及び審議
2019年12月18日 審議内容：2019年下期 迅速審査及び監査結果の報告及び審議
 2. 迅速審査の実施
実施状況の審査：継続 142件、終了・中止49件、
実施計画（実施計画書、同意説明文書・同意書、分担者）の変更の審査：163件
 3. 監査の実施
監査対象の選出：全研究から無作為に抽出し、全部署を対象とするため、過去に行った部署とは違う部署を選出した。
第1回：腎臓内科（2019年7月16日）、中央検査部（2019年7月23日）
第2回：感染症科（2019年12月4日）、心臓血管外科（2019年12月26日）
- 臨床研究に関する教育活動を行った。
臨床研究の倫理に関する研修（共催：倫理委員会）
研修の対象者：研究に係る職員
開催回数：15回（2019年4月～2019年12月）
受講者数：578名（2019年4月～2019年12月の合計）

次 年 に 向 け て：

- 飯塚病院におけるすべての臨床研究において、倫理指針に沿って適切に行われるよう、実施状況、実施計画書の変更、同意説明文書・同意書の変更、有害事象及び不具合の発生事例、関係書類の保管状況などについて審査を行う。また定期的な監査を実施する。
- 通常審査：年2回定期的に委員会を開催し審査及び臨床研究に関する事項についての検討を行う。
また、期間に行った迅速審査及び監査の報告を受ける。
重要な案件が発生した場合には臨時で委員会を開催する。
 - 迅速審査：研究計画の変更等の審査を随時行う。また実施状況について年に1回審査を行う。
 - 監 査：年2回、臨床研究の監査を実施する。
 - 教育活動：研究者に、年1回の倫理研修の受講が徹底されるよう啓蒙活動を行う。
 - 臨床研究法について：研究者へ、自身の研究が法に該当するか否かを判断し適正な研究実施がなされるよう、法についての周知を行う。

27. 治験審査委員会

委員長 油布祐二

副委員長 辻岡 寛

目 的：

審査依頼のあった治験及び製造販売後臨床試験に関し、主に患者利益を保護する観点から倫理的・科学的に妥当な計画・方法であるかを審査し、実施の可否を判断する。又、進行中の治験及び製造販売後臨床試験において、重篤な有害事象、実施計画の変更、内外から報告される有害事象についての安全性、年間の実施状況、逸脱事項等について審査し、その継続の可否を判断、承認を行う。

活 動 内 容：

2019年は、治験の新規審査を8件行った。2018年の13件より5件の減であった。又、当院で発生した重篤な有害事象について92件（前年比+52）、実施計画の変更について173件（前年比-22）（この内、迅速審査52件）、安全性に関する報告について600件（前年比+51）、継続（実施状況）について36件（前年比+4）の審査を行った。また、2018年7月より始めた審査資料の電子化・iPadを用いての審査を継続した結果、環境負荷の低減（紙資源廃棄ゼロ）・作業時間の短縮ができており効率的な運営ができた。

次年に向けて：

1. 法令（GCP）の規制下にある委員会であるため、今後も違反のないように運営にあたる。
2. 患者の権利保護の視点を徹底し、倫理的・科学的に妥当な審査が行われるよう審査の質のより一層の向上を目指す。
3. 2.の項目のために配付資料等をより分かり易いものとしていく。

28. 脳死判定委員会

委員長 高瀬敬一郎

副委員長 岡松由記

目 的：

臓器の移植に関する法律に基づき、臓器提供施設である当院において発生した「脳死とされうる状態」に該当する患者さんに対して適正な脳死判定を行うこと。ひいては、円滑な臓器提供に資すること。

活動内容：

院内臓器提供コーディネーターの主催により行われている月例の臓器提供勉強会では、医師、コーディネーター、臨床検査技師、看護師らと密接に連携をとり、積極的に参加するとともに必要に応じて講演や情報提供を行っている。この勉強会にて脳死下臓器提供机上シミュレーションを行っている。また年に1回脳死判定委員会を開催し、情報の共有に務めている。

次年に向けて：

今後も勉強会、脳死下臓器提供机上シミュレーションや、脳死患者対応セミナーなどを通じて全員が情報を常に新しく保つよう努力し、実際に「脳死とされうる状態」に該当する患者さんが発生したときに滞りなく作業が進むように環境を整えていくよう努力する。

29. 小児虐待防止委員会

委員長 大矢崇志

背景：

当委員会は2006年2月に発足し、同年11月に常設委員会としての活動を認可された。2013年6月に福岡県児童虐待防止医療ネットワーク事業の児童虐待防止の拠点病院となり、院内の虐待対応に加え地域医療機関に向けての啓発活動や相談に応じている。

目的：

- 院内の児童虐待事例を早期に発見し、自治体、児童相談所、警察などへ報告する。
医療的なフォローが必要な場合、継続した対応を行う。
- 児童虐待防止拠点病院として、地域の医療機関からの相談を受け、助言、対応を行う。
- 地域の母子保健行政にかかわり、児童虐待の予防に努める。
- 飯塚市の要保護児童対策地域協議会への参加を通して地域の現状を把握し、医療機関としての有効な関わり方を提案する。
- 18歳未満の脳死下臓器移植に関して、臓器提供コーディネーターと連携して虐待判定を行う。

活動報告：

- 院内で、児童虐待の疑い症例について早急な対応に努めた。
- 救命救急センターの外科ブースにて、児童虐待トリアージ（①受傷時刻が遅い、②受傷から受診までの期間が長い、③季節に合わない服装、④発達段階に即さない外傷）を継続している。トリアージされた全症例が当委員会に報告され、コーディネーターが連携を図り、地域の支援につなげている。
- 児童相談所の依頼を受けて、診療、診断書作成などの対応をしたケースが15件あった。保護委託の入院を12件引き受けた。
- 11月に飯塚署、飯塚市、桂川町、田川児童相談所と共に児童虐待防止に関する啓蒙活動を行った。
- 虐待報告受理件数は、延べ187件（2019年1月～12月）。詳細は下記の通り。

◆内訳（重複有り）

ネグレクト	76
身体的虐待	43
心理的虐待	36
性的虐待	1
要支援	62
除外	15
計	233

◆報告した連携機関（重複あり）

(市町村) 保健センター	146
児童相談所	58
(市町村) 児童家庭課	57
(市町村) 保護課	32
警察	14
保育園・幼稚園	0
学校	2
かかりつけ医	2

次年に向けて：

報告があった事例を滞りなく対応することに努める。当院で関わりが続く事例には、育児支援、子どもたちへの治療的介入など、医療機関にしかできない関わりを具体的にを行う。

地域住民の方々への虐待予防の啓蒙活動も引き続き積極的に行う。

30. 患者行動制限最小化委員会

委員長 光安博志

目 的：

精神科病棟入院中の患者さんで、行動制限を受けている方に対して審議し、患者の人権擁護を目的とする。

活 動 内 容：

毎月第3木曜日、精神保健指定医であるリエゾン精神科部長を委員長として開催。下記事項について審議し、適正かつ最小限の行動制限に改善を図る。

1. 妥当性について倫理的、法的側面と臨床的現実性とを照合しつつ検討
2. 制限範囲の縮小
3. 早期解除
4. 処遇改善
5. 年2回の研修を計画・開催
6. 委員長は審議された事項を、院長に答申

次年に向けて：

精神科病棟での行動制限は精神保健福祉法に基づき、精神障害者に対して精神保健指定医の判断のもとで行われる。行動制限は法律に照合しつつ、患者さんの人権、意思を尊重しながらも、患者さんの医療、安全および保護の必要性を考慮の上で慎重に行わなければいけない。その中で、過剰な行動制限が実施されていないかという点を常に評価、検討することは重要である。この原則に従って、今後も、隔離や身体拘束などの行動制限の更なる使用率減少を目指す。

31. 個人情報保護委員会

委員長 福村文雄
副委員長 竹本伸輔

目 的：

飯塚病院における、診療等に係る個人情報の取得・保有・管理等の厳正な取扱いを図ることを目的とする。

活 動 内 容：

原則的に、月1回開催。下記事項について審議し規定に基づき対応を行う。

1. 個人情報保護法改定に伴う個人情報保護規定の改定
2. 個人情報保護に関する審議依頼への対応
3. 不具合発生に対する再発防止対策
4. 従業者の個人情報取扱いに関する教育

2019年は、主に下記の案件について審議を行った。

【主な審議・報告件数】：審議件数 11 件、報告件数 8 件

1)審議

- ・個人情報保護規程改定について 2 件
- ・FAX送信時の注意と誤送信した時の対応について
- ・第三者提供の制限の例外について
- ・迷惑電話院内統一对応ルールについて
- ・個人情報紛失について
- ・応援医師（退職医師）の対応について
- ・個人情報に関するメール送信について
- ・個人情報保護に関するチェックリストの件について
- ・集中治療室内の生体モニタリングディスプレイについて
- ・従業員名札フルネームの必要性について

2)報告

- ・患者及び家族の呼び出し放送のマニュアルについて
- ・USB紛失報告について
- ・その他即時報告について 6 件報告

次年に向けて：

1. 引き続き必要部署との連携を図り、院内における個人情報の取得・保有・管理を厳正に行う。
2. 従業員の個人情報取扱いに関する教育の実施。

32. 呼吸管理委員会

委員長 飛野和則

副委員長 野見山由美子

目 的：

当委員会の目的は、「人工呼吸を使用する患者さんの安全確保と治療の質の向上」である。具体的にはRST (Respiratory Support Team) 活動が円滑に行われるよう院内の環境整備を行うほか、RST活動が適切に行われているか、また、人工呼吸管理や合併症の発生率、合併症発生に伴う入院期間延長などについて調査する。その他、人工呼吸器治療の質向上と標準化を目指し、医師や看護師へ教育を行っている。加えて、コスト管理についても見直し、医療事故をなくすために安全な方法や器具を取り入れるよう努めている。

活 動 内 容：

1. RSTラウンド

2006年より、“気軽に相談できる体制作り”を目的として、RST看護師と臨床工学技士が月1回のRST回診を行ってきた。2010年からは、医師、理学療法士を加えた多職種のメンバーで、週1回のRST回診を行った。電子カルテ化に伴い、回診記録の確実性・簡素化を徹底し、治療計画書作成を回診時に行えるよう調整している。2019年は18症例の診療報酬対象の回診だけでなく、救急病床や在宅人工呼吸器装着の患者さんの回診、不具合報告のあった症例や病棟から回診依頼のあった20症例の回診を行った。

2. 院内向け研修会

5月8日・13日はコヴィデエンによる“吸引について”の研修会を、新人看護師・初期研修医を対象に開催した（受講者71名）。7月20日は、米国Boise State University（ボイシー州立大学）呼吸療法科の教授と、昭和大学大学院保健医療学研究科呼吸ケア領域の教授を招き、“人工呼吸管理についての講義とワークショップ”を開催した（受講者33名）。

3. 院内看護師研修

6月より新人看護師を対象にビギナーズコース、10月より新人及び中途採用看護師を対象にAコースの研修を行った。

4. 外部向けコースである“救急医療における呼吸管理研修”を9月14日(受講者12名)に開催した。

次年に向けて：

在宅人工呼吸器を携帯した患者さんの緊急入院やレスパイト目的の入院も増加が予想され、院内だけの呼吸管理には限界がある。2020年も引き続き、地域ネットワーク作りを着実に進めて行きたい。また、今後も呼吸管理に関わる新しい機器が発売される見込みであるため、知識のアップデートを継続して行う。

33. 褥瘡管理委員会

委員長 幸田太
副委員長 橋口晋一郎
冷川 薫

目 的：

1. 褥瘡発生および医療関連圧迫機器創傷発生の要因分析を追求して、より効果的なケアと褥瘡予防対策に結びつけ、発生率の軽減と重症事例を出さない取り組みを行う。
2. 褥瘡対策チームと連携し、褥瘡管理に関連した院内システムの再検討を行う。
3. 褥瘡管理に関する質向上のために、褥瘡研修会に参加できないスタッフも含め、総合的に教育計画を立てて策定していく。

活 動 内 容：

1. 月1回の褥瘡管理委員会・各病棟の褥瘡委員による褥瘡リンクミーティングの開催
 - ・院内で起きた事例についてのディスカッションと予防、対策の周知を行った。
 - ・褥瘡管理委員会の中で事例検討の場を設けて、多職種を交えての取り組みを行った。
2. 院内外の関係者に対する研修会の開催
 - ・8・10・12月を除く月に1回、異なるテーマで院内・院外スタッフを対象に研修会を開催しており、参加者数は年間延べ500名以上であった。
 - ・2019年度より、研修会に参加できなかった病棟スタッフには講義内容の要点を絞り資料を用いて伝達講習を行った。
3. 褥瘡回診の開催
 - ・褥瘡管理依頼書が提出された事例に対し、医師・看護師・栄養士・薬剤師・理学療法士の多職種チームで褥瘡回診を行った。
4. 褥瘡予防具の管理
 - ・褥瘡予防具の調査を年2回（8・2月）に施行した。
 - ・2019年度はポジショニングクッションの不足や劣化に対する予防具の申請・購入までのシステムを見直した。
5. 院内褥瘡患者（院外発生・院内発生）に関する動態把握（統計）
 - ・毎月院内褥瘡発生分析・医療関連機器圧迫創傷発生分析を出し、その月の重点ポイントを掲載し、全病棟管理者と褥瘡委員へ配信した。
 - ・WOCN・病棟褥瘡委員やコメディカルなど多職種で協働しながら予防的ケアに努め、褥瘡発生率または重症化を更に低減させ、治癒率をアップさせるよう努めた。
 - ・2011年2月より院内での目標とする院内褥瘡発生率1%未満を継続中である。
6. 正確な褥瘡リスクアセスメント・予防治療計画の作成を目的に、入力システムの入力条件の変更を行った。
7. 褥瘡対策に関する診療計画書の専任医師・専任看護師の入力システムを構築した。

次 年 に 向 け て：

1. 褥瘡回診依頼の院内システムの再検討を行う。
2. 褥瘡発生および医療関連圧迫機器創傷発生の要因分析を追求して、より効果的なケアと褥瘡予防対策に結びつけ、発生率の減少と重症事例を出さない取り組みを行う。
3. 褥瘡リンクメンバーとともに褥瘡ケアの質向上のために、総合的に教育計画を立てて策定していく。

34. 栄養管理委員会

委員長 中村晶俊

副委員長 林勝次

目 的：

1. 栄養評価・栄養管理の側面から治療をサポートする。
2. 栄養に関する薬剤・食品の選択、デバイスの新規採用や更新に関して、現状を把握するとともに問題点があれば改善に努める。
3. 病院常設委員会として、飯塚病院における栄養管理に関する事項について検討、適正化を図り、院内を指導するほか、下部組織であるNST（栄養サポートチーム）活動が円滑に行えるよう環境整備を行う。適切な活動が行えるようバックアップすることで、最終的には褥瘡・重症感染症・院内感染などのリスクを減少させ、在院日数の短縮、薬剤・材料費用の適正化、入院経済効率改善を達成する。

活動内容：

1. 多様な疾患・病態に対応できるよう、輸液製剤や栄養剤、関連機材の新たな選択や絞込みを行った。
2. 院内及び筑豊地域の栄養療法の標準化と質の向上を目的として、月1回の筑豊臨床栄養研究会を開催した。また特別講師として、筑波大学小児外科 増本幸二先生（6月）、日本コヴィディエン 大前氏（9月）、聖マリアンナ横浜西部病院 小野寺英孝先生（10月）、大阪大学 井上善文先生（11月）を招聘し、ご講演を戴いた。
3. これまでの「NST回診」を充実させ、週1回のNSTカンファレンスと回診を行い、個々の症例に対して作成した栄養治療実施計画書に基づいた治療を実施し、栄養治療実施報告書を作成した。2019年は79件の栄養サポートチーム加算の算定を行った。
4. 栄養管理委員会を毎月1回開催し、上記活動内容の報告・検討を行った。
5. 病棟看護師の栄養管理知識向上の為、看護師に特化したNST集中講義（計40時間）を実施し、5名が修了した。
6. 栄養管理委員会運営規約とNST規約の内容を見直し、変更した。
7. 11月に北部福岡NST研究会を開催し、当院からは委員を中心に講演を行った。

次年に向けて：

1. 院内のNST専門療法士の育成に努め、NST回診・カンファレンスの更なる充実を図る。
2. NST活動から得られた栄養管理の重要性について、NSTメンバーから病棟スタッフへ情報発信する方法を検討していく。
3. 地域NSTの連携を目指して、筑豊臨床栄養研究会の開催を継続していく。
4. 学会発表を奨励・推進し、外部施設からの講演依頼や寄稿依頼を積極的に引き受ける。
5. 災害時における栄養管理体制を整備する。
6. 経腸栄養デバイスの変更に向けてデバイスの選定や周知を進めていく。

35. 輸血療法委員会

委員長 小畑勝義
副委員長 喜安純一

目 的：

適正かつ安全な輸血療法の推進を目的とします。

活 動 内 容：

【年6回の委員会の開催】

- 血液製剤及びアルブミン製剤の科別使用状況の報告
1ヶ月毎の血液製剤及びアルブミン製剤の使用量を診療科別に報告しました。また、使用量が特に多かった患者は病名や経過についても報告しました。
- 輸血管理料について
血液製剤適正使用の要件を満たした施設に輸血管理料の算定が認められ、当院は輸血管理料Ⅰの認定施設です。また、FFPの使用量をRBCの使用量で除した値(FFP/RBC)が0.54未満かつアルブミン製剤の使用量をRBCの使用量で除した値(ALB/RBC)が2.00未満であれば輸血適正使用加算が取得できます。2019年12月1日の時点でFFP/RBCは0.46で、ALB/RBCは1.11と加算基準内であり、輸血製剤の適正使用がなされていることが確認されました。
- 血漿分画製剤の使用状況の報告
1ヶ月毎の血漿分画製剤の使用量を製剤毎に報告しました。
- 血液製剤、血漿分画製剤の査定状況の報告
血液製剤、血漿分画製剤の査定理由を患者毎に報告しました。
- 輸血関連即時報告
輸血に関連する即時報告の内容・原因・対策について報告しました。
- 製剤の破損報告
2019年の破損金額は1,457,844円で、患者状態の変化による未使用や照射装置の不具合、製剤の取り扱い不備による破損が認められました。
- その他
 - 救急外来における超緊急輸血に対応するために、O型RBCを救急外来に常置することとしました。
 - 輸血同意書の有効期限・再取得がわかりにくかったため、改訂を行いました。

次年に向けて：

より安全で迅速な輸血療法の実施を目指して活動します。今後も血液製剤の使用・破損状況の把握や輸血に関する諸問題の討議・解決策を実行し、適正かつ安全な輸血療法の推進に努めます。そのためには日本輸血・細胞治療学会の認定を取得した常駐医師の配置ということも視野に入れておく必要があると思われれます。また、製剤破損を減少させることも重要です。破損事例1つ1つについて調査を行い、善意からの輸血製剤が適切に使用されるように努めていく必要があると考えます。

36. 診療報酬適正管理委員会

委員長 永野修司
副委員長 楠元正道

目 的：

診療報酬請求業務を総括し、適正な請求を目指すことにより病院経営に貢献する。

活動内容：

- * 診療報酬適正管理委員会
月に1回開催し、以下の事項について協議を施行
 1. 減点金額の集計及び報告
 2. 減点内容及びその傾向や対応策の検討
 3. 各減点内容に関しての再審査請求の決定、申請書類の検討
 4. 高額な請求に関して主治医を交えて症状詳記やデータ等の内容検討
 5. オレンジレポートの指定、検証
- * 部長会議での報告（月1回）
- * 部長会でのワンポイントアドバイス（月1回）
- * 医師への保険診療に対する指導・提案（随時）
- * クラークへの査定報告と査定対応策等の指導（月1回）
- * 診療報酬に関する研修の企画や実施

次年に向けて：

当委員会にて、査定についての対応策や検討事項等を医師やクラークへフィードバックし、適正請求への理解を深め医療の質の向上を目指す。

37. 臨床検査適正化委員会

委員長 大石善丈
副委員長 秋永理恵

目 的：

検体管理加算（IV）に関する施設基準の一部を満たすために設立された委員会である。院内における臨床検査を適正に運営、監視する。具体的には、各診療科が求める臨床検査を整備し、検査内容が正確かつ迅速、確実に報告される環境を整える。また他部門からの要求を協議し、ムリ・ムダ・ムラを生じさせず、検査部内外がより働きやすい環境になるよう整備する。

活動内容：

委員会はほぼ月1回（第3木曜日16:30～約1時間）開催した。毎回、インシデント報告事例について原因・対策が報告され、その内容についてディスカッションした。また中央検査部内の各部署から提出された要望（検査依頼方法変更、新規導入検査、検査法の変更、報告内容の整備など）について審議し、適切な変更、導入をおこなった。臨床医から提出された要望（院内検査導入、新規指数表示項目の導入、検査依頼セット化など）についても適正であるかを審議し、導入すべきかを協議した。

以下、主な内容を報告する。

- 1月：蛋白分画と免疫固定法の同時依頼についての是非を審議、BNP、トロポニンIの測定方法変更を承認。
- 2月：検体採取量不足を審議、尿中IPの測定下限値変更、運動負荷試験装置変更を承認。
- 3月：メール審議（耐性菌について検査報告と治療）
- 4月：医診伝心上の検査項目名称変更、レジオネラ核酸同定検査の導入、アレルギー検査の委託を承認。
- 5月：Fib-4index（肝線維化指標）表示、関節エコー計測部位の適正化を承認。
- 6月：ACTHを院内検査項目として新規導入、心臓超音波検査依頼入力方法および計測の簡略化は承認。ホルター心電図解析の外注化は却下。
- 7月：低血糖のパニック値伝達ミスインシデント事例を検討、下肢血管エコーの報告様式の変更（シェーマを挿入）を承認。
- 9月：腹部・体表・血管超音波検査の重複オーダーについて審議、非特異的IgEの測定装置変更を承認。
- 11月：マイコプラズマ（LAMP法）の技師による検体採取への参入を承認。
- 12月：梅毒、アミオダロン検査方法変更、薬剤感受性試験の報告薬剤変更は承認。
産科医師からの臨床研究協力依頼は却下。（臨床研究助成金を申請すべきである）

次年に向けて：

引き続き、臨床検査についてTAT報告やインシデント事例報告の監視、新規検査・機器導入、基準範囲・測定方法の変更などの適正化を図ると共に、不適切な検査依頼方法や無駄な検査依頼を洗い出し、業務改善に繋げていく。また、委員メンバーの参加率を上げ、多くの意見をいただけるように運営を工夫していきたい。

38. がん診療連携委員会

委員長 梶山 潔

目 的：

「がん診療連携拠点病院等の整備に関する指針（厚生労働省）」に基づき、地域がん診療連携拠点病院としての体制整備の推進および飯塚病院における「がん診療」に関わる環境整備を推進する。

活動内容：

当委員会は、がん関連事業部会の役割を受け継いで2019年4月より常設委員会となりました。

【活動1】福岡県がん診療連携協議会および専門部会への参加

会議名	開催回数	2019年開催月
がん診療連携協議会	2回	3月、9月
緩和ケア専門部会	2回	1月、8月
研修・教育専門部会	1回	6月
地域連携・情報専門部会	2回	2月、8月
がん登録専門部会	2回	1月、7月

【活動2】委員会の開催：5回（2019年4月、6月、8月、10月、12月）

○主な検討・確認事項

- ・福岡県がん診療連携協議会および各専門部会の報告
- ・緩和ケアスクリーニングシートの運用検討
- ・がんゲノム医療連携病院の要件確認

【活動3】地域がん診療連携拠点病院の体制整備

2019年12月現在、福岡県から厚生労働省へ地域がん診療連携拠点病院として推薦されている状況です。

39. がん集学治療委員会

委員長 油布祐二
副委員長 古賀 聡

目 的：

- (1) 地域がん診療連携拠点病院としての体制整備の推進
- (2) 飯塚病院のがん集学治療の構築
- (3) 飯塚病院のがん診療の向上のための方策を提言

活 動 内 容：

- ① 化学療法のレジメン審査
2019年審査件数 21件
- ② 2019年化学療法実績
入院件数：2,604件（2018年 2,231件）
外来件数：8,746件（2018年 7,861件）
- ③ 化学療法に関する診療の問題点の検討や改善策の実施
 - ・ de novo B 型肝炎発生対策のためのHBV マーカー実施状況のモニター
 - ・ 免疫チェックポイント阻害薬投与中・投与歴有患者へのアラート表示（依頼書提出）
 - ・ 医療者へのプロトコルオーダーリングシステムの見直し
 - ・ 抗癌剤曝露対策マニュアルの医療者への周知
 - ・ 過敏症対応マニュアルの作成
 - ・ がんチーム医療推進勉強会開催：12回総参加者420名
 - ・ 免疫チェックポイント阻害薬勉強会（IMOST）開催：3回（2月、7月、8月）総参加者165名
 - ・ 免疫チェックポイント阻害薬患者の各種症状別受診対応フロー作成

次年に向けて：

- ・ HBV マーカー実施状況のモニター継続
- ・ プロトコルオーダーリングシステムの再構築

40. 緩和ケア委員会

委員長 柏木秀行
副委員長 岡村知直
長岡由起

目 的：

1. 飯塚病院の緩和ケアの向上のための方策につき提言する。
2. 地域がん診療連携拠点病院としての緩和ケア体制の整備を推進する。
3. 緩和ケアセンター設立準備を行う。

活 動 内 容：

- ・委員会開催：12回（毎月第1火曜）
- ・医師に対する「緩和ケア研修会」開催：2019年9月7日（土）参加者14名（院外2名含む）
- ・2019年第3回福岡県緩和ケアチーム研修会運営（福岡県がん診療連携協議会緩和ケア部会主催）
：2019年11月2日（土）院外参加者19名

次 年 に 向 け て：

2020年も引き続き、下記について活動する予定である。

1. 緩和ケアセンター設立準備
2. 緩和ケア研修会の実施（2020年9月開催予定）
3. がん診療連携拠点病院の要件整備

〔VII〕院 内 報 告

1. 飯塚病院住民医療協議会活動報告

事務局 広報課 稗島 武

飯塚病院住民医療協議会（以下、協議会）は、飯塚病院の提供するサービスや役割などについて地域を代表する方々と意見交換を行うことを目的として、2005年4月から半年に1度開催しています。

2019年6月13日開催の第29回協議会では、「白血病とは」（血液内科 油布祐二）と「筑豊初 感染症科 新設」（感染症科 的野多加志）をテーマに意見交換が行われました。

2019年12月2日の第30回協議会では、「CKD（慢性腎臓病）を予防しよう！」（腎臓内科 藤崎毅一郎）と「口腔ケアについて ～当院歯科口腔外科の取り組み～」（歯科口腔外科 中松耕治）をテーマにそれぞれ活発な議論が行われました。

第30回協議会からは、会場を、教育研修棟6Fの百年ホールに移し、心機一転、新たなスタートとなりました。

今後も地域一丸となって安心・安全の医療環境を守り続けていけるよう努めてまいります。誌面をお借りして委員の皆さまに感謝を申し上げますとともに、今後ご協力の程よろしく申し上げます。

【住民医療協議会委員】（五十音順）

氏名	団体等
浅野 洋 様	飯塚市自治会連合会
大谷香里 様	飯塚商工会議所 女性会
大塚正博 様	飯塚青年会議所
岡松明人 様	飯塚商工会議所
岡本政孝 様	社会福祉法人飯塚市社会福祉協議会
梶嶋陽子 様	筑豊助産師ネット
金子加代 様	ぼれぼれの会（障がいを考える会）
小嶋秀幹 様	福岡県立大学
宮嶋玲子 様	一般市民代表
和多八州男 様	飯塚市老人クラブ連合会
和田みさを 様	さくら会（乳がん患者会）

【オブザーバー】

陣内由美 様	福岡県嘉穂・鞍手保健福祉環境事務所 総務企画課 企画指導係 (第30回にご出席)
瀬尾善忠 様	飯塚市 市民協働部 健幸・スポーツ課 (第29回にご出席)
高木昭彦 様	西日本新聞社 筑豊総局 (第29・30回にご出席)
友枝裕美 様	福岡県嘉穂・鞍手保健福祉環境事務所 総務企画課 企画指導係 (第29回にご出席)
永岡則子 様	近畿大学 産業理工学部 学校保健共済会 (第29回・30回にご出席)
渡辺 康 様	飯塚地区消防本部 警防課 (第29回・30回にご出席)

(2019年12月時点)

2. 飯塚病院地域医療支援病院運営委員会活動報告

事務局 地域連携センター

目的：飯塚病院が地域の医療機関の要請に適切に対応し、地域全体の医療機能の向上と効率に必要な支援を行っているかを審議する。

活動報告：紹介率や共同利用、救急医療の提供実績など、地域医療支援病院の基本的な要件となる活動報告を継続しつつ、時代の変化とともに地域医療支援病院に求められる新たな役割を確認するための話題提供も合わせて行った。また、地域包括ケアシステムの実現に向けた課題を医師会、消防、行政、地域住民の代表の方と共有できる機会となるよう努めた。

委員会での話題提供（トピックス）

	開催月	発表者	タイトル
第44回	3月	永野修司 膠原病・リウマチ内科部長	高齢化時代の関節リウマチ治療
		渡辺 康 飯塚地区消防本部係長	救急活動の現状について
		稗島 武 広報課課長代理	飯塚病院広報課の取組について～住みたい場所で暮らし続けられる場所であるために～
第45回	6月	的野多加志 感染症科部長	筑豊初 感染症科 新設
		三好康介 薬剤部	がん集学治療センター入院病棟における薬剤師のはたらき
第46回 (第16回 報告会)	10月	藤崎毅一郎 腎臓内科部長	慢性腎臓病（CKD）の診療
		橋口晋一郎 形成外科部長	飯塚病院における形成外科診療の実際
		山手亮佑 感染症科医長代理	飯塚病院感染症科について
第47回	12月	松元 崇 心臓血管外科診療部長	下肢静脈瘤血管内レーザー治療について
		高口則子 看護部 WOCN	飯塚病院褥瘡管理について

飯塚病院地域医療支援病院運営委員会委員（24名）

委員長	増本陽秀	飯塚病院院長
副委員長	松浦尚志	飯塚医師会会長
	岩佐紀輝	飯塚病院副院長兼医療連携本部長
保健福祉行政関係者	實藤和也	飯塚市福祉部部長
	橋本弥生	嘉穂・鞍手保健福祉環境事務所保健監
	石松香織	嘉麻市福祉事務所所長兼健康課長
	藤川啓司	飯塚地区消防本部消防長
医療関係者	西園久徳	飯塚医師会副会長
	岩見元照	飯塚医師会専務理事
	金海光夫	飯塚医師会救急担当理事
	西野豊彦	飯塚医師会地域医療担当理事
	山口 章	飯塚歯科医師会副会長
	高山幸蔵	飯塚薬剤師会会長
学識経験者	山崎重一郎	近畿大学産業理工学部情報学科長 教授
	伊藤高廣	九州工業大学大学院情報工学研究院 教授
市民代表	井上節子	飯塚市婦人会会長
	清水修治	飯塚ロータリークラブ会長
飯塚病院職員	井村 洋	飯塚病院特任副院長
	名取良弘	飯塚病院副院長
	福村文雄	飯塚病院副院長
	梶山 潔	飯塚病院副院長
	赤星和也	飯塚病院副院長
	金澤康範	飯塚病院副院長
	森山由香	飯塚病院副院長

（2019年12月時点）

3. VHJ (Voluntary Hospitals of Japan) 活動報告

企画管理課 日高幸彦

VHJ機構は、医療の質の向上を図るため、自主的な研究活動を全国的に展開するとともに、データベースの構築・情報の提供、啓発活動を通じて保健・医療・福祉向上に寄与することを目的とする特定非営利活動法人（NPO法人）であり、42施設が加盟しています。

また、VHJ研究会は、医療の質や病院経営の質の向上を目指して研究活動を展開するとともに、会員相互の研鑽、親睦を図ることを目的とした組織で、事務局はVHJ機構に委託されています。

VHJ機構の事業

- DPCデータ活用事業
- 経営情報活用事業
- 臨床研修推進事業
- その他（意見交換会、セミナー開催等）

第30回 VHJ研究会職員交流研修会

日時：2019年11月8日（金）～9日（土）

幹事病院：一般財団法人津山慈風会津山中央病院

場所（会場）：岡山県津山市（ベルフォーレ津山・シロヤマテラス津山別邸 他）

内容：1) 講演会

講演1：下山純正氏（津山洋学資料館 元館長）

「幕末に活躍した津山の蘭学者について」

講演2：小林充佳氏（NTT西日本 社長）

「IoTに医療関連を交えて」

2) 分科会

分科会① 経営戦略 座長：津山中央病院 院長 林 同輔

参加者：池 賢二郎（経営管理部）、日高幸彦（企画管理課）

分科会② 看護管理 座長：津山中央病院 看護部長 西川秀香

参加者：倉智恵美子、長岡由起（看護部）

分科会③ 働き方改革 座長：津山中央病院 院長代理 森本直樹

参加者：田原和幸（人事課）、石井佑佳（教育推進本部）

分科会④ 地域連携 座長：津山中央病院 院長補佐 竹中龍太

参加者：浦川雅広、田中隆奨（医療福祉室）

分科会⑤ 健診事業の取り組み 座長：津山中央病院 副院長 宮島孝直

参加者：羽坂尚美（予防医学センター）

分科会⑥ 外国人対策 座長：津山中央病院 法人本部 常務理事 居森英行

参加者：楠元正道（医事課）、佐藤真希（企画管理課）

4. 改善活動報告

改善推進本部

1) 改善ベルト制度

改善ベルト制度は、当院の改善活動をリードする職員を増やし、活動をより活発にすること、そして継続的に改善活動の指導者が育成される仕組みを作ることを目的として、2011年より開始した制度です。

KAIZEN ベルト種類	勉強会：役割	人数
ゴールドベルト	改善基礎 2：講師	3名
	改善基礎 2：サポーター	7名
シルバーベルト	改善基礎 2：講師	4名
	改善基礎 2：サポーター	2名

表：KAIZEN ベルト取得者として新たに実施した役割と経験者数

2017年に既存の制度を見直し、

KAIZEN・Safetyの2種類からなる新しい改善ベルト制度を開始しました。現在、124名（シルバーベルト94名、ゴールドベルト30名）がKAIZENベルトを取得しており、改善活動の指導者としての役割を担っていただいております。

2) Everyday Kaizen (EK) 活動

EKは、いつでも・どこでも・誰でも手軽に改善をやってみるための「型」です。EK活動は、この型を使って原則一人で一ヶ月以内で行う改善活動で、「PDCAサイクルを回す練習」、「改善は身近な事だと分かってもらう」、「身の回りの問題に気付き、改善出来るようになる」を目的としています。

2019年は8月1日～10月31日まで「実施者と指導者でHappy^{カエル}に変える」をテーマとしてEK活動推進キャンペーンを行い、349件の提出がありました。

部門	提出件数
看護部門	370件
医療技術部門	234件
経営管理部門・本部	217件
医師部門	6件
その他	3件
総計	830件

2019年EK提出状況

※部門は提出者の所属ベース

3) Total Quality Management (TQM) 活動

TQM活動では2019年度の事業方針『「まごころ医療」の新世紀へ、未来からの光を受けて』をメインテーマに、『ムダの削減』をTQM活動推進委員会推奨テーマに掲げ、2月～10月まで改善活動に取り組みました。2019年のTQM活動発表大会の内容を以下の通り報告します。

- (1) サークル発表数：20（口頭発表18、フォローアップ報告2）
- (2) 表彰サークル（部署・サークル名）

会場	部署名	サークル名	テーマ	受賞状況
第1会場	がん集学治療センター	あんしんだねー！ そだねー♡	アレルギー出現時における初期対応開始までの時間短縮	最優秀賞
	内視鏡センター・臨床工学部	キューピー時短クッキング	患者入れ替え時間の短縮	優秀賞
	臨床工学部	サークル K Thanks	中央手術室における年間定期点検計画に基づいた医療機器定期点検の実施	審査員特別賞
	H2救急・E4救急・11B・病床管理	スムージー2 えりこと愉快的仲間たち	患者さんにとって苦痛と感じる待ち時間を減らす	お客様賞
第2会場	薬剤部	業務の鉄人	一包化の返品業務改善	最優秀賞
	医事課	探偵！レセプトスクープ	過月レセプトの適正請求を目指す！	優秀賞
	東7階・東8階・13B	ダ・ヴィンチ X	外来と病棟間の情報共有に要する時間と業務の短縮	審査員特別賞
	中央5階	W Heart ～みんなでみんな でHappy!!～	業務における無駄を省き時間外業務の削減	お客様賞

- (3) 参加者数：555名（院内307名、院外248名）※TQM活動発表大会の詳細は、要旨集に記載

4) Kaizen ワークショップ (KW) 活動

(1) 2019年サービスライン型KW活動 (目標達成を狙い、一年間を通して複数回のKWを行う)

①活動部署/年間テーマ/目標

部署	年間テーマ	目標
看護部	物品 (計購品及び臨購品) を使用したい時に使用できる環境を整え、在庫棚卸金額及び補充の手間を削減する	i) 在庫金額 ⇒ 80 万円削減 ii) 使用したい時に使用できなかった回数 ⇒ 0 回 (欠品、使用期限切れ、未補充をなくす) iii) 物品補充の手間 ⇒ 削減

②KW実施部署/日程/テーマ/内容

部署	KW 日程	テーマ	内容
北 6 階病棟	6 月 12 日 13 日	北 6 階病棟の物品管理	◇動線を考慮した物品配置を実施 ◇物品補充の仕組み作り
北 5 階病棟	6 月 18 日 19 日	北 5 階病棟の物品管理	◇物品準備と使用に合った場所に物品を配置 ◇共有の物品庫から北 5 階、NICU それぞれの物品庫に変更し、補充の動線を短縮
東 4 階病棟 E4 救急・HCU	7 月 24 日 25 日	東 4 階病棟・E4 救急・HCU 病棟の物品管理	◇ 3 部署で使用する物品庫の整理整頓 ◇物品の管理・補充を部署ごとに分け、欠品や過剰をなくす ◇看護師、クラークの動線のムダを削減

(2) 2018年サービスライン型KW活動の継続 (※2019年3月まで活動フォローアップ)

部署	年間テーマ	効果
看護部	物品 (計購品及び臨購品) を使用したい時に使用できる環境を整え、在庫棚卸金額及び補充の手間を削減する	在庫金額: 目標・100万円削減 ⇒ 結果・1,324,532円削減 使用したいときに使用できなかった回数: 目標・0回 ⇒ 欠品1回(KW後90日計測にて) 物品補充の手間: 目標・削減 ⇒ KW実施部署全てで削減

(3) リクエスト型 (短期間で問題を改善したいときにKWを行う) KW活動

部署	KW 日程	テーマ	内容
13A ブロック	11 月 27 日 29 日	患者さんの待ち時間短縮にむけた協力体制の構築	◇患者を待たせないために受付業務中断を減らす ◇看護師・クラーク・MS 相互の協力体制の構築

5) 改善発表大会

2月21日 参加者数: 90名

テーマ	活動部署	発表者
北 7 階病棟の物品管理	北 7 階病棟	佐野美和子
南 1A 病棟の物品管理 ~ 3 定と物品補充の流れを見直す~	南 1A 病棟	市橋愛美
南 2A 病棟の物品管理	南 2A 病棟	長谷川千絵
西 2 階病棟の物品管理	西 2 階病棟	中島久美子
西 3 階病棟の物品管理 ~ 平成最後の大掃除~	西 3 階病棟	上川重昭

8月9日 参加者数: 52名

PT・OT・ST 間の情報共有方法の統一 ~いつやるの?今でしょ!~	リハビリテーション部	寺下品一郎
東 5 階病棟の物品管理 改善活動	東 5 階病棟	冷川 薫
改善ワークショップ中央 3 階 ~わかりやすい物品管理~	中央 3 階病棟	西岡順子
2018 年度看護部 物品管理 Kaizen ワークショップ活動報告	看護部	長岡由起

5. ISO9001 品質マネジメントシステム (QMS)・ISO14001 環境マネジメントシステム (EMS) 活動報告

改善推進本部 高嶋麗子・白石小百合

2019年の活動内容を以下のとおりご報告いたします。

【活動内容】

1月8日～10日	ISO 外部審査 事前説明会 (2019 年受審分)
1月15日～18日	ISO 外部審査 受審 【資料1】
3月14日	マネジメントレビュー (2018 年内部監査の報告等)
3月初旬	文書見直し (改定、廃止) 及び ISO14001 環境側面洗い出し・目標見直し・教育・訓練年間予定設定
5月21日、29日	ISO14001 新任推進責任者研修
8月9日、20日	ISO14001 推進責任者連絡会議
9月2日～27日	環境月間 開催 (牛乳・ジュースパックの回収・リサイクル) 【資料2】
9月3～4日	ISO 内部監査員養成講座
10月24日～12月27日	ISO 内部監査 (全部門対象) 30 部署 実施 【資料3】
12月17～18日、26日	ISO 外部審査 事前説明会 (2020 年受審分)

【資料1：外部審査報告】

被審査部署	49 部署
評価出来る事項	50 件
観察事項	9001:21 件 14001:8 件 不適合 9001:0 件 14001:0 件

【資料2：ISO14001 環境月間】

目的	牛乳・ジュースパックのリサイクル	寄贈先	飯塚市リサイクルプラザ工房棟 エコ工房
リサイクルの用途	紙すきの原料・石鹼作りの箱、ミルクベンチ (パックで作成した子供用ベンチ)		
参加部署	42 部署	参加者	241 名
		回収合計数	1,656 本

【資料3：内部監査報告】

監査内容	監査目的	各部署における緊急事態の想定とその対応について確認する		
	被監査部署	31 部署のうち 30 部署終了 ：診療科・看護部 (16/16)、医療技術部門 (4/4)、経営管理部門 (5/5)、本部機能 (5/6)		
	重点改善事項	9001:0 件	改善推奨事項	9001:28 件
	評価	S：緊急事態の想定がされ、対策についてチーム内で共有されていると共に、必要な教育・訓練が実施されている。		10 部署
		A：緊急事態が想定され、対策が講じられている。		18 部署
B：緊急事態は想定されているが、対策が講じられていない。		2 部署		
C：緊急事態の想定が出来ていない。		0 部署		

【ISO14001について】

2001年認証取得後、約20年にわたり環境マネジメントシステムを構築・維持してきましたが、2020年1月20日を以て返上する事を決定致しました。今後はISO14001 で習得したマネジメントシステムの運用方法を活用しながら、ISO9001 (品質マネジメント) 及びBCPにて対応を進めて参ります。

6. イノベーション活動報告

イノベーション推進本部 山田菜津美／増本陽秀

イノベーション推進本部はPatient Firstの原点に立ち、「まごころ医療」の実践を目指して、医療の質向上のための医療イノベーションの推進を目的として活動している。2019年の活動およびその実績を以下に報告する。

(1) 「飯塚メディコラボ」の推進

「飯塚メディコラボ」は、医療機器等の開発を目指すメーカー等の団体に医療現場を開放し、現場の観察からニーズを発掘し、新たな機器開発につなげる企画として2016年10月に開始した。2019年はこれを積極的に推進し、2チームを受け入れた。参加団体は専用ホームページ(<http://aih-net.com/medicolabo/>)で募集している。「飯塚メディコラボ」の広報活動を目的とするセミナーや、展示会等での講演・出展の実績は以下のとおりである。

- 「Medtec Japan 2019」(東京都)にてブース出展(3/18～20)
- 「医工連携セミナー」(東京都)にて講演(5/22)
- 倉敷中央病院にて講演(5/24)
- 「第45回日本骨折治療学会」(福岡市)にてブース出展(6/28～29)
- 「Monthly IHEP」に記事掲載(2019年9月号)
- 「医工連携フォーラム・ビジネスマッチング会in飯塚」(飯塚市)にて講演(10/23)

(2) 医療デバイス開発取組みの推進

①メーカーとの共同開発等

院内スタッフから計32件のニーズおよびアイデアを抽出し、詳細ヒアリング、アイデア検討、既存品調査、製品開発への展開検討などを行った。また院内スタッフから抽出されたアイデアに基づき、メーカーとの共同開発により試作品を4件作製した。その他14件の案件につき、企業との間で製品化を目指し検討中である。

②知的財産権登録

日本国内において特許出願1件、特許登録2件、中国における商標登録を1件行った。

(3) 上記以外のイノベーション推進活動

①院内スタッフへの啓蒙活動

院内報「WiTH」に1件寄稿した。院内講演会である「イノベーション道場」を3回開催し(第54回～第56回)、職員延べ104名が参加した。「イノベーション道場」の演題は以下の通りである。

講演会	講演タイトル
第54回	イノベーション推進本部 開発事例報告
第55回	日米ヘルスケアの共通点と相違点～緩和ケアの視点から～
第56回	5G時代に向けたドコモの取り組み～さまざまなパートナーとの協創～

②院外での活動

イノベーション推進を目的として以下の活動を行った。

- 「シーズ・ニーズマッチング交流会2018」(福岡市)に参加(1/9)
- 「メディカルジャパン大阪」(大阪市)を視察(2/20～22)
- 九州工業大学「バイオメディカルデザイン演習最終発表会」(飯塚市)に参加(3/5)
- 「IoMTフォーラムin九州」(福岡市)に参加(2/22)
- 「第29回日本臨床工学会」(盛岡市)にて講演(5/18)
- 「第27回福岡県臨床工学会」(北九州市)にて講演(6/1)
- 「第94回日本医療機器学会」(大阪市)に参加(6/14)
- 「国際モダンホスピタルショー2019」(東京都)を視察(7/17)
- 「国際福祉機器展」(東京都)を視察(9/25～26)
- 「CareTEX関西」(大阪市)を視察(10/9)。
- 「日米医療機器イノベーションフォーラム」(神戸市)に参加(11/8～9)
- 第8回「みずほ医療経営戦略セミナー」にて講演(11/15)
- 「e-zukaスマートフォンアプリコンテスト2019」(飯塚市)に協賛(11/23)
- 「東北経産局広域連携会議」(仙台市)に参加(11/27～28)

イノベーション推進本部は、医療機器開発を通して産業の活性化を目指す行政機関および他医療機関との連携強化にも取り組んでおり、福岡県済生会飯塚嘉穂病院および飯塚市立病院と共に、3医療機関から成る「飯塚医療イノベーション創出プロジェクト推進会議」を組織し、その運営を主導している。本団体は、福岡県や飯塚市と連携し、地域の活性化に繋がる医療イノベーションの創出を目指して活動しており、毎月定例会議を開催し意見を交換している。

③海外医療機関との交流

イノベーション推進本部の海外医療機関との交流実績は以下の通りである。

- Taiwan Lean Healthcare Management Association, Chia-Yi Christian Hospitalの病院見学受入(1/9)
- 「スイスーライフサイエンスR&Dの中心地」(駐日スイス大使公邸)にて取組紹介(3/18)
- 「EU Green Gateway to Japan」(駐日欧州連合代表部)にて取組紹介(3/19)
- コロンビア企業2社の病院見学受入(10/21)
- バングラディッシュの大学の病院見学受入(11/20)
- Memorial Hermann Texas Medical Center(米国)の医師を招聘し意見交換実施(11/29)

7. 当院における分離菌と薬剤感受性

中央検査部 微生物検査室

2019年は、昨年導入した質量分析装置（MALDI Biotyper）やシカジーニクス分析疫学解析POTキットを活用し、感染症診療ならびに院内感染対策の一翼を担う存在になるべくレベルアップした年となりました。質量分析装置においては、血流感染症患者の血液培養液から直接菌種同定することにより、初期治療の抗菌薬選択に重要な情報を提供することができました。またPOTキットは、院内感染の重要な耐性菌であるMRSAが複数の患者から検出された場合に、検出された菌株が同一のものであるか否かを証明する検査であり、院内伝播の原因を特定し、その情報をICTにて共有することにより、現場へのフィードバックへとつながり、院内感染対策に貢献できたと感じております。

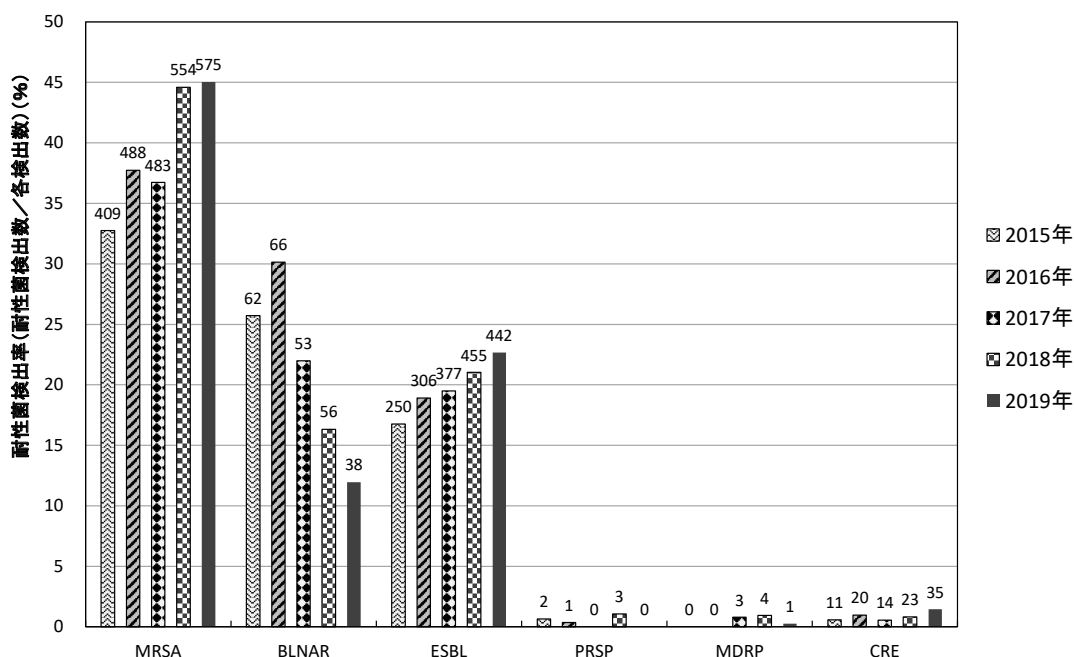
8月には全自動遺伝子解析装置であるGeneXpertを新規導入しました。GeneXpertは核酸抽出・遺伝子増幅・増幅物検出といった測定手順を全自動にて行い、1時間程度で測定できる装置です。CDトキシンの遺伝子検査が2019年4月より保険収載されたため、本装置を使用した遺伝子検査を開始しました。CDトキシンの検査を遺伝学的に検査することで、従来と比較して迅速かつ高感度にCDトキシン産生株を検出することが可能となり、適切な抗菌薬治療や院内感染防止に寄与しています。

近年、日本を訪れる外国人観光客は右肩上がりです。ラグビーワールドカップの開催がインフルエンザの早期流行を招いたように、今年も東京オリンピックが開催されることにより、輸入感染症や未知の微生物による感染症に遭遇する可能性もあります。

また急激に高度化・複雑化する医療において、微生物検査ならびにその他の臨床検査へのニーズも変化していくと考えています。中央検査部としては高度な知識と確かな技術をこれからも追求し続け、なお一層チーム医療に貢献して参ります。

1. 分離菌情報

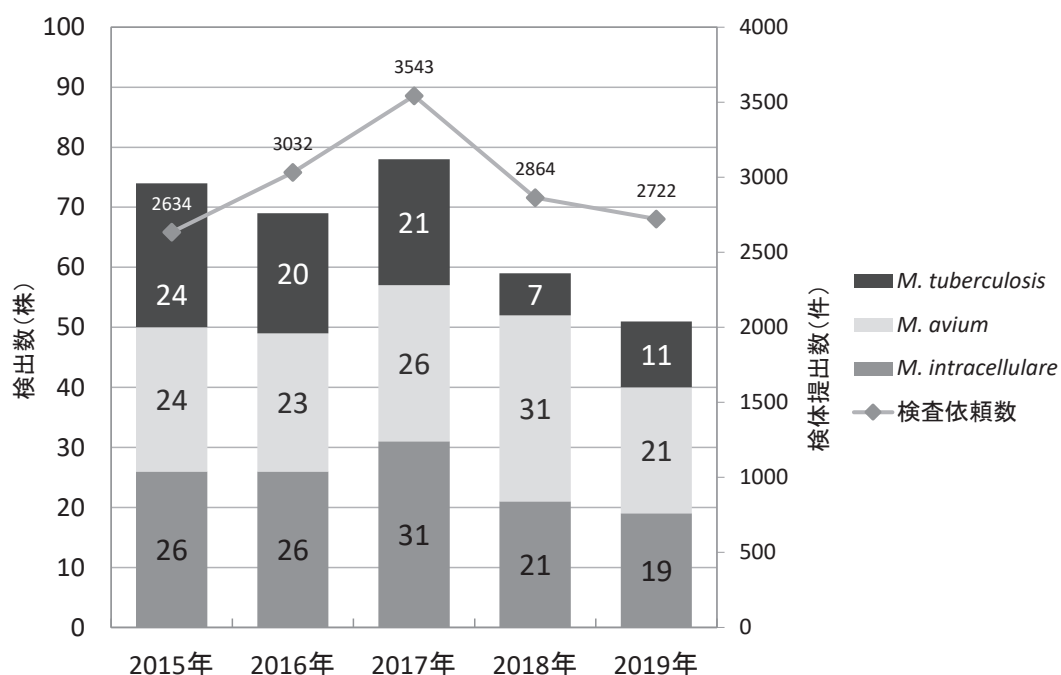
A) 耐性菌検出率：耐性菌検出数（グラフ上部数値）／各検出数



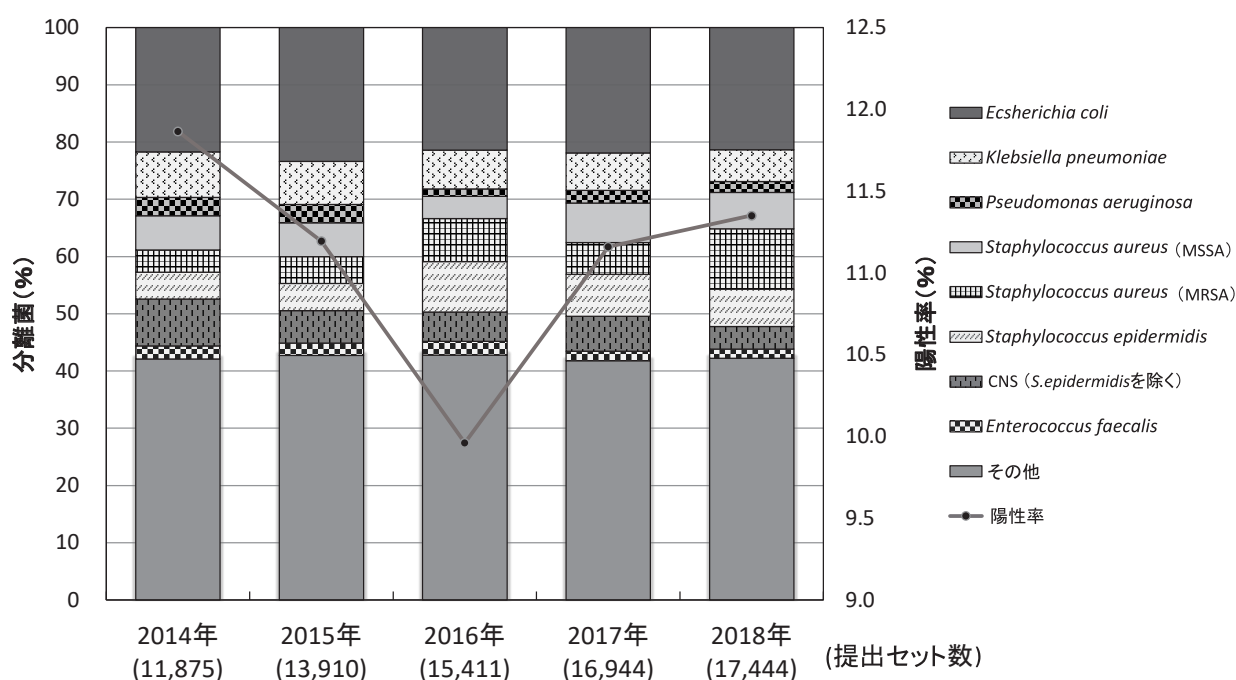
ここ5年間における、それぞれの耐性菌の検出率推移をみるとBLNARは減少傾向にありますが、MRSAおよびESBL産生菌、CREが増加してきています。また、PRSPは分離されず、MDRPも1件にとどまりました。

CREは近年確認されるようになった耐性菌ですが、CPE（カルバペネマーゼ産生腸内細菌科細菌）だけでなく、ステルス型とも呼ばれるカルバペネムに明確な耐性を示さない、表現型を示す菌も増加傾向にあり、しっかりとした感染管理体制を整える必要があります。

B) 抗酸菌動向 (*M. tuberculosis*, *M. avium*, *M. intracellulare*)



C) 血液培養陽性率（陽性セット数／提出セット数）と検出菌の内訳（検出菌数／血液培養検出菌総数）



2. 薬剤感受性

A) 成人 グラム陽性球菌

菌名	株数	MIPPC	S/A	CEZ	GMZ	IPM/CS	GM	EM	GLDM	MINO	LVFX	TEIG	VGM	LZD	ST	RFP
<i>Staphylococcus aureus</i> (MSSA)	721	100	100	100	100	100	75	70	71	100	81	100	100	100	100	99
<i>Staphylococcus aureus</i> (MRSA)	645	-	-	-	0	-	47	11	11	83	17	100	100	100	99	99
<i>Staphylococcus epidermidis</i>	449	50	50	50	50	50	62	62	73	99	49	99	100	100	90	99

菌名	株数	PCG	ABPC	CTX	CTRX	QFPM	MEPM	EM	AZM	GLDM	LVFX	VGM	QP
<i>Streptococcus pyogenes</i>	16	100	100	100	100	100	100	63	63	81	81	100	100
<i>Streptococcus agalactiae</i>	205	98	100	100	100	100	100	62	61	85	63	100	90
<i>Streptococcus dysgalactiae</i>	52	100	100	100	100	100	100	70	70	80	92	100	100
<i>Streptococcus viridans</i> group	220	93	95	98	97	98	100	66	66	91	93	100	100

菌名	株数	PCG	ABPC	EM	MINO	TEIG	VGM	LVFX	LZD	RFP
<i>Enterococcus faecalis</i>	358	99	100	28	40	100	100	83	100	55
<i>Enterococcus faecium</i>	200	18	19	3	31	100	100	16	100	15

菌名	株数	PCG	PCGm	PCGnm	C/A	CTXm	CTXnm	CTRXm	CTRXnm	QFPMnm	MEPM	EM	AZM	GLDM	LVFX	VGM	ST	QP	RFP
<i>Streptococcus pneumoniae</i>	120	63	63	98	98	92	98	91	98	94	77	27	26	55	98	100	81	96	100

B) 成人 グラム陰性桿菌

菌名	株数	ABPC	S/A	C/A	P/T	CEZ	GCL	GMZ	CPDX-P	CTX	CAZ	CFPM	IPM/CS	MEPM	AZT	GM	AMK	MINO	OPFX	LVFX	ST
<i>Escherichia coli</i>	1401	47	64	86	98	55	64	99	66	68	68	69	100	100	68	89	99	93	55	56	81
<i>Klebsiella pneumoniae</i>	464	-	79	92	97	83	88	97	88	88	88	88	98	98	88	97	100	87	93	97	88
<i>Klebsiella oxytoca</i>	102	-	74	85	89	8	85	99	90	93	94	95	100	100	90	97	100	97	94	97	95
<i>Enterobacter cloacae</i> complex	210	-	-	-	77	-	-	-	30	55	65	88	95	96	64	100	100	93	88	95	88
<i>Enterobacter aerogenes</i>	59	-	-	-	69	-	-	-	53	58	61	82	81	83	63	100	100	92	98	98	98
<i>Citrobacter freundii</i>	94	-	-	-	94	-	-	-	30	64	68	95	93	96	71	97	100	93	95	98	96
<i>Citrobacter koseri</i>	82	-	50	57	62	46	49	74	49	49	52	49	96	96	50	96	100	87	46	46	90
<i>Proteus mirabilis</i>	102	75	80	94	98	73	83	100	87	87	90	88	-	100	90	86	100	9	64	83	93
<i>Serratia marcescens</i>	70	-	-	-	76	-	-	-	16	-	-	59	99	99	100	70	100	100	99	66	99
<i>Aeromonas</i> sp.	70		51	30	93	9				89	91	99			94	99	99		93	97	94

菌名	株数	PIP	P/T	CAZ	CFPM	AZT	IPM/CS	MEPM	DRPM	GM	AMK	TOB	MINO	OPFX	LVFX	ST	CL
<i>Pseudomonas aeruginosa</i>	432	85	88	90	88	79	82	89	92	82	98	99		91	91		99
<i>Acinetobacter baumannii</i> complex	23	65		91	91		100	100	100	91	100	100	100	96	96	96	100
<i>Stenotrophomonas maltophilia</i>	95			33									99		94	99	

菌名	株数	ABPC	C/A	S/A	GCL	CFPM	CTX	CTRX	CAM	OPFX	LVFX	MEPM	RFP	MINO	ST	QP
<i>Haemophilus influenzae</i>	182	46	87	84	80	100	100	100	89	100	100	100	99	99	68	99

C) 小児 グラム陽性球菌

菌名	株数	M/PPC	S/A	CEZ	ONZ	IPM/OS	GM	EM	CLDM	MINO	LVFX	TEIC	VCM	LZD	ST	RFP
<i>Staphylococcus aureus</i> (MSSA)	110	100	100	100	100	100	68	57	57	99	87	100	100	100	99	100
<i>Staphylococcus aureus</i> (MRSA)	103	-	-	-	0	-	51	10	11	71	29	100	100	100	100	100
<i>Staphylococcus epidermidis</i>	16	31	31	31	31	31	56	38	63	100	44	100	100	100	100	100

菌名	株数	PCG	ABPC	CTX	CTRX	CFPM	MEPM	EM	AZM	CLDM	LVFX	VCM	CP
<i>Streptococcus pyogenes</i>	4	100	100	100	100	100	100	50	50	75	100	100	100
<i>Streptococcus agalactiae</i>	6	100	100	100	100	100	100	80	80	80	100	100	80

菌名	株数	PCG	PCGm	PCGmm	C/A	CTXm	CTXmm	CTRXm	CTRXmm	CFPMm	MEPM	EM	AZM	CLDM	LVFX	VCM	ST	CP	RFP
<i>Streptococcus pneumoniae</i>	105	53	53	100	100	89	100	83	100	97	74	7	6	56	100	100	88	97	100

D) 小児 グラム陰性桿菌

菌名	株数	ABPC	S/A	C/A	P/T	CEZ	GCL	ONZ	CPDX-P	CTX	GAZ	CFPM	IPM/OS	MEPM	AZT	GM	AMK	MINO	CFPX	LVFX	ST
<i>Escherichia coli</i>	61	62	70	95	98	73	82	97	82	83	83	87	100	100	82	93	100	93	85	85	85

菌名	株数	PPPC	P/T	GAZ	CFPM	AZT	IPM/OS	MEPM	DRPM	GM	AMK	TOB	MINO	CFPX	LVFX	ST	QL
<i>Pseudomonas aeruginosa</i>	26	58	81	88	92	73	73	85	96	88	100	92	88	88	100		

菌名	株数	ABPC	C/A	S/A	GCL	CFPM	CTX	CTRX	GAM	CFPX	LVFX	MEPM	RFP	MINO	ST	CP
<i>Haemophilus influenzae</i>	137	51	87	86	77	100	100	100	93	100	100	100	100	99	71	99

【備考】

- 2019年1月1日～2019年12月31日の期間に提出された検体を集計対象とした。但し、同一患者から検出された同一菌は、30日以内に再提出された場合に限って集計対象外とした。
- 表の数値は、対象菌株のうち「S」（感受性）を示した菌株の割合（%）を示している。
- それぞれの結果で、90%以上の感受性を認める項目の背景を■で表している。
- 背景が▨の項目は、その菌種において自然耐性により必ず「R」（耐性）の結果が報告される薬剤である。
- 背景が□の項目は、当検査室で実施している検査方法では報告することのできない菌と薬剤の組み合わせである。
- 次の菌種において、カッコ内の薬剤は尿路分離株で結果を報告していないため、計算対象から除外している。

MSSA、MRSA、*S. epidermidis* (EM、CLDM、MINO)

S. pyogenes、*S. agalactiae* (EM、AZM、CLDM、CP) *E. faecalis*、*E. faecium* (EM)

9. 研修医募集の記録

2019年

大学名	受験者数	採用者数	臨床クラークシップ		見学	
			受入(実人数)	うち採用者数	受入(延べ人数)	うち採用者数
北海道大学	0	0	0	0	5	0
札幌医科大学	0	0	0	0	1	0
弘前大学	0	0	0	0	1	0
秋田大学	0	0	0	0	1	0
富山大学	1	0	0	0	1	0
山形大学	0	0	0	0	2	0
金沢医科大学	0	0	0	0	2	0
東北大学	0	0	0	0	1	0
福井大学	0	0	0	0	1	0
新潟大学	0	0	0	0	1	0
慶應義塾大学	1	0	0	0	1	0
東京慈恵会医科大学	0	0	0	0	2	0
杏林大学	0	0	0	0	3	0
東京女子医科大学	1	0	1	0	1	0
埼玉医科大学	1	0	0	0	2	0
千葉大学	0	0	0	0	1	0
自治医科大学	0	0	0	0	1	0
山梨大学	0	0	0	0	3	0
筑波大学	1	0	0	0	5	0
名古屋大学	1	1	0	0	2	1
名古屋市立大学	0	0	0	0	3	0
岐阜大学	1	0	0	0	1	0
京都大学	1	0	0	0	3	0
京都府立医科大学	2	2	0	0	2	2
三重大学	0	0	0	0	1	0
神戸大学	2	1	2	1	2	0
岡山大学	1	1	0	0	1	1
川崎医科大学	0	0	0	0	2	0
広島大学	1	0	0	0	7	0
島根大学	1	0	0	0	6	0
山口大学	0	0	0	0	7	0
香川大学	1	0	0	0	3	0

大 学 名	受験者数	採用者数	クリニカルクラークシップ		見学	
			受入(実人数)	うち採用者数	受入(延べ人数)	うち採用者数
徳島大学	1	0	0	0	3	0
高知大学	0	0	0	0	3	0
愛媛大学	1	0	0	0	4	0
九州大学	12	5	10	2	44	5
福岡大学	2	0	1	0	14	0
産業医科大学	0	0	8	0	3	0
久留米大学	6	3	0	0	15	2
長崎大学	6	3	0	0	18	3
佐賀大学	2	0	0	0	14	0
大分大学	1	0	5	0	6	0
熊本大学	1	1	21	0	14	1
宮崎大学	2	0	13	0	4	0
鹿児島大学	4	0	0	0	15	0
琉球大学	2	0	0	0	12	0
首都医科大学(中国)	0	0	0	0	2	0
合計	56	17	61	3	246	15

〔Ⅷ〕 医師部門および主要職員名簿

1. 医師名簿

(2019年12月31日現在)

診療科	氏名	卒業学校名	卒年(和暦)	卒年(西暦)	職名
	増本陽秀	九州大学	55	1980	院長 兼イノベーション改善運営会議議長 兼イノベーション推進本部長 兼地域包括ケア推進会議議長 兼卒後教育評議会議長 兼救命救急評議会議長 兼デミング賞準備会議議長 兼高気圧酸素治療室長
	井村 洋	藤田学園保健衛生大学 (大学院)	56(63)	1981 (1988)	特任副院長 兼総合診療科部長 兼教育推進本部長 兼地域包括ケア推進会議副議長 兼地域包括ケア推進本部長 兼統括事業本部治験推進本部長 兼臨床研究支援室室長 兼外来フィールド長 兼卒後教育評議会副議長 兼救命救急評議会議員 兼デミング賞準備室会議議員 並北第八病棟医長
	名取良弘	九州大学	60	1985	副院長 兼脳神経外科部長 兼脳神経病センター長 兼救命救急フィールド長 兼救命救急センター長 兼統括事業本部予防医学本部長 兼経営戦略本部長 兼救命救急評議会副議長 兼デミング賞準備会議議員 兼東第六病棟医長
	福村文雄	九州大学	60	1985	副院長 兼医療安全推進室長 兼改善推進本部長 兼情報本部長 兼診療情報管理室長 兼デミング賞準備室室長 兼診療支援フィールド長 兼日本一のまごころ病院実現諮問会議議長 兼イノベーション改善運営会議議員
	赤星和也	鹿児島大学	61	1986	副院長 兼消化器内科部長 兼内視鏡室長 兼医学研究推進本部長 兼内科入院フィールド長 兼東第四病棟医長

診療科	氏名	卒業学校名	卒年(和暦)	卒年(西暦)	職名
	梶山 潔	高知医科大学	H2	1990	副院長 兼外科統括部長 兼手術評議会議長 兼救命救急評議会議員 兼手術フィールド長 兼外科入院フィールド長 並東第七病棟医長
	田中二郎	鹿児島大学	44	1969	名誉院長(顧問) 兼救命救急センター特別顧問 兼卒後教育評議会議員
	中島 格	九州大学	48	1973	顧問
	大田俊行	山口大学	49	1974	顧問 兼膠原病センター長 兼中央検査部技術・教育・研究指導室長
	安藤廣美	九州大学	52	1977	特任副院長(国際交流担当)
	山本英彦	熊本大学(大学院)	53 (57)	1978 (1982)	特任副院長(渉外担当)
	鮎川勝彦	九州大学	56	1981	特任副院長集中治療科担当 (地域医療サポーター養成講座・ 救急病床適用判定医・救急救命士育成担当)
	江口冬樹	福岡大学(大学院)	58 (H4)	1983 (1992)	特任副院長
肝臓内科 (5名)	本村健太	九州大学(大学院)	H3 (H11)	1991 (1999)	肝臓内科部長
	矢田雅佳	九州大学(大学院)	H11 (H15)	1999 (2003)	肝臓内科診療部長 兼南3A病棟医長
	宮崎将之	宮崎医科大学 (九大大学院)	H16 (H27)	2004 (2015)	診療部長
	田中紘介	産業医科大学 (九大大学院)	H16 (H27)	2004 (2015)	診療部長
	森田祐輔	長崎大学	H22	2010	医長代理
消化器内科 (18名)	赤星和也	鹿児島大学	61	1986	副院長 兼消化器内科部長 兼内視鏡室長 兼医学研究推進本部長 兼内科入院フィールド長 兼東第四病棟医長
	久保川 賢	九州大学	H6	1994	診療部長
	宜保淳也	九州大学	H11	1999	診療部長
	淀江賢太郎	九州大学	H15	2003	診療部長
	國木康久	産業医科大学	H16	2004	医長
	小副川 敬	北里大学	H17	2005	医長
	長田繁樹	和歌山県立医科大学	H19	2007	医長
	稲村和紀	久留米大学	H22	2010	医長代理
	野崎哲史	福岡大学	H23	2011	医長代理
	安倍俊行	順天堂大学	H24	2012	医長代理
	木村勇祐	福井大学	H24	2012	医長代理
	佐藤 諒	福岡大学	H25	2013	医長代理
	芥川宗樹	熊本大学	H25	2013	医長代理
	梅北慎也	九州大学	H26	2014	医長代理

診療科	氏名	卒業学校名	卒年(和暦)	卒年(西暦)	職名
消化器内科 (18名)	丸岡諒平	大分大学	H27	2015	医師
	吉本貴則	鳥取大学	H27	2015	後期研修医
	福谷洋樹	久留米大学	H28	2016	専攻医
	坂井佳世	佐賀医科大学	H20	2008	医師
呼吸器腫瘍内科 (1名)	海老規之	宮崎医科大学	H3	1991	呼吸器腫瘍内科部長 兼がん集学治療センター副センター長 兼外来化学療法室長 並医学研究推進本部詰
呼吸器内科 (12名)	飛野和則	熊本大学 (順天堂大学大学院)	H13 (H23)	2001 (2011)	呼吸器内科部長 兼南3B病棟医長
	鶴野広介	佐賀大学	H19	2007	医長
	井手ひろみ	帝京大学	H19	2007	医長
	神 幸希	東北大学	H23	2011	医長代理
	吉松由貴	大阪大学	H23	2011	医長代理
	西澤早織	熊本大学	H24	2012	医長代理
	吉峯晃平	近畿大学	H24	2012	医長代理
	棟近 幸	大分大学	H24	2012	医長代理
	末安巧人	九州大学	H25	2013	医長代理
	後藤夕輝	金沢大学	H26	2014	医長代理
	大井隆之介	長崎大学	H26	2014	医長代理
	岡久将暢	順天堂大学	H27	2015	後期研修医
内分泌・糖尿病内科 (5名)	井手 誠	九州大学	H15	2003	内分泌・糖尿病内科部長
	堀内俊博	九州大学	H16	2004	診療部長
	高柳宏樹	九州大学(大学院)	H22 (H29)	2010 (2017)	医長代理
	山下彩織	佐賀大学	H27	2015	医師
	新城明仁	九州大学	H27	2015	医師
血液内科 (4名)	油布祐二	九州大学	59	1984	血液内科特任部長 兼がん集学治療センター長
	松島孝充	九州大学	H6	1994	診療部長
	喜安純一	九州大学	H14	2002	診療部長
	八木 悠	奈良県立医科大学	H25	2013	医長代理
心療内科 (1名)	木附 康	九州大学	H15	2003	心療内科部長代行
総合診療科 (28名)	井村 洋	藤田学園保健衛生大学 (大学院)	56(63)	1981 (1988)	特任副院長 兼総合診療科部長 兼教育推進本部長 兼地域包括ケア推進会議副議長 兼地域包括ケア推進本部長 兼統括事業本部治験推進本部長 兼臨床研究支援室室長 兼外来フィールド長 兼卒後教育評議会副議長 兼救命救急評議会議員 兼デミング賞準備室会議議員 並北第八病棟医長
	中村権一	熊本大学	H3	1991	総合診療科診療部長 兼感染管理センター長
	清田雅智	長崎大学	H7	1995	診療部長

診療科	氏名	卒業学校名	卒年(和暦)	卒年(西暦)	職名
総合診療科 (28名)	小田浩之	鹿児島大学	H8	1996	総合診療科診療部長 兼医療安全推進室リスクマネージャー 兼教育推進本部ラーニングセンター長 兼西二階病棟医長
	松永 諭	琉球大学	H15	2003	診療部長
	赤岩 喬	大分大学	H16	2004	診療部長
	江本 賢	金沢大学	H18	2006	医長
	吉田 伸	名古屋市立大学	H18	2006	医長
	茂木千明	福岡大学	H19	2007	医長
	中安一夫	自治医科大学	H20	2008	医長
	桑野公輔	東海大学	H22	2010	医長代理
	金 弘子	鳥取大学	H23	2011	医長代理
	富山周作	京都大学	H23	2011	医長代理
	工藤仁隆	福岡大学	H24	2012	医長代理
	小杉俊介	熊本大学	H24	2012	医長代理
	山口裕崇	九州大学	H24	2012	医長代理
	鶴木友都	大阪大学	H25	2013	医長代理
	坂井智達	九州大学	H26	2014	医長代理
	鈴木祥太郎	愛知医科大学	H26	2014	医長代理
	堀之内瑠美	山口大学	H26	2014	医長代理
	松本朋樹	熊本大学	H26	2014	医長代理
	安田雄一	鳥取大学	H26	2014	医長代理
	渡部なつき	九州大学	H26	2014	医長代理
	長谷川雄一	旭川医科大学	H27	2015	後期研修医
	土方貴道	東北大学	H27	2015	後期研修医
	藪内俊宜	近畿大学	H27	2015	後期研修医
	原田愛子	島根大学	H29	2017	後期研修医
	村上奈央	熊本大学	H29	2017	後期研修医
	感染症科 (2名)	的野多加志	長崎大学 (東北大学大学院)	H19 (H30)	2007 (2018)
山手亮佑		佐賀大学	H26	2014	医長代理
膠原病・リウマチ内科 (3名)	永野修司	熊本大学	H7	1995	膠原病・リウマチ内科部長 兼医学研究推進本部
	内野愛弓	長崎大学	H13	2001	診療部長
	佐川文彬	九州大学	H27	2015	医師
連携医療・緩和ケア科 (9名)	柏木秀行	筑波大学	H19	2007	連携医療・緩和ケア科部長 兼地域包括ケア推進本部副本部長 兼中央第六病棟医長
	岡村知直	九州大学	H22	2010	医長代理
	松本弥一郎	近畿大学	H23	2011	医長代理
	大森崇史	山口大学	H24	2012	医長代理
	石上雄一郎	滋賀医科大学	H24	2012	医長代理
	大屋清文	慶應義塾大学	H25	2013	医長代理
	石山雄太	筑波大学	H26	2014	医長代理
	松本衣里	山口大学	H26	2014	医長代理
中山隆弘	山梨大学	H26	2014	医長代理	

診療科	氏名	卒業学校名	卒年(和暦)	卒年(西暦)	職名
循環器内科 (9名)	井上修二郎	九州大学	H9	1997	循環器内科部長 兼中央第四病棟医長 並C4HCU医長
	稲永慶太	九州大学	H14	2002	診療部長
	川上将司	大分大学 (熊大大学院)	H18 (H29)	2006 (2017)	医長
	高原勇介	九州大学	H19	2007	医長
	大賀泰寛	長崎大学 (九大大学院)	H20 (H28)	2008 (2016)	医長
	吉田賢明	九州大学	H23	2011	医長代理
	古川正一郎	群馬大学	H24	2012	医長代理
	前園明寛	九州大学	H24	2012	医長代理
	庄島耀子	熊本大学	H28	2016	専攻医
心不全ケア科 (1名)	今村義浩	九州大学	62	1987	心不全ケア科部長 兼E4救急・HCU室長
心臓血管外科 (5名)	内田孝之	九州大学	H1	1989	心臓血管外科部長 兼循環器病センター長 兼臨床工学部長 兼中央第五病棟医長 並医学研究推進本部詰
	松元 崇	九州大学	H6	1994	診療部長
	満尾 博	山口大学	H26	2014	医長代理
	竹本 捷	佐賀大学	H27	2015	医師
	溝上悠介	九州大学	H29	2017	専攻医
泌尿器科 (4名)	中島雄一	福岡大学	H1	1989	泌尿器科部長 兼結石破碎室長 並東第五病棟医長
	宮嶋哲匡	福岡大学(大学院)	H8 (H15)	1996 (2003)	診療部長
	岡部 雄	東邦大学	H22	2010	医長代理
	郡家直敬	長崎大学	H25	2013	医長代理
外科 (10名)	梶山 潔	高知医科大学	H2	1990	副院長 兼外科統括部長 兼手術評議会議長 兼救命救急評議会議員 兼手術フィールド長 並東第七病棟医長
	萱島寛人	九州大学	H14	2002	診療部長
	由茅隆文	筑波大学 (九大大学院)	H16 (H27)	2004 (2015)	診療部長
	藤中良彦	九州大学(大学院)	H17 (H23)	2005 (2011)	医長
	武谷憲二	九州大学	H18	2006	医長
	柿添圭成	藤田学園保健衛生大学	H25	2013	医長代理
	小佐々貴博	山口大学	H27	2015	後期研修医
	利田賢哉	九州大学	H28	2016	専攻医
	松枝花奈	高知大学	H28	2016	専攻医
播磨朋哉	熊本大学	H29	2017	専攻医	
消化管・内視鏡外科 (1名)	古賀 聡	佐賀医科大学	H8	1996	消化管・内視鏡外科部長
肝胆膵外科 (1名)	皆川亮介	大分大学	H8	1996	肝胆膵外科部長 兼H2救急室長

診療科	氏名	卒業学校名	卒年(和暦)	卒年(西暦)	職名
呼吸器外科 (4名)	大崎敏弘	産業医科大学	61	1986	呼吸器外科部長 兼呼吸器病センター長 兼医学研究推進本部誌
	西澤夏将	北海道大学	H24	2012	医長代理
	福市有希子	産業医科大学	H27	2015	医師
	草薙佳澄	産業医科大学	H28	2016	専攻医
呼吸器腫瘍外科 (1名)	安田学	産業医科大学 (大学院)	H7 (H14)	1995 (2002)	呼吸器腫瘍外科部長
小児外科 (2名)	中村晶俊	九州大学	H6	1994	小児外科部長
	増田吉朗	佐賀大学	H25	2013	医長代理
臨床腫瘍科 (2名)	甲斐正徳	熊本大学	H1	1989	臨床腫瘍科部長 兼外科診療部長 兼東第八病棟医長 並情報本部診療情報管理室副室長
	平山佳愛	佐賀大学	H21	2009	医長
腎臓内科 (8名)	藤崎毅一郎	鳥取大学	H11	1999	腎臓内科部長 兼腎センター長 並人工透析室長 並南2A病棟医長
	中下さつき	福岡大学	H16	2004	診療部長
	佐々木 彰	福岡大学 (京都大学大学院)	H20 (H29)	2008 (2017)	医長
	服部宗軒	浜松医科大学	H22	2010	医長代理
	古閑和生	琉球大学	H22	2010	医長代理
	中嶋崇文	川崎医科大学	H24	2012	医長代理
	米谷拓朗	九州大学	H25	2013	医長代理
	中俣悠亮	久留米大学	H26	2014	医長代理
小児科 (12名)	岡松由記	福岡大学	H12	2000	小児科部長 兼北第五病棟医長 並新生児室医長
	神田 洋	久留米大学	H8	1996	小児科診療部長 兼総合周産期母子医療センター長 兼総合周産期母子医療センター新生児部門管理部長 並新生児室長
	大矢崇志	大分医科大学	H10	1998	診療部長
	坂口万里江	山口大学	H2	1990	診療部長
	田中祥一郎	久留米大学	H16	2004	診療部長
	森田啓督	岡山大学	H16	2004	診療部長
	田中ゆかり	久留米大学	H21	2009	医師
	齊木玲央	千葉大学	H21	2009	医長代理
	屋宮清仁	宮崎大学	H21	2009	医長
	三浦真理子	杏林大学	H25	2013	医長代理
	嘉村拓朗	徳島大学	H26	2014	医長代理
	石本隆浩	久留米大学	H28	2016	専攻医
耳鼻咽喉科 (3名)	麻生丈一郎	久留米大学	H20	2008	耳鼻咽喉科部長
	佐藤公宣	久留米大学	H24	2012	医長代理
	川口壽比古	久留米大学	H26	2014	医長代理

診療科	氏名	卒業学校名	卒年(和暦)	卒年(西暦)	職名
眼科 (5名)	吉山慶三	宮崎医科大学	H13	2001	眼科部長 兼外来手術センター長
	小林義行	鳥取大学 (九大大学院)	H21 (H29)	2009 (2017)	医長
	向坂親蔵	福岡大学	H26	2014	医長代理
	林田陽	九州大学	H27	2015	医師
	中村駿	九州大学	H28	2016	専攻医
整形外科 (10名)	原俊彦	熊本大学	H3	1991	整形外科部長 兼中央第三病棟医長 並手術評議会議員
	浜崎晶彦	長崎大学	H5	1993	診療部長
	美浦辰彦	九州大学	H13	2001	診療部長
	牛島貴宏	九州大学(大学院)	H17 (H26)	2005 (2014)	医長
	園田和彦	九州大学(大学院)	H20 (H29)	2008 (2017)	医長
	畑中敬之	鹿児島大学 (九大大学院)	H21 (H31)	2009 (2019)	医長
	馬渡大介	福岡大学	H25	2013	医長代理
	山名真士	久留米大学	H26	2014	医長代理
	岸川準	九州大学	H29	2017	専攻医
新井堅	熊本大学	56	1981	整形外科特任顧問 兼リハビリテーション科	
ペインクリニック科 (1名)	小畑勝義	産業医科大学	62	1987	ペインクリニック科部長
麻酔科 (8名)	尾崎実展	宮崎医科大学	H1	1989	麻酔科部長 兼手術センター長 兼中央手術室・中央材料室医長 並手術評議会議員
	田平暢恵	九州大学	H12	2000	診療部長
	小西彩	佐賀医科大学	H13	2001	診療部長 兼ハイブリッド手術センター長
	内藤智孝	九州大学	H16	2004	診療部長
	佐藤範子	名古屋市立大学	H19	2007	医師
	瀧井優輔	京都大学	H23	2011	医長代理
	日高淳介	山口大学	H26	2014	医長代理
	橋本匡彦	大阪医科大学	H26	2014	医長代理
脳神経外科 (5名)	名取良弘	九州大学	60	1985	副院長 兼脳神経外科部長 兼脳神経病センター長 兼救命救急フィールド長 兼救命救急センター長 兼統括事業本部予防医学本部長 兼経営戦略本部長 兼救命救急評議会副議長 兼デミング賞準備会議議員 兼東第六病棟医長
	甲斐康稔	広島大学 (九州大学大学院)	H11 (H19)	1999 (2007)	診療部長
	村田秀樹	九州大学	H17	2005	医長
	野口直樹	九州大学	H26	2014	医長代理
	藤井裕太郎	九州大学	H29	2017	専攻医

診療科	氏名	卒業学校名	卒年(和暦)	卒年(西暦)	職名
脳神経内科 (6名)	高瀬敬一郎	長崎大学 (九大大学院)	H10 (H20)	1998 (2008)	脳神経内科部長 兼脳卒中センター長 並南1A病棟医長
	園田啓太	九州大学	H17	2005	医長
	進村光規	熊本大学	H20	2008	医長
	宇根隼人	九州大学	H22	2010	医長代理
	前田泰宏	九州大学	H26	2014	医長代理
	劉景晨	鹿児島大学	H28	2016	専攻医
病理科 (4名)	大石善丈	九州大学(大学院)	H9 (H16)	1997 (2004)	病理科部長
	平木由佳	九州大学	H20	2008	医長
	久保山雄介	九州大学	H28	2016	専攻医
	朝永匠	九州大学	H29	2017	専攻医
皮膚科 (6名)	幸田太	鹿児島大学 (九大大学院)	H8 (H13)	1996 (2001)	皮膚科部長
	小糸理紗	宮崎大学	H25	2013	医長代理
	濱崎友佳	愛媛大学	H25	2013	医長代理
	挽地史織	佐賀大学	H27	2015	医師
	佐竹真緒	佐賀大学	H28	2016	専攻医
	井上慶一	兵庫医科大学	H29	2017	専攻医
形成外科 (2名)	橋口晋一郎	広島大学	H19	2007	形成外科部長代行
	小山麻衣	九州大学	H21	2009	医長
リエゾン精神科 (5名)	光安博志	九州大学(大学院)	H7 (H15)	1995 (2003)	リエゾン精神科部長 兼心身合併症センター長 兼西三階病棟医長
	猪狩圭介	長崎大学 (九大大学院)	H16 (H29)	2004 (2017)	リエゾン精神科診療部長 兼デイケアセンター長 兼西一階病棟医長
	濱崎厚子	久留米大学	H23	2011	医長代理
	比嘉逸人	北海道大学	H24	2012	医長代理
	三根政弘	熊本大学	H26	2014	医長代理
産婦人科 (8名)	辻岡寛	福岡大学(大学院)	H4 (H11)	1992 (1999)	産婦人科部長 兼北第七病棟医長
	後藤麻木	福岡大学(大学院)	H10 (H26)	1998 (2014)	産婦人科診療部長 兼総合周産期母子医療センター産科部門管理部長 並北第六病棟医長
	藤庸子	長崎大学	H17	2005	医長
	李理華	山口大学(大学院)	H17 (H24)	2005 (2012)	医長
	中村寿美得	金沢医科大学	H18	2006	医長
	松岡咲子	広島大学	H25	2013	医長代理
	小田美穂	久留米大学	H26	2014	医長代理
	谷口貴之	川崎医科大学	H27	2015	専攻医
画像診療科 (6名)	三浦亘智	宮崎医科大学	H6	1994	画像診療科部長
	吉開友則	鹿児島大学 (九大大学院)	56(H1)	1981 (1989)	PETセンター長 兼画像診療科診療部長
	鳥井芳邦	九州大学	57	1982	診療部長
	落合浩一朗	九州大学	61	1986	診療部長
	鎌野宏礼	山口大学 (九大大学院)	H15 (H25)	2003 (2013)	診療部長
	染原有希子	大分医科大学	H22	2010	医長代理

診療科	氏名	卒業学校名	卒年(和暦)	卒年(西暦)	職名
放射線治療科 (1名)	久賀元兆	金沢医科大学 (大学院)	H13 (H17)	2001 (2005)	放射線治療科部長
歯科口腔外科 (4名)	中松耕治	九州大学(大学院)	60(H1)	1985 (1989)	歯科口腔外科部長
	長野公喜	九州大学(大学院)	H21 (H26)	2009 (2014)	医長代理
	有田英生	九州大学 (熊本大学大学院)	H25 (H30)	2013 (2018)	医長代理
	炭本雄基	九州歯科大学	H31	2019	初期研修医
漢方診療科 (6名)	田原英一	富山医科薬科大学	H3	1991	漢方診療科部長
	矢野博美	佐賀医科大学	H6	1994	漢方診療科診療部長 兼予防医学本部予防医学センター長
	井上博喜	鹿児島大学 (富山大学大学院)	H13 (H23)	2001 (2011)	診療部長
	吉永 亮	自治医科大学	H16	2004	診療部長
	牧 俊允	久留米大学	H18	2006	医長
	後藤雄輔	福岡大学(大学院)	H19 (H26)	2007 (2014)	医長
救急科 (5名)	山田哲久	広島大学	H15	2003	救急科部長代行 兼救命救急評議会議員
	賀茂圭介	九州大学	H25	2013	医長代理
	香月洋紀	長崎大学	H26	2014	後期研修医
	熊城伶己	神戸大学	H27	2015	後期研修医
	三股佳奈子	宮崎大学	H27	2015	後期研修医
検査急変対応科	安達普至	大分医科大学	H5	1993	検査急変対応科科長
集中治療科 (3名)	吉野俊平	長崎大学	H11	1999	集中治療科部長 兼救命救急センター副センター長 兼総合診療科主幹 兼 E4 救急・HCU 副室長
	平松俊紀	鳥取大学(大学院)	H14 (H18)	2002 (2006)	診療部長
	豎 良太	京都大学	H23	2011	医長代理
リハビリテーション科 (2名)	山下智弘	産業医科大学	H6	1994	リハビリテーション科部長代行
	新井 堅	熊本大学	56	1981	整形外科特任顧問 兼リハビリテーション科
予防医学センター (1名)	矢野博美	佐賀医科大学	H6	1994	漢方診療科診療部長 兼予防医学本部予防医学センター長
家庭医療コース (4名)	渡邊 功	九州大学	H27	2015	後期研修医
	石松 咲	熊本大学	H27	2015	後期研修医
	長谷川順一	神戸大学	H27	2015	後期研修医
	北野峻介	長崎大学	H27	2015	後期研修医
総合内科&内視鏡コース (1名)	菅原大輔	金沢大学	H26	2014	後期研修医
内科(呼吸器内科)コース (1名)	坂部光邦	三重大学	H29	2017	専攻医
内科(消化器内科)コース (3名)	濱崎慎平	久留米大学	H28	2016	専攻医
	鶴田佳雅	愛知医科大学	H28	2016	専攻医
	内山 学	聖マリアンナ医科大学	H29	2017	専攻医

診療科	氏名	卒業学校名	卒年(和暦)	卒年(西暦)	職名
内科(総合診療科)コース (11名)	小糸 秀	愛媛大学	H28	2016	専攻医
	堀田亘馬	京都府立医科大学	H28	2016	専攻医
	宍戸諒平	札幌医科大学	H28	2016	専攻医
	小野正詩	香川大学	H28	2016	専攻医
	岩佐和樹	大分大学	H28	2016	専攻医
	黒川智美	福岡大学	H28	2016	専攻医
	宮崎 悠	東北大学	H28	2016	専攻医
	原納 遥	京都府立医科大学	H28	2016	専攻医
	大西崇平	島根大学	H28	2016	専攻医
	細川 旬	福岡大学	H29	2017	専攻医
	徳島礼実	佐賀大学	H29	2017	専攻医
内科(循環器内科)コース (2名)	池江隆志	九州大学	H28	2016	専攻医
	片迫 彩	広島大学	H28	2016	専攻医
内科(腎臓内科)コース (1名)	坂本純永	旭川医科大学	H28	2016	専攻医
外科コース (1名)	坂野高大	弘前大学	H24	2012	専攻医
救急科コース (4名)	片桐 欧	帝京大学	H26	2014	専攻医
	松元宗一郎	岐阜大学	H28	2016	専攻医
	有吉 慧	信州大学	H29	2017	専攻医
	堤 圭右	京都府立医科大学	H29	2017	専攻医
産婦人科コース (4名)	林 宗太郎	北里大学	H28	2016	専攻医
	田中仁悟	福岡大学	H28	2016	専攻医
	吉良さちの	三重大学	H29	2017	専攻医
	渡邊さや	秋田大学	H29	2017	専攻医
総合診療コース (6名)	後藤淳一	鹿児島大学	H27	2015	専攻医
	木安貴大	山口大学	H28	2016	専攻医
	桑原宏輔	久留米大学	H28	2016	専攻医
	上野千晶	久留米大学	H28	2016	専攻医
	井上友美	長崎大学	H28	2016	専攻医
	柴田真志	広島大学	H29	2017	専攻医

診療科	氏名	卒業学校名	卒年(和暦)	卒年(西暦)	職名
研修医 (34名)	上川彩乃	宮崎大学	H30	2018	研修医
	大内田良真	長崎大学	H30	2018	研修医
	大田裕晃	山口大学	H30	2018	研修医
	川畑隆史	長崎大学	H30	2018	研修医
	金城国俊	北里大学	H30	2018	研修医
	倉員侑己	熊本大学	H30	2018	研修医
	古賀正晃	自治医科大学	H30	2018	研修医
	坂井崇一郎	九州大学	H30	2018	研修医
	佐々木一駿	宮崎大学	H30	2018	研修医
	菅野真未	九州大学	H30	2018	研修医
	深堀響子	新潟大学	H30	2018	研修医
	溝上功明	九州大学	H30	2018	研修医
	山川礼	宮崎大学	H30	2018	研修医
	山本瑛裕	九州大学	H30	2018	研修医
	王 凌昊	東海大学	H30	2018	研修医
	河野通仁	近畿大学	H30	2018	研修医
	安心院勇佑	福岡大学	H31	2019	研修医
	伊賀川奨大	神戸大学	H31	2019	研修医
	池田理一郎	九州大学	H31	2019	研修医
	石橋大樹	自治医科大学	H31	2019	研修医
	岩崎 恒	九州大学	H31	2019	研修医
	内田和紀	山口大学	H31	2019	研修医
	内山怜香	慶應義塾大学	H31	2019	研修医
	北原賢一	長崎大学	H31	2019	研修医
	小宮圭一郎	佐賀大学	H31	2019	研修医
	陣林秀紀	福岡大学	H31	2019	研修医
	松口隆太	藤田保健衛生大学	H31	2019	研修医
	松崎 彩	山口大学	H31	2019	研修医
	宮崎貴大	九州大学	H31	2019	研修医
	村上陽亮	佐賀大学	H31	2019	研修医
	山口晃平	九州大学	H31	2019	研修医
	山本凱大	九州大学	H31	2019	研修医
	吉村晃政	九州大学	H31	2019	研修医
	富永梨沙	長崎大学	H31	2019	研修医
産業医	土井康文	九州大学(大学院)	H2(H9)	1990 (1997)	産業医

2. 医師異動

① 採用

発令月日	氏名	発令	前任
2019.2.1	佐藤公宣	耳鼻咽喉科医長代理	久留米大学病院
2019.4.1	森田祐輔	肝臓内科医長代理	製鉄記念八幡病院
2019.4.1	堀内俊博	内分泌・糖尿病内科診療部長	九州労災病院
2019.4.1	高柳宏樹	内分泌・糖尿病内科医長代理	九州大学病院 病態制御内科 (第三内科)
2019.4.1	芥川宗樹	消化器内科医長代理	福岡東医療センター
2019.4.1	梅北慎也	消化器内科医長代理	飯塚病院後期研修医
2019.4.1	佐藤 諒	消化器内科医長代理	飯塚病院後期研修医
2019.4.1	新城明仁	内分泌・糖尿病内科医師	公立西知多総合病院
2019.4.1	桑野公輔	総合診療科医長代理	東海大学医学部附属病院 総合内科
2019.4.1	鈴木祥太郎	総合診療科医長代理	飯塚病院後期研修医
2019.4.1	堀之内瑠美	総合診療科医長代理	飯塚病院後期研修医
2019.4.1	松本朋樹	総合診療科医長代理	飯塚病院後期研修医
2019.4.1	安田雄一	総合診療科医長代理	飯塚病院後期研修医
2019.4.1	坂井智達	総合診療科医師	飯塚病院後期研修医
2019.4.1	藪内俊宜	総合診療科後期研修医	橋本市民病院
2019.4.1	原田愛子	総合診療科後期研修医	島根大学医学部附属病院
2019.4.1	後藤夕輝	呼吸器内科医長代理	飯塚病院後期研修医
2019.4.1	大井隆之介	呼吸器内科医長代理	飯塚病院後期研修医
2019.4.1	佐川文彬	膠原病リウマチ内科後期研修医	福岡赤十字病院
2019.4.1	石上雄一郎	連携医療・緩和ケア科医長代理	東京ベイ・浦安市川医療センター
2019.4.1	中山隆弘	連携医療・緩和ケア科医長代理	山梨大学医学部附属病院 麻酔科
2019.4.1	松本衣里	連携医療・緩和ケア科医長代理	飯塚病院後期研修医
2019.4.1	石山雄太	連携医療・緩和ケア科医長代理	飯塚病院後期研修医
2019.4.1	山手亮佑	感染症科医長代理	飯塚病院後期研修医
2019.4.1	濱崎厚子	リエゾン精神科医長代理	住田病院
2019.4.1	比嘉逸人	リエゾン精神科医長代理	小倉医療センター 精神科
2019.4.1	嘉村拓朗	小児科医長代理	北九州市立八幡病院
2019.4.1	石本隆浩	小児科専攻医	久留米大学 小児科
2019.4.1	津村直弥	小児科専攻医	久留米大学 小児科
2019.4.1	藤崎毅一郎	腎臓内科部長	九州大学病院 腎・高血圧・脳血管内科
2019.4.1	古閑和生	腎臓内科医長代理	小倉記念病院
2019.4.1	高原勇介	循環器内科医長	浜の町病院
2019.4.1	前園明寛	循環器内科医長代理	福岡市民病院
2019.4.1	庄島耀子	循環器内科専攻医	九州大学病院
2019.4.1	藤中良彦	外科医長	九州医療センター 外科
2019.4.1	播磨朋哉	外科専攻医	飯塚病院初期研修医
2019.4.1	濱井優輔	麻酔科医長代理	京都桂病院 麻酔科
2019.4.1	畑中敬之	整形外科医長	九州大学大学院
2019.4.1	馬渡大介	整形外科医長代理	九州中央病院 整形外科
2019.4.1	山名真士	整形外科医長代理	九州大学病院 救命救急センター
2019.4.1	岸川 準	整形外科専攻医	九州中央病院 整形外科
2019.4.1	佐竹真緒	皮膚科専攻医	福岡市立こども病院
2019.4.1	小田美穂	産婦人科医長代理	飯塚病院後期研修医
2019.4.1	郡家直敬	泌尿器科医長代理	白十字病院
2019.4.1	向坂親蔵	眼科医長代理	JCHO九州病院
2019.4.1	中村 駿	眼科専攻医	九州大学病院 眼科
2019.4.1	川口壽比古	耳鼻咽喉科医長代理	久留米大学 耳鼻咽喉科・頭頸部外科学講座

発令月日	氏名	発令	前任
2019.4.1	増田吉朗	小児外科医長代理	下関市立市民病院
2019.4.1	村田秀樹	脳神経外科医長	嬉野医療センター
2019.4.1	藤井裕太郎	脳神経外科専攻医	飯塚病院初期研修医
2019.4.1	有田英生	歯科口腔外科医長代理	熊本大学医学部附属病院 歯科 口腔外科
2019.4.1	西澤夏將	呼吸器外科医長代理	新小倉病院
2019.4.1	福市有希子	呼吸器外科医師	飯塚病院後期研修医
2019.4.1	満尾 博	心臓血管外科医長代理	九州大学病院 心臓血管外科
2019.4.1	溝上悠介	心臓血管外科専攻医	島根県立中央病院
2019.4.1	園田啓太	脳神経内科医長	
2019.4.1	劉 景晨	脳神経内科専攻医	九州大学 医学部神経内科
2019.4.1	牧 俊允	漢方診療科医長	社会保険直方病院
2019.4.1	大石善丈	病理科部長	九州大学大学院医学研究院形態 機能病理
2019.4.1	朝永 匠	病理科専攻医	浜の町病院
2019.4.1	山田宗範	麻酔科医長代理	飯塚病院後期研修医
2019.4.1	日高淳介	麻酔科医長代理	飯塚病院後期研修医
2019.4.1	橋本匡彦	麻酔科医長代理	飯塚病院後期研修医
2019.4.1	橋口晋一郎	形成外科部長代行	久留米大学 形成外科・顎顔面外科
2019.4.1	小山麻衣	形成外科医長	久留米大学 形成外科・顎顔面外科
2019.4.1	坂部光邦	内科(呼吸器内科)コース専攻医	北九州総合病院
2019.4.1	内山 学	内科(消化器内科)コース専攻医	東京ベイ・浦安市川医療センター
2019.4.1	細川 旬	内科(総合診療科)コース専攻医	湘南鎌倉総合病院
2019.4.1	徳島礼実	内科(総合診療科)コース専攻医	九州大学病院
2019.4.1	有吉 慧	救急科コース専攻医	市立大町総合病院
2019.4.1	堤 圭右	救急科コース専攻医	九州大学病院
2019.4.1	片桐 欧	救急科コース専攻医	飯塚病院後期研修医
2019.4.1	渡邊さや	産婦人科コース専攻医	三重大学医学部附属病院
2019.4.1	吉良さちの	産婦人科コース専攻医	飯塚病院初期研修医
2019.4.1	後藤淳一	総合診療コース専攻医	水戸済生会総合病院
2019.4.1	柴田真志	総合診療コース専攻医	飯塚病院初期研修医
2019.4.1	安心院勇佑	研修医師	福岡大学
2019.4.1	伊賀川奨大	研修医師	神戸大学
2019.4.1	池田理一郎	研修医師	九州大学
2019.4.1	石橋大樹	研修医師	自治医科大学
2019.4.1	岩崎 恒	研修医師	九州大学
2019.4.1	内田和紀	研修医師	山口大学
2019.4.1	内山怜香	研修医師	慶應義塾大学
2019.4.1	北原賢一	研修医師	長崎大学
2019.4.1	小宮圭一郎	研修医師	佐賀大学
2019.4.1	陣林秀紀	研修医師	福岡大学
2019.4.1	松口隆太	研修医師	藤田保健衛生大学
2019.4.1	松崎 彩	研修医師	山口大学
2019.4.1	宮崎貴大	研修医師	九州大学
2019.4.1	村上陽亮	研修医師	佐賀大学
2019.4.1	山口晃平	研修医師	九州大学
2019.4.1	山本凱大	研修医師	九州大学
2019.4.1	吉村晃政	研修医師	九州大学
2019.4.1	富永梨沙	歯科口腔外科初期研修医	長崎大学
2019.10.1	染原有希子	画像診療科医長代理	九州がんセンター

発令月日	氏名	発令	前任
2019.10.1	屋宮清仁	小児科医長	久留米大学病院
2019.10.1	井上慶一	皮膚科専攻医	浜の町病院
2019.10.1	草薙佳澄	呼吸器外科専攻医	産業医科大学病院
2019.10.1	谷口貴之	産婦人科コース専攻医	鹿児島市立病院
2019.10.1	炭本雄基	歯科口腔外科初期研修医	九州大学歯科口腔外科
2019.10.1	渡部なつき	総合診療科医長代理	飯塚病院後期研修医
2019.10.7	李 理華	産婦人科医長	国境なき医師団
2019.11.1	村上奈央	総合診療科後期研修医	くまもと森都総合病院
2019.11.18	三浦真理子	小児科医長代理	聖マリア病院

② 退職

発令月日	氏名	所属	異動先
2019.1.31	温 光太郎	耳鼻咽喉科医長代理	久留米大学病院
2019.3.15	森 恩	脳神経外科医長	九州大学大学院医学研究院
2019.3.31	安田美奈	呼吸器内科医長代理	飯塚病院非常勤
2019.3.31	伊奈雄二郎	内分泌・糖尿病内科医長	済生会福岡総合病院
2019.3.31	嶋田伸吾	内分泌・糖尿病内科医長	九州労災病院
2019.3.31	長友周三郎	消化器内科医長代理	九州大学病院
2019.3.31	宮原翔仁	消化器内科医師	国立病院機構別府医療センター
2019.3.31	大山 真	血液内科医師	九州大学病院
2019.3.31	木村真大	総合診療科医長代理	さいわいこどもクリニック
2019.3.31	日浦惇貴	膠原病リウマチ内科医師	九州大学病院別府病院
2019.3.31	橋本法修	緩和ケア科医長代理	井上病院
2019.3.31	藤本昌大	リエゾン精神科医長代理	浜の町病院
2019.3.31	村上智哉	リエゾン精神科医師	国立病院機構九州医療センター
2019.3.31	北城恵史郎	小児科医師	久留米大学病院
2019.3.31	越智悠一	小児科医師	久留米大学病院
2019.3.31	山下大輔	小児科医師	久留米大学病院
2019.3.31	平川 亮	腎臓内科部長	長尾病院
2019.3.31	岡村員裕	腎臓内科医師	JCHO九州病院
2019.3.31	瀨小路友哉	腎臓内科後期研修医師	小倉記念病院
2019.3.31	河野俊一	循環器内科診療部長	三萩野病院
2019.3.31	堤 孝樹	循環器内科診療部長	佐賀県医療センター好生館
2019.3.31	酒見拓矢	循環器内科医長代理	佐賀県医療センター好生館
2019.3.31	倉岡沙耶菜	循環器内科後期研修医師	九州大学病院
2019.3.31	山本一治	外科診療部長	宇部西リハビリテーション病院
2019.3.31	木村和恵	外科診療部長	九州大学病院
2019.3.31	武末 亨	外科後期研修医師	熊本大学医学部附属病院
2019.3.31	小藺直哉	整形外科医長	九州大学病院
2019.3.31	金堀将也	整形外科医長代理	済生会八幡総合病院
2019.3.31	副島 悠	整形外科医師	国立病院機構九州医療センター
2019.3.31	川口健悟	整形外科専攻医	福岡市立こども病院
2019.3.31	独孤 龍	皮膚科医師	九州大学病院
2019.3.31	宮崎 健	泌尿器科医長代理	福岡大学病院
2019.3.31	近藤晴彦	産婦人科診療部長	あまがせ産婦人科
2019.3.31	山本広子	産婦人科医長代理	新古賀病院
2019.3.31	中武俊二	眼科医長代理	大分大学医学部附属病院
2019.3.31	高木由貴	眼科医長代理	佐賀大学医学部附属病院
2019.3.31	深水倫子	小児外科専攻医	国立病院機構九州医療センター
2019.3.31	三木健嗣	脳神経外科医長代理	国際医療福祉大学三田病院
2019.3.31	田中拓也	歯科口腔外科医長	天草中央総合病院
2019.3.31	宗 知子	呼吸器外科部長	
2019.3.31	西島卓矢	心臓血管外科医師	九州大学病院
2019.3.31	中村憲道	神経内科医長	JCHO九州病院
2019.3.31	前田教寿	神経内科医長	国立病院機構別府医療センター
2019.3.31	小西良一	救急部診療部長	岡山赤十字病院
2019.3.31	大屋正文	病理科部長	福岡山王病院
2019.3.31	植木翔也	形成外科部長	久留米大学病院
2019.3.31	緑川麻里	形成外科医師	久留米大学病院
2019.3.31	小田美穂	産婦人科後期研修医	飯塚病院産婦人科

発令月日	氏名	所属	異動先
2019.3.31	泉 汀	総合診療科後期研修医	浜の町病院
2019.3.31	森 雄亮	総合診療科後期研修医	北九州市立八幡病院
2019.3.31	後藤夕輝	呼吸器内科後期研修医	飯塚病院呼吸器内科
2019.3.31	坂井智達	総合診療科後期研修医	飯塚病院総合診療科
2019.3.31	武末真希子	家庭医療コース後期研修医	公立玉名中央病院
2019.3.31	堀之内瑠美	総合診療科後期研修医	飯塚病院総合診療科
2019.3.31	山本紀子	総合内科&内視鏡コース後期研修医	県立広島病院
2019.3.31	村上行人	呼吸器内科後期研修医	徳島大学病院
2019.3.31	松本朋樹	総合診療科後期研修医	飯塚病院総合診療科
2019.3.31	安田雄一	総合診療科後期研修医	飯塚病院総合診療科
2019.3.31	小田隆太郎	家庭医療コース後期研修医	市立大津市民病院
2019.3.31	石山雄太	総合診療科後期研修医	飯塚病院連携医療・緩和ケア科
2019.3.31	大井隆之介	総合診療科後期研修医	飯塚病院呼吸器内科
2019.3.31	山手亮佑	総合診療科後期研修医	飯塚病院感染症科
2019.3.31	鈴木祥太郎	総合診療科後期研修医	飯塚病院総合診療科
2019.3.31	中井健宏	総合診療科後期研修医	聖路加国際病院
2019.3.31	片桐 欧	救急科コース後期研修医	飯塚病院救急科コース
2019.3.31	梅北慎也	消化器内科後期研修医	飯塚病院消化器内科
2019.3.31	松本衣里	緩和ケア科後期研修医	飯塚病院連携医療・緩和ケア科
2019.3.31	佐藤 諒	消化器内科後期研修医	飯塚病院消化器内科
2019.3.31	福市有希子	呼吸器外科後期研修医	飯塚病院呼吸器外科
2019.3.31	山田宗範	麻酔科後期研修医	飯塚病院麻酔科
2019.3.31	日高淳介	麻酔科後期研修医	飯塚病院麻酔科
2019.3.31	橋本匡彦	麻酔科後期研修医	飯塚病院麻酔科
2019.3.31	伊是名純弥	研修医師	豊見城中央病院
2019.3.31	上村亮介	研修医師	飯塚市立病院
2019.3.31	川野玄太郎	研修医師	九州大学病院
2019.3.31	北村 聡	研修医師	神戸大学病院
2019.3.31	吉良さちの	研修医師	飯塚病院産婦人科コース
2019.3.31	坂戸真也	研修医師	公立豊岡病院
2019.3.31	佐々木颯太	研修医師	福岡大学病院
2019.3.31	佐々木莉奈	研修医師	福岡大学病院
2019.3.31	柴田真志	研修医師	飯塚病院総合診療コース
2019.3.31	妙中隆大朗	研修医師	九州大学病院
2019.3.31	野田敦子	研修医師	鹿児島大学病院
2019.3.31	播磨朋哉	研修医師	飯塚病院外科
2019.3.31	平野早希子	研修医師	日本赤十字社唐津赤十字病院
2019.3.31	藤井裕太郎	研修医師	飯塚病院脳神経外科
2019.3.31	藤本得宮子	研修医師	長崎大学病院
2019.4.1	犬塚 央	漢方診療科診療部長	
2019.4.30	鶴 昌太	集中治療部医長代理	宇都宮病院
2019.9.30	山田宗範	麻酔科医長代理	
2019.9.30	田中悠平	小児科診療部長	久留米大学病院
2019.9.30	岩田輝男	呼吸器外科診療部長	やよいがおか鹿毛病院
2019.9.30	渡部なつき	総合診療科後期研修医	飯塚病院総合診療科
2019.11.17	津村直弥	小児科専攻医	聖マリア病院
2019.12.31	安達普至	検査急変対応科科长	米盛病院
2019.12.31	谷口貴之	産婦人科コース専攻医	長崎医療センター

3. 看護師長・主任名簿

所属			職名			氏名			
看護部		副院長兼看護部長			森山由香	中央3階病棟	師長	小島薫	
		管理師長			樋口圭子		主任	西岡順子	
		管理師長			渡邊恵里子		南3A病棟	師長(兼)	長岡由起
		管理師長			倉智恵美子			主任	梅津貴久江
		管理師長			長岡由起			主任	白土かおり
		管理師長			久保佳子		南3B病棟	師長	溝田智美
		師長			野田佐代美			主任	西本美香
北病棟	北8階病棟	師長			姫野美佐子	南2A病棟	師長	小松加寿子	
		主任			梅野陽香		主任	長谷川千絵	
	北7階病棟	師長			佐野美和子	南1A病棟	師長	小原智恵子	
		主任			福原美保子		主任	其上真由美	
	北6階病棟	師長(兼)			久保佳子	西3階病棟	師長	上川重昭	
		主任			中山和子		主任	秀島陽子	
	主任			藤田起代美	西2階病棟		師長	中島久美子	
	北5階病棟	師長				乗次瑞穂	主任	吉田佳代	
		主任			松岡知美	西1階病棟	師長	古賀明弘	
	北5階病棟 NICU・GCU	師長(兼)			乗次瑞穂		透析センター	主任	黒土直美
		主任			立川翠	師長		和田麻美	
	東病棟	東8階病棟	師長			石飛一枝	がん集学治療センター	主任	許斐綾子
主任					日置由季	師長		長田孝幸	
主任					宮西博子	主任		濱田美智子	
東7階病棟		師長			梶原優子	H2救急	師長	渡邊恵里子	
		主任			森田理真子		主任	小畑亜紀子	
E7HCU		師長(兼)			梶原優子	救命救急センター	主任	木村美香	
		主任			仲祐司		主任	福村陽子	
東6階病棟		師長(兼)			樋口圭子	14A	主任	川畑浩子	
		主任			原口敦子	14B	主任	緒方博美	
		主任			藤井美保	13A	師長	加治屋晶子	
東5階病棟		師長			冷川薫		主任	緒方博美	
		主任			中尾里美	13B	主任	高口則子	
東4階病棟		師長			上野理恵		主任	中村百合子	
		主任			木村美香	12A	師長	渡辺由香利	
E4救急・HCU		師長			竹中久美		主任	月俣千鶴	
		主任			白土加代	12B	師長(兼)	渡辺由香利	
中央手術室		師長			花村裕美		主任	金森恵美	
		主任			浦田吉広	11A	師長	中島広美	
	主任			上尾由紀子	師長(兼)		中島広美		
ICU	師長			野見山由美子	11B	主任	松山純子		
	主任			藤岡智恵		画像診療科	主任	吉村麻紀子	
	主任			石垣あい	放射線治療科	主任	吉武真由美		
中央病棟	中央6階病棟	師長			細川智美	漢方診療科	主任	永井仁美	
		主任			舩田能生子	リエゾン精神科	主任	藤瀬芳子	
	中央5階病棟	師長			坂本雅美	小児センター	主任	荒巻美鈴	
		主任			高木理恵	眼科	主任	佐藤香緒里	
	中央4階病棟	師長			田中あづさ	耳鼻咽喉科	主任	吉田嘉子	
		主任			花田千穂				
	主任			長崎佳代					

4. 医療技術部門役職者名簿

所属	職名	氏名	
特任副院長		竹本伸輔	
副院長		金澤康範	
薬剤部	薬剤長(兼)	金澤康範	
	副薬剤長	林 勝次	
	副薬剤長	荒木哲也	
	副薬剤長	梅田勇一	
	主任	中嶋弘之	
	主任	秋吉菜穂	
	主任	神野貴子	
	主任	富永麻衣子	
	主任	秀島里沙	
	主任	松永尚子	
	主任	進 健司	
	中央検査部	技師長	秋永理恵
		副技師長	長谷一憲
主任		井上佳奈子	
主任		森 俊明	
主任		藤上祐子	
主任		川野和彦	
主任		日高大輔	
主任		浦園真司	
主任		犬丸絵美	
中央放射線部		技師長	宮原信一郎
	副技師長	萩尾清文	
	副技師長	満園耕治	
	主任	西谷芳徳	
	主任	梶嶋哲雄	
	主任	井上洋輔	
	主任	白石 隆	
	主任	上田憲司	
	主任	井下田栄吉	
	主任	太田黒大明	
	リハビリテーション部	技師長	井本俊之
		副技師長	兵道哲彦
		副技師長	山崎哲弘
副技師長		宮本隆寿	
副技師長		甲斐田幸輝	
主任		比嘉早苗	
主任		江里口杏平	
主任		江口はるか	
主任		石川清美	
主任		井上智博	
臨床工学部		マネージャー	小野清恒
		副技師長(額田病院出向)	小峠博樹
		副技師長	小田和也
	副技師長	村上輝之	
	副技師長(兼)	井桁洋貴	
	主任	清水重光	
	主任	沖永一樹	
	主任	金城依子	
	主任(額田病院出向)	黒瀬 努	
	主任	松岡翔平	
	栄養部	科長	重松由美
		科長代理	田代千恵子
		主任	岸川芙貴子
主任		松崎由美	
医療福祉室	副技師長(兼)	浦川雅広	
臨床心理室	主任	松尾純子	
歯科衛生室	副技師長	本田智恵子	

5. 経営管理部門等役職者名簿

所属	職名	氏名
副院長		岩佐紀輝
経営管理部長		池 賢二郎
経営管理副部長		藤野泰典
経営管理副部長(兼)		木下了丞
経営管理部マネージャー		皆川栄治
経営管理部サブマネージャー		大井恵子
企画管理課	課長	日高幸彦
	課長代理	仲吉 翔
広報課	課長	榊島 武
	課長	楠元正道
医事課	課長代理	倉重貴彰
	課長代理	原田智史
	主任	小栗沙織
	課長	古谷秀文
	課長代理(兼)	田原和幸
人事課	課長代理	中村良江
	課長代理(医務室担当)	桑岡 勲
	救命救急センター事務長	木下了丞
総務課	課長	高瀬修治
	課長代理	安永 徹
	ER-Aide マネージャー	都留和宏
	ER-Aide 主任	齋藤孝生
	課長	松岡英道
経理課	課長(兼)	藤野泰典
	課長代理	細川忠行
資材課	課長	阿部弘子
	主任(DS室)	松井美保
診療支援課	室長	城野政博
情報システム室	室長(兼)	福村文雄
	副室長(兼)	甲斐正徳
	マネージャー(兼)	竹本伸輔
	サブマネージャー	光武和寿
	主任	大西照子
教育推進本部	副本部長	百瀬栄美子
	マネージャー(兼)	田原和幸
工房・知財管理室	マネージャー	井桁洋貴
デミング賞準備室	室長(兼)	福村文雄
治験管理室	室長	吉柳富次郎
臨床研究支援室	室長(兼)	井村 洋
	副室長	古賀秀信
改善推進本部	マネージャー	立石奈々
	サブマネージャー	山下卓士
	主任	寺岡理恵子
地域連携センター	部長(兼)	岩佐紀輝
	センター長	田村美恵
	がん相談支援センター長	吉田展子
	師長	川上佳代
	師長	井手千恵
	主任	財津恵美
	主任	山中良子
予防医学センター	サブマネージャー	羽坂尚美
地域包括ケア推進本部	主任	草本君子
	マネージャー	小栗和美
施設環境サービス課	課長	兼実孝志
リエゾン精神科デイケアセンター	主任	溝上由佳
南3A病棟	主任クラーク	今津好美
東7階病棟	主任クラーク	松田加奈子

6. 主要委員会

①常設委員会

ブロック名称	ブロック長	委員会名称	委員長	副委員長	委員数*
業務安全	増本陽秀	医療ガス安全管理委員会	尾崎実展	村上輝之	5名
		放射線安全委員会・特定放射線同位元素防護委員会	吉開友則	宮原信一郎	8名
		感染管理委員会	増本陽秀	中村権一	15名
		労働安全衛生委員会	増本陽秀	中松耕治	36名
		医師の負担軽減・処遇改善委員会	増本陽秀	中松耕治	36名
物品購入	増本陽秀	薬事委員会	増本陽秀	金澤康範	7名
		資材委員会	増本陽秀	—	11名
医療の質のモニター	梶山 潔	ISO 委員会	名取良弘	中嶋弘之	24名
		TQM 活動推進委員会	中島雄一	山下卓士	14名
		クリニカルパス委員会	辻岡 寛	倉智恵美子	18名
		QI 委員会	名取良弘	—	9名
		CS・ES 委員会	渡邊恵里子	楠元正道	14名
医療の安全管理	福村文雄	急変対応委員会	小田浩之	山田哲久	13名
		MRM 委員会	福村文雄	—	18名
		透析機器安全管理委員会	藤崎毅一郎	中嶋崇文	5名
		病院食サービス委員会	井手 誠	工藤仁隆	5名
情報管理	福村文雄	情報システム委員会	清田雅智	田原英一	13名
		診療情報管理委員会	福村文雄	—	19名
教育・研修	井村 洋	研修管理委員会	井村 洋	—	38名
		図書委員会	中島雄一	高瀬修治	10名
		クレデンシャル委員会	名取良弘	永野修司	39名
		手術室業務改善委員会	尾崎実展	花村裕美	12名
		内視鏡センター業務改善委員会	赤星和也	川畑浩子	12名
		地域医療支援研修委員会	岩佐紀輝	—	5名
倫理	名取良弘	倫理委員会	名取良弘	—	17名
		臨床研究管理委員会	海老規之	—	12名
		治験審査委員会	油布祐二	辻岡 寛	12名
		脳死判定委員会	高瀬敬一郎	岡松由記	9名
		小児虐待防止委員会	大矢崇志	—	20名
		患者行動制限最小化委員会	光安博志	—	4名
		個人情報保護委員会	福村文雄	—	7名
診療の適正化	赤星和也	呼吸管理委員会	飛野和則	野見山由美子	20名
		褥瘡管理委員会	幸田 太	橋口晋一郎 冷川 薫	15名
		栄養管理委員会	中村晶俊	林 勝次	11名
		輸血療法委員会	小畑勝義	喜安純一	10名
		診療報酬適正管理委員会	永野修司	楠元正道 渡邊恵里子	9名
		臨床検査適正化委員会	大石善丈	秋永理恵	11名
		がん診療	梶山 潔	がん診療連携委員会	梶山 潔
がん集学治療委員会	油布祐二			古賀 聡	13名
緩和ケア委員会	柏木秀行			岡村知直 長岡由起	12名

※委員数：委員長、副委員長を除く数（事務局含む）

②看護部常設委員会

委員会名称	委員長	所属	委員数
業務改善委員会 (セル看護提供方式推進委員会)	倉智恵美子	看護部長室詰管理師長	30名
看護手順・基準委員会	久保佳子	管理師長兼北6階病棟師長	15名
教育委員会	乗次瑞穂	北5階病棟師長	32名
臨床指導者委員会	姫野美佐子	北8階病棟師長	29名
看護研究委員会	新鹿深夏	医療安全推進室	8名
看護記録委員会	梶原優子	東7階病棟師長	10名

2019年12月31日現在

③医局会 (医局会役員)

医局長	皆川亮介 (肝胆膵外科)
副医局長	矢野博美 (予防医学センター) 美浦辰彦 (整形外科)
会計	松本弥一郎 (連携医療・緩和ケア科)
渉外	末安巧人 (呼吸器内科) 林宗太郎 (産婦人科)
会計監査	江口冬樹 (特任副院長) 高瀬修治 (総務課)
事務	平石美代 (総務課)

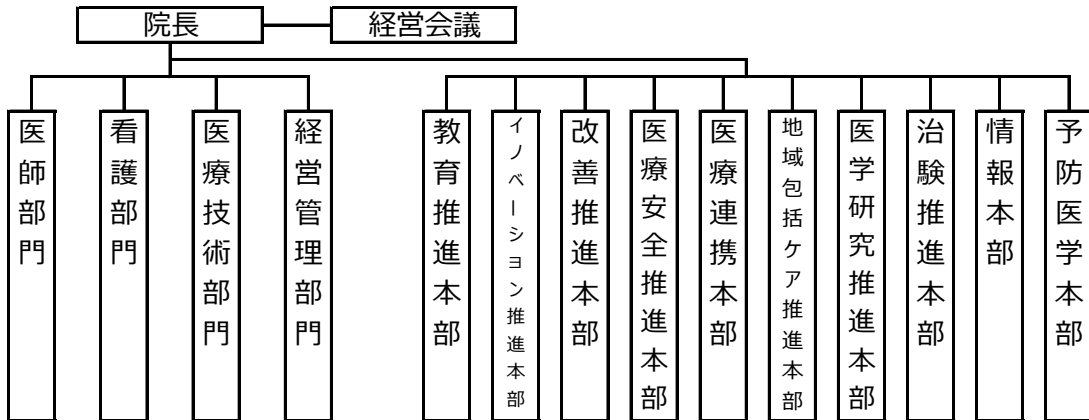
2019年12月31日現在

〔Ⅸ〕飯塚病院概況 他

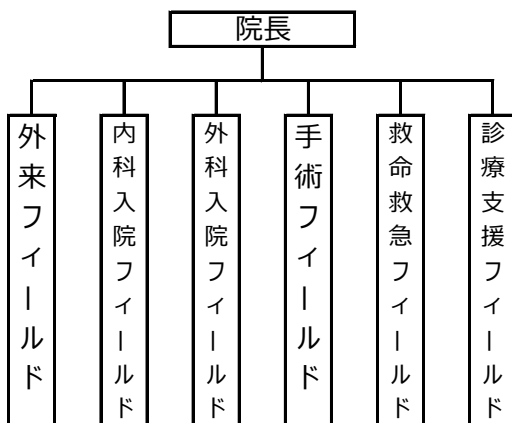
1. 飯塚病院組織図

飯塚病院 組織図 (2019.12.31)

部門・本部



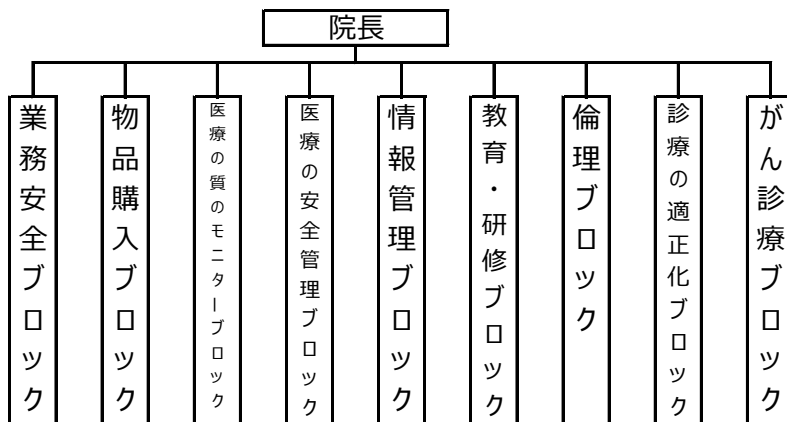
診療フィールド



院長直轄の会議体

住民医療協議会
地域医療支援病院運営委員会
幹部会
日本一のまごころ病院実現諮問会議
経営戦略会議
フィールド長会議
卒後教育評議会
救命救急評議会
手術評議会
イノベーション改善運営会議
地域包括ケア推進会議
デミング賞準備会議
医療事故対策会議

常設委員会



部門

診療現場の生産性、診療の質を担保する上で必要な人材やその他の資源を管理し、将来の方向性、指針などをとりまとめ実行する組織体

医師部門

総合診療科
循環器内科
心不全ケア科
呼吸器内科
呼吸器腫瘍内科
消化器内科
肝臓内科
膠原病・リウマチ内科
腎臓内科
内分泌・糖尿病内科
血液内科
脳神経内科
小児科
リエゾン精神科
心療内科
漢方診療科
外科
消化管・内視鏡外科
肝胆膵外科
臨床腫瘍科
呼吸器外科
呼吸器腫瘍外科
心臓血管外科
小児外科
産婦人科
整形外科
脳神経外科
眼科
耳鼻咽喉科
泌尿器科
皮膚科
形成外科
麻酔科
ペインクリニック科
歯科口腔外科
救急科
集中治療科
画像診療科
放射線治療科
連携医療・緩和ケア科
感染症科
リハビリテーション科
検査急変対応科
病理科

看護部門

看護部

医療技術部門

薬剤部
中央検査部
技術・教育・研究指導室
中央放射線部
栄養部
リハビリテーション部
臨床工学部
医療福祉室
歯科衛生室
臨床心理室

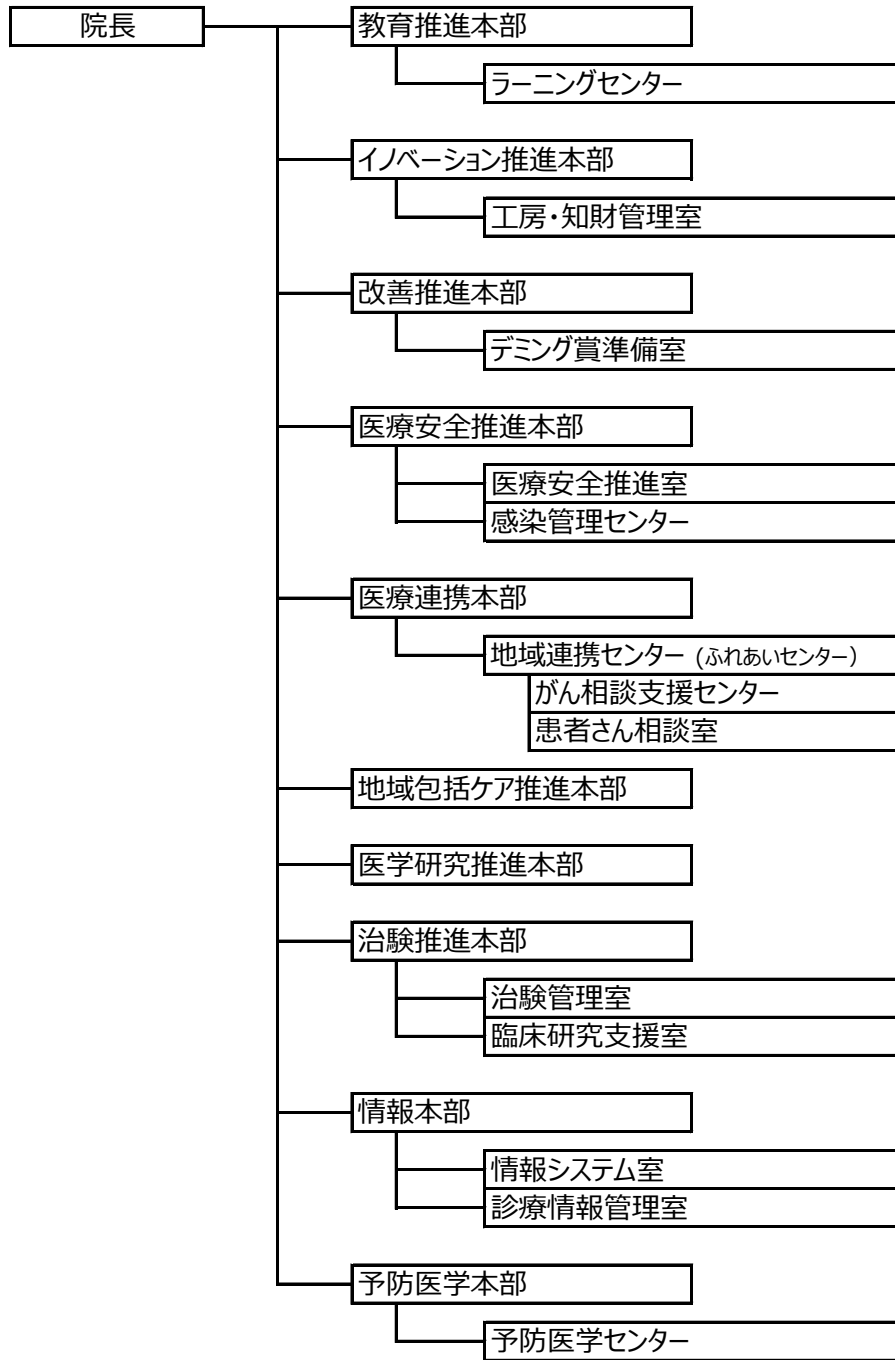
経営管理部門

経営管理部

企画管理課
広報課
医事課
人事課
医務室
総務課
警備室
電話交換室
図書室
経理課
施設・環境サービス課
資材課
診療支援課

本部

院長特命の課題・分野において方針をとりまとめ、部門横断的にマネジメントを行う部署



診療フィールド

診療現場において適正な医療が提供できるよう各診療科・現場内でコミュニケーションを密にとり、現場内の問題を解決していく場

外来フィールド

11A	総合受付 (トリアージセンター)
11B	総合診療科 感染症科
11D	会計
11E	PET・核医学センター
12A	肝臓内科
	膠原病・リウマチ内科 (膠原病・リウマチセンター)
	内分泌・糖尿病内科
	血液内科
	整形外科
12B	腎臓内科
13A	産婦人科
	泌尿器科
	皮膚科 形成外科
13B	脳神経内科
	外科
	呼吸器外科
	脳神経外科
	麻酔科・ペインクリニック科 連携医療・緩和ケア科
14A	循環器内科
	呼吸器内科
	消化器内科
	心療内科 心臓血管外科
14B	内視鏡センター
34	血液浄化センター
50	リハビリテーション科
51C	画像診療科
52A	眼科
52B	耳鼻咽喉科
52D	小児科
	小児外科
52E	歯科口腔外科
52F	漢方診療科 (東洋医学センター)
63	デイケアセンター
71	リエゾン精神科

内科入院フィールド

中央6F病棟
中央4F病棟
C4HCU
南3A病棟
南3B病棟
南2A病棟
入院透析室
南1A病棟
東4F病棟
H3F (がん集学治療センター)
外来化学療法室
西3F (心身合併症センター)
西2F病棟
西1F病棟
北8F病棟
北5F病棟
NICU・GCU
放射線治療科

外科入院フィールド

中央5F病棟
中央3F病棟
東8F病棟
東7F病棟
E7HCU
東6F病棟
東5F病棟
北7F病棟
北6F病棟・MFICU

手術フィールド

手術センター
外来手術センター
ハイブリッド手術センター
中央手術室
中央材料室
病理科

救命救急フィールド

救命救急センター
救急外来
ICU
H2救急
E4救急
E6救急
E4HCU
高気圧酸素治療室

診療支援フィールド

薬剤部
中央検査部
中央放射線部
栄養部
リハビリテーション部
臨床工学部
医療福祉室
歯科衛生室
臨床心理室

● 機能的センター群

総合周産期母子医療センター
循環器病センター
呼吸器病センター
脳卒中センター
腎センター

常設委員会

法的及び社会的責任を果たすために設置され、病院経営や運営に直結し、期限を定めず定期的な開催を行う会議体

業務安全ブロック	医療ガス安全管理委員会 放射線安全委員会 感染管理委員会 労働安全衛生委員会 医師の負担軽減・処遇改善委員
物品購入ブロック	薬事委員会 資材委員会
医療の質のモニターブロック	ISO委員会 TQM委員会 クリニカルパス委員会 QI委員会 CS・ES委員会
医療の安全管理ブロック	急変対応委員会 MRM委員会 透析機器安全管理委員会 病院食サービス委員会
情報管理ブロック	情報システム委員会 診療情報管理委員会
教育・研修ブロック	研修管理委員会 図書委員会 クレデンシャル委員会 手術室業務改善委員会 内視鏡センター業務改善委員会 地域医療支援病院研修委員会
倫理ブロック	倫理委員会 臨床研究管理委員会 治験審査委員会 脳死判定委員会 小児虐待防止委員会 患者行動制限最小化委員会 個人情報保護委員会
診療の適正化ブロック	呼吸管理委員会 褥瘡管理委員会 栄養管理委員会 輸血療法委員会 診療報酬適正管理委員会 臨床検査適正化委員会
がん診療ブロック	がん診療連携委員会 がん集学治療委員会 緩和ケア委員会

2. 概 要

(2019年12月現在)

名 称：飯塚病院
開 設：大正7年（1918年）8月
開 設 者：株式会社麻生 代表取締役社長 麻生 巖
所 在 地：福岡県飯塚市芳雄町3番83号
病 院 区 分：地域医療支援病院
院 長：増本陽秀
名 誉 院 長：田中二郎
副 院 長：名取良弘、福村文雄、梶山 潔、赤星和也、森山由香、金澤康範、
岩佐紀輝、安藤廣美、山本英彦、鮎川勝彦、井村 洋、江口冬樹

許可病床数：1,048床（一般978床、精神70床）

敷地面積：47,629.92㎡

延床面積：76,650.09㎡

職 員 数：

医 師	222名
研 修 医	99名
看 護 師	1,057名
医療技術者	544名
事務その他	508名
計	2,430名

病 棟 数：北棟7病棟、東棟10病棟、ハイケア棟2病棟、中央棟5病棟、南棟4病棟、
西棟3病棟、計31病棟

診 療 科 目：43科

肝臓内科 消化器内科 呼吸器内科 呼吸器腫瘍内科 内分泌・糖尿病内科
血液内科 心療内科 総合診療科 膠原病・リウマチ内科 連携医療・緩和ケア科
循環器内科 心不全ケア科 心臓血管外科 泌尿器科 外科 臨床腫瘍科
消化管・内視鏡外科 肝胆膵外科 呼吸器外科 呼吸器腫瘍外科 小児外科
腎臓内科 小児科 耳鼻咽喉科 眼科 整形外科 麻酔科 ペインクリニック科
脳神経外科 脳神経内科 病理科 皮膚科 形成外科 リエゾン精神科 産婦人科
画像診療科 放射線治療科 歯科口腔外科 漢方診療科 感染症科 救急科
集中治療科 リハビリテーション科

施設基準届出状況

1) 基本診療料

地域歯科診療支援病院歯科初診料
歯科外来診療環境体制加算
歯科診療特別対応連携加算
一般病棟入院基本料（急性期一般入院料1）
精神病棟入院基本料（15対1）
障害者施設等入院基本料（10対1）
総合入院体制加算1
臨床研修病院入院診療加算
救急医療管理加算
超急性期脳卒中加算
妊産婦緊急搬送入院加算
診療録管理体制加算1
医師事務作業補助体制加算2（20対1）
急性期看護補助体制加算（50対1）
特殊疾患入院施設管理加算
看護配置加算
看護補助加算
夜間看護体制加算
療養環境加算
重症者等療養環境特別加算
無菌治療室管理加算2
緩和ケア診療加算
精神科身体合併症管理加算
精神科リエゾンチーム加算
がん診療連携拠点病院加算
栄養サポートチーム加算
医療安全対策加算1
医療安全対策地域連携加算
感染防止対策加算1
感染防止対策地域連携加算
抗菌薬適正使用支援加算
患者サポート体制充実加算
褥瘡ハイリスク患者ケア加算
ハイリスク妊娠管理加算
ハイリスク分娩管理加算
総合評価加算
呼吸ケアチーム加算
後発医薬品使用体制加算4
病棟薬剤業務実施加算1
データ提出加算2
入退院支援加算1及び加算3
地域連携診療計画加算
入院時支援加算
認知症ケア加算2
精神疾患診療体制加算
地域歯科診療支援病院入院加算
救命救急入院料1
特定集中治療室管理料4
早期離床・リハビリテーション加算
ハイケアユニット入院医療管理料1
総合周産期特定集中治療室管理料 母体・胎児集中治療室管理料
総合周産期特定集中治療室管理料 新生児集中治療室管理料
新生児治療回復室入院医療管理料
小児入院医療管理料2
緩和ケア病棟入院料1
短期滞在手術等基本料1
短期滞在手術等基本料2

2) 特掲診療料

歯科疾患管理料の注11に規定する総合医療管理加算及び歯科治療時医療管理料
糖尿病合併症管理料
がん性疼痛緩和指導管理料
がん患者指導料イ
がん患者指導料ロ
がん患者指導料ハ
外来緩和ケア管理料
糖尿病透析予防指導管理料
乳腺炎重症化予防・ケア指導料
地域連携小児夜間・休日診療料2
地域連携夜間・休日診療料
院内トリアージ実施料
外来放射線照射診療料
開放型病院共同指導料
がん診療連携計画策定料
肝炎インターフェロン治療計画料
ハイリスク妊産婦連携指導料1
ハイリスク妊産婦連携指導料2
薬剤管理指導料
医療機器安全管理料1
医療機器安全管理料2
医療機器安全管理料（歯科）
在宅患者訪問看護・指導料3
在宅療養後方支援病院
在宅腫瘍治療電場療法指導管理料
持続血糖測定器加算及び皮下連続式グルコース測定
遺伝学的検査
HPV核酸検出及びHPV核酸検出（簡易ジェノタイプ判定）
検体検査管理加算（IV）
国際標準検査管理加算
心臓カテーテル法による諸検査の血管内視鏡検査加算
胎児心エコー法
時間内歩行試験及びシャトルウォーキングテスト
ヘッドアップティルト試験
長期継続頭蓋内脳波検査
神経学的検査
ロービジョン検査判断料
コンタクトレンズ検査料1
小児食物アレルギー負荷試験
CT透視下気管支鏡検査加算
画像診断管理加算2
ポジトロン断層撮影
ポジトロン断層・コンピューター断層複合撮影
CT撮影及びMRI撮影
冠動脈CT撮影加算
外傷全身CT加算
心臓MRI撮影加算
乳房MRI撮影加算
抗悪性腫瘍剤処方管理加算
外来化学療法加算1
無菌製剤処理料
心大血管疾患リハビリテーション料（I）
脳血管疾患等リハビリテーション料（I）
運動器リハビリテーション料（I）
呼吸器リハビリテーション料（I）
がん患者リハビリテーション料

歯科口腔リハビリテーション料 2
救急患者精神科継続支援料
精神科作業療法
認知療法・認知行動療法 1
精神科ショート・ケア「大規模なもの」
精神科デイ・ケア「大規模なもの」
抗精神病特定薬剤治療指導管理料（治療抵抗性統合失調症治療指導管理料に限る）
医療保護入院等診療料
医科点数表第 2 章第 9 部処置の通則 5 に掲げる処置の休日加算 1
医科点数表第 2 章第 9 部処置の通則 5 に掲げる処置の時間外加算 1
医科点数表第 2 章第 9 部処置の通則 5 に掲げる処置の深夜加算 1
歯科点数表第 2 章第 8 部処置の通則 6 に掲げる処置の休日加算 1
歯科点数表第 2 章第 8 部処置の通則 6 に掲げる処置の時間外加算 1
歯科点数表第 2 章第 8 部処置の通則 6 に掲げる処置の深夜加算 1
硬膜外自家血注入
人工腎臓
導入期加算 2 及び腎代替療法実績加算
透析液水質確保加算及び慢性維持透析濾過加算
下肢末梢動脈疾患指導管理加算
CAD/CAM 冠
皮膚移植術（死体）
組織拡張器による再建手術（乳房（再建手術）の場合に限る）
骨移植術（軟骨移植術を含む）（自家培養軟骨移植術に限る）
脳刺激装置埋込術（頭蓋内電極植込術を含む）及び脳刺激装置交換術
緑内障手術（緑内障治療用インプラント挿入術（プレートのあるもの））
緑内障手術（水晶体再建術併用眼内ドレーン挿入術）
網膜付着組織を含む硝子体切除術（眼内内視鏡を用いるもの）
網膜再建術
乳がんセンチネルリンパ節加算 1 及びセンチネルリンパ節生検（併用）
乳がんセンチネルリンパ節加算 2 及びセンチネルリンパ節生検（単独）
ゲル充填人工乳房を用いた乳房再建術（乳房切除後）
食道縫合術（穿孔、損傷）（内視鏡によるもの）、内視鏡下胃、十二指腸穿孔瘻孔閉鎖術、胃瘻閉鎖術（内視鏡によるもの）、小腸瘻閉鎖術（内視鏡によるもの）、結腸瘻閉鎖術（内視鏡によるもの）、腎（腎盂）腸瘻閉鎖術（内視鏡によるもの）、尿管腸瘻閉鎖術（内視鏡によるもの）、膀胱腸瘻閉鎖術（内視鏡によるもの）、腔腸瘻閉鎖術（内視鏡によるもの）
経皮的冠動脈形成術（特殊カテーテルによるもの）
胸腔鏡下弁形成術
経カテーテル大動脈弁置換術
胸腔鏡下弁置換術
経皮的中心隔心筋焼灼術
ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術

ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術（リードレスペースメーカー）
両心室ペースメーカー移植術及び両心室ペースメーカー交換術
植込型除細動器移植術及び植込型除細動器交換術及び経静脈電極抜去術
両室ペーシング機能付き埋込型除細動器移植術及び両室ペーシング機能付き埋込型除細動器交換術
大動脈バルーンパンピング法（IABP 法）
経皮的動脈遮断術
ダメージコントロール手術
胆管悪性腫瘍手術（膵頭十二指腸切除及び肝切除（葉以上）を伴うものに限る。）
体外衝撃波胆石破碎術
腹腔鏡下肝切除術
腹腔鏡下膵腫瘍摘出術
腹腔鏡下膵体尾部腫瘍切除術
早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術
体外衝撃波腎・尿管結石破碎術
腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術（子宮体がんに限る）
医科点数表第 2 章第 10 部手術の通則 5 及び 6（歯科点数表第 2 章第 9 部の通則 4 を含む）に掲げる手術
医科点数表第 2 章第 10 部処置の通則 12 に掲げる手術の休日加算 1
医科点数表第 2 章第 10 部処置の通則 12 に掲げる手術の時間外加算 1
医科点数表第 2 章第 10 部処置の通則 12 に掲げる手術の深夜加算 1
歯科点数表第 2 章第 9 部処置の通則 9 に掲げる手術の休日加算 1
歯科点数表第 2 章第 9 部処置の通則 9 に掲げる手術の時間外加算 1
歯科点数表第 2 章第 9 部処置の通則 9 に掲げる手術の深夜加算 1
医科点数表第 2 章第 10 部処置の通則 16 に掲げる手術
輸血管管理料 I
輸血適正使用加算
自己生体組織接着剤作成術
自己クリオプレシピテート作製術（用手法）
人工肛門・人工膀胱造設前処置加算
胃瘻造設時嚥下機能評価加算
歯周組織再生誘導手術
麻酔管理料（I）
麻酔管理料（II）
放射線治療専任加算
外来放射線治療加算
高エネルギー放射線治療
1 回線量増加加算
画像誘導放射線治療加算（IGRT）
体外照射呼吸性移動対策加算
定位放射線治療
定位放射線治療呼吸性移動対策加算
病理診断管理加算 1
悪性腫瘍病理組織標本加算
クラウン・ブリッジ維持管理料

3) 入院時食事療養

入院時食事療養（I）

3. 各学会の認定状況一覧

日本内科学会 教育病院	日本胆道学会 指導施設
日本小児科学会 研修支援施設	日本乳癌学会 認定施設
日本皮膚科学会 研修施設	日本がん治療医認定医機構 認定研修施設
日本精神神経学会 研修施設	日本腹部救急医学会 認定施設
日本外科学会 修練施設	日本呼吸器内視鏡学会 認定施設
日本整形外科学会 研修施設	日本呼吸療法医学会 研修施設
日本産科婦人科学会 指導施設	日本産科婦人科内視鏡学会 認定研修施設
日本眼科学会 研修施設	日本急性血液浄化学会 指定施設
日本耳鼻咽喉科学会 研修施設	日本心血管インターベンション治療学会 研修施設
日本泌尿器学会 教育施設	日本不整脈学会・日本心電図学会認定 不整脈専門医研修施設
日本脳神経外科学会 連携施設	浅大腿動脈ステントグラフト実施基準管理委員会 実施施設
日本医学放射線学会 総合修練機関	日本消化器内視鏡学会 指導施設
日本麻酔科学会 認定病院	日本消化管学会 胃腸科指導施設
日本病理学会 研修認定施設 B	日本カプセル内視鏡学会 指導施設
日本救急医学会 指定施設	日本脳卒中学会 研修教育病院
日本形成外科学会 認定施設	日本認知症学会 教育施設
飯塚・穎田家庭医療プログラム (ver.2.0)	経カテーテル的大動脈弁置換術関連学会協議会 実施施設
日本消化器病学会 認定施設	日本脈管学会 研修指定施設
日本循環器学会 研修施設	関連 10 学会構成日本ステントグラフト 実施基準管理委員会 腹部ステントグラフト 実施施設
日本呼吸器学会 認定施設	下肢静脈瘤に対する血管内レーザー焼灼術の 実施基準による実施施設
日本血液学会 研修施設	日本低侵襲心臓手術学会
日本神経学会 教育施設	日本透析医学会 認定施設
日本腎臓学会 研修施設	日本高血圧学会 認定施設
日本肝臓学会 認定施設	日本臨床細胞学会 認定施設
日本糖尿病学会 認定教育施設	日本臨床細胞学会 教育研修施設
日本リウマチ学会 教育施設	心臓血管麻酔麻酔学会 基幹施設
日本アレルギー学会 研修施設	日本総合病院精神医学会
日本感染症学会 認定研修施設	一般病院連携精神医学専門医特定研修施設認定証
日本消化器外科学会 修練施設	日本総合病院精神医学会
三学会構成心臓血管外科専門医認定機構 基幹施設	一般病院連携精神医学専門医研修施設認定証
日本小児外科学会 教育関連施設	日本口腔外科学会 准研修施設
呼吸器外科専門医合同委員会 専門研修基幹 施設	日本静脈経腸栄養学会 NST 稼働施設
日本周産期・新生児医学会 基幹研修施設 (新生児)	
日本周産期・新生児医学会 暫定認定施設 (母体・胎児)	
日本婦人科腫瘍学会 指定修練施設	
日本手の外科学会 手の外科研修施設	
日本集中治療医学会 研修施設	
日本臨床腫瘍学会 研修施設	
日本 IVR 学会 修練施設	
日本東洋医学会 研修施設	
日本緩和医療学会 認定研修施設	
日本外傷学会 研修施設	
日本乳房オンコプラスチックサージャリー学会 エキスパンダー実施施設	
日本乳房オンコプラスチックサージャリー学会 インプラント実施施設	
日本肝胆膵外科学会 高度技能専門医修練施設 A	

4. 私たちの理念・方針

「麻生グループ」

Vision（未来像）	安心をカタチに生きがいをデザインする ASO グループ
Mission（使命）	社会システムの変革に貢献する

「飯塚病院」

開設の精神	郡民のために良医を招き、治療投薬の万全を図らんとする
経営理念	WE DELIVER THE BEST ～ まごころ医療、まごころサービス それが私たちの目標です～
医療の質方針	日本一のまごころ病院
Mission（使命）	<ul style="list-style-type: none"> ○医療・福祉・行政にも影響を与える情報の発信 ○高い医療サービスと健全経営を両立するモデル病院となる ○地域の医療福祉レベルを向上させ、筑豊のイメージアップに貢献する
院長基本方針 (2015.02)	<ul style="list-style-type: none"> ○社会人としての良識に従い各自の責任を全うすること ○患者中心で質の高い最適医療を実践すること ○医の倫理と良心に従い患者の権利の擁護とプライバシーの保護に努めること ○医療の質の向上と安全管理に努めること ○進取の気に溢れるチーム医療を実践すること ○臨床研修病院として国際水準の教育指導を行うこと ○地域基幹病院として救急医療および先進医療に力を注ぐこと ○保健・医療・福祉・介護機関との緊密な連携を図ること ○地域と地球の環境に配慮すること ○健全経営を基盤とすること
2018-2025 年度 飯塚病院 中長期計画	<p>【病院の 2025 年度ビジョン（あるべき姿）】 Patient First を追求し、選ばれる高度急性期・急性期病院</p> <p>【視点ごとの 2025 年度ビジョン（あるべき姿）】</p> <ul style="list-style-type: none"> A) 専門医療：トップレベルの専門医療により、筑豊の高度急性期・急性期医療を担う病院 B) 救急外来体制：命を救う要（かなめ）として、筑豊に最も進んだ救急医療を提供する病院 C) 質と安全：全職員が医療の質と安全の向上・改善に取り組み続ける病院 D) 地域連携：地域の医療機関から信頼され、ともに発展する病院 E) 人材力：志のあるスタッフが集い、やりがいを持って成長でき、「ここで働きたい、働けて良かった」と思える病院 F) 患者経験価値：患者・家族が、全てのプロセスにおいて、「ここに来て良かった」と思える病院 G) 健全経営：全職員が厳しくなる外部環境への危機感を共有し、経営に参画する病院

編集後記

2019年は、年号が変わり令和元年を迎え、新しい息吹を感じる年になった。飯塚病院では長年にわたり医師の外来診療と教育の拠点になっていた本館の取り壊しが行われ、医局が旧ふれあい棟に移行し、「D棟」と呼ばれていた建物が百年ホールを擁する教育研修棟としてオープンした。また筑豊地域で初のTAVIの導入、感染症科の新設など、新たな時代が幕開けしている。9人の部長が新たに就任していることから変化を感じ取れる。

個人的な感慨ではあるが、本館の解体はまさに時代を象徴していると考える。約25年前に飯塚病院の研修医、文字通りレジデント（resident: 居住者）として、研修医宿舎（現在の医局の建物）に2年間住み込みで研修を行っていた。20年の時を経て、本館にあった医局が移動した結果、私は昔の家に通うようになったのである。それにしても、本館がなくなったのはなんとも寂しいものである。研修医教育の中心は、取り壊された本館にあった医局談話室であり、近くには臨床研修顧問の部屋があり、研修医室が隣接していた。研修医にとって本館3階こそは研修の原風景であった。

最初の研修医室は、本館3階臨床研修顧問室の隣、直近の呼吸器内科の後期研修医が入っていた場所にあった。当初の研修医室は各人の席を準備されていたが、研修医が増えるにつれて、机を配置できなくなった。研修医間で話し合った結果、机は要らないがソファは必要という結論となった。机は周囲に配置して共用とし、中央の一番良い場所にはソファとテーブルが置かれた。後にこれが上記の後期研修医部屋となり、研修医室は医局談話室の隣、元々整形外科の医局があった場所に移動した。この時にも、先のコンセプトが生かされ、各人の机を持つという発想は排除され、やはり中央にはソファがあった。自分が指導医になると、邪魔に思われているとは知りつつ、昼食を極力このソファで食べた。その場にいる研修医の悩み相談や、抄読会などをしながら教育を行っていた。自分が研修医の頃感じていた、いつでも指導医に相談できる環境の有難さを考えてのことだった。夜になると、そこは雑談、症例のディスカッション、文献や本の輪読といった、研修医の溜まり場であった。勿論、冬風会の芸の構想を練る重要な仕事もここから生まれていた。平成の時代も終わりになる頃には、研修医室は再度移動になり、各人1つの机に加えて仮眠できるベッドも与えられるようになった。本館2階、昔の泌尿器科、産婦人科、皮膚科外来があった場所である。つまりこの建物は、常に飯塚の研修医の魂が宿っていた場所だった。

しかし、時代と共にいつかはこういう建物も壊される運命にあるということである。与えられるものが多くなる程、創意工夫は行われなくなるのだろうが、それが新しい時代の夜明けでもあるのだろう。古い人間は良いものを残しつつ、一方で新しい環境に適応することが求められるのであろう。本館の建物の残骸を見ながら、このことを肝に命じて令和時代を乗り切ろうと思う。

飯塚病院年報 第32号

2020年6月発行

編集発行：飯塚病院

〒820-8505 福岡県飯塚市芳雄町3番83号

T E L (0948) 22-3800 (代表)

F A X (0948) 29-5744 (代表)

印刷：フジキ印刷株式会社

〒820-0053 福岡県飯塚市伊岐須490-15

T E L (0948) 29-3177

F A X (0948) 24-5234